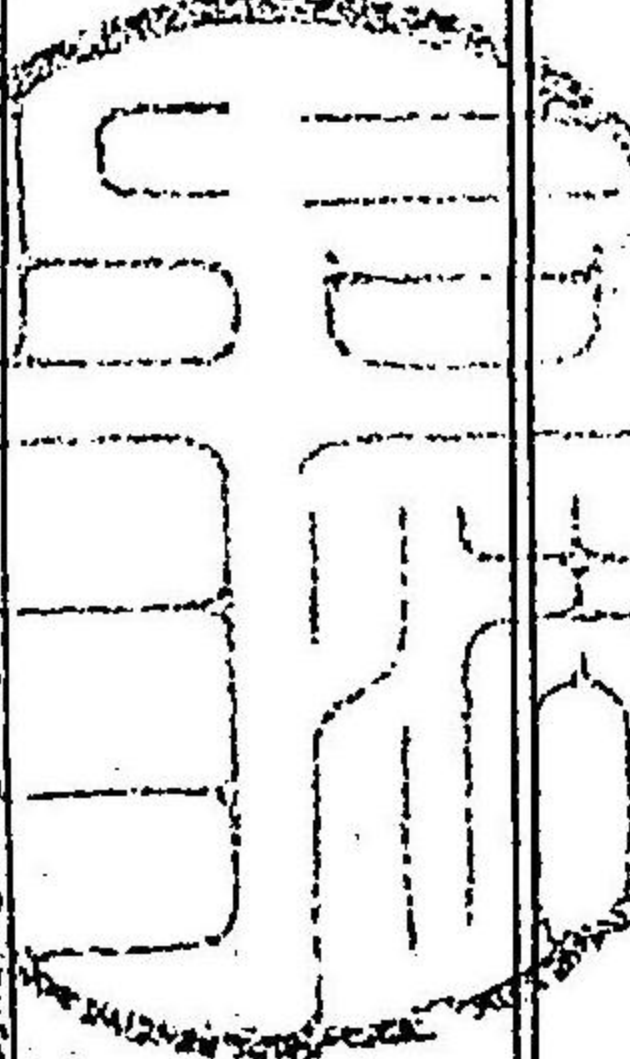


司法部藏版

大審院刑事判決錄

明治十七年五月印行





六十七 八行目  
 七十五 十二行目  
 七十七 一行目  
 全 十八行目  
 七十七 十行目  
 七十八 十七行目  
 八十三 四行目  
 九十三 八行目  
 九十九 十行目  
 全 十七行目  
 百七 七行目  
 百九 四行目  
 百十一 六行目  
 百十七 一行目  
 百十八 十二行目  
 百二十四 十五行目  
 百廿九 十二行目  
 百廿四 一行目

せしノ下メヲ脱ス  
 上告人ノハ上告人ヲ  
 以テハ於テ  
 服首ハ首服  
 宇津宮ハ宇津宮  
 宇津宮ハ宇津宮  
 スルヲハスルニ  
 人ノ下アヲ脱ス  
 又ハ及  
 江田ハ池田  
 分自ハ自分  
 衝尖ハ衝突  
 成逐ハ成遂  
 義判所ハ裁判所  
 請求ノハ請求ヲ  
 島本ハ崎本  
 地所ニハ地所ハ  
 無上ハ無止

百四十二 一行目  
 百五十六 十六行目  
 百五十八 二行目  
 全 三行目  
 百六十 十八行目  
 全 全  
 百六十一 二行目  
 百六十九 十三行目  
 全 十七行目  
 百七十 十二行目  
 百七十三 五行目  
 百七十六 十行目  
 百九十八 八行目  
 二百六 十五行目  
 全 十七行目  
 二百七 九行目  
 二百四十五 十二行目  
 二百四十七 十四行目

拂ハ掛  
 害ノハ害ヲ  
 事項ノ下ニテ脱ス  
 額殘ハ殘額  
 實際ハ實際  
 基礎ハ基礎  
 辭明ハ辨明  
 元判ハ元利  
 破段ハ破毀  
 前ハ節  
 裁判ハ裁決  
 處ニハ處ス  
 周施ハ周旋  
 モノスランハモノナラン  
 說示セノ下シテ脱ス  
 ナリハナシ  
 カ劔ハ刀劔  
 證書ノハ證書ヲ





第千一百拾七號	竊盜ノ件	二百八十丁
第千一百拾八號	紙幣偽造ノ件	二百八十五丁
第千一百拾九號	詐欺取財ノ件	二百九十三丁
第千一百二十號	私文書詐爲ノ件	二百九十八丁
第千一百廿壹號	詐欺取財ノ件	三百四丁
第千一百廿二號	紙幣偽造ノ件	三百九丁
第千一百廿三號	詐欺取財ノ件	三百十五丁
第千一百廿四號	詐欺取財ノ件	三百二十一丁
第千一百廿五號	費用受寄財産ノ件	三百三十丁
第千一百廿六號	詐欺取財ノ件	三百三十五丁
第千一百廿七號	詐爲文書ノ件	三百四十丁
第千一百廿八號	詐爲文書ノ件	三百四十五丁
第千一百廿九號	詐爲文書ノ件	三百五十丁
第千一百三十號	官林盜伐ノ件	三百五十七丁
第千一百卅一號	官林盜伐ノ件	三百六十三丁
第千一百卅二號	官林盜伐ノ件	三百六十六丁
第千一百卅三號	官林盜伐ノ件	三百六十八丁
第千一百卅四號	持兇器強盜ノ件	三百七十一丁

第千一百卅五號	詐欺取財ノ件	三百七十七丁
第千一百卅六號	持兇器強盜ノ件	三百八十八丁
第千一百卅七號	詐欺取財ノ件	三百八十三丁
第千一百卅八號	盜贓故買ノ件	三百九十三丁
第千一百卅九號	盜贓故買ノ件	三百九十九丁
第千一百四拾號	詐欺取財ノ件	四百三丁
第千一百四拾壹號	空相場ノ件	四百七丁
第千一百四拾貳號	持兇器強盜ノ件	四百十丁
第千一百四拾三號	竊盜及ヒ詐欺取財ノ件	四百十五丁

大審院刑事判決錄 明治十五年十二月

第一千六十五號

○判文(山林盜伐ノ件) 明治十五年七月廿四日上告  
明治十五年十二月廿七日判決

茨城縣常陸國行方郡根小屋村平民

高 村 政 次 郎

明治十五年七月  
三十一年五月

明治十五年七月十五日水戸輕罪裁判所ニ於テ右政次郎へ左ノ裁判ヲ言渡タリ  
其方儀被告事件檢事ノ公訴ニ因リ審理ヲ遂クル處其方ハ明治十三年三月一日鹿島郡山ノ  
上村字木喰及岸ノ根兩所ノ樹木ヲ原嘉右衛門ヨリ買受ケ第一號證ノ如ク對談約定證ヲ差  
入レ而シテ右買受ケタル樹木中更ニ第二號證ノ如ク同人へ賣戻シ爾來伐採ニ着手中明治十  
三年六月ヨリ八月中ニ至リ右賣戻ノ樹木七十七本并該山林中ニ於テ賣買ヲ經サル樹木合  
八十二本ヲ盜伐シタルハ原嘉右衛門ノ申立及高野源三七五三啓助ノ始末書并綿織多右  
衛門泉久作ノ證言トニ依リ證據充分ナリトス而シテ所犯新法實施以前ニ在ルヲ以テ新舊ノ  
法ヲ比照スルニ舊法ニ於テハ賊盜律盜田野蕪麥條ニ依リ贓金百ニ拾圓以上竊盜ニ準シテ  
論シ懲役十年ニ該ルモ明治十四年四月十六日水戸裁判所ニ於テ私ノ文書ヲ詐爲スル罪ニ  
依リ懲役七十日ノ處斷前ニ係ル犯罪ナルニ付名例律二罪俱發以重論條ニ依リ已ニ論決ヲ  
經タル懲役七十日ヲ扣除シ剩ル懲役九年ト二百九十五日ニ處スヘキモノトス又新法ニ於  
テハ後發ノ罪即原嘉右衛門所有ノ樹木ヲ盜伐シタルハ刑法第三百七十三條第三百七十六

條ニ依リ一月以上一年以下ノ重禁錮六月以上二年以下ノ監視ニ該リ又前發ノ罪即私ノ文書ヲ詐爲シタルハ同第二百十條第二百十二條ニ依リ四月以上四年以下ノ重禁錮四圓以上四十圓以下ノ罰金六月以上二年以下ノ監視ニ該ルモ前發ノ刑ト後發ノ刑ト等キニ因リ同第二百二條ニ依リ更ニ其罪ヲ論セサルモノトス依テ同第三條第二項ニ基キ輕キ新法ニ從ヒ更ニ其罪ヲ論セサルモノト判決シ直ニ拘留ヲ放免スルモノ也

但盜伐セシ樹木ノ估計金二百六十八圓四十八錢ノ内該山林ニ現在スル盜伐ノ樹木ハ取揚ケ原嘉右衛門へ下渡スルニ付右ノ估計金七圓六十五錢ヲ差引殘金二百六十圓八十三錢ハ資力限リ追徴ス

高村政次郎ニ於テハ右裁判ヲ不法ナリトシ明治十五年七月十九日附テ以テ本院ニ上告ノ旨趣左ノ如シ

一茨城縣常陸國鹿島郡山野上村原嘉右衛門カ所有山林同村ノ内字木喰岸ノ根二ヶ所松雜木ヲ去ル明治十二年十二月同郡須賀村井關半右衛門方へ千九百五拾圓ニ賣渡シタルヲ右代金へ一割口錢ヲ加へ貳千四百四十五圓ニテ私方ニテ買受該山ノ松凡百三十本外ニ雜木ヲ加へ代金百三拾圓ニテ原嘉右衛門カ買戻シ度由申入レ有之右事件ニ付葛藤ヲ生シ原嘉右衛門ヨリ明治十三年告訴セラレ同十四年四月十六日水戸裁判所ニ於テ裁判受ケタルモ自分カ不服ニテ上告スルニ却下セラレタルハ該賣買ハ確定セシナレモ右山林盜伐ノ義ヲ原嘉右衛門カ告訴セシハ甚タ不當ノ告訴ナリ如何トナレハ其告訴スル當時ヨリ今ニ至ルモ右山林ハ伐木半ニハ至ラス數百本ノ松雜木アレハ賣買ノ契約ヲ履行スルモ決テ差支無カリシナリ

一該山林賣買証タルヤ〔第百七十七番松立木凡百三十本同所ノ内雜木見配ノ通り不殘但西ノ方ニテ片ナ界トシテ地ノ道ヲ越シ南ハ土手ヲ限リ貴殿ヨリ買受二ヶ所ノ内御撰ノ筈上等松一本上等五尺ヨリ下五本上等四尺ヨリ下拾本右此代金百三十圓也〕トアリ然レハ伐木ノ當時其山ニ至リ之ヲ嘉右衛門ノ物トシテ除キ之ヲ政次郎ノ物ト定メタルニアラス嘉右衛門モ伐木ノ當時其山ニ家族共ヲ引テ日々立入數千把ノ枝木ヲ駄送シタリ殊ニ其山ハ嘉右衛門宅ヨリ僅カ距離四丁ヲ隔リシナレハ大木ノ伐木ヲ知ラサルノ理ナカル可シ依テ此伐木ヲシテ盜伐トノ申立ハ皆同人ノ僞リニテ其代金百三十圓ノ買戻ノ分ハ壹本モ伐ラサルヲ難題ヲ申掛ケ多分ノ償ヲ貪リ取ラントノ謀計ナレハナリ若シ一步ヲ讓リ嘉右衛門へ渡ス可ク分ヲ伐木スルモ跡ニ數百本ノ樹木アレハ盜伐ニアラス錯誤ニ止マルモノナリ夫レヲ潮來警察署ハ只原告ノ片言ヲ信シテ盜伐ト爲シ臨檢處分ヲ爲シタルハ其職ニ越權ト言ハサルヲ得ス

上告要領第一條

一去ル明治十四年七月中原嘉右衛門ハ行方郡潮來警察署へ盜伐ノ告訴ヲ爲シ其節盜伐ノ樹木臨檢トシテ巡查壹名派出ノ上村吏並ニ原告ヲ案内トシテ該山林ニ至リ檢証ノ處分ヲ爲シタリ是レ法ニ違ヒタル處分ナリ如何トナレハ被告者ナリ今ノ上告者ナリ立會ハセス原告隻辭ヲ信シテ伐木跡切口ヲ改メ盜伐ト定メタルカ然ラハ何ヲ徵シニ彼レハ嘉右衛門ノ物之レハ政次郎ノ物ト認メタルヤ是レ疑フ可キ處分ナラスヤ先ツ臨檢處分ヲ爲スニハ原告被告



村吏又ハ此山ノ賣買等ニ關係ノ者ヲ立會セ正實ノ處分ヲ爲ス可キモノナリ然ルニ被告人  
[今上告]ノ立會モ要セスシテ臨檢處分ヲ爲シタルナレハ信スル事能ハス然ルニ斯ク法理  
ニ違ヒタル處分ヲ真正ノ處分ト見テ裁判セラレシハ之レ不服ナリ

第二條

一該件ニ係ル樹木代金二百六十八圓四十錢ト代價ヲ定メ追徴ノ裁判ヲ爲シタルハ何チ目  
的トシテ代價ヲ標價セシヤ之レ原告原嘉右衛門カ隻辭ヲ信シテ代價ヲ定メタルモノナル  
可シ裁判上物價ヲ定ムルハ裁判官カ腦裏ヨリシテ定ムルモノカ原告ノ請求ニ依テ物價ヲ  
定ムルカト云ハ、何レモ不可ナリ先ツ其品物ニ關係アル職分ノ評賈人ヲシテ定ムルヲ至  
當トス如何ントナレハ該件ノ木代ハ原價百三十圓ナリ然ルチ二百六十圓余ト定メタルハ  
不當モ又甚タシ殊ニ明治十二年度ハ物價ノ騰貴セシ時節ナリ今諸物價ノ四五割モ下落セ  
シハ衆人能ク知ル所ナリ然ルニ其原價百三十圓ノ木品ヲシテ二百六十圓余ノ價格ヲ評賈  
人ヲ用ヒスシテ定メタルハ不當モ又甚タシ裁判官クルハ一言ヲ以テ貴重ノ生命財產ト雖  
モ左右スル職コアツテ是等ノ道理ヲ推糺セス不當ノ代價ヲ追徴セラレルハ之レ不服ナリ

第三條

一第一條臨檢處分ヲ爲スニ被告ノ立會ヲ要セス通知モ無ク原告請求ニ應シ警察官カ擅ニ  
臨檢セシヲ信シテ盜伐ト爲シ又第二條樹木ノ代價ヲ定ムルニ評賈人ヲ用ヒスシテ裁判官  
カ樹木ノ代價ヲ定メタルハ偏頗ト云ヒ越權ノ處分ト云ハサルヲ得ス  
前陳述スル理由ナルニ據リ御審按ノ上水戸輕罪裁判所ノ裁判ヲ破毀アラント奉希望候也

辨明

凡犯罪ノ事實ヲ推究シテ之ヲ認定スルハ原裁判官ノ特權ナリ玆ニ本按ヲ檢密スルニ原裁  
判官ニ於テ原嘉右衛門カ陳述高野源三七五三啓助カ始末書綿織多右衛門泉久作ノ証言等  
ニ依リ被告高村政次郎カ原嘉右衛門ヨリ同人所有山ノ樹木ヲ買入レ其内七十七本ハ嘉右  
衛門へ賣戻シノ契約ヲナシ其代價金受取リタル後該樹木并ニ賣買約定ノ樹木共都合八  
十二本ヲ盜伐セシ者ナリト判定シタルハ至當ニシテ不法ノ廉アルコトナシ然ルニ上告者ハ  
其認定ニ對シ不服ヲ唱ヘ事實ニ齟齬アル旨縷陳スルモ到底覆審ヲ請求スルノ趣旨ニ止ル  
モノナレハ上告ヲ爲スノ原由ト爲チ得サルモノトス又贓品ノ評價ハ實價ニ不相當ナル旨  
云々申述スト雖モ原裁判所ハ改正律例第五十二條ニ依リ相當ノ評價人ヲ其盜伐シタル  
樹木ヲ估計セシメタルモノニシテ之ヲ不當ト云フヲ得サルモノナリ然リ而テ高村政次郎  
カ所爲ニ對シテハ刑法第三條第二項ニ照シ舊法ニ於テ賊盜律盜田野竊麥條ニ依リ咎金百  
二十圓以上懲役十年新法ニ於テハ刑法第三百七十三條ニ照シ一月以上一年以下ノ重禁錮  
ニ該ル者ナルヲ以テ明治十四年第八十一号公布ニ依リ新舊法ヲ比照シ輕キ刑法第三百七  
十三條ニ照シ重禁錮六月ニ處ス可キ處竊ニ私文書詐爲ノ罪ニ依リ懲役七十日ノ處斷ヲ經  
タルモノナルニ付仍ホ刑法第三百三條ニ照シ前發ノ刑ヲ以テ後發ノ刑期ニ通算シ既ニ役遇  
スル七十日ヲ除棄シ四月二十日ニ斷了ス可キモノナリ然ルチ原裁判玆ニ出テサリシハ不  
法ノ裁判ナリトス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ明治十五年七月十五日水戸輕罪裁判所ニ於テ高村政次郎へ言渡シタル  
裁判ヲ平翻スル左ノ如シ

六

高村政次郎

刑法第三百七十三條同第三百三條ニ照シ

重禁錮四月二十日

但盜伐セシ樹木ノ估計金二百六十八圓四十八錢ノ内該山林ニ現在スル盜伐ノ樹木ハ取  
上ケ事主ニ下付シ右估計金ニ該ル七圓六十五錢ヲ差引殘金二百六十圓八十三錢ハ資力  
限リ追徴ス

第一千六百六号

○判文(竊盜ノ件)明治十五年七月廿四日上告  
明治十五年十二月廿七日判決

大坂府西區京町堀上通二

丁目十七番地士族

山田常太郎

明治十五年六月  
二十二年二ヶ月

明治十五年六月三十日大坂輕罪裁判所ニ於テ右山田常太郎ニ對シ左ノ裁判ヲ言渡タリ  
其方儀明治十四年七月十日旅人宿大西利作方へ郷貫氏名ヲ詐稱シ宿泊シ又ハ明治十四年  
七月十六日小野木政吉方於テ原籍所在分明ナラサル宮崎萬介外二人ト通謀シ渡邊巳之吉  
所持ノ金圓ヲ竊取シタル事汝ハ強辨以テ竊取セサル旨陳述スルト雖現ニ萬介ヨリ汝カ受

取タリト供述スル金百圓ト風呂敷ハ己之吉ノ所有ニシテ當時汝等ノ行爲ト事主ノ陳述及ヒ  
巡查ノ景況書等ニ依リテ視ルモ汝萬介等ト謀リ己之吉ノ所持金ヲ竊取シタル証憑充分ナ  
リ右科明治十四年大坂府甲第二百五十一号布達第五條刑法第三百六十六條第三百六十九  
條ニ依リ第三百條ニ照シ第三百六十六條第三百六十九條ヲ適用シ一等ヲ加ヘ二月十五日以  
上五年以下ノ重禁錮ニ處スヘキ處事犯新法實施以前ニ在ルヲ以テ舊法改定律例第二百九  
十九條賊盜律竊盜條ニ依リ二罪俱發例ニ照シ一ノ重キ竊盜條ヲ適用シ竊盜贓金二百五十  
圓除族ノ上懲役十年ノ處主從分明ナラサルヲ以テ從トナシテ論シ一等ヲ減シ懲役七年ニ  
該ルヲ以テ刑法第三條第二項ニ依リ新舊ノ法ヲ比照シ輕キ新法ニ從ヒ重禁錮三年申付ル  
但贓金賠償ノ爲メ資力限追徴ス

山田常太郎ニ於テハ右裁判ヲ不法ナリトシ明治十五年七月十日附テ以テ本院ニ差出タル上  
告狀ノ趣意左ノ如シ

抑裁判權大ナリト雖モ被告事件ノ摸樣ニヨリ有罪ノ推測ヲ定ムルヲ得サルハ治罪法第百  
四十六條ニ其元則ヲ掲ケ以テ裁判ノ專横ニ涉ルアラシキヲ防制シタリ又治罪法第三百四  
條ニ裁判言渡ヲ爲スニハ事實及ヒ法律ニヨリ其理由ヲ明示シ且一切ノ証憑ヲ明示スヘシ  
トアレリ夫レ之レヲ明示スルハ苟シクモ缺クヘカラサル必要ノモノニシテ若シ之レヲ示  
サハルルハ裁判ノ基礎ヲ知ラサルニ類シ且上訴上告等爲セシ際其當否ヲ覆審スルニ由ナ  
キモノナリ然リ而シテ上告人カ裁判言渡書ヲ閱スルニ以上ノ正則ヲ用ヒス明リニ竊盜罪  
アリトシ之レヲ法律ニ問ヒ重禁錮三年ニ處斷セラレタルハ抑何ノ理由ナルヤ蓋シ大坂輕

七

罪裁判所ノ誤斷ト云フモ失言ニ非サル可シ夫レ上告人ハ如何ノ行爲ニテ以テ渡邊已之吉カ所有金ヲ取り得タルモノナルカ之レカ明示ナケレハ強奪竊取騙取詐取貸借讓與將ヲ干預ナキヤチ知ル能ハサルナリ又民事原告人則渡邊已之吉ニ於テ該金タル如何ニ保護シ居リシチ竊取サレタルヤ果シテ上告人カ之レチ竊取シタルモノナリト陳告セシヤ將タ宮崎萬介ヘ貸與又ハ竊取サレタルト証言セシヤ未タ其如何チ知ラサレハ民事原告人ニ對シ之レカ責言スルチ得スト雖モ大坂輕罪裁判所カ誤認ニ出テス果シテ民事原告人カ陳述ニヨリ判決ヲ與ヘラレタルモノナレハ其事實齟齬矛盾シタルヤ實ニ霄壤ノ如クナル可シ抑大坂輕罪裁判所カ上告人ニ於テ金壹百圓ト風呂敷壹個トチ携帶シ居リシチ以テ之レカ有罪視スルニ足ル徵憑トサレタレモ已ニ前逐條ニ携帶シ得ルノ事實ノ理由チ辨明シタレハ上告人カ行盜シタルニ非ラサルヤ確實ナリ爰ニ宮崎萬介ニ於テ該金員チ取出スニ民事原告人ニ對シ正實チ缺クノ行爲アリタルモノナレハ上告人ニ於ケル之レカ從犯ナリト認定サルモ亦理ナキニ非ラサレモ右萬介ニ於テモ尋常ノ貸借金ナリシコトハ已ニ該金圓受授ノ際民事原告人カ目前ニテ之レチ執行シタレハ彼我ノ取引タル毫モ不良ニ非ラサルコト知ルニ充分ナリトス或ハ假リニ萬介ニ於テ虛誕ノ甘言チ逞フシ之レチ取得タルモノトスルモ上告人ニ於テ其情チ知ラサレハ罪ニ入ルノ理由ナシ其シヤ之レチ共謀シテ得タルモノトスルモ當時承諾上ヨリ成立タルモノナレハ則民事ノ判定チ煩スモノニシテ決メ法律ノ問ヘキモノニ非ラズ況ンヤ之レカ上告人ニ於テ竊取シタルモノニ非ラサルニ於テオヤ夫レ之レニ由テ之レチ觀ルモ治罪法第三百五十八條ニヨリ處斷アルモノトス然リ而シテ万カ一萬

介カ行爲ニ對シ詐欺取財ノ罪アルモノト認視サル、ハ其推測止ムチ得サル譯ナレモ抑上告人ト民事原告人トノ間曾テ金銀貸借ノ如何チ謀リシコトアサレハ上告人ニ於テ詐取ノ罪アルノ理由ナシ然リ以上ノ論旨ハ治罪法第四百十條ニヨリ上告スルチ得ルノ權利アルモノニ付更ニ御覆審ノ上應當ノ公判アラノコト奉切願候也

辨明

上告事件チ審案スルニ上告人ノ所爲ハ宮崎萬介等ト通謀シ渡邊已之吉所持ノ金圓チ竊取シタル現行犯罪ニシテ証憑明白ナルチ以テ原裁判所ニ於テ新舊ノ法チ比照シ新法ノ輕キニ從ヒ處斷セシハ固ヨリ不當ト認ムヘキノ點アルチ然ルニ上告人ハ竊盜ノ罪チ犯シタルニ非スト強辨シ事實ノ齟齬アリト稱シ不服ノ旨チ訴フルト雖モ口頭ノ陳述ノミチ以テ犯罪ノ踪跡チ堙滅セシムルコトチ得サルモノトス

判決

右ノ如クナルチ以テ明治十五年六月三十日大坂輕罪裁判所ニ於テ山田常太郎ニ言渡シタル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキニ因リ上告狀却下スルモノナリ

第一千六十七號

○判文(證書偽造ノ件)明治十五年七月廿七日上告  
明治十五年十二月廿七日判決

千葉縣上総國山邊郡臺方

村平氏

戸村大三郎

九

明治十五年七月

四十七年

同縣同國同郡同村平民當時

下總國千葉郡寒川村寄留

古川大次郎

明治十五年七月

六十二年

明治十五年七月十七日千葉輕罪裁判所ニ於テ右戸村大次郎外壹名ニ左ノ裁判ヲ言渡シタリ  
被告事件檢察官ノ公訴ニ依リ審理ヲ遂ル處被告人共ニ於テハ証書偽造ノ覺ヘ無之旨抗辨  
スト雖モ元治元年十二月付臺方村名主半右衛門等ヨリ代官手附庭井美之助ヘ差出シタル  
戸村治左衛門田畑欠所ニ付入札觸當ノ書付慶應元年五月二日付森戸十郎外三人連名ノ戸  
村治左衛門田畑欠所拂代金受取慶應元年五月付定吉外五人ヨリ佐次右衛門ヘ宛タル田畑  
拂地請證文同年閏五月付定吉外六人ヨリ善助ヘ宛タル同上ノ證文元治二年ノ田畑高拔帳  
文久三年元治元年元治二年ノ宗門人別帳豫審掛ニ於テ取糺シタル證人鑑定人等ノ調書  
以上ノ諸證憑ニ依リ之カ事實ヲ考量スレハ被告戸村大次郎父治左衛門カ元治元年度罪ア  
ツテ欠所ノ刑ニ處セラレタルヲ明白ナル上ハ被告戸村大次郎カ所持スル元治元年十一月  
二十七日付證ノ如キ柴太郎左衛門外二人ヨリ爲取替契約ヲ爲スヘキ理由無之況乎其證書  
ノ印影ハ偽印ナルニ於テチャ又被告戸村大次郎ニ於テ明治元年十二月七日付權左衛門ヨ  
リ戸村大次郎ヘ宛タル爲取替契約證書ノ預リ書ヲ發見セシニ因テ其爲取替契約証ヲモ發  
見セリト陳辨スレモ其預リ證書タルヤ其第一行二行ハ筆意墨色共異リ殊ニ紙ノ繼目ニ押

捺シアル印形ハ何人ノ印影ナルヤ字畫不分明ナラシメシ意匠等ニ依テ視レハ是則官テ權  
左衛門ヨリ被告戸村大次郎ヘ渡シ置ケル他ノ文書ヲ變造セシモノト認ムルニ足レリ被告  
古川大次郎ニ於テ其爲取替契約證文ノ亡父遺物中ニ入レアルヲ曾テ覺知セサリシ旨申  
立ルモ父權左衛門死去ノ後其携フ所ノ書類何物ナル乎當時一應閱覽モ爲サシテ數年間  
藏シ置ヘキ謂レナキモノトス之ニ因テ被告戸村大次郎ハ囊キニ柴太郎作等ニ對シタル民  
事詞訟ノ屢敗訴シ手段ノ狡ニ尽キタルヲ苦シ明治十三年十二月二十四日以降ニ於テ被  
告古川大次郎ト謀リ元治元年十一月二十七日附ノ爲取替契約証書ナルモノヲ詐爲シ剩サ  
ヘ其証書ヲ發見セシ手續キヲ彌縫セン爲メ權左衛門ノ預リ証書ヲ變造セシモノト認定ス  
犯時新法實施以前ニ在ルヲ以テ刑法第三條第二項明治十四年八十一號公布ニ基キ新舊法  
ヲ比較シ輕キニ從ヒ舊法改定律例第二百四十六條ニ依リ不應爲ノ重ニ問ヒ被告戸村大三  
郎懲役七十日申付ル被告古川大次郎ハ戸村大次郎ノ從犯ナルヲ以テ一等ヲ減シ懲役六十  
日申付ル其詐爲又ハ變造ニ係ル文書ハ沒收スルモノ也  
但本案ハ明治十四年十二月三十一日以前ニ在テ受理シタルヲ以テ從前ノ規則ニ從テ處  
分ス

戸村大次郎古川大次郎ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十五年七月廿日上告申立テ爲  
シ同月廿四日付ヲ以テ本院ヘ差出シタル上告狀ノ趣意左ノ如シ

第一條 本件ノ起因ヲ掲シ

一自分等兩人ヲ被告トシテ公訴ノ起ル原由タルヤ當時代官大竹左馬太郎殿支配所ニシテ



一第一條辨明ノ如キ始末ニテ被告大三郎亡父治左衛門ハ江戸表寄場人足ニ處セラレタル  
 一詳明セリ其寄場人足ト稱スルハ猶今日ニ於ケル附加刑ニ均シキモノニシテ最モ強壯ナ  
 ルモノヲ撰拔シ該場へ苦役セラレタルモノナリ決シテ欠所刑ノ如キ嚴刑ナルモノニ非ス  
 其欲所刑ノ如キハ最モ重罪刑ニ附セラレタルモノナリイカニ幕府專制ノ時ト雖モ法規ナ  
 キモノニ非ス百ヶ條ト云ヒ汎例録ト稱シ民刑混同ノ法律アツテ例外ノ苛刑ニ處セラレシ  
 モノニ非スソモ治左衛門ノ如キハ百ヶ條中(第廿五條人別帳ニモ不加他ノモノ差置候者  
 所拂)ト稱スル刑ニ適リ元治元年十一月廿一日江戸表御勘定奉行根岸肥前守殿ニ於テ寄  
 セ場人足ニ處セラレタルモノナリ若シ欠所刑ニ處セラレタルモノトセハ同年十二月七日  
 ニ至リ貢租上納可致謂レ之レアラン其受取書五葉〔此証ハ既ニ豫審中ヨリ係リ官へ呈シ有之〕ノ内三枚ハ告訴  
 人柴太郎左衛門并柴茂左衛門ノ差出シタル印形アルモノナリ殊ニ該處分ノ如キハ村吏柴  
 太郎左衛門等へ達示有之タルト必然ト雖モ告訴人等其際ヨリ謀巧シタルモノニヤ其御達  
 シ等ハ掩蔽シ置キ今ヤ引証ナキ名主半左衛門ヨリ代官手附庭井美之助へ差出シタル書類  
 及ヒ柴太郎左衛門外二名ノ手ニ自在成立シ得ヘキ証書ヲ確證トナシ亡治左衛門カ元治元  
 年度罪アツテ欠所刑ニ處セラレタルモノトセラル如キ冤モ又酷シキモノナリ豈何ソ焉ニ  
 至ル凡ソ今日ノ如キ公平ノ政度ニ於ケル宜シク事ノ淵源ヲ搜知シテ毫髮容ル可カラサル  
 判定ヲ下サル可キニ偏信輕躁ニシテ信ヲ偽ニ換ヘ邪ヲ正トセラル、如キ被告等ハ嘆ニ堪  
 へサルナリ

第三條

偽証偽印ノ理由ヲ辨明ス

一元治元年十一月廿七日付柴太郎左衛門外一名へ宛タル爲取書証ノ如キ契約ヲ爲スヘキ  
 理由無之トシテ其印形ノ偽印確信セラレ裁判セラル如キ何ソ妄信ノ酷シキヤ既告訴人柴  
 太郎左衛門外二名ハ背信偽言シテ彼等手ニ在致スル文久三年亥三月村方人別帳ヲ變造手  
 入ヲナシ置キ印判鑿定ヲ乞タルカ故謀略ノ如ク果シテ爲取替証ノ印影差違ト鑿定アリ依  
 テ大三郎ハ疑念ノ解ケヤラサレハ篤ト搜索ヲナスニ代人共ニ不正ナルヲ聞知シ再ヒ舊  
 千葉支廳ニ於テ鑿定ヲ乞ヒ安政四年正月稻束流失入用取調帳外二葉証ト照査アルニ眞印  
 ナルヲ証明シタリキ夫レ如斯眞實明瞭ナル證據ヲ除棄シ其審問モ尽サスシテ偽印ト認定  
 セラル、ヤ不法ノ極ト謂ヘシ是等ノ眞偽ヲ判別セント欲セハ先ツ告訴人ノ呈スル人別帳  
 ノ不正奈何ト被告等所持スル右對照帳簿及證書ト今尙戸長役場ニ就キ照査簿ヲ呈出ナ  
 サシメ而シテ元治元年爲取替証ヲ更ニ鑿定ナサシメ始メテ其如何ヲ知ルヘキニ單ニ告訴  
 人呈スル變造証ノミニ依テ被告等眞正ノ証ヲ偽ト稱シ冤罪ニ處セラレノトナ譬フルニ物  
 ナカル可シ

第四條

宗門人別帳ノ不正ヲ論ス

一被告等舊法ノ手續ヲ以テ處刑セラレタルモノナレハ又一件書類ノ如キモ熟視スルニ由  
 シナシト雖モ曾テ傍看スル處ニ據レハ告訴人柴太郎左衛門外二名ニ於テ呈スル文久三年  
 人別帳ノ不正ナル証憑タルヤ袋綴ニシテ糊封シアルヲ其糊封ノ解開シ有之而已ナラス告  
 訴人等ノ戸別每一葉ニ塞記シアリ況ンヤ彼等ノ手ニ在致スル證書ナルヲヤ斯ル不完全ノ  
 モノナシテ被告等呈スル爲取替証ヲ偽證偽印ト認定セラル如キ痛嘆ニ堪ヘサルナリ且被

告大次郎實父權左衛門カ預リ證ノ筆意墨色共差異アリトテ變造セシモノト認定セラレタリ何ソソ片見ノ奇ナルヤ普通使用スル硯墨一硯ナレハ必ス同色ナリトス可キカ否ナ然ラズ假令ヒ一硯墨ト雖モ乾硯水ヲ酌テ急驟二三磨摺墨シテ文字ヲ書セハ必然淡濃ナラサルヲ得ス猶筆蹟ノ如キモ又然リ一行新筆或ハ手慣レサル筆ヲ以テ書シ次行目又筆ヲ換ルル間々有之モノニシテ筆勢モ從テ差違ス是等ノ事情ヲ察セハ單ニ淡濃アレハトテ偽證變造トナスカ如キ何ソ事情ノ迂ナルヤ被告ニ於テ偽證ナスモノナレハ豈如斯拙策ヲナサン畢竟信証タレハコソ淡濃ノ墨色ヲ論セス呈出シタルモノナリ

第五條

一被告犯時新法實施以前ニ在トシテ刑法第三條第二項明治十四年第八十一號公布ニ基キ新舊法ヲ比較シ輕ニ從ヒ舊法改定律例ニヨリ不應爲重ニ問ヒ大三郎ハ懲役七十日大次郎ハ從犯ナルヲ以テ懲役六十日ニ處セラレタリ不悛モ又酷シキモノナリ右第二條辨明ノ如ク被告大三郎モ父治左衛門ハ欠所刑コアラサルモノナリ欠所刑ト確認セラレ第三條ノ如ク偽印偽証ト認メ第四條辨明ノ如ク被告カ正當ナルヲ告訴人等ノ不正ヲ審問セス反テ不正ヲ直ト認メラレ加之淡濃墨色ニ固着シテ偏見變造證ト認定セラル冤枉一トシテ反對セサルハナシ公明實地審明アルニ於テハ被告ハ毫モ罪トナル可キ理由無之モノナリ依之被告ハ今回事實反對ノ裁判不服ナル旨上告シテ該裁判ノ破毀ヲ需メ公明ノ御裁判奉仰スル所以ナリ

辨明

上告人共ニ於テ亡戶村治右衛門ハ元治元年度罪アリテ人足寄場留ノ刑ニ處セラレタルモ田畑欠所申付ケラレタルコアラサルニ欠所申付ケラレタル者トシ從テ契約證書類モ偽造變造ニ係ルモノナリトノ告訴ヲ信認セラレ告訴人等ノ不正ヲ審問セラレ上告人共ニ刑ヲ言渡サレタルハ不法ノ裁判ナリト云フト雖モ原裁判所ノ宣告狀ニ明示セシ數箇ノ證憑ヲ以テ事實法官カ正當ノ權内ニヨリ眞任スル處ニ就キ被告人等カ元治元年十一月二十七日附ノ太郎右衛門茂右衛門紋次郎ニ對スル爲取替契約書ヲ詐爲シ之ヲ彌縫セン爲メ權左衛門ノ預リ證書ヲ變造セシモノト認定セシハ適當ノ裁判ニテ毫モ不法ニアラストス然ルニ被告人等ニ於テハ其裁判ニ服セス上告爲スモ法律適用ノ當否ヲ論辨スルニアラス事實覆審ノ請願ナレハ破毀ノ原由ト爲スニ足ラサルニ因リ上告ノ趣旨相立タス

判次

右ノ如クナルヲ以テ明治十五年七月十七日千葉輕罪裁判所ニ於テ戶村大三郎古川大次郎ニ言渡タル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキニ因リ上告狀却下スル者也

第千六十八號

○判文(紙幣偽造ノ件)明治十五年七月廿七日上告  
明治十五年十二月廿七日判決

福岡縣筑前國福岡區萬町士族

新太郎弟

松

尾

孟

明治十五年六月  
二十八年六月  
十七

右孟ニ對シ明治十五年七月十五日大坂輕罪裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ言渡アリ  
 其方儀明治十四年四月以來伊藤登等ノ發意ニ從ヒ大坂府北區堂島裏三丁目廿三番地借宅  
 ニ於テ内國通用ノ五拾錢紙幣ヲ偽造シテ行使スル事前供ヲ反異シ登等ノ紙幣偽造ニ同意  
 セサル旨辨護スルト雖モ反異スル所ニ就テ何等ノ證據無之ヲ以テ前供ハ眞實ノ白狀ト認  
 定ス右科刑法第百八十二條ニ依リ無期徒刑ニ處スヘキ處事犯新法實施前ニ在ルヲ以テ舊  
 法改正偽造寶貨律ニ依リ從タルヲ以テ懲役十年刑法第三條第二項ニ依リ新舊ノ法ヲ比照  
 シ輕キ舊法ノ刑期ニ從ヒ重懲役十年申付ル

松尾孟於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十五年七月廿一日本院ニ上告スル趣旨左ノ如シ  
 明治十四年四月上旬頃國許ヨリ當大坂ヘ向カ宜シキ商法モ無之哉ト思ヒ罷越候處同國人  
 伊東登府下北區堂島裏三丁目ニ寄留罷在候趣ヲ聞及ヒ右登方ニハ阿部仁造石田勤ノ兩人  
 同居致居候ニ付自分モ同居ノ依頼ヲ致シ同居罷在候處種々雜談相話シ居候處ヘ右仁造  
 ナル者登ヘ申スニハ右ノ器械ヲ、相尋候得者登カ申スニハ凡ソ出來居候趣申聞ケ夫故一  
 度十日計歸縣ヲ爲ス趣申聞セ國元ヘ罷越候處凡日數モ廿日計リモ相立候得共歸宅不致ニ  
 付新島仁藏柴田直三郎右兩人申居候ニハ未タ登歸宅不致ニ付テハ銘々共モ一度歸縣致シ  
 候趣ヲ申其節神戸見物ノ上ニテト斷取極メ夫ニ付私シモ同道ト申候得共私シニ於テハ神  
 戶ハ再度參リ候ニ付相斷申候右兩人ハ立越其節價造ノ札ヲ相用ヒ候ト見エ同年十一月頃  
 神戸ニテ右兩人捕縛ニ相成夫ニ付當地江戸堀警察署ヨリ探偵人六七名伊東登方ニ御越ニ  
 相成其節居合セ居何部仁造石田勤自分ト右三人ヲ直ニ現行犯ト申右三人ヲ捕縛被成諸器

械モ殘ラズ取揚ケニ相成其節國元ノ連累中里重德始メ外五人ノ者ヲ一時遁カラサシガ爲  
 メニ伊藤登ト右三人ガ爲セシ旨申立候處柴田直三郎ナル者事明白ニ申立候ニ付自分警察  
 署ニ於テ實際覺エ無之旨陳述スル雖モ更ニ御聞入ニ相ナラズ苛酷ノ御尋問ヲ被成一時其  
 場逃カレンガ爲メニ摺印ヲ致シ候其趣意裁判所ニ於テ事實申上度ト存居候處一度御取調  
 ノ儘ニテ既ニ御言渡ニ相成候段不服ニ御座候間今一應明瞭ノ御裁審ヲ奉願上候也

辯明

上告ニ因リ原裁判所ノ簿冊ヲ審閱スルニ松尾孟ニ於テハ曩キニ大坂府警察本署ニ於テ爲  
 シタル口供ヲ翻異シ前供ハ苛酷ノ尋問ニ因リ誣服シタル者ニシテ其實紙幣偽造ニ同意ヲ  
 ナサハリシ旨陳辨スト雖モ假令警察官ニ於テ苛酷ノ尋問ヲナスモ事實ナキヲ申立ヘキ  
 理由ナキノミナラス又苛酷ノ尋問ヲナシタル証ナキノ因リ同犯人等ノ口供ニ照シ原裁判  
 所ニ於テ前供ハ眞實ノ白狀ナリト認定シタルハ不法ニアラス然ト雖モ法律適用ニ錯誤ア  
 リ即チ右確認シタル事實ニ對シ舊法ニ依リ刑ヲ科スルニハ舊法ノ刑名即チ懲役十年ニ處  
 シ士族ナルヲ以テ除族スヘキニ新法ノ刑名ヲ用ヒ重懲役十年ト處斷シタルハ不法ノ裁判  
 ナリトス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ明治十五年六月廿六日大坂輕罪裁判所ニ於テ松尾孟ニ言渡シタル裁判  
 ナ平翻スル左ノ如シ



改正偽造寶貨律ニ依リ從タルヲ以テ除族ノ上

懲役十年

第六十九號

明治十五年七月廿八日上告  
○判文(詐欺取財ノ件) 明治十五年十二月廿七日判決

茨城縣常陸國東茨城郡水戸下市

三軒町士族

野 中 重 道  
明治十五年七月  
四十二年九月

同郡栗崎村士族

金 子 綠  
明治十五年七月  
四十八年四月

明治十五年七月三日水戸輕罪裁判所ニ於テ右重道綠ヘ左ノ裁判ヲ言渡シタリ  
其方共儀被告事件檢事ノ陳述ト告訴人及ヒ汝等ノ申述ヲ聞キ各證據ヲ審閱スルニ明治十三年三月中兼子綠ハ野中重道ト謀リ富岡又右衛門等ニ談判ヲ爲シ明治十三年四月一日以來北條福壽外三十四名ノ公債証書額面合計壹萬七千貳百三十五圓并ニ山方知新記名ノ第百四國立銀行株券四枚添券共融通使用ヲ爲サ、ル約定ニテ預リ置キ之レヲ重道ニ於テ擔當シ或ハ綠ニ於テ擔當シ第百四國立銀行三井銀行第九十五國立銀行及ヒ大森平兵衛江橋伊三郎古渡理平猿橋宗次郎深谷惣吉高野正巳等ヘ公債証書記名主ノ金員借用證書及ヒ公

債証書賣却委任狀等ヲ偽造シ之レヲ添ヘ又ハ添ヘスシテ無斷抵當ニ差入金壹万五千圓餘ヲ借受ク費消シタルコトハ各告訴人ノ申立ト告訴人ニ渡シ置キタル証書ニ保護ノ爲メ預ルトアルニ符合シ尙ホ銀行株券モ公債証書ト同様ノ主意ニテ預リタリトハ被告ノ自白ナル處ニシテ兼子綠ハ明治十四年十二月九日野中重道ハ明治十四年十二月十二日茨城縣警察署ニ於テ爲シタル口供ニ「其預ル方法ハ如何ニ取極メ可申哉ト又右衛門ヨリ掛合有之自  
分(兼子綠) 答ニ果シテ本社ノ望ミニ應スルルハ其預ル處ノ金祿公債証書ハ本社ニ積ミ置キ(兼子綠) 答ニ如何様ノ事故有之トモ他ヘ融通等決シテ致サ、ルハ勿論ニシテ本社ニ預ル處ノ名義ハ金祿公債証書ハ保護ノ爲メ預ル處ニシテ云々五朱金分配スル義ハ人ノ疑惑モ有之コナレヒ之レハ則チ該公債証書本社ニ積ミ置キアレハ(兼子綠) 答ニ之ヲシテ他ヘ融通セサルモ取引上大キニ人ノ信用ヲキタシ隨テ利益自然ニ増スル云々右預ル處ノ金祿公債証書一時本社ノ負債隨テ増シ加之追々營業上損失ヲ生セシ爲メ不相濟事トハ乍存一時金融不手回リノ爲メ野中重道(兼子綠) 答ニ謀リ有合ノ印形ヲ相用文書ヲ偽造シ別番明細書ノ通第百四國立銀行及ヒ第九十五銀行三井銀行大森平兵衛高野正巳猿橋宗次郎古渡理平等ヘ無斷抵當ニ差入金員借出シトアルニ適合スルヲ以テ明瞭ナリ右所爲ハ刑法實施以前ニ係ルヲ以テ刑法第三條ニ依リ之ヲ舊法ニ照ラセハ公債証書銀行株券ヲ無斷抵當ニ差入タルハ雜犯律費用受寄財產條ニ該リ証書委任狀ヲ偽造シ有合セタル判印ヲ押捺ノ使用セシハ詐欺律偽造私印條及ヒ改定律第二百四十六條ニ該リ其証書ヲ用ヒテ金員ヲ借出シタル

ハ賊盜律詐欺取財條ニ該ルヲ以テ名例律ニ罪俱發以重論條ニ照シ一ノ重キ詐欺取財條ニ依リ贓金百二十圓以上ナルヲ以テ兼子縁ニ於テハ懲役十年野中重道ニ於テハ八ノ告シトスルヲ恐レ出首シタルモノニシテ贓徵スヘカラサルニ依リ改定律例第六十二條ニ依リ二等ヲ減シ懲役五年ニ處スヘキモノニシテ之レヲ新法ニ照ラセハ公債証書銀行株券ヲ無斷ニ使用セシハ刑法第三百九十五條ニ受用ノ財物借用物又ハ典物其他委託ヲ受ケタル金額物件ヲ費消シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シトアルニ該リ証書ヲ偽造シ偽印ヲ押捺シテ使用シタルハ同第二百八條ニ他人ノ私印ヲ偽造シテ使用シタル者ハ六月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シトアルト同第二百十條ニ賣買貸借贈遺交換其他權利義務ニ關スル証書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シトアルニ該リ其証書ヲ用ヒ金員ヲ借用セシハ同第三百九十條ニ入テ欺罔シ又ハ恐喝シテ財物若クハ証書類ヲ騙取シタル者ハ詐欺取財ノ罪ト爲シ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シトアルニ該ルヲ以テ同第一百條第三項ニ照シ其犯情偽印ヲ使用シタルノ重キ刑法第二百八條ニ依リ六月以上五年以下ノ重禁錮ニ處スヘキモノナリトス之ヲ舊法ニ比較スルニ証書ヲ偽造シ偽印ヲ用ヒタル罪ハ舊法ニ輕ク新法ニ重シ依テ殘ルニ罪ノ内債主ヲ欺キ金員ヲ借出シタル犯情ノ重キ刑法第三百九十條ニ依リ明治十四年第八十一號公布ヲ適用シ兼子縁ハ重禁錮三年六月ニ處シ野中重道ハ尙ホ刑法第八十五條ニ照シ一等ヲ減シ一月十五日以上三年以下ノ範圍内ニ於テ重禁錮二年十月ニ處スルモノ也

但抵當トシテ渡置キタル公債証書第百四國立銀行株券四枚及ヒ証券ハ各記名主ノ請求

アルニ依リ各債主ヨリ各記名主ヘ還付セシメ公債証書ノ内所在不分明ノ分ハ相當ノ處分ニ及フヘシ且ツ裁判費用壹圓ヲ擔當セシム

重道縁ニ於テ右ノ裁判ヲ不法トナシ明治十五年七月四日附テ以テ本院ヘ上告ノ旨趣左ノ如シ

抑モ友信社ノ性質タル商業會社ニシテ公債証書及ヒ銀行株券等ヲ使用シテ本社ノ營業ヲ爲ス一ハ社則ニモ明記シ且ツ普ネシ古人ノ知ル處ロナルハ敢テ喋々チ俟タスシテ知ル可シ夫レ如斯事實ナレハ公債証書及ヒ銀行株券ヲ使用運轉スルハ勿論ナルニ此ノ社ト契約スルニ當リ其公債証書及ヒ銀行株券ヲ該社ニ差シ入ル、ニハ必ス特別ノ契約ヲ爲シ使用運轉ヲ禁スルノ特約アル可キニ此契約ナキノミナラス其公債証書及ヒ銀行株券等ヨリ利子金ヲ受領セシヲ以テ見ルキハ果シテ使用ヲ許サズト言フ可キ歟否ナ決シテ使用ヲ許サズト言フ可カラズ其理由如何ントナレバ凡ソ利子ナル者ハ何ソ即チ母銀ヨリ生スル者ナルハ一目ニシテ判然タリ然ラハ其物ヲ使用運轉セシテ利子ヲ生スヘキ理アラシヤ必ス之レヲ使用運轉シテ其利益ヲ生ス可キハ道理ノ然ル可キ所ナリ然ラハ上告人等カ之レヲ使用シ其利子金ヲ渡シ記名主モ甘ンシテ之レヲ受ケ取り居シヲ見レハ全ク黙許シタルヤ知ル可シ若シ黙許ニアラズトセハ豈ニ何ソ利子ヲ受ケ取ル可キ理之レアラシヤ又上告人等ニ於テモ徒ニ該物件ヲ保護スルニ止マル者ナレバ利金ヲ渡ス可カラサルノミナラス反テ保護料ヲ取ル可キニ左ハナクシテ毎月々々利子金ヲ渡シ且ツ預ケ主カ之レヲ受領セシ等ノ事實ニ就テ見レハ決シテ使用ヲ許サズト言フ可カラズ況ンヤ使用ヲ許スト言フ特

約ナキニ於テチヤ然ラハ保護ノ爲メ云々トアルヲ以テ使用ヲ許サスノ特約トセン歟是レ  
 特約ト云フ可カラズ夫レ彼ノ預リ証ニ明記スル保護ノ文字タル公債証書ヲ保護スルノ意  
 ナル歟將タ友信社ヲ保護スル爲メ公債証書ヲ預カルノ意ナルカ此點ニ就テ論センニ該預  
 証ニ右ハ保護ノ爲メ云々トアレバ即チ右公債証書ヲ預カルハ友信社ヲ保護スルノ意タル  
 ヤ知ル可シ其故如何トナレハ友信社ハ公債証書及ヒ銀行株券等ヲ資本トシテ成立セシモ  
 ノナレハ其公債証書及ヒ銀行株券ヲ増加セハ益々其社ヲ盛大ニシ其基礎ヲ鞏固ニシ以テ  
 社運ヲ計ラシ爲メ公債証書及銀行株券等ヲ預リ本社ヲ保護スルニ出テタルヲ以テ巨額ノ  
 利金ヲ費シ該物件ヲ預リシ者ナリ豈何ソ徒ラニ公債証書及銀行株券ヲ預カル者ナランヤ  
 若シ一步ヲ讓リ公債証書及銀行株券ヲ保護スト解釋スルモ豈使用權ヲ許サ、ルトノ特約  
 ナリト言フ可カラズ其理如何トナレハ保護トハ保存ニルノ言ヒニシテ毀損スルノ反對ナ  
 リ故ニ其物品ヲ毀損亡失セシメサル以上ハ之レ保護セスト言フ可カラズ然ラハ保護ノ爲  
 メ云々ナル文字ハ使用ヲ禁セスト否ヤトニ關係ナキヤ判然タリ然ルヲ保護ノ文字ヲ以テ  
 使用ヲ禁スル特約ト爲スハ保護ト使用トノ區別ヲ識別セサルモノト言フ可マ故ニ保護ノ  
 文字アルモ使用ヲ禁ス可カラサルノ理ハ已ニ明ケシ夫レ如斯ク事實ナルニモ拘ハラス水  
 戸輕罪裁判所ハ徒ラニ融通使用ヲ爲サ、ル約定ニテ預リ置キ云々ノ判文ヲ掲載セラレ加  
 之茨城縣警察署ニ於テ爲シタル口供ニ云々トアルモ該警察署ノ口供タルヤ上告人ニ於テ  
 如斯キ陳述セサルヲ以テ摺印致シ難シト拒ミタルモ強テ摺印スヘシトノ壓制ニヨリ止ム  
 ナ得ス摺印爲シタリ然レ此口供ニ不當ノ廉アルヲ以テ其不當ナル廉々チ書面ニテ上申

シ即チ融通使用ヲ爲サ、ルニアラス使用權ヲ得タルコトヲ陳述シタリ  
 〔此書面ハ警察ニ差  
 出シタルヲ以テ必  
 ス御上ニ達〕夫レ然リ然ラハ上告人等ニ於テ使用ヲ爲サ、ルノ特約シタルニアラス又タ  
 セシナラン警察署ノ書面ニモ如斯キ譯ナレハ其口供ヲ以テ尽ク信ナリトハ思考致シ難シ然ルニ水戸  
 輕罪裁判所ハ是等ノコトニ着眼セラレズ亂リニ使用ヲ許サ、ル特約アル如キ裁判ヲ與ヘラ  
 レタルハ不法ニシテ服従スル能ハサル所以ナリ  
 夫レ前述ノ如キ事實ナルヲ以テ見レハ豈之レヲ刑法第三百九十條同第三百九十五條同第  
 二百十條及同第二百八條ノ罪ト言フ可カラズ其理如何ントナレハ凡ソ詐欺ナルハ他人ヲ  
 欺キ以テ財物ヲ取ルヲ言フ者ニシテ使用權ヲ得タル者ヲ目シテ詐欺ナリト言フ可カラズ  
 且ツ預リ主ニ於テモ常ニ商業ノ交際ヲ爲シ決シテ詐欺ノ行爲ニアラス又記名主ニ於テモ  
 默許セシノコトヲラス利金ヲ取リシテ以テ見ルモ其他人ヲ欺キ財物ヲ取タルニアラスシテ  
 商業上急速ヲ要スルヲ以テ一時例外法ヲ施行ヒタル者ナレハ刑法第三百九十條ノ罪ニ  
 アラサルヤ判然タリ然ラハ同第三百九十九條ニ適用センカ否該條タルヤ使用ヲ許サ、ル  
 者ヲ適用ス可キ法律ニシテ使用權アル者ノ使用シタルヲ罪トセサルハ該條ノ精神ナリ然  
 レハ同第二百十條ノ罪ト爲ルヘキカ是又至當ト言フ可カラズ如何ントナレハ該條ノ精神  
 タル權理ヲ害シ義務ヲ害ヒ渾テ爲シ得ヘカラサルコトヲ爲シ以テ各種ノ權理義務ヲナシタ  
 ル所爲ヲ罰ス可キ者ナルモ上告人等ノ如キ已ニ使用權ヲ得爲シ得可キ商業上急速ヲ要ス  
 ルヨリ起リタル所爲ハ決シテ該條ノ罪ト言フ可カラズ若シ一步ヲ讓リ該條ニ當ルトスル  
 モ其所爲タル新法實施以前ニ係ルヲ以テ刑法第三條ノ原則ニ基キ其輕キ舊法即チ改定律

第二百四十六條ニ依ル可キハ贅言ヲ要セスシテ知ル可シ尙ホ一歩ヲ進シテ之レヲ論セン  
 ニ裁判文ニ刑法第二百八條ニ他人ノ私印ヲ偽造シテ使用シタル者云々ト記載アルハ抑モ  
 何ナル理由ヅヤ恐クハ是レ錯誤ナラン歟凡ソ該條ニモ明記スル如ク私印ヲ偽造シトアレ  
 ハ必ス他人ノ印ヲ作造スルノ所爲ナリ豈何ソ故造セシ印モ有合ノ印ヲ使用スルモ偽造ナ  
 リト言フヲ得ンヤ若シ之レヲシテ同一ナリト言ハ、何ソ該條ニ造ルノ字ヲ用ユルヲ要セ  
 ンヤ夫該條ノ精神タル私印ヲ偽造使用シテ罪トナル可キハ一目ニシテ瞭然タリ然ルニモ  
 係ハラス水戸輕罪裁判所ハ偽造ノ如何ナルヲ推究セテレス既ニ造リ有ル印ヲ用ユルモ自  
 カラ故造セシ印ヲ用ユルモ等シク偽造使用ナリト斷定セラレタルハ錯誤ノ適法ト言ハス  
 シテ何ソヤ夫レ如斯論シ去レバ上告人ノ所爲タル民事上ノ損害ニ立リテ刑事上ニ非サル  
 ハ灼乎トシテ火ヲ見ルヨリ明瞭ナリ

右ノ理由ナルヲ以テ水戸輕罪裁判所ノ判決ヲ破毀セラレ更ニ公明至當ノ御裁判ヲ奉仰  
 候也

明治十五年十月三十一日野中重道兼子縁ニ於テ西垣正吉ヲ辨護人トシ上告趣意擴充書ト題  
 シ本院ニ差出スト雖モ舊法ニ於テ辯護及代人等ヲ以テ上告ヲナスノ成規ナキヲ以テ今爰ニ  
 掲載セス

辨明

第一條

上告ニ因リ原裁判所ノ簿冊ヲ審閱スルニ野中重道兼子縁ニ於テハ明治十四年十二月十二

日茨城縣警察署ニ於テナシタル口供ヲ翻異シ融通使用ヲ許シ預リタル公債証書ナリシ旨  
 陳辨スト雖モ原裁判所ニ於テハ各證人ノ陳述被害者ノ告訴及公債証書預リ證等ニ因リ前  
 供ニ照シ事實ヲ認定シタル者ニシテ其認定ニ付不法トナス廉アルコトナシト雖モ其刑ノ適  
 用ニ至リ新舊法比照ノ法方及ヒ證書ヲ偽造シ有合ノ印ヲ押捺シタル所爲ヲ偽造印ノ罪ト  
 私文書詐爲ノ二罪トナシタルハ不法ノ裁判ナリトス何トナレハ有合印ヲ押捺スルハ印ヲ  
 偽造スルト異レハナリ然ラハ則チ其確認セシ本案被告等兩名カ犯セシ罪ハ新法實施以前  
 ニ在ルヲ以テ刑法第三條第二項明治十四年第八十一號布告ニ照シ新舊ノ法ヲ比照スレハ  
 舊法ニ在テハ融通使用ヲ許サル依託品ヲ使用シタルハ雜犯律費用受寄財産條ニ該リ證  
 書ヲ詐爲シ有合ノ印ヲ押捺シタルハ改定律例第二百四十六條ニ該リ詐爲ノ證書ヲ以テ金  
 員ヲ受取シタルハ賊盜律詐欺取財條ニ該リ右數罪俱發スルヲ以テ名例律二罪俱發以重論  
 條ニ照シ一ノ重キ詐欺取財條拾圓以上銀ハ懲役十年重道ハ陳告自首スルヲ以テ  
 改定律例第六十二條ニ依リ二等ヲ減シ懲役五年ノ刑ニ處スヘキ者トス新法ニ在テハ刑法  
 第三百九十五條同第二百十條同第三百九十條ニ該ルヘキ數罪俱發スルヲ以テ刑法第百條  
 ニ照シ一ノ重キ刑法第二百十條四月以上四年以下ノ重禁錮四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ  
 該ルヲ以テ輕キ新法ニ從ヒ處斷シ而シテ明治十四年第八十一號布告第六條第十條ニ照シ  
 罰金監視ヲ附加セサル者トス

第二條

野中重道カ犯罪ヲ自首シタルハ明治十四年三月二十八日ニシテ各被害者ノ告訴ノ起頭ハ

明治十四年三月二十二日ニアリテ自首ハ告訴ノ後ニ係ルヲ以テ則チ改定律例第六十二條  
人ノ官ニ告ントフルヲ知テ自首シタル者ト爲サ、ルヲ得ス然ラハ則チ本條ハ賍ノ徵ス可  
キト否トヲ論セス本罪ニ二等ヲ減スヘキ者トス然リ而シテ刑法第八十五條ハ罪ヲ犯シ事  
未ク發覺セサル前ニ於テ自首スル者ニ適用スヘキ正條ニシテ重道カ如キ告訴後ニ係ル自  
首ニ適用スヘキ者ニアラス然ルヲ原裁判所ニ於テノ裁判玆ニ出テサルハ不法ノ裁判ナリ  
トス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ明治十五年七月三日水戸輕罪裁判所ニ於テ野中重道外一名ニ言渡シタ  
ル裁判ヲ平翻スル左ノ如シ

兼 子 縁

刑法第二百十條同第三百九十條同第三百九十五條同第四百條ニ依リ

重禁錮三年六月

抵當トシテ渡シ置キタル公債証書第四百四國立銀行株券四枚及ヒ詐偽ノ証書ハ取上ケ公

債証書銀行株券ハ各持主ニ下附ス

野 中 重 道

刑法第三百十條同第三百九十條同第三百九十五條同第四百條ニ依リ

重禁錮二年十月

抵當トシテ渡シ置キタル公債証書第四百四國立銀行株券四枚及ヒ詐偽ノ証書ハ取上ケ公

債証書銀行株券ハ各持主ニ下附ス

第七十號

○判文(證書竊取ノ件)明治十五年八月二日上告  
明治十五年十二月廿七日判決

愛媛縣伊豫國下浮穴郡井門村士族

豊 島 直 侯

右直侯ニ對シ明治十五年七月十七日松山輕罪裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ言渡シタリ

其方儀他人ヲ教唆シテ証書ヲ竊取セシメタル覺無之旨申立ツルト雖モ古川六郎太ノ供述  
ニ因リ同人妻「ツチ」及ヒ和久脩等ノ上申書ヲ參照シ事實ヲ推測スレハ明治十四年十一月  
廿日曾テ汝外一人ヨリ宮脇信好ヘ差入レタル金七百三十五圓ノ借用證書ヲ和久脩カ汝ノ  
宅ニ持參シ座側ニ差置キアリタルヲ古川六郎太ヲ竊取セシメ之ヲ受領シ故ナシ該證  
書ヲ毀棄シタルモノト認定ス其所犯新法實施以前ニ係ルヲ以テ刑法第三條末項ニ依リ之  
ヲ舊法ニ照セハ其證書ヲ竊取セシメ之ヲ毀棄シタルハ改定律例第二百八十九條ニ依リ不  
應爲重ニ擬シ士族ナルヲ以テ明治十年第七十六号公布ニ依リ禁獄七十日ニ處スヘキモノ  
トナレリ又之ヲ新法ニ照セハ該證書タルヤ宮脇信好ノ權利義務ニ關スル證書ナルヲ以テ  
刑法第四百廿四條ニ依リ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處スヘキモノトナレリ因テ明治十  
四年第八十一号公布第三條第二項ニ依リ二月以上十月以下ノ禁獄ニ處スヘキ處尙ホ同布  
告第一條第十一ニ照シ二月十日ノ輕禁錮ニ處ス

但證書ハ宮脇信好ヘ還付ス

豊島直候ニ於テ右ノ裁判ヲ不當ナリトシ明治十五年七月廿日付ヲ以テ本院ニ差出シタル上告ノ要旨左ノ如シ

該證書ノ性質タル直候外一人壹金ノ關係アルニ非ラス仲買商古川六郎太ナル者賣事ノ爲メ買受タル家代金納方差支家主宮脇信好ヘ示談シ同人ノ好ミニハ直候直明引受ナラハ右家取崩賣買濟迄金納猶像可致趣ニテ直候等ヘ六郎太頼出ルニ付左アラハ當方ヘ儲成証書差入ヘシト申聞承知ノ上直明直候兩人ヘ好ミノ証書取受然ル上兩人名印ノ証書ニ認十四年十月切返シ來ル約定ニテ六郎太ヘ貸與ヘ六郎太ハ信好ヘ相納置其後右家賣捌ニ取掛ルト雖兎角埒明サル内右証書返却十月期限ニ迫レリ然ル處右家代之内百四拾圓余藏代賣拂金有之是ヲ納メタルヨリ証文金高差違チ生スルヲ以此度改メ抵當入六郎太一己ノ直キ証券ニ替度長與印ヲ受ントシ直候ハ長ナルユヘ宣告書ノ通り夫々持參セリ然ルニ自分病キニ付暫時席ヲ辭シ不在中六郎太証書ヲ竊取シタリトシ宮脇使和久ナル者告訴ニ及ヘリカクノ如キ成行ニテ現場景況直候ヘ更ニ承知セス然ルニ此初審取調頗ル苛酷毆杖難堪ヨリ六郎太實チ枉チ証書ヲ取逃シ且此所爲タルヤ直候ノ教唆ニシテ自分ノ發意ニ非スト妻ツチ和久等ノ供述モ零伯仲ダリシ由此申立チ以テ直候カ竊ニ取ラヤタルモノトシ且故ナク該証書ヲ毀棄シタルトス該証書タル前述ノ如ク十月切六郎太ヨリ返シ來ルヘキ約定ニテ口述ノミニアララス消印致吳ヘクノ書面チ差出セリ何チ以故ナシトスルヤ會テ自分并ニ外豊人ヨリ宮脇ヘ差入レタル借用証書トアレハ宮脇ヨリ半金ノ借用アルニ非ス此証書六郎太ヘ貸與ヘタル者ナレハ六郎太ヨリ返シ來ルニ受領ス豈何ノ妨アル証書ヲ竊取

シタリト六郎太ヨリ申出ルモ彼レハ壓制ニ抑ヘラレ實チ枉チ且直候ヘ罪ヲ歸セントスル故意モアリ何ノ証跡アリテ採用アルヤ直候素ヨリ竊ニ取セタルニアラス其理由チ一々上申書ニテ陳述セリ豫審公判御取調ニ於ル本職ヨリ尋問スル丈答辨スヘシ余ハ陳述スヘカラスト如此ナレハ事實詳細取調ラレタルニ非古川六郎太ノ供述同人妻ツチ及和久脩等ノ上申書ニ參照シ事實ヲ推測スル云々ト推測想像ヲ以テ刑ヲ定ムルハ無辜冤枉天下ニ滿ントス頗ル不當ノ裁判トス

六郎太該証ヲ取逃タル直候ノ教唆スルカ六郎太發意取逃タル歟ノ決該刑ノ大綱要点タリ直候教唆シタルノ証何レニアリヤ六郎太自分發意取逃セサルノ証何レニアリヤ六郎太ハ該証書直明直候ヘ万々無相違返却スヘキ通ルヘカラサル義務アツテ日夜苦心セシモノダリ直候直明ニ於ル自分名前ノ証書ヲ六郎太ヘ貸付六郎太期限ヲ過コセシユヘ精々督促ハセシト雖宮脇ヨリハ直接ニ催促ヲ受シヨナシ然ルニ右危嶮ノ教唆チスヘキ理由アルヘキ譯ナシ此一點ヲ以テモ不當ノ裁判ヲ証スルニ足レリ

本月十二日六郎太公判申渡ノ節前述ノ如ク分署ノ抑壓ヨリ無據事實相違セシ廉供述變更セシニ終ニ無罪申渡相成タリ尤宣告全文暗記シカタクキ以十四日出頭寫取テ願ヒシニ大ニ違アリテ直候ノ教唆ヨリ云々ノ文有之ニ付上告届差出スニ無罪ニテ上告セシ例餘リ無之却テ罪ヲ得ル様ノ儀モ斗リ難ク能々思考シ上告ニ及ヘシトテ受理セス然レハ本日ニテ三日ノ日切タリト申立ルニ明後日ニ至ルモ上告差支ナシ篤ト相考上告スヘシト沙汰アリシヨシ聞及ヘリ是又直候カ冤チ証スルニ足レリ

諸証據物并ニ証人等モ數々有之ト雖是迄徹サレタルコトナシ右夫々御徴閱アリタシ

辨明

上告ニ付原裁判書類ヲ密按スルニ直候カ被告事實ハ原裁判言渡書ニ説示スル如ク現場ニアリテ其狀況ヲ實見セシ被害者宮脇信好ノ使ヒ和久脩ノ告訴及ヒ申立書古川六郎太ノ供述同人妻「ツチ」ノ申立書ニ據リ明治十四年十一月廿日金七百三拾五圓ノ借用証書ヲ脩ノ坐側ニ差置キタルヲ六郎太ヲシテ竊取セシメ其証書ヲ毀棄シタル罪アルモノナリト認定セシハ允當ニシテ毫モ不法ト見ルヘキナシ然ルニ直候ハ之ニ不服ヲ唱ヘ苛酷ノ嚴杖ニ堪ヘ難キヨリ六郎太カ實ヲ枉ケ直候ノ不利益ヲ申立タリト云ヒ六郎太ハ直候ニ罪ヲ歸セシメントスル故意アリ又ハ該証書タル直候外一人ヨリ差入タル借用證トアルモ其實一金ノ借リアルニアラス六郎太ハ名義貸與ヘタル筋ニテ六郎太ヨリ証書返戻セシ上ハ之ヲ毀棄スル妨ケナキト申立ルト雖モ之ヲ証スル反証アルニアラス六郎太カ竊取シタル証書ハ現ニ直候カ負擔セシ義務アルノミナラス六郎太カ竊取セシ同夜同人妻ヨリ入手セシモノナレハ其場ニ在ル被害者使ヒ脩ナル者ヘ六郎太ノ竊取シタル証書取戻シタリト其顛末ヲ告ケ之カ不法ヲ謝スヘキハ一般ノ通理ナルニ一言ノ挨拶モナク直チニ毀棄シタルハ直候カ自己ノ義務ヲ脱カレン爲メノ策略ニ出テタルトノ推測ハ免カレ得可ラサルモノナリ因テ上告ノ趣旨相立タス然リト雖モ原裁判所ハ新舊法ノ比照ニ因リ刑法第四百二十四條ヲ適用セシモノナレハ法文ノ如ク重禁錮ト言渡スヘキニ明治十四年第八十一號布告第一條第十一項ニ依リ輕禁錮ト法文ニ明記ナキ刑名ヲ冠ラセタルハ不法ト云サルコト得ス何ントナ

レハ明治十四年第八十一號布告第一條ハ法ヲ比照スル照準ヲ示シタルモノニテ必ス之レニ由テ刑名ヲ換ヘ處斷スヘキト示シタルニアラサレハナリ

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十五年七月十七日松山輕罪裁判所ニ於テ豐島直候ニ言渡タル裁判ヲ平翻スル左ノ如シ

豐島直候

前ニ辨明スル如クナルヲ以テ刑法第四百二十四條ニ依リ

重禁錮二月五日

但證書ハ宮脇信好ヘ還付ス

第七十一號

○判文(私印偽造ノ件)

明治十五年八月十八日上告  
明治十五年十二月廿七日判決

福井縣越前國足羽郡松ヶ枝上町

平民

野阪金六

年齢不詳

明治十五年九月廿七日福井輕罪裁判所ニ於テ右野阪金六左ノ裁判ヲ言渡シタリ

其方儀囊ニ舊金澤裁判所福井支廳糺問掛リニ爲シタル口供反異スルト雖モ曾テ竹下又兵衛ニ賣渡シタル田地ヲ取戻シ爲メ竹田谷嘉太郎ヲシテ又兵衛ノ實印ヲ偽造セシメ又兵衛ヨリノ返リ証書ヲ詐爲セシメ嘉太郎ノ自首狀又兵衛ノ口供ニ因リ証據充分ナリ然ルニ右

所犯刑法實施前ニ在ルヲ以テ刑法第三條第二項及ヒ明治十四年第八十一號公布ニ照シ新舊ノ法ヲ比照スルニ新律綱領偽造私印條凡私印ヲ偽造スル者ハ懲役一百日云々改定律例第二百四十六條凡私ノ文書ヲ詐爲スル者ハ情ヲ量リ不應爲ニ問ヒ輕重ヲ分ツ刑法第二百八條他人ノ私印ヲ偽造シテ使用シタル者ハ六月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス同第二百十條賣買貸借贈遺交換其他權利義務ニ關スル証書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

右各條ニ照シ舊法ノ輕キニ從ヒ一ノ重キ偽造私印條ニ問ヒ懲役百日ニ可處處彙ニ逃走ノ囚徒藏匿ノ罪ニ依リ輕禁錮三十日ニ處セラレタルニ付刑法第一百二條ニ依リ前發ノ刑ヲ以テ後發ノ刑ニ通算シ懲役七十日ニ處ス

野阪金六ニ於テハ右裁判ヲ不法ナリトシ明治十五年九月廿八日上告申立ヲ爲シ同年十月五日附ヲ以テ本院ニ差出シタル上告ノ旨趣左ノ如シ

右野阪金六奉上申候上告ノ原由ハ過ル明治十一年一月八日吉田郡開發村竹下又兵衛エ自分持高貳拾貳石七斗五升三合六夕ヲ拾石ニ付金貳百五拾圓ツ、ニ賣渡シ四ヶ年間ハ何時ニテモ元金ヲ以テ買戻シテスルノ約定ヲ爲シ第一號ノ通リ証書ヲ受取置キ就テハ明治十二年竹下又兵衛へ受戻シ方掛合ヲ遂ケ第二號第三號再約定證ヲ受取リタリ然ルニ右高受取返リ證ヲ以テ舊高拾石ニ付代金三百四拾圓ツ、ニ増田文助へ譲リ渡シノ約定ヲナシ手附金トシ金百圓受取リ第四號約定ヲ取リ第六號證ヲ以テ竹下又兵衛ヨリ受取置ク返リ證

四通チ文助へ渡シ置タリ然ルニ其返リ證ヲ以テ文助竹下又兵衛ニ掛リ高ノ受戻シ方本人タル自分ヲ指置キ同人共ニテ示談ヲ遂ケ高賣買ノ契約ヲ取極メ自分金圓ニ指支タルチ付込ニ文助ト又兵衛ト直接ニ取引ノ約ヲ爲シタルハ自分ノ返リ證ニ關係無之等ニ付竹下又兵衛へ約定ノ通り高ノ受戻シ方掛合ニ及フ處返リ證引換ノ旨申立ルニ付兼テ文助へ手付金受取リノ節本紙又兵衛ノ返リ證ハ文助へ渡シ置タルニ付高ノ返リ證ヲ以テ又兵衛へ掛合致度旨申入候處高ノ返リ證ハ落失致シタル旨申立タリ然ル上ハ到底高ヲ取戻スノ權利ハ無之然レハ此上我商法及一家活計ノ自途ヲ失シナゲカワ敷義ト存セシヨリ惡心ヲ生シ返リ證ヲ偽造セント謀リシモ其實元ハ真正ノ返證アリシモ文助カ紛失セシモ又兵衛へ掛合ノ上高受戻シノ再約ヲナシタルモノナレハ罪モアル間敷ト存シ竹田谷嘉太郎へ偽造印ヲ注文シ既ニ出來セシチ披見仕處真正ノ返リ證紛失セシニモセヨ偽印ヲ以テ事ヲナスハ不當ノ所業ナリト心附キ悔悟心ノ生セシヨリ直ニ竹田谷嘉太郎カ面前ニ於テ右印形四ツ割ニ致シ同人カ前ナル川へ投入シ私用不致然ハ未タ返リ證ヲ用ヒス竹下又兵衛ノ損害トナリタル義ニモ無之又文助ト又兵衛トノ間ニ於テ相對示談ヲ以テ賣買シタル高ハ自分ノ高トモ相違致居リ又自分又兵衛ヨリ受取リタル真正ノ返リ證ハ文助落失致シタルカ又兵衛へ渡シ置タルヤハ其實際又兵衛ト文助トノ間ハ不存然レハ竹田谷嘉太郎へ偽造印彫刻ヲ頼ミタルモ嘉太郎明言ノ如ク偽造印ハ割捨テ用非サレハ罪ヲ謀ラントセシモ刑法第三條ニヨリ新舊刑法比照シテ輕キチ以テ處斷シ刑法第一百一條ニヨリ未遂犯トシ其刑ヲ受ヘキ限リニ非サルモノト存シ依テ私印偽造ノ刑ニ處シ輕禁錮一百日ニ處セラレシハ不服ニ



付無據上告仕候以上

辯明

上告事件ヲ審按スルニ原裁判所ニ於テ上告人ヲ以テ私印ヲ偽造シ證書ヲ詐爲セシ罪アリトシ刑ヲ言渡シタルニ竹田谷嘉太郎カ上告人ノ依頼ヲ受テ偽印ヲ彫刻セシトノ自首狀ト被害者竹下又兵衛カ陳述ニヨリ罪證明白ナルヲ以テナリ然ルニ上告人ハ偽印ヲ使用シタルニ非スト陳辯シ原裁判ノ破毀ヲ請願スト雖口頭ノ陳述ノミヲ以テ裁判官ノ確認シタル證憑ヲ消滅セシムルヲ得ス依テ上告ノ理由ナキ者ト判定ス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十五年九月廿七日福井輕罪裁判所ニ於テ野坂金六ニ言渡シタル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキニ因リ上告狀却下スルモノナリ

第七千七十二號

○判文(詐欺取財ノ件)明治十五年八月十八日上告  
明治十五年十二月廿七日判決

大分縣豊後國大分郡高松村平民

宇

野親和  
明治十五年七月  
二十九年十月月

明治十五年七月三十一日大分輕罪裁判所ニ於テ右親和ヘ左ノ裁判ヲ言渡シタル  
其方儀明治十二年二月中亡丸井與五郎外一名ノ發意ニ同シ借金證書二通ヲ偽造シ其一通ヲ以テ右田方策ヨリ金五百圓欺取シタル科刑法第三條ニ依リ新舊ノ法ヲ比照シ新法ノ輕

キニ從ヒ刑法第三百九十條ニ依リ重禁錮六月中付ル

但偽造證書ハ取上ル

宇野親和ニ於テハ右裁判ヲ不法ナリトシ明治十五年八月一日上告申立ヲ爲シ同日附テ以テ本院ニ差出シタル上告趣意書左ノ如シ

明治十五年七月三十一日大分輕罪裁判所ニ於テ重禁錮六月ノ言渡ヲ受タリ抑モ明治十二年二月中亡丸井與五郎等カ發意ニ同意シタルハ事情ノ如何ニ論ナク詐欺取財ノ從犯者タラサルヲ得サリシモ爾來被告ハ二様ノ實効アリテ法律上ノ全免ヲ得ヘキモノアリ第一ニ明治十二年十二月ノ頃ナリシ伯父小川左成ナル者ヘ頼ミテ債主右田氏ノ常ニ滞在アル同氏等貸金社ノ出店乃チ大分西新町米屋某方ヘ立出金五拾圓ヲ拂込ニ悔悟ノ實情ヲ申入レ爾後同氏ノ代理人深井年郎ナル者ヘ直接ヲ以テ該金員ハ余人ニ係ワラス拙者一身ニ引受辨償スヘキ旨ノ證書ヲ差入タリ既ニ主犯者病沒旁之カ辨償ノ法方ニ苦ミ親戚故舊ヘ乞フテ無尽搦ヲ組立中被告ハ別事ニテ入檻ナシタリ則被害者ニ首服シタル旨ハ明治十三年月日不詳大分縣警部梶原某ノ取調書ニ申立置タリ第二ニ被告ハ明治十三年一月ヨリ元熊本裁判所大分支廳糺問掛ヘ保釋願濟ニ出檻ナシテ日夜債主ヘノ辨償ニ從事シ或ハ無尽或ハ助勢大ニ親戚故友ノ力ヲ被リ漸シ集金相成タルニ付債主右田方策ヘ照會ニ及タル處同氏ヨリハ代理人深井年郎ヲ差向ラレ明治十五年二月十一日皆金ノ返辨ヲ遂ケタリキ則全贓ヲ償タル旨ハ本年四月五月ノ頃大分輕罪裁判所豫審掛判事補元岡某ノ取調書ニ申立置タリ尙原告ヨリモ全贓ノ償還ヲ受タリト同掛ヘ届出ニ相成タルヘシ右二様ノ實効第一被害者

ニ首服第二全贓償還之レハ是被告カ今回上告シテ原裁判ノ破毀ヲ求ル金城鎮壁トモ謂ツ  
 ヘシ然而原裁判ノ法官ハ右二様ノ實効ヲ不問ニ付タル乎又ハ無効視シタル乎被告ヲ未ダ  
 有罪者トシテ重禁錮六ヶ月申付タリ凡舊法ニ於テ贓罪ヲ犯シ被害者ニ首服シタルハ官ニ  
 自首スルト同シ其全贓ヲ償ナハ無罪ニ歸スヘキ被告ノ罪狀ヲシテ新舊ノ法ヲ比較シ却テ  
 新法ヲ輕トシタルハ擬律ノ錯誤尤モ甚シカラヌヤ被告予ハ舊犯者ニシテ爾來ノ實効ヲ以  
 テ舊法ニ依リ全免ヲ受ヘキ者也抑モ二様ノ實効ハ法官モ漫ニ無効視ス可ラズ證左アリ未  
 項請取寫ハ明治十五年二月十一日債主ヘ皆金ヲ拂入タル時ノ反證ニシテ其證ニシテ首服  
 ノ口皆金受取濟ノ明文アリ此正本ハ豫審掛判事補充岡某ノ篤ト見得セシモノニシテ公判  
 廷ニテモ一度差出タリ被告今尙之ヲ保持セリ如斯理由アルヲ以テ原裁判ヲ不當トシ上告  
 候間急キ至當ノ御處置奉待候也

(證據物寫畧ス)

辨明

上告人ニ於テハ丸井與五郎等カ發意ニ從ヒタレハ事情ノ如何ニ論ナク詐欺取財タルハ免  
 レ得可カラサルモ贓金ハ自分一身ニ引受ケ其後追々償還シ且其前債主右田氏ノ常ニ滯在  
 アル貸金社ハ五十圓ノ拂ヒ込ニ悔悟ノ實情ヲ申入レ置キタレハ被害者ニ首服シタルト同  
 様無罪ノ處分ヲ受クヘキ筈ナリト申立ルト雖モ右田方策深井年郎ノ告訴狀中其他首服セ  
 シモノナリト見ルヘキ證左ナキヲ以テ原裁判所カ前記宣告ノ如ク所斷セシハ敢テ不當ト  
 云フヲ得サルモノトス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十五年七月三十一日大分輕罪裁判所ニ於テ宇野親和ニ言渡タル裁  
 判ハ破毀スヘキ理由ナキニ因リ上告狀却下スル者也

第七十三號

○判文(詐欺取財ノ件)明治十五年八月廿九日上告  
 明治十五年十二月廿七日判決

東京府本所區表町廿六番地居  
 住同區松倉町二丁目百十三番  
 地平民

池谷光容  
 明治十五年八月  
 四十二年十一月

明治十五年八月十九日東京輕罪裁判所ニ於テ右池谷光容ニ對シ左ノ裁判ヲ言渡タリ

被告人池谷光容ニ於テ明治十四年十月十五日陶器賣捌ヲ名トシ石川縣士族阿部碧海ヲ欺  
 キ九谷燒陶器百三拾三口ヲ詐取シタル事實ハ明治十四年十月十三日初メテ陶器賣捌ノ定  
 約取結ノ際身元儘カナル証人ヲ以テセサレハ其信用ヲ得難クト思惟シ且碧海ニ於テモ身  
 代儘カナル証人ヲ要スル旨申聞ケタル迎其定約証書ニ証人トシテ自儘ニ京橋區銀坐壹丁  
 目一番地元良惣左衛門ノ名義ヲ記入シ又其手代ナリトテ染居半次郎ノ空名ヲ書シ有合印  
 ナ押捺シ剩ヘ住所姓知ラサル政次郎ナル者ヲ染居半次郎ト詐稱セシメ荷物ヲ受取タル等  
 ニテ其証憑充分ナリトス而シテ被告ハ右始末ハ明治十四年十一月四日ヲ以テ自ラ首出ニ及

七既ニ明治十四年十二月七日舊東京裁判所ニ於テ免罪ノ言渡ヲ受ケ其裁判確定シタル上ハ最早關係ナキ旨申立ルト雖モ明治十四年十二月七日舊東京裁判所ニ於テ申渡シタル裁判ハ私文書ヲ詐爲シタルノ一点ニ止リ其詐欺取財ノ廉ニ及ハサルハ當時ノ裁判言渡書ニ徴シ明瞭ナリ然レモ被告カ明治十四年十一月四日ヲ以テ提供シタル自首狀ヲ閱スルニ明カニ詐欺取財ノ真情ヲ吐露セサルモ既ニ其事跡手續ヲ申立アルヲ以テ仍ホ自首トシ論ス可キ者トス依テ之ヲ法律ニ照スニ新法實施前ノ犯罪ナルヲ以テ刑法第三條第二項ニ基キ新舊ノ二法ヲ比照スルニ舊法ニ於テハ賊盜律詐欺取財條ニ據リ竊盜ニ準シテ論シ賍金百二十圓以上懲役十年ノ處自首シテ賊盜ニ可ラサルヲ以テ名例律犯罪自首條ニ照シ本罪ニ二等ヲ減シ懲役五年ニ該ス新法ニ於テハ刑法第三百九十條ニ據リ二月以上四年以下ノ重禁錮四圓以上四拾圓以下ノ罰金ヲ附加スヘキノ處自首スルヲ以テ第八十五條ニ照シ本刑ニ一等ヲ減シ一月十五日以上三年以下ノ重禁錮三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ該當スルヲ以テ其輕キ新法ニ從ヒ尙明治十四年第八十一号公布新舊法比照例ニ照シ單ニ重禁錮一年ニ處スル者也

池谷光容ニ於テ右裁判ヲ不法ナリトシ明治十五年八月廿六日付ヲ以テ本院へ差出シタル上告狀ノ趣意左ノ如シ

右池谷光容奉上古要領ハ東京輕罪裁判所ニ於テ與ヘラレタル判決ハ審理ノ盡サ、ルト律案ノ錯誤トニアリ依テ其理由ヲ左ニ開陳ス

犯罪ノ事實

一明治十四年十月中石川縣土族阿部碧海ト上告人トノ間ニ丸谷燒陶器賣捌所ヲ東京府下中ニ設立セシメテ約シ場所ヲ淺草馬道町ニ定メタリ而シテ上告人ヨリ碧海へ交付ナスヘキ契約書ニ立テヘキ相當ノ保證ナシ然レモ陶器類百三十三口ハ既ニ受ケ取タル后チナレハ空シク破約ナスニ忍ヒス京橋區銀座壹丁目壹番地元良惣左衛門ヲ保證人ノ姿ニ取替ヘ證書ヲ調製シ碧海へ交付セリ就テハ該約定交換書ノ明文ニ基キ嚮ニ領収スル物件價額ノ三割ヲ内金トシ交付スヘキモ金調成リ難ク不得已チ該物件ノ内廿七箇ヲ銀坐四丁目十三番地羽田松三郎へ假ニ抵當トシ借用スル金圓ハ其儘阿部碧海へ交付セリ是ヨリ先キ伊東平左衛門小磯六兵衛ナル者上告人へ對シ金圓貸附スヘキ旨申越シタルニ付困難ノ折柄幸ノ義ト思惟シ且碧海ニモ事實ヲ示シ直接面會セシメ只管金調ヲ依頼セシモ遂ニ實効ヲ奏セズ茲ニ於テ乎上告人カ商業ノ目的ハ全ク消散セシノミナラス其行爲現ニ人ヲ欺罔セシ姿ニ立至リ恐懼ニ堪エス明治十四年十一月四日ヲ以テ舊東京裁判所檢事局ニ詐欺取財ノ自首ヲナシタリ然リ而ルニ翌十一月五日上告人カ不在ニ乘シ小磯六兵衛伊東六左衛門ノ二名突然來訪且警察署ノ命令ナリト詐稱シ店頭ニ備エ措陶器數十品ヲ拐帶セリ依テ上告人歸宅ノ上直チニ田町警察署ニ告訴ニ及ヒタルニ付同人等モ召喚セラレ尋問ノ上持去リタル陶器類ハ更ニ同人等ニ保管ヲ命セラレ且受書ヲ徵セラレタリ而ルニ伊東小磯ノ三名ハ該署ヨリ歸宿後遁逃セシニ付從テ物件モ煙滅シ遂ニ所在ヲ失却セリ之ニ由テ上告人ハ現存スル陶器數品ト伊東小磯カ拐帶スル物件ヲ代價ニ直シ更ニ借用金證文ニ改メ悉皆阿部碧海ニ交付セリ爲メニ上告人ハ本件ニ付一毫モ私用セシメ之ナキナリ

論辨

一上告人カ明治十四年十一月四日舊東京裁判所ニ進呈セシ自首狀ニハ冒頭ニ詐欺取財ノ自首ト筆記シテ其供述ニハ詐欺ノ手段タル文書詐欺ノ事柄ヲ明コセリ何トナレハ詐欺ヲ爲サントスルモノニシテ必ヤ手段ナル可カラズ手段ノ正ト不正トニ由ツテ法律上民刑ノ別アルモノト思料ス今ヤ上告人カ陶器賣買事項ハ實心否カラサリシモ行爲上詐欺ノ姿ニ立至レリ故ニ自首スルニ當リ冒頭ニ詐欺取財ヲ公言シ尋テ之レカ手段ヲ陳申セシモノナリ然ルニ舊東京裁判所ハ自首ノ目的タル詐欺取財ヲ判定セス反テ其枝葉タル私文書詐爲ノ一點ヲ所分セラレタリ是ハ之レ上告人カ故ラニ犯罪ヲ掩蔽シ以テ所分ヲ免レタルニ非ラサレハ當時ニアツテ判官及檢事ニ於テ如何ナル錯誤アルモ上告人ノ關スル所ニアラスシテ獨リ利益ヲ得タル者ナリ然リ而シテ這回東京輕罪裁判所ノ宣告文ニ曰(明治十四年十一月四日ヲ以テ提供シタル自首狀ヲ閱スルニ明カニ詐欺取財ノ眞情ヲ吐露セサルモ既ニ其事跡手續ヲ申立アルヲ以テ仍ホ自首ト論スヘキ者ト云々)トアリ此裁判タルヤ自我撞着ノ判旨ト言ハサルヘカラス何トナレハ前言スル如ク冒頭ニ詐欺取財ノ自首ト記シ而シテ之レカ手續ヲ申立テタルハ詐欺取財ノ自首ニアラスシテ何ヤ然ラハ則チ該自首ニ起因スル明治十四年十二月七日舊東京裁判所ニ於テ與エラレタル裁判ハ本件ト同一ノ事件タルハ明ラカナリ故ニ上告人ハ確定ノ裁判ヲ經タル事柄ニ付即チ治罪法第九條第三項ニ據リ期滿免除ヲ得タルモノナレハ再度裁判ヲ受クル理由ナキ旨ヲ主張スル所以ナリ

一前項開陳スル理由ニ付治罪法第九條第三項ニ依リ期滿免除ヲ得タルモノト思料ス然レモ須臾假リニ東京輕罪裁判所ノ判決ノ如ク前裁判ハ單ニ私文書詐爲ニ止リ詐欺取財ノ廉ニ及ハサルモノトスルモ犯罪ノ物件タル陶器類ハ悉皆被害者阿部碧海ニ還付シ而シテ尙不足分ハ代價ニ積リ借用金証文ニ變換セシ上ハ贓物返還義務ハ上告人ニ於テハ結了セシ者ナリ加之審訊中之レカ証憑ヲ提出セシノミナラス被害者阿部碧海ノ代理伊藤莊太郎ヨリモ贓物受取タル事實ハ陳申セシモノト信認セリ然ルチ東京輕罪裁判所ニ於テハ自首シテ贓物受取タルモノトシ舊法ニ在テハ本罪ニ二等減シ新法ニ於テハ單一等ヲ減セラレタルハ審理不盡且律按ノ錯誤モ亦甚シト言ヘシ要スルニ上告人ハ舊法ニ於テハ自首シテ贓物返還スルヲ以テ免罪セラレ新法ニアツテハ第八十六條ニ依リ通計三等減タルヘシ是ニ由テ東京輕罪裁判所ノ判決ヲ不當トシ上告仕候條原裁判ヲ破棄セラレノチ希望ス

辯明

上告ノ要旨ハ上告人ハ曩ニ東京裁判所ニ於テ自首免罪ノ處分ヲ受ケタル者ナレハ本件ニ關係ナキ者ナリ又前裁判ハ文書詐爲ノ罪ニ止マリ詐欺取財ノ罪ニ及ハサルモノト假定スルモ詐爲セシ物品ハ已ニ被害者ニ返還シ其不足ノ分ハ代價ニ積リ借用證文ニ變換セシ上ハ贓物ヲ償還シタル者ナルニ原裁判所カ自首シテ贓物受取タル者ト判決セラレタル不當ナリト云フニ在ルモ東京裁判所ニ於テ首免ヲ與ヘタルハ文書詐爲ノ一點ニ止マリタル者ニシテ原裁判言渡書ニ明示スル如ク詐欺取財ノ罪ヲ併ヒテ全免セシ者ト爲スト得ス其贓物ヲ還給セシハ犯罪發覺ノ後ニ係ル者ナレハ之ヲ以テ贓物ノ全部ヲ返還シタリト

爲スヲ得ス故ニ原裁判相當ニシテ上告ノ理由ナシト判定ス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十五年八月十九日東京輕罪裁判所ニ於テ池谷光容ニ言渡シタル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキニ因リ上告狀却下スルモノナリ  
第千七十四號

○判文(持兇器強盜ノ件)明治十五年九月四日上告  
明治十五年十二月廿七日判決

京都府下京區第廿二組上田町小

原重助方附籍平民

山

田藤七

明治十五年八月

三十三年一月

右藤七ニ對シ明治十五年八月廿七日大阪輕罪裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ言渡シタリ

其方儀明治十二年二月十八日夜持兇器強盜ヲ行ハント京都府上京區笹屋町貳丁目南治郎兵衛方ニ押入同人二男庄次郎ヲ刃殺スル科刑法第三百八十條ニ依リ死刑事犯新法施行前ニアルヲ以テ舊法ニ照シハ改正強盜律ニ擬シ斬刑ニ該ルヲ以テ刑法第三條第二項ニ依リ新舊法ヲ比照シ輕キ新法ニ從ヒ死刑ノ處事未ダ發覺セズシテ自首スルヲ以テ刑法第八十五條ニ照シ本刑ニ一等ヲ減シ無期徒刑ニ處ス

但明治十二年三月七日夜以來寺東榮藏外數名ト兇器ヲ携ヘ西川半右衛門方外ニケ所ニ押入金品強奪スルノミナラス半右衛門方雇女「キノ」ヲ強姦シ又明治十二年十二月以來

石井鐵之助方外數十ヶ所ニテ身分氏名ヲ詐稱スルノミナラス詐欺シテ金品ヲ得タルモ強盜罪ハ自首スルヲ以テ刑法第三百七十八條第三百七十九條第三百八十一條第八十五條及ヒ第三百九十條第三百九十四條ニ依リ處斷スヘキモノトシ之ヲ舊法ニ照セハ犯罪自首律改正強盜律詐稱官律詐欺取財律贓金百貳拾圓以上ニ依リ處斷スヘキ處數罪俱發ニ係ルヲ以テ刑法第百條及ヒ舊法二罪俱發例ニ照シ輕キヲ以テ論セズ且盜贓倍償ノ爲メ資力限り追徴ス

山田藤七ニ於テハ右ノ裁判ヲ不當ナリトシ明治十五年八月廿四日附テ以テ本院ニ差出シタル上告ノ要旨左ノ如シ

一自分儀明治七年二月四日奈良縣裁判所ニ於テ詐欺取財ノ律ニ依リ懲役十年ノ御宣告ヲ受ケ該縣懲役場ニ於テ使役中明治八年四月四日一等ヲ減セラレ七年ニ相成居候處明治九年十一月該縣ヲ廢止ラレ堺縣ニ合縣ニ付堺縣懲役場ニ御送致相成候該場ニテ使役中明治十二年二月十二日ニ該縣懲役場ヲ逃走シ同年同月十五日大阪府下西區川口ニ於テ堺懲役場詰守卒山口市藏殿ニ捕縛セラレ堺縣未決監ニ御送付ニ相成明治十二年四月頃日不覺堺裁判所ニ於テ更ニ棒鎖二日ト懲役七年ト百日ノ御宣告ヲ受ケ堺懲役場ニテ使役中明治十二年七月上旬頃該場ヲ逃走シ同年七月下旬日覺エス京都府下京區第六區警察出張署へ自首シ同十二年十一月十三日堺裁判所ニ於テ新ニ懲役七年ト百日ニ處ス可キ處七十有餘年相成ル老母有之ニ付棒鎖三日贖罪金貳拾壹圓七拾四錢ノ御言渡ニ相成然ルニ大阪輕罪裁判所ノ御言渡シ判文ニ明治十二年二月十八日夜京都府上京區笹屋町南治郎兵衛方

エ強盜ニ立越ト御記載之レアルト雖モ自分ニ於テハ堺未決監ニ在監中ニ付毛頭覺エ是ナ  
ク且明治十二年三月七日夜以來自分ト寺東榮藏外數名ト兇器ヲ携ヘ西川半右衛門方エ強  
盜ニ立越候趣キ御記載之レアレモ全ク是レハ明治十三年三月七日ニ相違是ナク候余ニ數  
ケ所エ立越候ト御判文ニ有之ト雖モ自分ニ於テハ西川半右衛門ヘ立越候外更ニ覺ヘ是レ  
ナク候前顯之通入監中ノ犯罪ノ判文又ハ大阪輕罪裁判所ニ於テハ只一度御調ニ相成候而  
已ニテ拇印モ御取不被成突然御裁決御言渡ニ相成候ハ第一ノ不服ニ付今一度事明瞭ノ御  
裁審被成下度只管奉歎願候也

辯明

上告ニ依リ原裁判書類ヲ審接スルニ山田藤七ガ被告事件タル明治十二年二月十八日夜京  
都府上京區笹屋町平民南治郎兵衛方エ押入リ強盜ヲ爲サントスル節同人二男南庄次郎ガ  
口口ニ立出タルヲ携ヘシ刀ヲ以テ切り付ケ即夜死ニ致シ又ク寺東榮藏外數名ト共ニ明治  
十三年三月七日同月九日同月十一日西川半右衛門方外二ケ所ニ押入金圓物品ヲ強奪スル  
ノミナラス半右衛門方ヘ押入リシ節同家雇女木村「キノ」ヲ強姦シ又タ明治十二年十二月  
以來石井鐵之助方外數十ケ所ニテ身分氏名ヲ詐稱シ金圓物品ヲ騙取セシハ明治十三年六  
月十四日同年七月八日同年八月十七八兩日同年十一月廿三日明治十四年二月十日迄被告  
數度ノ白狀共犯人瀬尾友吉寺東榮藏ノ供述相當官吏ノ報告書醫師ノ鑑定書及ヒ各被害者  
ノ手續書等ニ依リ數箇ノ罪證據フヘカラサルニ被告ハ明治十二年二月十二日堺縣懲役場  
逃走シ同月十五日大阪府西區川口ニ於テ堺縣懲役場詰守卒山口市藏ニ捕縛セラレ該場未

決監エ送致相成リタルヲ以テ同月十八日即チ明治十二年二月十八日夜南治郎兵衛方ヘ強  
盜ニ押入リシ覺ヘ之レナク又明治十二年三月七日以來寺東榮藏外數名ト西川半右衛門方  
外二ケ所ヘ兇器ヲ携ヘ押入リ金品強奪云々ト記載アルモ明治十三年三月七日夜西川半右  
衛門方一ケ所ノ外他ニテ強盜又ハ餘罪ヲ犯シタル覺ヘ之レナキ旨ニテ不服ヲ申立ルモ原  
裁判言渡ニ明治十二年ノ二ノ字ハ三ノ字ノ誤寫セル迄ニテ上告ノ旨趣ヲ確ムル一ツノ反  
證ナケレハ之ヲ採用スルニ由ナシト然シテ明治十二年二月十八日夜南治郎兵衛方ヘ押  
入リタル節同人二男南庄次郎ガ被告ニ對シ侵入ヲ防止セント欲スルニヨリ携フル處ノ刀  
ヲ以テ同人ヲ殺死セシ平將被告ガ山本某ト唱ヘシヨリ庄次郎ガ口口迄立出タルヲ以テ盜  
業ヲ遂ケンカ爲直チニ殺死セシモノナル乎否ヲ審究シ然シテ新舊法ヲ比照シ首スルモ  
刑法第八十五條但書ニ據ル可ラサルノ證左アルニアラサレハ輒スル減等ヲ言渡ス可ク得  
ザルモノナルニ原裁判ノ玆ニ出テザルハ審理ヲ盡ササル不當ノ裁判ナリトス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ明治十五年八月十七日大坂輕罪裁判所ニ於テ言渡シタル裁判ヲ破毀シ  
三重輕罪裁判所ニ移シ審判ス可キ旨ヲ達シタルニ付山田藤七ニ於テハ同裁判所ノ審判ヲ受  
ク可シ

第七十五號

○判文(詐欺取財ノ件)明治十五年十月三日上告  
明治十五年十二月廿七日判決

岡山縣備中國賀陽郡高松村百二

十三番屋敷平民

秋山幸左衛門

明治十五年十一月

二十八年十一月

明治十五年九月十二日大坂輕罪裁判所ニ於テ右秋山幸左衛門ニ對シ左ノ裁判ヲ言渡シタリ  
其方儀明治十四年九月二十日神戸裁判所岡山支廳ニ於テ賊盜律詐欺取財條ニ依リ懲役五  
年ノ處斷ヲ受ケ不服ナリトシテ上告ノ末大審院ニ於テ該裁判ヲ破毀シ當廳ニ移サレタル  
ヲ以テ裁判スルコト左ノ如シ

明治十二年八月中秋山繁藏秋山與平次秋山喜代松連署内務省山林局ニ出願元稻荷村字龍  
王山下戻ヲ得タル延享三年寅三月十五日付稻荷村役人物百姓中宛小島六左衛門外二名  
連署ノ證書ハ寶曆九年度物成算用目錄及ヒ其方明治十五年七月二十日當廳ニ差出シタル  
辯論書第二條ニ掲ケタル例文ノ雛形其他參照ノ爲メ逐次ニ差出シタル古文書ヲ參照スル  
ニ其筆勢ノ拙キハ勿論文字ノ位地及ヒ紙質墨色等延享年度地頭ヨリ書下ケタル證書ト認  
メ難シ況ヤ該證ハ明治十二年二月中秋山喜代松方ニテ廢紙ノ中ヨリ不圖發見シ其後十四  
五日ヲ經テ村方惣代ノ者ヲ集會シ該證ヲ明示シ龍王山下戻出願一件議定セシ旨陳辯スト  
雖モ該證ハ元稻荷村人民ニ於テハ重大ノ權利ヲ有スル證書ナルヲ以テ村役人交代ノ際ハ  
必ス後任ノ者ニ引續キ鄭重ニ保存スヘキ書類ナルニ祖父以來村役ヲ勤メサル喜代松殊  
ニ亡父米次郎存命中八九年前賞受ケシ廢紙ノ中ヨリ發見スヘキ理由ナシ然リ而シテ村方  
惣代人ノ内秋山種太郎ハ右山林ニ關スル確證見聞セシ儀無之ト供述シ秋山鹿三郎ハ確証

ト稱スルハ即チ大繪圖ヲ指シタル者ニテ其他ニ證據書類承知セスト斷言セリ其他秋山仙  
右衛門外三名モ明治十四年七月中警察署ノ召喚ヲ受ケシ際始メテ該證發見セシ始末其方  
并ニ繁藏與平次ヨリ承知セシ旨供述ス以上掲ケル處ノ事實ニ據リ該證ハ其方發意ニテ秋  
山與平次外二名ト共謀詐爲シタルモノニシテ該證ヲ以テ明治十二年八月十二日内務省山  
林局ニ出願シ元稻荷村字龍王山下戻ヲ得タルハ即チ詐爲ノ文書ヲ以テ官ヲ欺キ其贓金  
三千百拾貳圓余ノ山林ヲ詐取セシ者ト認定ス右所爲刑法實施前ニ係ルヲ以テ同法第三條  
二項ニ依リ新舊法ヲ比照シ輕キニ從ヒ處分スヘキモノトス而シテ舊法ニ於テハ詐僞律詐  
爲官文書條及ヒ賊盜律詐欺取財條ニ依リ名例律二罪俱發以重論條ニ照ラシ一ノ重キ詐欺  
取財條ニ依リ其贓金百貳拾圓以上竊盜ニ準シテ論シ懲役十年ニ該ルモ所犯輕減スヘキ情  
ナキニ非ラサルヲ以テ明治七年第三百三十四號公布ニ依リ二等ヲ減シ懲役五年ニ該リ新法  
ニ於テハ刑法第二百三條及ヒ第三百九十九條ニ依リ第百條ニ照ラシ一ノ重キ第二百三條ヲ  
適用シ輕懲役ニ處スヘキ處所犯原諱スヘキ情狀アルヲ以テ同法第八十九條及ヒ第九十條  
ニ依リ一等ヲ減シ第六十九條ニ照ラシ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ第二百七條ニ照  
ラシ六月以上二年以下ノ監視ニ付スヘキ者トス因テ輕キ新法ニ從ヒ重禁錮三年申付ル監  
視ハ明治十四年第八十二號公布第十條ニ依リ之ヲ附加セズ  
但現在スル山林及ヒ詐爲ノ證書ハ取揚ル尙ホ伐木費消セシ財金賠償ノ爲メ資力限り退  
徴ス

秋山幸左衛門ニ於テ右裁判ヲ不當ナリトシ明治十五年九月十七日明治十五年十月十六日付

ナ以テ本院ニ差出シタル上告狀及ヒ追申書ノ要領左ノ如シ  
 延享三年寅三月十五日付テ以テ舊領主花房家ヨリ字龍王山ノ受領書ヲ下付シアルハ稻荷  
 村ノ共有山ヲ當時献山シタルニアリ其共有タル事ヲ表スヘキモノハ寛保三亥年七月七日  
 付徳川舊政府ヨリ龍王山々境實地臨檢ノ際下付セラレタル裁許繪圖裏書ニ於テ明確ナリ  
 且此他ノ古書類ニ照合スルモ受領証書ノ偽造ナラサル事ヲ証明スルニ足レリ然ルニ大坂  
 輕罪裁判所ハ該受領証中尤証憑トスヘキ小島六左衛門外二名カ印影ノ點ハ措テ問ハレ  
 其筆勢ノ拙劣文字ノ位置紙質墨色及ヒ保存方ノ不注意等ヲ掲ケテ延享度地頭ヨリ書下ケ  
 タル真正ノ證書ト認メ難シトシ又之レヲ証スルニ秋山種太郎外五名ノ偽言ヲ採用サレ  
 ニ上告人ハ秋山繁藏秋山與平次秋山喜代松ト謀リ該受領証書ヲ偽造シテ龍王山下ケ戻  
 シ願ヲ爲シ得タルモノト推測シ詐欺取財ノ罪ニ處セラレタルハ審理不盡ノ判定ナルニ付  
 之レヲ破毀シテ更ニ至當ノ裁判ヲ受ケ度ト云フニアリ

辯明

上告人秋山幸左衛門ハ明治十四年九月二十九日ナ以テ神戸裁判所岡山支廳ノ裁判ニ對シ  
 上告セシニ因リ本院ハ明治十五年五月十八日ナ以テ上告人カ文書詐爲ノ罪ハ原裁判所  
 於テ衆證ニ依リ事實ヲ認定シタルモノニシテ不當ト認ムヘキ點ナシトノ辯明ヲ與ヘタリ  
 然レ宣告書中ニ罪俱發ノ内詐欺取財ノ理由ヲ書記セサルナ以テ計贓ノ幾計及ヒ被害者ノ  
 何人ナルヤヲ知ルニ由ナケレハ又果シテ詐取シタルヤ否モ明晰ナラス故ニ此一部ヲ破毀  
 シテ更ニ大坂輕罪裁判所ノ裁判ヲ受ケシメタルニアリ依テ同裁判所ハ其事實ヲ訊問シ詐

取ノ情狀明瞭ナルナ以テ理由ヲ明示シ詐欺取財ノ刑ヲ適用セシモノナレハ同裁判所ニ於  
 テ言渡シタル裁判ハ毫モ不當ト認ムヘキ廉ナキニ因リ上告ノ理由ナキ者トス  
 但今般ノ上告趣意書及ヒ追申書ヲ審案フルニ前ニ神戸裁判所岡山支廳ノ裁判ニ不服上  
 告ノ趣旨ト同ク原裁判所カ尙其事實ヲ誤レリトテ反覆辯論スルモノニ止マレハ別ニ辯  
 明ヲ與ヘス

判決

右ノ如クナルナ以テ明治十五年九月十二日大坂輕罪裁判所ニ於テ秋山幸左衛門ニ言渡シタ  
 ル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキニ因リ上告狀却下スルモノナリ  
 第七千七十六號

○判文(詐財取財ノ件) 明治十五年十月三日上告  
 明治十五年十二月廿七日判決

岡山縣備中國賀陽郡高松村五十

四番屋敷平民

秋山與平次

明治十五年十一月  
 五十九年

明治十五年九月十二日大坂輕罪裁判所ニ於テ右秋山與平次ニ對シ左ノ裁判ヲ言渡シタリ  
 其方儀明治十四年九月廿日神戸裁判所岡山支廳ニ於テ賊盜律詐欺取財條ニ依リ懲役二年  
 半ノ處斷ヲ受ケ不服ナリトシテ上告ノ末大審院ニ於テ該裁判ヲ破毀シ當廳ヘ移サレタル  
 ナ以テ裁判スルノ左ノ如シ



明治十二年八月中秋山幸左衛門秋山繁藏秋山喜代松連署内務省山林局へ出願元稻荷村字龍王山下ケ戻シテ得タル延享三年寅三月十五日付稻荷村役人惣百姓宛小島六左衛門外二名連署ノ證書ハ寶曆九年度物成算用目錄及ヒ其方共明治十五年七月廿日當廳へ差出タル辯論書第二條ニ掲ケタル例文ノ雛形其他參照ノ爲メ逐次差出シタル古文書ニ參照スルニ其筆勢ノ拙キハ勿論文字ノ位地紙質墨色等延享年度地頭ヨリ書下ケタル證書ト認メ難シ况ヤ該證ハ明治十二年二月中秋山喜代松方ニテ廢紙ノ中ヨリ不圖發見シ其後四五日ヲ經テ村方總代ノ者ヲ集會シ該證ヲ明示シ龍王山下戻出願一件議定セシ旨陳辯スト雖モ該證ハ元稻荷村人民ニ於テハ重大ノ權利ヲ有スル證書ナルヲ以テ村役人交代ノ際ハ必ス後任ノ者へ引續キ鄭重ニ保存スヘキ書類ナルニ祖父以來村役ヲモ勤メサル喜代松殊ニ亡父米次郎存命中八九年前貰受ケシ廢紙ノ中ヨリ發見スヘキ理由ナシ然リ而シテ村方總代人ノ内秋山種太郎ハ右山林ニ關スル確證見聞セシ儀無之ト供述シ秋山鹿三郎ハ確證ト稱スルハ即チ大繪圖ヲ指シタル者ニテ其他秋山仙右衛門外三名モ明治十四年七月中警察署ノ召喚ヲ受ケシ際始メテ該證發見セシ始末其方并ニ幸左衛門繁藏等ヨリ承知セシ旨供述ス以上掲ケル處ノ事實ニ據リ該證ハ秋山幸左衛門發意ニ從ヒ秋山繁藏秋山喜代松等ト共謀詐爲シタルモノニシテ該證ヲ以テ明治十二年八月十二日内務省山林局へ出願シ元稻荷村字龍王山下ケ戻シ得タルハ即チ詐爲ノ文書ヲ以テ官ヲ欺キ其贓金三千百拾貳圓余ノ山林ヲ詐取セシ者ト認定ス右所爲刑法實施前ニ係ルヲ以テ全法第三條二項ニ依リ新舊法ヲ比照シ輕キニ從ヒ處分スヘキモノトス而シテ舊法ニ於テハ詐偽律詐爲官文書條及ヒ賊

盜律詐欺取財條ニ依リ名例律二罪俱發以重論條ニ照ラシ一ノ重キ詐欺取財條ニ依リ其贓金百廿圓以上竊盜ニ準シテ論シ懲役十年ノ處秋山幸左衛門ノ從トナシ名例律共犯罪分首從條ニ依リ一等ヲ減シ仍ホ輕減スヘキ情ナキニ非ラサルヲ以テ明治七年第三百三十四号公布ニ依リ三等ヲ減シ懲役二年半ニ該リ新法ニ於テハ刑法第三百三條及ヒ第三百九十九條ニ依リ第三百條ニ照ラシ一ノ重キ第三百三條ヲ適用シ輕懲役ニ處スヘキ處所犯原諱スヘキ情狀アルヲ以テ刑法第八十九條及ヒ第九十條ニ依リ一等ヲ減シ第六十九條ニ照ラシ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ第二百七條ニ照ラシ六月以上二年以下ノ監視ニ付スヘキ者トス因テ輕キ新法ニ從ヒ重禁錮二年三月申付ル監視ハ明治十四年第八十一号公布第十條ニ依リ之ヲ附加セス

但現在スル山林及ヒ詐爲ノ證書ハ取揚ル尙ホ伐木費消セシ贓金賠償ノ爲メ資力限追徴ス

秋山與平次ニ於テ右裁判ヲ不當ナリトシ明治十五年九月十七日明治十五年十月十六日付テ以テ本院ニ差出シタル上告狀及ヒ追申狀ノ要領左ノ如シ

延享三年寅三月十五日ヲ以テ警領主花房家ヨリ字龍王山ノ受領書ヲ下付シタルハ古來稻荷村ノ共有山ヲ當時獻山シタルニアリ其共有タル事ヲ表スヘキモノハ寬保三亥年七月七日付徳川舊政府ヨリ龍王山々境實地臨檢ノ際下付セラレタル裁許繪圖面裏書ニ於テ明確ナリ且此他ノ古書類ニ照合スルモ受領證書ノ偽造ナラサル事ヲ證明スルニ足レリ然ルニ大坂輕罪裁判所ハ該受領證中尤證憑トスヘキ小島六左衛門外二名印影ノ點ハ措テ問ハレ

其筆勢ノ拙劣文字ノ位置紙質墨色及ヒ保存方ノ不注意等ヲ掲ケテ延享度地頭ヨリ書下ケタル真正ノ證書ト認メ難シトス之レヲ證スルニ秋山種太郎外五名ノ偽言ヲ採用サレ遂ニ上告人ハ秋山幸左衛門秋山繁藏秋山與平次ト謀リ該受領證書ヲ偽造シテ龍王山下ケ戻シ願ヲ爲シ得タルモノト推測シ詐欺取財ノ罪ヲ科セラレタルハ審理不盡ノ判定ナルニ付之レヲ破毀シテ更ニ至當ノ裁判ヲ受ケ度ト云フニアリ

辯明

上告人秋山與平次ハ明治十四年九月二十九日ヲ以テ神戸裁判所岡山支廳ノ裁判ニ對シ上告セシニ因リ本院ハ明治十五年五月十八日ヲ以テ上告人カ文書詐爲ノ罪ハ原裁判所ニ於テ衆證ニ依リ事實ヲ認定シタルモノニシテ不當ト認ムヘキ點ナシト辯明ヲ與ヘタリ然レモ宣言書中ニ罪俱發ノ内詐欺取財ノ理由ヲ明記セサルヲ以テ計贓ノ幾許及ヒ被害者ノ何人ナルヤヲ知ルニ由ナケレハ又果シテ詐取シタルヤ否モ明晰ナラス故ニ此一部ヲ破毀シテ更ニ大坂輕罪裁判所ノ裁判ヲ受ケシメタルモノナリ依テ同裁判所ハ其事實ヲ訊問シ詐取ノ情狀明瞭ナルヲ以テ詐欺取財ノ刑ヲ適用セシモノナレハ其理由毫モ不當ト爲スヘキモノナシ然ルニ上告趣意書及ヒ追申書ノ趣旨ハ前ニ神戸裁判所岡山支廳ノ裁判ニ不服上告ノ趣旨ト同ク尙ホ其事實ヲ誤認セリトテ反覆再論スルモノニ止マレハ別ニ辨明ヲ與ヘス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十五年九月十二日大阪輕罪裁判所ニ於テ秋山與平治ニ言渡シタル

裁判ハ破毀スヘキ理由ナキニ因リ上告狀却下スルモノナリ

第七十七号

○判文(詐欺取財ノ件)明治十五年十月三日上告  
明治十五年十二月廿七日判決

岡山縣備中國賀陽郡高松村百四

十四番屋敷平民

秋山喜代松

明治十五年十一月  
四十五年

明治十五年九月十二日大阪輕罪裁判所ニ於テ右秋山喜代松ヘ對シ左ノ裁判ヲ言渡シタリ  
其方儀明治十四年九月廿日神戸裁判所岡山支廳ニ於テ賊盜律詐欺取財條ニ依リ懲役二年ノ處斷ヲ受ケ不服ナリトシテ上告ノ末大審院ニ於テ該裁判ヲ破毀シ當廳ヘ移サレタルヲ以テ裁判スルニ左ノ如シ

明治十二年八月中秋山幸左衛門秋山與平治秋山繁藏龍王山下戻ヲ得タル延享三年寅三月十五日付稻荷村役人惣百姓中宛小島六左衛門外二名連署ノ証書ハ寶曆九年度物成算用目錄及ヒ其方共明治十五年七月廿日當廳ヘ差出シタル辨論書第二條ニ掲ケタル例文ノ雛形其他參照ノ爲メ逐次差出シタル古文書ニ參照スルニ其筆勢ノ拙キハ勿論文字ノ位地紙質墨色等延享年度地頭ヨリ書下ケタル証書ト認メ難シ況ヤ該証ハ明治十二年二月中其方宅ニテ廢紙中ヨリ發見シ其后四五日ヲ經テ村方惣代ノ者ト集會シ該証ヲ明示シ龍王山下戻出願一件議定セシ旨陳辯スト雖モ該證ハ元稻荷村人民ニ於テハ重大ノ權利ヲ有スル證

書ナルヲ以テ村役人交代ノ際ハ必ス後任ノ者へ引續キ鄭重ニ保存スヘキ書類ナルニ祖父以來村役ヲモ勤メサル其方殊ニ亡父米次郎存命中八九年前實ヒ受ケシ廢紙ノ中ヨリ發見スヘキ理由ナシ然リ而シテ村方惣代人ノ内秋山種太郎ハ右山林ニ關スル確證見聞セシ議無之ト供述シ秋山鹿三郎ハ確證ト稱スルハ即チ大繪圖ヲ指シタル者ニテ其他ニ證據書類承知セスト斷言セリ其他秋山仙右衛門外三名モ明治十四年七月申警察署ノ召喚ヲ受ケシ際始メテ該證發見セシ始末幸左衛門與平次繁藏等ヨリ承知セシ旨供述ス以テ揭クル處ノ事實ニ據リ該證ハ秋山幸左衛門ノ發意ニ從ヒ秋山與平治秋山繁藏等ト共謀詐爲シタルモノニシテ該證ヲ以テ明治十二年八月十二日内務省山林局へ出願シ元稻荷村字龍王山下ケ戻シ得タルハ即チ詐爲ノ文書ヲ以テ官ヲ欺キ其贓金三千百拾二圓余ノ山林ヲ詐取セシ者ト認定ス右所爲刑法實施前ニ係ルヲ以テ同法第三條二項ニ依リ新舊法ヲ比照シ輕キニ從ヒ處分スヘキモノトス而シテ舊法ニ於テハ詐僞律詐爲官文書條及ヒ賊盜律詐欺取財條ニ依リ名例律二罪俱發以重論條ニ照シ一ノ輕キ詐欺取財條ニ依リ其贓金百二十圓以上竊盜ニ準シテ論シ懲役十年ノ處秋山幸左衛門ノ從ト爲シ名例律共犯罪分首從條ニ依リ一等ヲ減シ仍ホ輕減スヘキ情ナキニ非ラサルヲ以テ明治七年第三百三十四号公布ニ依リ三等ヲ減シ懲役二年半ニ該リ新法ニ於テハ刑法第二百三條及ヒ第三百九十九條ニ依リ第百條ニ照ラシ一ノ重キ第二百三條ヲ適用シ輕懲役ニ處スヘキ處所犯原諒スヘキ情狀アルヲ以テ同法第八十九條及ヒ第九十條ニ依リ一等ヲ減シ第六十九條ニ照ラシ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ第二百條ニ照ラシ六月以上二年以下ノ監視ニ付スヘキモノトス因テ輕キ新法ニ

從ヒ重禁錮二年申付ル監視ハ明治十四年第八十一号公布第十條ニ依リ之ヲ附加セズ但現在スル山林及ヒ詐爲ノ証書ハ取揚ル尙ホ伐木費消セシ贓金賠償ノ爲メ資力限退徴ス

秋山喜代松ニ於テ右裁判ヲ不當ナリトシ明治十五年九月十七日明治十五年十月十六日付テ本院ニ差出シタル上告狀及ヒ退申狀ノ要領左ノ如シ

延享三年寅三月十五日ヲ以テ舊領主花房家ヨリ字龍王山下ノ受領ヲ下付シアルハ古來稻荷村ノ共有山ヲ當時秋山シタルニアリ其共有タル事ヲ表スヘキモノハ寬保三亥年七月七日付徳川舊政府ヨリ龍王山下々境實地臨檢ノ際下付セラレタル裁許繪圖面裏書ニ於テ明確ナリ且此他ノ古書類ニ照合スルモ受領證書ノ偽造ナラサル事ヲ證明スルニ足レリ然ルニ大阪輕罪裁判所ハ該受領證中尤證據トスヘキ小島六左衛門外二名印影ノ點ハ指テ問ハレシ其筆勢ノ拙劣文字ノ位置紙質墨色及ヒ保存方ノ不注意等ヲ揭ケテ延享度地頭ヨリ書下ケタル真正ノ證書ト認メ難シトシ又之レヲ證スルニ秋山種太郎外五名ノ僞言ヲ採用サレ遂ニ上告人ハ秋山幸左衛門秋山繁藏秋山與平治ト謀リ該受領證書ヲ偽造シテ龍王山下ケ戻シ願ヲ爲シ得タルモノト推測シ詐欺取財ノ罪ヲ科セラレタルハ審理不盡ノ判定ナルニ付之レヲ破毀シテ更ニ至當ノ裁判ヲ受ケ度ト云フニアリ

辨明

上告人秋山喜代松ハ明治十四年九月二十九日ヲ以テ神戸裁判所岡山支廳ノ裁判ニ對シ上告セシニ因リ本院ハ明治十五年五月十八日ヲ以テ上告人カ文書詐爲ノ罪ハ原裁判所ニ於

テ衆証ニ依リ事實ヲ認定シタルモノニシテ不當ト認ムヘキ點ナシト辨明ヲ與ヘタリ然レ  
凡宣告書中ニ罪俱發ノ内詐欺取財ノ理由ヲ明記セサルヲ以テ計贓ノ幾許及ヒ被害者ノ何  
人ナルヤヲ知ルニ由ナケレハ又果シテ詐取シタルヤ否モ明晰ナラス故ニ此一部ヲ破毀シ  
テ更ニ大阪輕罪裁判所ノ裁判ヲ受ケシメタルモノナルニ因リ同裁判所ハ其事實ヲ訊問シ  
詐取ノ情狀明瞭ナルヲ以テ理由ヲ明示シ詐欺取財ノ刑ヲ適用セシモノナリ且今般ノ上告  
振意書及ヒ追申書ヲ審案スルニ前ニ神戸裁判所岡山支廳ノ裁判ニ不服上告ノ趣旨ト同ク  
尙ホ其事實ヲ誤認セリトテ反覆再論スルニ止マレハ別ニ辨明ヲ與ヘス依テ大阪輕罪裁判  
所ニ於テ言渡シタル裁判ハ不當ノ裁判ニアラストス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十五年九月十二日大坂輕罪裁判所ニ於テ秋山喜代松ニ言渡シタル  
裁判ハ破毀スヘキ理由ナキニ因リ上告書却下スルモノナリ

第七十八號

○判文(詐欺取財ノ件)明治十五年十月三日上告  
明治十五年十二月廿七日判決

岡山縣備中國賀陽郡高松村八十

二番屋敷平民

秋

山 繁 藏

明治十五年十一月  
四十年七月

明治十五年九月十二日大坂輕罪裁判所ニ於テ右秋山繁藏ニ對シ左ノ裁判ヲ言渡シタリ

其方儀明治十四年九月廿日神戸裁判所岡山支廳ニ於テ賊盜律詐欺取財條ニ依リ懲役二年  
ノ處斷ヲ受ケ不服ナリトシテ上告ノ末大審院ニ於テ該裁判ヲ破毀シ當廳ヘ移サレタルヲ  
以テ裁判スルノ左ノ如シ

明治十二年八月中秋山幸左衛門秋山與平治秋山喜代松連署内務省山林局へ出願元稻荷村  
字龍王山下ケ辰シテ得タル延享三年寅三月十五日付稻荷村役人惣百姓中宛小島六左衛  
門外二名連署ノ證書ハ寶曆九年度物成算用目錄及ヒ其方共明治十五年七月廿日當廳へ差  
出シタル辯論書第二條ニ掲ケタル例文ノ雛形其他參照ノ爲メ逐次差出シタル古文書ニ參  
照スルニ其筆勢ノ拙キハ勿論文字ノ位地紙質墨色等延享年度地頭ヨリ書下ケタル證書ト  
認メ難シ況ヤ該證ハ明治十二年二月中秋山喜代松方ニテ廢紙ノ中ヨリ不圖發見シ其後四  
五日ヲ經テ村方惣代ノ者ヲ集會シ該證ヲ明示シ龍王山下辰出願一件議定セシ旨陳辯スト  
雖モ該證ハ元稻荷村人民ニ於テハ重大ノ權利ヲ有スル證書ナルヲ以テ村役人交代ノ際ハ  
必ス後任ノ者ヘ引續キ鄭重ニ保存スヘキ書類ナルニ祖父以來村役ヲモ勤メサル喜代松殊  
ニ亡父米次郎存命中八九年前賞受ケシ廢紙ノ中ヨリ發見スヘキ理由ナシ然リ而シテ村方  
惣代人ノ内秋山種太郎ハ石山林ニ關スル確證ト稱スルハ即チ大繪圖ヲ指シタル者ニテ其  
他秋山仙右衛門外三名モ明治十四年七月中警察署ノ召喚ヲ受ケシ際始メテ該證發見セシ  
始未其方並ニ幸左衛門與平次等ヨリ承知セシ旨供述ス以上掲ケル處ノ事實ニ據リ該證ハ  
秋山幸左衛門發意ニ從ヒ秋山與平次秋山喜代松等ト共謀詐爲シタルモノニシテ該證ヲ以  
テ明治十二年八月十二日内務省山林局へ出願シ元稻荷村字龍王山下ケ辰シ得タルハ即

ナ詐爲ノ文書ヲ以テ官ヲ欺キ其贓金三千百十二圓余ノ山林ヲ詐取セシ者ト認定ス右所爲  
 刑法實施前ニ係ルヲ以テ全法第三條二項ニ依リ新舊法ヲ比照シ輕キニ從ヒ處分スヘキモ  
 ノトス而シテ舊法ニ於テハ詐僞律詐爲官文書條及ヒ賊盜律詐欺取財條ニ依リ名例律二罪  
 俱發以上論條ニ照シ一ノ重キ詐欺取財條ニ依リ其贓金百廿圓以上竊盜ニ準シテ論シ懲役  
 十年ノ處秋山幸左衛門ノ從トナシ名例律共犯罪分首從條ニ依リ一等ヲ減シ仍ホ輕減スヘ  
 キ情ナキニ非ラサルヲ以テ明治七年第百二十四号公布ニ依リ三等ヲ減シ懲役三年ニ該リ  
 新法ニ於テハ刑法第二百三條及ヒ第三百九十九條ニ依リ第百條ニ照ラシ一ノ重キ第二百三  
 條ヲ適用シ輕懲役ニ處スヘキ處所犯原諺スヘキ情狀アルヲ以テ刑法第八十九條及ヒ第九  
 十條ニ依リ一等ヲ減シ第六十九條ニ照シ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ第二百七條ニ  
 照ラシ六月以上二年以下ノ監視ニ付スヘキ者トス因テ輕キ新法ニ從ヒ重禁錮二年六月申  
 付ル監視ハ明治十四年第八十一号公布第十條ニ依リ之ヲ附加セス但シ現在スル山林及ヒ  
 詐爲ノ証書ハ取揚ル尙ホ伐木費消セシ贓金賠償ノ爲メ資力限り追徴ス

秋山繁藏於テ右裁判ヲ不當ナリトシ明治十五年九月十七日明治十五年十月十六日付ヲ以テ  
 本院ニ差出シタル上告狀及ヒ追申狀ノ要領左ノ如シ

延享三年寅二月十五日付ヲ以テ舊領主花房家ヨリ字龍王山ノ受領書ヲ下付シアルハ古來  
 稻荷村ノ共有山ヲ當時献山シタルニアリ其共有タル事ヲ表スヘキモノハ寛保三亥年七月  
 七日付徳川舊政府ヨリ龍王山々境實地臨檢ノ際下付セラレタル裁許繪圖面裏書ニ於テ明  
 確ナリ且此他ノ古書類ニ照合スルモ受領證書ノ偽造ナラサル事ヲ証明スルニ足レリ然ル

大坂輕罪裁判所ハ該受領証中尤証憑トスヘキ小島六左衛門外二名カ印影ノ點ハ措テ問ハ  
 レス其筆勢ノ拙劣文字ノ位置紙質墨色及ヒ保存中ノ不注意等ヲ掲ケテ延享度地頭ヨリ書  
 下ケタル真正ノ証書ト認メ難シトシ又之レヲ証スルニ秋山種太郎外五名ノ僞言ヲ採用サ  
 レ遂ニ上告人ハ秋山幸左衛門秋山與平次秋山喜代松ト謀リ該受領證書ヲ偽造シテ龍王山  
 ノ下ケ戻シ願ヲ爲シ得タルモノト推測シ詐欺取財ノ罪ニ處セラレタルハ審理不盡ノ判定  
 ナルニ付之レヲ破毀シテ更ニ至當ノ裁判ヲ受ケ度ト云フニアリ

辯明

上告人秋山繁藏ハ明治十四年九月廿九日ヲ以テ神戸裁判所岡山支廳ノ裁判ニ對シ上告セ  
 シニ因リ本院ハ明治十五年五月十八日ヲ以テ上告人カ文書詐爲ノ罪ハ原裁判所ニ於テ衆  
 証ニ依リ事實ヲ認定シタルモノニシテ不當ト認ムヘキ點ナシトノ辯明ヲ與ヘタリ然レモ  
 宣告書中二罪俱發ノ内詐欺取財ノ理由ヲ明記セサルヲ以テ計贓ノ幾許及ヒ被害者ノ何人  
 ナルヤヲ知ルニ由ナケレハ又果シテ詐取シタルヤ否モ明晰ナラス故ニ此一部ヲ破毀シテ  
 更ニ大坂輕罪裁判所ノ裁判ヲ受ケシメタルモノナリ依テ同裁判所ハ其事實ヲ訊問シ詐取  
 ノ情狀明瞭ナルヲ以テ理由ヲ明示シ詐欺取財ノ刑ヲ適用セシモノナレハ同裁判所ニ於テ  
 言渡シタル裁判ハ相當ニシテ破毀スヘキ原由ナキモノトス

但今般ノ上告趣意書及ヒ追申書ヲ審案スルニ前ニ神戸裁判所岡山支廳ノ裁判ニ不服上  
 告ノ趣旨ト同シ大坂輕罪裁判所カ尙ホ其事實ヲ誤レリトテ反覆辨論スルモノニ止マレ  
 ハ別ニ辯明ヲ與ヘス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十五年九月十二日大坂輕罪裁判所ニ於テ秋山繁藏ニ言渡シタル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキニ因リ上告狀却下スルモノナリ

第七十九号

○判文(竊盜ノ件)明治十五年十月十九日上告  
明治十五年十二月廿七日判決

和歌山縣紀伊國名草郡日方浦平

民新兵衛二男當時同縣同國海部

郡宇須村平民安田愛之助方寄留

日雇業

平

野

明治十五年十月二十九日

右昇ニ對シ明治十五年十月六日和歌山輕罪裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ言渡シタリ  
右被告昇カ竊盜及ヒ擅ニ人ノ金員ヲ費用シタル事件審問ヲ遂ル處昇於テハ明治十一年四月中三木伊右衛門ヨリ佐竹喜十郎ヘ賣却セシ家屋代金百拾圓ノ内百五圓ハ伊右衛門ノ承諾ニ依リ大浦清吉ヘ貸與セシモノナリト又伊右衛門所有ノ繭六斤持去リ他ニ賣却シタル一ハ毫モ覺ヘ之ナキノミナラス先ニ糾問係ニ於テ右等ノ事項陳供セシコト無之旨辨護スト雖舊大坂裁判所和歌山支廳糾問掛ノ調書及ヒ三木伊右衛門平野平七矢野龜次郎中井庄三郎山本吉郎右衛門東山茂八妻「ナホエ」等ノ陳述書ヲ閱スルニ被告ハ伊右衛門ノ許諾ナ

キ金員ヲ輒シ費用シ及ヒ繭ヲ竊取シタル罪アル者ト認定ナ下スニ足ル而テ所犯新法實施以前ニ在ルヲ以テ新舊法ヲ比照スルニ舊法ニ於テハ繭ヲ竊取セシハ賊盜律竊盜條ヲ適用スヘキモノナルモ伊右衛門ノ自供スル處ニ因テ觀レハ互ニ養親子ト爲ルヘキ約アルノミナラス共居シテ數年間事務ノ一部ヲ擔任セシメタル等ハ事蹟アルニ因テ改定律例第四百四十二條ニ比擬シ準盜ヲ以テ論シ金員費用セシハ雜犯律費用受寄財產條ニ該ルニ罪俱ニ發スルニヨリ二罪俱發律ニ照シ準盜拾貳圓ヲ以テ坐贓ノ贓百拾圓ニ併スルルハ百二十拾圓以上坐贓ニ一等ヲ減シ懲役七十日各罪等シキヲ以テ一ノ重キニ從ヒ準盜ヲ以テ論シ懲役七十日ニ處スヘキモノ新法ニ於テハ刑法第三百六十六條及ヒ第三百九十五條ヲ適用スヘキニ罪ナルヲ以テ第三百條第三項ニ照シ一ノ情狀重キニ從ヒ竊盜罪ヲ以テ論シ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ尙第三百七十六條ニ依リ六月以上二年以下ノ監視ニ付スヘキモノナルニ依リ明治十四年第八十一號公布比照例ニ照シ二月以上二月十日以下ノ範圍ヲ以テ處スヘキ處原諒スヘキ情狀アルニ因リ本刑ニ一等ヲ減シ一月十五日以上一月廿三日以下ナルニ依リ重禁錮一月十五日ニ處ス其監視ハ比照例第十條ニ照シ之ヲ付加セズ  
平野昇ニ於テハ右ノ裁判ヲ不當ナリトシ明治十五年十月九日上告申立ヲ爲シ同月十一日ヲ以テ本院ニ差出シタル上告狀ノ旨趣左ノ如シ

第一條

上告人ハ明治八年十一月ノ頃本柴炭ノ問屋業ヲ營ム上告人ノ從弟山東久兵衛方ニ於テ商業ノ手傳ヲ爲シ居リシカ久兵衛ハ資本金ヲ借入レタキ趣ニテ井邊楠右衛門ナル者ヲ以テ

三木伊右衛門ニ頼談シ乃チ久兵衛ハ家屋ニケ所チ書人質ト爲シ金四百圓ヲ借用セリ然ルニ此貸借ノ事アリシヨリ久兵衛伊右衛門ノ間ニ於テ始メテ交際ノ道チ開キ常ニ往來イダシ居リシカ一日伊右衛門ハ前キノ貸借紹介人楠右衛門チ以テ上告人チ養子ニ賞受ケ度旨久兵衛ニ掛合ヒ來リタル趣久兵衛ヨリ告ケラレタリ此時上告人ハ一應謝斷イタシ置キタル處再ヒ中川伊助ナル者チ以テ強テ懇望ノ趣申來リタルニ因リ乃チ其意ニ應シ明治九年十一月六日上告人ハ伊右衛門方ニ引越シ商業ニ從事勉勵セリ而カモ未ク送籍チ爲サ、リシナリ然リ而シテ久兵衛ハ借金四百圓ノ内二百圓ハ既ニ返還シタルニ明治九年十二月ノ返期チ經過シ殘額二百圓チ返了スル能ハサルヲ以テ伊右衛門ハ屢々之ヲ催促シ遂ニ訴訟チ爲スノ已ムチ得サルニ至リタリキ此時伊右衛門ハ上告人チシテ出訴ノ代理チ爲サシムヘキモ奈何セシ上告人ハ久兵衛ト從弟ノ間柄ナルチ以テ伊右衛門ハ上告人ノ迷惑チ推察シ更ニ山口俊二郎ナル者チ代人トシテ勸解ヲ願出テ説諭ノ未抵當ノ家屋チ公賣スヘキニ決シ當時原告タル伊右衛門モ入札セシ處代金百拾圓高札ナルチ以テ落札トナリタリ然レハ伊右衛門ハ始ヨリ此家屋チ保持スル見込モアラサリシチ以テ直ニ之チ賣拂ヒ度旨上告人ニモ相談シ乃チ伊右衛門ハ之チ佐竹喜十郎ニ賣渡シ其代金ハ明治十年九月迄延期ノ約束チ爲シタリ然ルニ喜十郎ハ其期限ニ至リ代金チ引渡サズ遂ニ十二月ニ至リ嚴重督促チヨフ處喜十郎ハ家屋チ渡シ井又ハ庭石等ハ附加シテ買受タル意ナルニ此等ノ物件ハ己ニ取拂ヒタリシチ以テ彙ニ定メタル代金チ減却スヘキ旨申立タレハ伊右衛門ハ固ヨリ書入質トナリ居タル家屋ノミチ賣渡シタルモノナル事由チ辨説シ代金ノ減額ヲ承諾セサル旨

相ヒ答ヘ且最早期限モ經盡シタルハ斷然此賣買ノ契約チ解除シ之チ他人ニ賣渡スヘキチ告ケ立別レタリ然ルニ喜十郎ハ明治十一年一月ノ頃代言人西田耕ニ依頼シ家屋引渡ノ勸解チ願出テ伊右衛門ハ上告人ト共ニ出頭シ原告即チ喜十郎ハ違約セシチ以テ既ニ大浦清吉ナル者ニ賣渡ノ契約チ爲シタルニ因リ原告ニハ關係ナキ旨答辨シタル未遂ニ示談チ爲シ喜十郎ハ金主南六左衛門ニ賣渡シ以テ喜十郎ヨリ代金百拾圓チ受取ルニ方リ此家屋ニ係ル町入用等ニ金五圓チ拂渡シ全シ百五圓金チ受領セリ是ヨリ先キ右家屋ノ事ニ付伊右衛門ハ喜十郎ノ違約チ憤リ喜十郎ハ伊右衛門ノ嚴促其無情ナルチ恨ミ互ニ敵視シ居ル折柄伊右衛門ハ一時大浦清吉チ買主ト爲シ喜十郎ノ訟求チ抗辨シタルノ事情モアリタル處右百五圓チ喜十郎ヨリ受取ルノ際清吉ハ商業上急需ノ事アルニ因リ之チ借リ受ケ度旨申出ルニ付上告人ハ其趣チ伊右衛門ニ談合シタル上伊右衛門ハ清吉於テ周旋盡力セシ事情モアルチ以テ貸渡シ遣スヘキ旨申答ヘタルニ因リ乃チ其証書チ徵シ金員チ貸渡スニ當リ伊右衛門曰ク清吉ハ時々法衛ニ出ツルモノナリ或ハ違約スルモ計リカタク若シ方一出訴スルノ場合ニ立至リタルトハ甚々煩ハシキチ以テ汝ノ名宛ニイタシ置クヘキ旨申聞ケルニ付乃チ上告人ノ名宛ニテ証書チ受取リ直ニ之チ伊右衛門ニ相ヒ見セ又上告人ヘ預リ置キタリ右ハ上告人ハ伊右衛門ノ総理代人チ委托セラレ之チ戸長ニ届ケアリシチ以テ常ニ伊右衛門ノ證券チ預リ又證券チ徵収スル時負債主其人ノ模様チ視テ他日出訴スルニ便利ナル爲メ上告人ノ名宛ニテ結成シタル証券ハ獨リ清吉ノミナラサルナリ然ルニ明治十二年十月伊右衛門ハ安田愛之助ナル者ヨリ商業手傳ノ爲メ暫時汝チ貸シ吳度旨申來リタル

趣申聞ルニ付上告人ハ親戚ノ故ヲ以テ手傳ニ參リ居ル中上告人ハ中川伊助ナル者ニ託シ伊右衛門ニ送籍戸主ノ事ヲ掛合ハシメタルヲ以テ伊右衛門ハ上告人ヲ厭忌シ遽ニ變心シ遂ニ伊右衛門ハ女舞田村正次郎ヲ以テ右証券及ヒ總理代人ノ委任狀ヲ還却スヘキ旨申來リタルヲ以テ上告人ハ正次郎ノ宅ニ往キ伊右衛門正次郎等ト對坐ノ上伊右衛門ヨリ正次郎へ總理代人ヲ更撰スヘキ旨ヲ告ゲタルニ因リ証券及ヒ委任狀ヲ返還セリ然ルニ正次郎ハ証券ヲ受取り同人及ヒ伊右衛門ヨリ大浦清吉ニ對シ屢々其返金ヲ催促シタリト云フ是故ニ伊右衛門ハ目今其証券ヲ保持スル所以ニシテ大浦清吉ニ貸金セシハ固ヨリ伊右衛門ノ承諾アルノミナラス尙且上告人ハ伊右衛門ノ指揮ニ因テ爲シタルモノナリ又繭ノ事タルヤ上告人ハ嘗テ矢野龜次郎ニ隨ヒ雜賀崎へ釣魚ニ往キタルキ右矢野龜次郎ハ繭ヲ風呂敷ニ包ミ携へ居リタルヲ見受ケタルノミニシテ上告人ハ之ヲ竊取シタルコトモナク又賣拂ヒタルコトモナシ夫レ斯ノ如クナレハ上告人ハ受寄ノ財物ヲ費用シ及ヒ物品ヲ竊取シタル罪ナキコト明白ナリ

第二條

前條ノ如ク上告人ノ事實ニ於テ其罪ナキコト明白ナルニ和歌山輕罪裁判所ハ(被告ハ伊右衛門ノ許諾ナキ金員ヲ輒ク費用シ及ヒ繭ヲ竊取シタル罪アルモノト認定テ下スニ足ル)ト裁判セラレタルハ不法ナリト謂ハサルヲ得ス何トナレハ其判定ノ一據ハ一モ被告人ノ罪蹟ヲ確明ナラシムルモノナケレハナリ抑舊大坂裁判所和歌山支廳糾問掛ノ調書ヲ證據立テテ平而カモ上告人ハ自己ノ未ダ會テ申供セサル所ノ事ヲ記載シアリシヲ以テ遂ニ之

ニ捺印セサリシナリ如何ニ官吏ノ作りタル調書ナレハトテ苟モ其被疑人ノ捺印ヲ肯セサルノ事蹟アルキハ宜ク其實否ヲ明察セサルヘカラス何トナレハ糾問判官モ等ク人ニシテ神明ニアラサレハ又或ハ故意若クハ誤謬ニ因リ被疑人ノ申供ナキ事及ヒ無實ノ事ヲ記載スルアルモ保ツヘカラスレハナリ即チ上告人カ此調書ニ捺印ヲ要セラル、片未ダ申供セサル所ノ記載アルニ付之ヲ上申セシ處糾問判官ハ(其方於テ嘗テ申立タリ)トノ告示アルモ上告人ハ其申供ノ覺エナク又毫モ事實ナキニ付其捺印ヲ爲サス是レ糾問判官カ審問中誤聞セラレタルコトヲ思料ス又三木伊右衛門ノ陳述ハ如何ニ巧言ヲ構造スルモ既ニ上告人ヲ養子(未ダ送籍)ト爲シ及ヒ總理代人ヲ委任シ訴訟其他百般ノ事ヲ辨理セシタルハ是則チ上告人ヲ信用シタルノ成果ニシテ且其証券ヲ徵收スルニ方テヤ伊右衛門カ清吉ニ依頼セシコトノ情義アルニ因リ百五圓金ヲ貸渡スヘキ旨ヲ上告人ニ指揮シ且自ラ他日訴訟等ノ煩ヲ避シカ爲メ總理代人即チ上告人ノ名宛ニ證書ヲ結ハシメタルモノニシテ決シテ承諾ナキニアラサルナリ既ニ之ヲ承諾シタルハコソ田村正次郎ヲ以テ上告人ヨリ證書ヲ取戻シ自ラ直接ニ清吉ニ催促シタルニアラスヤ是レ亦伊右衛門カ承諾アリシ證據ナリ又繭ノ事ニ於ケルモ被告ヲ誣言シタルモノシテ一モ其證據ナキニアラスヤ伊右衛門ハ畢竟上告人ノ前約ニ據リテ戸主ト爲テノコトヲ要求セシヨリ俄ニ變心ヲ惹起シ無根ノ事ヲ構造シ上告人ヲ誣テ以テ自己ノ責ヲ防禦セシトシタルニ止ルノミ又平野平七矢野龜次郎中井庄三郎山本吉郎右衛門東山茂八妻ナホエノ陳述アリトスルモ是レ亦口頭ノ空辨ニシテ毫モ實徵ノ證言ニアラス此等ノ者ハ伊右衛門ニ附和シテ上告人ヲ誣言シタルニ過キス斯ノ



如ク論辨シ來ラハ該裁判ノ材料トセシ糾問係ノ調書及ヒ三木伊右衛門其他ノ者ノ陳述ハ皆事實相違ノ陳言ニシテ上告人ニ對シ有罪ノ證據ト爲スニ足ラス然ラハ則チ他ニ上告人カ罪ヲ犯シタリトスル證據物件アル乎而シテ其證據ナシ是レ其事犯ナキノ故ナリ然ルニ和歌山輕罪裁判所ハ舊大坂裁判所和歌山支廳糾問係ノ調書及ヒ三木伊右衛門等ノ陳述ヲ輕信シ有罪ノ判定ヲ爲シタルハ不法ナリトス何トナレハ犯罪ノ證據充分ナラサル者ナルヲ以テ治罪法第三百五十八條首項ニ依リ無罪ノ言渡ヲ爲スヘキニ而カモ此法ニ背キタルハナリ然ラハ則チ總理代人カ本人ノ指揮ニ因リ人ニ金ヲ貸シ又本人ノ指揮ニ因リ其證券ヲ總理代人ノ名宛ニ取リタル者ニ費用受寄財產條ヲ適用シ及ヒ竊盜ヲ爲サハル者ニ竊盜條ヲ適用シタルハ擬律ヲ錯誤シタルノ甚シキモノナリ前條ノ理由ナルヲ以テ冀クハ宜ク御覆按ノ上和歌山輕罪裁判所ノ裁判ヲ破毀セラレシトシテ因テ此段奉告候也

辨明

原裁判所ニ於テ上告人ノ所爲ヲ以テ竊盜及ヒ費用受寄財產ノ罪ナリト判決セシハ糾問掛リノ調書各關係人ノ陳述等ニ依リ事實ヲ認定シタルモノニシテ其理由不當ト認ムヘキ廉アルナシ然ルニ上告人ハ毫モ不正ノ所爲ナシト陳辨シ原裁判官ノ認定上ニ對シ不服ノ旨ヲ訴フルト雖モ別ニ確認スヘキ證據アルニ非ス其口頭ノ陳述ノミヲ以テ裁判官ノ心證判斷ヲ破毀スヘキ理由ト爲スヲ得サルモノトス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十五年十月六日和歌山輕罪裁判所ニ於テ平野昇ニ言渡シタル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキニ因リ上告狀却下スルモノナリ

第千八十号

○判文(竊盜ノ件) 明治十五年十月廿三日上告  
明治十五年十二月廿七日判決

大坂府和泉國日根郡貝塚北ノ町  
六十二番地平民

菊野平吉

明治十五年九月  
二十七年四月

明治十五年九月二十九日大坂輕罪裁判所ニ於テ右菊野平吉ニ對シ左ノ如ク裁判言渡シタリ其方儀當時行衛不知紺屋音七等ト共謀シ明治十四年十二月十六日以來大坂府西區薩摩堀南ノ町向井新兵衛方外五ヶ所ニ於テ土藏ヲ破リ或ハ鎖鑰ヲ開テ夥多ノ金品ヲ竊取セシ事前供ヲ反異シ盜業ヲ爲セシ覺ハ毫モ之レナキ旨陳辨スト雖モ其反証ナキノミナラス巡查秋元修一郎外二名ノ景況書被害者向井新兵衛服部勘一郎加藤喜三郎ノ告訴書等ニ徴スレハ其方ト明治十四年十二月十七日日本田警察署ニ於テ捺印シタル口供ハ自由眞實ノモノト確認ス右科刑法第三百六十八條及ヒ第三百六十九條ヲ適用シ七月十五日以上六年三月以下ノ重禁錮ニ處ス可キ處所犯新法實施以前ニ在ルヲ以テ舊法竊盜律ニ依リ贓金三千九百十六圓餘懲役終身ニ該ルヲ以テ刑法第三條第二項ニ依リ新舊法ヲ比照シ輕キ新法ニ從ヒ重禁錮六年申付ル

但贓金賠償ノ爲メ資力限退徴ス  
菊野平吉ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十五年九月三十日上告出願シ明治十五年十月九日附キ以テ本院へ差出シタル上告狀ノ趣意左ノ如シ

裁判ノ不當ヲ伸フ

大坂輕罪裁判所ノ裁判言渡書ヲ閱スルニ其初段ニ其方義當時行衛不知紺屋音七ト共謀シ明治十四年十二月十六日以來大坂府西區薩摩堀南ノ町向井新兵衛方外五ヶ所ニ於テ土藏ヲ破リ或ハ鎖鑰ヲ開テ夥多ノ金品ヲ竊取セシ前供ヲ反異シ云々トアルト雖モ已ニ開伸ナル如ク大坂府本府警察署ニ於テ爲シタル口供ハ頗フル治罪ノ當ヲ失シ嚴訊ノ酷シキヨリ之レニ畏怖シ不實ヲ伸供シタルモ其實上告人ニ於テハ盜業ヲ爲シタルモノニ非ラス故ニ前供ヲ取消サンカ爲メ該物品ノ出ル處ハ乃チ小川「ハル」ナル者能ク承知シ又行盜人モ小川「ハル」ニ於テ詳ニ知覺シ居ルヲ以テ右「ハル」ヲ糾治アリタシト幾回請願シタルニモ拘ハラス勿々ニ上告人ノ目シテ行盜犯人ナリトシ之レニ刑法第三百六十八條及ヒ第三百六十九條ヲ適用シ重禁錮六年言渡サレタルハ抑何ノ理由ナルヤ茲ニ治罪法第三百四條ニハ裁判所ニ於テ刑ノ言渡ヲ爲スニハ事實及ヒ法律ニヨリ其理由ヲ明示シ且一切ヲ證據ヲ明示ス可シトアレリ然レハ上告人カ前供ハ不實ニシテ全ク贓金ト知り故買セシ旨辨護シ其證ハ明治十四年十二月十六日ヲ以テ高浦次郎吉ヨリ金百五拾圓ヲ借入レ該金ヲ以テ小川「ハル」ヨリ買得シタルモノナレハ右次郎吉ハ參考人ノ資格ヲ有シ右「ハル」ハ故買ノ牙保者ナルヲ以テ必ス先ツ俱ニ審問シ事實ニ適スルヤ如何ヲ詳ニセサル可カラサルニ之レ

カ當該官ニ於テ輒スク看過シ一回ノ對審タモ試ニサルヨリ其事實ノ在ル處ヲ知ル能ハス終ニ裁判ノ基礎ヲ失シ其言渡書ニ其理由ヲ明示スルコト能ハサルニ至レリ又治罪法第四百十六條ニハ法律ニ於テハ被告事件ノ模様ニヨリ有罪ナルノ推測ヲ定ムルコトナシトアレリ然レハ上告人ニ對スル裁判言渡ハ裁判官於テ如何ナル心證ノ資ルヘキ有テ以テ盜犯ナリト判定サレタルヤ該言渡書ニアル巡查秋元修一郎外二名ノ景況書被害者向井新兵衛服部勘二郎加藤喜三郎ノ告訴書等ニ徴スレハ云々トアレモ抑巡查ノ景況書ノ如キハ概ス現行犯及ヒ現ニ行ヒ終リタシ犯罪ニ就テハ其景況書ニヨリ信憑スルモノナレモ往日ノ犯罪ニシテ今日捕獲日時ノ景況書等ニテハ苟シクモ有罪ノ徵憑トナスヘカラス況ンヤ被害者ノ告訴書ニ於テオヤ又該言渡書ニ明治十四年十二月十六日以來トアレモ抑上告人カ就捕シタルハ明治十四年十二月十六日ナレハ爾后今月ニ至マテ罔圖ニ繫留中ナレハ明治十四年十二月十六日以降五六ヶ所ノ盜業ヲ爲シ得ルノ理ナシ然レハ大坂輕罪裁判所ノ裁判言渡書ハ上告人ヲ刑辟ニ陥レシメント其實ナキヲ誣ヘラレタルモノナルヲ以テ頗フル專横ノ裁判ナリト云ハサルヲ得ス良シヤ之レカ誤書ニ罹リタルモノトシ論セシカ已ニ開陳スル如ク上告人於テハ盜業ノ衣類ナリト知り故買シタルモ自カテ行盜シタルニ非ラサレハ是レ擬律ノ錯誤ト云ハサルヲ得ス然レハ何レニモセヨ該裁判ハ失當ナルヲ以テ治罪法第四百十條ニヨリ上告スルヲ得ルモノナルニ付前顯ノ事實今一應御再審ノ上公明ナル御裁判アラシコトヲ只管奉切願候也

辨明

上告事件ヲ審案スルニ原裁判所カ上告人ヲ以テ二人以上共謀シテ倉庫ヲ損壞シ或ハ鎖鑰ヲ開キ竊盜ノ罪ヲ犯シタル者ト判決シタルハ衆證ニ依リ事實ヲ推測シ上告人カ警察署ノ前供ヲ以テ眞實ノ白狀ト認定セシモノニシテ其理由不當ト認ムヘキノ廉アルナシ上告人ニ於テハ竊盜ノ所爲ナシト陳述シ事實認定上ニ對シ不服ノ旨ヲ訴ヘ反覆論辨スト雖モ別ニ確認スヘキ証憑アルニ非ス口頭ノ陳述ノミヲ以テ原裁判ヲ破毀スルノ原由ト爲スコトヲ得サルモノトス

但上告人ハ明治十四年十二月十六日夜向井新兵衛方ニテ物品ヲ竊取シ其前外數所ニ於テ竊盜ヲ犯セシ者ナルニ宣告書ニ十二月十六日以來云々トアルハ文字上ノ誤謬ニ出ルモノニシテ之ヲ以テ不法ノ裁判ト爲スコトヲ得ス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十五年九月廿九日大坂輕罪裁判所ニ於テ菊野平吉ニ言渡シタル裁判ニ破毀スヘキ理由ナキニ因リ上告狀却下スルモノナリ

第千八十一号

○判文(詐欺取財ノ件)明治十五年十月廿四日上告  
明治十五年十二月廿七日判決

東京府日本橋區通リ壹丁目七番

地宮田彌助方同居平民

福

田 孝 助

明治十五年十月  
四十二年一ヶ月

右孝助ニ對シ明治十五年十月十六日東京輕罪裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ言渡シタリ

被告福田孝助ハ内國通運會社ニ相雇ハレ宮城縣下仙臺同社出張所支配人勤役中明治十一年一月ヨリ明治十三年十月ニ至ルノ間同出張所ニ於テ管守スル金圓ノ内四百八拾六圓貳拾三錢四厘ヲ盜取シタルモノトス而シテ被告ニ於テ該金額ノ内三百八十貳圓余ハ宮城縣管内各驛繼立所運搬事業附屬等ノ費用ニ仕拂ヒタル旨陳辯スレトモ告訴者ノ証明及諸帳簿ニ徴スルニ該金額ハ右等ノ費用ニ關係セサルヲ瞭然タルノミナラス告訴者ノ陳述及ヒ出張所々用ノ諸帳簿ニ依テ視ルニ被告ガ多額ノ收入ハ之ヲ少額トシ少額ノ支出金ハ之ヲ多額ナル如クニ帳簿上ニ取繕ヒ東京本社ヘハ虛偽ノ報告ヲ爲シテ其差金即チ四百八拾六圓貳拾三錢四厘ヲ盜取シタルノ証憑ハ充分ナリト認定ス而シテ其所爲新法實施前ニ在ルヲ以テ刑法第三條第二項ニ基キ新舊二法ヲ比照スルニ舊法ニ於テハ改正雇人盜家長財物律ニ依リ竊盜ヲ以テ論シ管守者ナルヲ以テ二等ヲ加ヘ贓金三百圓以上懲役終身ニ該新法ニ於テハ刑法第三百六十六條及ヒ第三百七十六條ニ據リ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ六月上二年以下ノ監視ニ付ス可キモノナルヲ以テ其輕キ新法ニ從ヒ尙明治十四年第八十一号公布新舊法比照例ニ照シ單ニ重禁錮四年ニ處スルモノ也

但竊取シタル贓金四百八十六圓貳拾三錢四厘ハ被害者即チ通運會社頭取佐々木莊助ヘ賠償スヘシ

福田孝助ニ於テ右ノ裁判ヲ不當ナリトシ明治十五年十月廿二日附ヲ以テ本院ニ差出シタル上告ノ要旨左ノ如シ

第一 本件ハ刑法施行前ノ事件ナルニ依リ同法第三條第二項ニ基キ新舊ノ法ヲ比照シ輕キニ從ツテ處斷セラルヘキモノナリ然ラハ則チ明治十四年三月中告訴人通運會社頭取吉村甚兵衛於テハ同社取締リ役小津善兵衛出納掛リ多湖三良兵衛ノ兩名ヲ出シ上告者ハ京橋區築地貳丁目貳拾九番地信田桂助日本橋區本船町一番地荒木平八ノ兩名ヲ出シ上告者ト合セテ五名立會ノ上該社應接處ニ於テ第二三號証ノ如ク貳口合セテ五百八拾三圓八拾七錢七厘貳号証記載ノ分ハ告訴人ノ退訴ニ係ルモノナリ違算ニ決シ尋イテ該社取締役米村乾吉ヘ右償却方示談及ヒシニ該社ノ承諾ヲ以テ即チ右貳三號証ノ下案ヲ投セテ之ニ基キ形ノ如ク證書差入レ而ノミナラズ豫テ差入アル株券ノミニテハ少シク償却ニ不足ヲ生スルニ付尙ホ第一號証ノ下案ヲ領シ同シク形ノ如ク認メ給料旅費等ヲ以テ補助シ度旨歎願シ此ニ於テ全ク該社ノ承諾上一件結了ニ至リタリ故ニ假令罪アリトスルモ該社ハ自ラ認メテ違算金トシ自ラ下案ヲ發シテ之レヲ領シ自ラ承諾ヲナシ上告者ハ亦歎願ノ名ヲ以テ已レノ株券ヲ投放シテ其償却ヲ致シ尙ホ不足ノ廉ヘハ給料旅費等ヲ以テ補充シタルモノナレハ舊法新律綱領名例律犯罪自首條中若シ強竊盜及ヒ詐偽シテ財物ヲ取リ事主ノ處ニ於テ首服シ或ハ枉法不枉法ノ贓ヲ受ケ過チ悔ヒテ本主ニ還付スル者ハ官司ニ自首スルト同シク皆其罪ヲ免ス同改定律例第百三十八條凡ソ事主盜犯ヲ捕得シテ私縱私和スル者ハ情ヲ量リ違式輕重ニ問ヒ贖フコトヲ聽ス此ノ貳條ニ依リ自首免罪ヲ以テスル歟又ハ違式輕重ノ罪ヲ以テ論スル歟ニ止ル可キモノナルニ爰ニ在ラスシテ右ノ處斷アリシハ所謂擬律ヲ誤レル不當ノ裁判ナリ

第二 第一二三號證據ノ事ニ付テハ豫審庭ニ以テ辯護ノ要點トシ縷々申立アルニ其事實ノ審究モナク又其事實ノ理由ヲモ附セサルハ法ニ違フ裁判ナリト思考ス

第三 第一二三號證據ヲ告訴人ヘ差入レシ際即チ精算結了ノキニ於テ立會タル者信田桂助荒木平八等證據人トシテ召喚アリ度旨申立アルニ採用ナク直チニ處斷セラレシハ亦以テ不法ノ裁判ト云ハサルヲ得ス

辯明

上告人孝助ニ於テハ第二三號證ノ如ク二口合セテ金五百八十三圓八十七錢七厘(二號證記載ノ分ハ告訴人退訴ニ係ルモノナリ)違算ニ決シ兼テ差入レアル株券給料旅費等ヲ以テ償却セシモノナレハ名例律犯罪自首條ニ依リ事主ニ首服シタルモノトシ首免ヲ與ヘラルヘキニ原裁判ノ之ニ論及セサルハ不法ナリト云ヒ又ハ信田桂助荒木平八等ヲ證人トシテ召喚セラレシコトヲ願ヒタルモ採用セラレサルハ不法ナリト云フト雖モ果シテ孝助カ陳述ノ如ク示談整ヒタルモノナレハ何チ被害者ノ示談整ヒタル後チ告訴シ贓金賠償ヲ要求スル理アラシヤ如之被害者告訴ノ後チ孝助カ檢事補永井尙信ニ宛差出シタル書面ニ(右社ニ於テ監守罷在候金四百八十六圓二十三錢四厘追々ニ費用致候處今般御調ヲ請ケ恐入候仍テ處持ノ株券ヲ以テ右費用ノ金精算致度候事)トアルヲ以テ見ルモ其示談ノ成立タスノ玆ニ及ヒタル明瞭ナリ抑モ名例律犯罪自首條ニ凡罪ヲ犯シ事未發覺セスシテ自ラ自首スル者云々第四項ニ強竊盜及ヒ詐偽シテ財物ヲ取リ事主ノ處ニ於テ首服シ云々トアルハ總テ未發覺前出首シ或ハ事主ニ服首セシモノヲ指シタルモノニテ孝助ノ所爲ノ如キ既

ニ發覺後ニ於テ賍金還償スヘキノ示談整ヒタルモ之ヲ本條ニ依リ免罪スヘキ事實ニアラサルナリ況ンヤ其示談整ヒ賍金還償セシト見ルヘキ証ナキニ於テオヤ又指名シタル証人呼出サハルハ以テ不服ヲ唱フルモ之ヲ呼出スト呼出サハルハ事實法官ノ權内ナレハ敢テ不法トスルニ足ラサルニ因リ上告ノ趣旨總テ相立、サルモノトス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十五年十月十六日東京輕罪裁判所ニ於テ福田孝助ニ言渡タル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキニ依リ上告狀却下スル者也

第千八十二號

○判文(詐欺未得財ノ件)明治十五年十一月十八日上告  
明治十五年十二月廿七日判決

廣島縣廣島區上流川町四百五番

屋敷居住士族

木 全 精 一 郎

右精一郎ニ對シ明治十五年十月二十六日廣島輕罪裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ言渡シタリ  
廣島輕罪裁判所ニ於テ檢察官ノ公訴ニ依リ被告人木全精一郎ニ對スル事件ニ付相當官吏ノ作タル調書宇津宮「カス」物理代人多田是代人高木尉太郎ノ告訴上初終審ノ裁判言渡書被告人能勢豊太郎ノ自首狀計算書宮本唐一能勢豊太郎ノ手續書及陳述書金錢判取帳其他証書類等ヲ檢シ事實參考人多田是被告人宮本唐一ノ陳述被告人木全精一郎ノ答辨ヲ聽キ

之ヲ審案スルニ能勢豊太郎ノ金錢判取帳中第一号金五拾圓第三号金五拾貳圓第四號金拾五圓ハ能勢豊太郎及告訴人ニ於テ宇津宮「カス」元利金ノ内ニ相渡シタルト云フモ其但書ハ後日記入シタルモノニテ被告人木全精一郎ノ筆蹟ト相違シ而シテ木全精一郎ト能勢豊太郎トハ他ニ取引アリシト見ルヘキモノアルヲ以テ其第一號第二號第三號第四號ノ金員ハ宇津宮「カス」元利金ノ内ニ請受タル證據ニ相立スト雖モ其第二號金三拾壹圓五拾錢トアル口ハ被告人カ宇津宮「カス」ヨリ請受タル借用證ノ利息百圓ニ付一月貳步貳朱則チ三百圓五ケ月分ノ利息ニ相當シ殊ニ拂入期限ニ適合スルヲ以テ該金員ハ被告人カ宇津宮「カス」ハ貸付タル三百圓ノ利息ニ請受タルモノトス又其第五號金貳百五拾圓ノ口ハ被告人カ自筆ナリト認供セシ第一號乃至第四號ノ筆蹟ト同一ニシ但書ノ如キモ後日記入シタルモノトハ認メ難ク就中其印形モ被告人ノ實印ト符合スルヲ以テ宇津宮「カス」元利金ノ内ニ請受タルモノトス而シテ被告人ハ其殘金ノ延滞アルニ乘シ宮本唐一ヲ同意セシメ能勢豊太郎チシテ金錢判取帳ヲ押匿サシメ明治十三年九月中唐一ヲ代人ト爲シ裁判所ニ訴出テ右金員ヲ騙取セントシテ遂ニ其目的ヲ遂ケ得サリシモノト認定ス右所犯刑法實施前ニ係ルヲ以テ刑法第三條第二項ニ因リ新舊法ヲ比照スルニ舊法ニアリテハ賊盜律詐欺取財條共犯罪分首從條ニ因リ首犯ト爲シ詐欺シテ財ヲ得サル者ニ付除族ノ上懲役四十日新法ニ在テハ刑法第三百九十條第三百九十七條第三百九十四條第三百九十四條ニ因リ既ニ遂ケタル者ノ刑ニ二等ヲ減シ一月以上二年以下ノ重禁錮二圓以上貳拾圓以下ノ罰金六月以上二年以下ノ監視ニ該レリ依テ明治十四年第八十一號布告ニ照シ新法ニ從ヒ重禁錮一月ニ處ス

但證據品トシテ差押ヘタル金貳百五拾圓ノ證書及金三百圓ノ計算書各一通ハ宇津宮

「カス」へ金五百圓ノ證書壹通ハ被告人ニ還付ス

木全精一郎ニ於テ右ノ裁判ノ不當ナリトシ明治十五年十一月二日付ヲ以テ本院へ差出シタル上告ノ要旨左ノ如シ

一能勢豊太郎カ不實ノ自首ヲナシ其所有ノ判取帳中精一郎カ仕渡シタル受取へ入墨シ或ハ受取ノ偽證セシテ輕罪裁判所ノ法官ハ臆測ノ妄想ヲ以テ之レヲ真正ノモノト採用シ被告精一郎カ未ダ受取ラサル貸金ヲ既ニ受取濟ニ重ノ請求スルモノト不當ノ認定ヲ以テ別紙ノ如キ所斷セラレシハ被告カ不當トスル第一ナリ

一告訴者宇津宮「カス」總理代人ハ被告ヨリ貸渡シタル金員ハ既ニ拂濟ニシテ被告カ所持スル公正證ハ手残り證ナリト云ヒシモ相濟取殘シ證書ニアラサルヲ宣告狀中ニ於テモ判然タリ因是觀之能勢豊太郎ノ自首宇津宮「カス」ノ告訴共ニ不實ノ自首不當ノ告訴タルヲ照々乎トシテ夫レ明カナリ然ルチ貸金チ期限後三年余打捨置クノ理由ナキ杯ト忘想ノ甚シキ檢事ノ公訴ヲ受理シ治罪法第四百六條ニ背キ被告人カ狼狽セシ模様ニ寄リ以テ別番ノ如キ裁判セラレタルハ法律ニ違背スル不當ノ裁判ナリトス

一廣島輕罪裁判所ハ能勢豊太郎カ不實ノ自首ヲ真正ニ採用シ明治十三年九月中宇津宮「カス」チ訴フルノ際能勢豊太郎ノ判取帳チ押匿サシメタリト判定セラレタレハ能勢豊太郎ハ宇津宮「カス」ノ親族ダレハ「カス」ノ爲メニハ如何ノ同謀チモ爲スヘケレハ自分并ニ宮本唐一ノ爲メニ判取帖チ押匿スカ如キコトハ理ニ於テアルヘカラサルコトニテ自分ヨリ之レ

等押匿サシメシコトモナケレハ又タ豊太郎チシテ押匿スノ理由ナシ是等皆豊太郎カ不實ノ自首ナレハ社ヲ取調中逃走シテ今尙所在ノ知レサルモノ也

一告訴人多田是カ明治十五年六月二十八日ノ調書チ視ルニ被告ヨリ貸渡シタル金員チ未ダ悉皆返濟セシニアラサル旨申立タリ然ルニ明治十四年九月三日ノ告訴狀ニ因レハ既ニ被告人へハ皆濟シテ被告ノ所持スル證書ハ手残り證ナリト告訴セリ夫レ此ノ兩點ニ因テ視ルモ能勢豊太郎ノ自首ハ不實ニシテ又タ多田是ノ告訴ハ不實不當ノ告訴タルコト明確タリ況ハンヤ明治十五年六月廿八日多田是カ調書中明治十一年十二月廿五日能勢豊太郎ト相談ノ上右三百圓ノ殘金ハ明治十二年三月限り返濟ノ約定チ爲シタリト明言セリ然ルニ又其翌月貳百五拾圓チ拂ヒ入レタル杯ト種々最初告訴ヨリ口供ニ至ル言葉ノ變轉シテ一ツモ信チ措クニ足ルモノナク剩エ告訴者ノ證據物ハ何レモ年號ノ記載モナク殊ニ第五號證ニ當リテハ被告ノ自筆實印ニアラサレハ是等充分ニ證據チ査定シ所斷セラレヘキニ之レ等チ審究セテ告訴者ノ始終言論ノ齟齬スルチモ不問ニ置キ別紙ノ如キ不當ノ裁判チ下サレタルハ法律ニ戾ル不法裁判ト云ヘシ

一告訴者多田是ハ被告ノ貸金チ時々能勢豊太郎へ返戻セシ旨申立レハ其受取証チモ之レナク且ツ夫々有之タル受取證ハ豊太郎へ返戻シタリトハ甚ダ疑フヘキノ次第ナリ何トナレハ受取證ハ之レチ返戻スヘキノ者ニアラス況ヤ又公正證ハ尙ホ木全精一郎ニ在ルコトアラズヤ然ハ能勢豊太郎ノ受取證チ以テ安シ居ルスラ既ニ間接ノ證ナルニ其受取證チモ返戻シタリト而ノ數百圓ノ金員チ他人へ相渡シタルハ自分カ所持スル公正證ニ對スル義務

ニ相渡シタルトスル者ナレハ確乎タル證ヲ取ルヘキハ不當ナリ然ルチ數度ニ相渡シタリト云フモ只一ツノ證據モナキハ返濟セサルノ證據ニシテ能勢豊太郎ヨリ何等ノ受取證ヲ取リ置クトモ豊太郎ト宇津宮「カス」ト親族間タルハ如何様ノ證據物モ出來スヘクシテ自分カ貸金チ豊太郎カ受取ルノ理由ナシ殊ニ此度ノ如ク共謀シテ他ノ受取證ヘ宇津宮「カス」分ト數々記入シ間接ニ木全精一郎カ二重ノ請求杯ト不實不當ノ告訴ヲナシタレト精一郎ニ於テ「カス」ヘノ貸金壹錢タリトモ受取ルノ之レナク既ニ告訴ノ不當ナルノハ明治十五年六月二十八日多田是ノ口供ニ依テ判然タリ然ルチ廣島輕罪裁判所ハ是等チ審究セズ告訴者ノ不實チ答メラレス臆測ノ想像チ以テ被告カ二重ノ請求チ爲スモノト認定シ無證據ノ裁判ヲ下タサレタルハ不當ノ裁判ト云ハサルチ得サル也

明治十五年十二月一日付ヲ以テ上告追伸書チ差出シタルモ上告ノ旨趣チ擴張スルニ過キサルチ以テ茲ニ略ス

辯明

上告ニ付原裁判所ノ書類チ審按スルニ精一郎カ被告事實ハ原裁判言渡ニ說示スル如ク相當官吏ノ調書宇津宮「カス」ノ總理代人多田是代人高木尉太郎ノ告訴狀初審終審ノ裁判言渡書共犯人能勢豊太郎ノ自首狀計算書宮本唐一豊太郎ノ手續書其他證據書類ニ據リ曾テ「カス」カ精一郎ヨリ豊太郎傳ヒ借受ケタル金員ハ追々拂込ミタルモ殘金アルニ乘シ宮本唐一チ同意セシメ豊太郎チシテ金錢判取帳チ押匿サシメ明治十三年九月中唐一チ代人トシ訴出テ右金員チ騙取セントシテ未タ其目的チ遂ケサル者ト認定セシハ允當ニシテ毫モ不當ト見ルヘキナシ然ルニ精一郎ニ於テハ全ク返濟チ受ケサルモノニテ決シテ二重ノ請求チ致シタル筋ニ之ナキモノナルチ實際ニ違ヒタル事實チ認定ナリト云ヒ又ハ豊太郎ノ不實ノ自首チ信用サレタリト云フモ一ツモ實際ニ違ヒ且豊太郎自首ノ不實ニ出テタルトノ反證アルニアラサレハ上告ノ趣旨採用スルニ由ナシ然リト雖モ原裁判所カ新舊法ノ比照ニ因リ刑法第三百九十條チ適用セシハ相當ナルモ同第百十二條チ適用シ未遂犯ナリト判定セシハ不當ナリト云ハサルチ得ス何ントナレハ刑法第三百九十條ハ人チ欺罔シ又ハ恐喝シテ財物若シクハ證書類チ騙取シタル者云々トアリテ人ノ所有物ノ所有權チ移シタルニ因リ成立ツヘキ犯罪ナレハ今精一郎カ現ニ民事初審終審ノ勝訴チ得其所有權チ完了シ未タ其金額チ得サルモノナレハ舊法詐欺未得財ト云フヘキモ新法上未遂犯罪ナリト云フチ得ヘカラサレハナリ

判決

右ノ理由ナルチ以テ明治十五年十月二十六日廣島輕罪裁判所ニ於テ木全精一郎ニ言渡シタル裁判チ平翻スル左ノ如シ

木全精一郎

前ニ辨明スル如クナルニ因リ刑法第三百九十條ニ依リ二月以上四年以下ノ重禁錮所犯新法實施前ニ係ルチ以テ之チ舊法ニ照スニ賊盜律詐欺取財條詐欺未得財懲役四十日ニ該ル刑法第三條及ヒ明治十四年第八十一號布告ニ照シ其輕キ舊法ニ從ヒ懲役四十日

但シ差押ヘタル證書類ハ各所有主ヘ還付ス

第千八十三號

○判文(詐欺未得財ノ件) 明治十五年十一月十八日上告  
明治十五年十二月廿七日判決

廣島縣安藝國廣島區大牛町七丁

目居住士族

宮 本 唐 一

右唐一ニ對シ明治十五年十月廿六日廣島輕罪裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ言渡シタリ  
廣島輕罪裁判所ニ於テ檢察官ノ公訴ニ依リ被告人宮本唐一ニ對スル事件ニ付相當官吏ノ  
作タル調書宇津宮「カス」惣理代人多田是代人高木尉太郎ノ告訴狀財問芳太郎ノ手續書被  
告人能勢豊太郎ノ陳述書証書類等ヲ檢シ証人高場大藏事實參考人多田是倉本茂三郎神末  
「ツル」ノ陳述被告人木全精一郎菅本友夫ノ申立被告人宮本唐一ノ答辨ヲ聽キ之ヲ審案ス  
ルニ明治十四年十月中神末「ツル」ノ代人トナリ菅本友夫ニ對シ取込金ノ告訴ヲナシ神末  
「ツル」代理ノ名義ヲ以テ計算書ヲ作り菅本友夫ニ與ヘ同人ト示談ノ上金員ヲ授受シタル  
ハ明治十四年十月十日神末「ツル」代人倉本茂三郎ヨリ請取タル定約書ノ趣旨ニ適合シ罪  
トナスヘキモノニアラサルヲ以テ無罪ト判定スト雖モ明治十三年九月木全精一郎ノ代理  
トナリ宇津宮「カス」ニ對シ金三百圓ノ滯金ヲ訴出スルニ當リ同人ノ發意ニ同シ能勢豊太  
郎テシテ金錢判取帳ヲ押匿サシメ已ニ拂ヒ濟ノ金圓ヲ騙取セントテ其目的ヲ遂クル能ハ

ス而シテ其審問中自己ノ犯罪ヲ掩ハンカ爲メ金四拾圓ヲ能勢豊太郎ニ與ヘス實ノ証書ヲ  
チ作ラシメ殊ニ同人ト共謀シ多田是ヨリ能勢豊太郎ヘ宛タル証書ヲ偽造シ裁判所ニ提出  
シタル數罪ヲ犯シタルモノハ認定ス右所犯刑法實施前ニ係ルヲ以テ刑法第三條第二項ニ  
因リ新舊法ヲ比照スルヲ舊法ニ在テハ賊盜律詐欺取財條共犯罪分首從條改定律例第二百  
四十六條名例律二罪俱發以重論條ニ照シ一ノ詐欺取財條ニ因リ木全精一郎ノ從ト爲シ本  
刑ニ一等ヲ減シ懲役三十日新法ニ在テハ刑法第三百九十七條第三百九十七條第三百九十四  
條第四百條第二百十條第二百十一條第二百十二條第三百九十七條第三百九十七條第三百九十四  
條第四百條第二百十條第二百十一條第二百十二條ニ從ヒ既ニ遂ケタル者ノ刑ニ二等ヲ減シ  
狀最モ重キ第二百十條第二百十二條第二百十二條ニ從ヒ既ニ遂ケタル者ノ刑ニ二等ヲ減シ  
二月以上二年以下ノ重禁錮二圓以上二十圓以下ノ罰金六月以上二年以下ノ監視ニ該レリ  
依テ明治十四年第八十一号布告ニ照シ新法ニ從ヒ重禁錮一月ニ處ス  
但偽造証書壹通ハ刑法第四十二條ニ因リ沒收シ證據トシテ差押ヘタル証書三通ハ還付  
ス

宮本唐一ニ於テ右ノ裁判ヲ不當ナリトシ明治十五年十一月二日附テ以テ本院ニ差出シタル  
上告ノ要旨左ノ如シ

木全精一郎カ宇津宮「カス」ナル者ヘ兼テ貸金有之既ニ期限ヲ經過スルニ返濟セサルカ故  
ヲ以テ出訴ノ上之ヲ請求シ吳レタリトノ依頼ヲ受ケ勸解及ヒ始終審ノ裁判所ニ於テ木全  
精一郎カ請求ノ權利ヲ全フセシナリ然ルニ宇津宮「カス」聲元規ノ兄能勢豊太郎ナル者ト  
「カス」等共謀シ該裁判所ノ執行ヲ免レント宇津宮「カス」總理代人多田是カ代人高木尉太



郎ヲ以テ廣島輕罪裁判所へ告訴ニ及ヒ尋ツテ能勢豐太郎ハ判取帳ヲ隱匿シタリト不實ノ  
 ノ自首ヲ爲シタリ該豐太郎ナル者ハ兼テ木全精一郎トハ惡意ノ間柄ニテ殊ニ金錢貸借ノ  
 取引甚ク多カリキ故ニ金錢ノ受取証且ツ判取帳へ記入セシ受取等モ亦數々ナラニ一々之  
 レニ年號等ノ記入ナキヲ僥倖トシ豐太郎ト宇津宮「カス」ト親族間タルヲ以テ通謀ヲナシ  
 木全精一郎ヨリ他ノ金錢受授ノ爲メ相渡シタル受取ニ入筆ヲナシ不實ノ自首ヲ以テ法官  
 ナ瞞着ナサシメ以テ「カス」ガ負債ヲ免レシメント試ミシニ法官果シテ之レヲ直正ニ容レ  
 不實ヲ採テ實ナル被告ノ陳述ヲ用ヒス突然等ヲ爲シ被告ガ狼狽セシニ着目シ摸樣ニ因テ  
 罪ヲ斷シ別紙ノ如キ裁判ヲ下タサレタリ夫レ被告ノ摸樣ニ因テ罪ヲ斷スヘカラストハ法  
 律ノ格言ナリ然ルニ廣島輕罪裁判所ハ其格言タル法律ニ背キ被告ガ狼狽セシ摸樣ニ因テ  
 裁判セシレタルハ不當ノ第一ナリ

一原告則チ告訴者第三四五號證判取帳ハ能勢豐太郎ノ所有物ニシテ之レニ入墨シ告訴者ノ  
 證據ト爲シタレト其入墨セシ「ハ現簿ニ判然トシテ殊ニ第五號ニ當テハ更ニ被告ノ内木  
 全精一郎ノ自筆ニアラス實印ニ非ラサルニ是等ノ鑑定チモナサス精一郎ガ自筆實印ナリ  
 ト認定セラレタレト其印影ノ如キ摺レ損シアリテ實ニ鑑定者ト雖モ其眞偽ヲ査定シ得ヘ  
 カラサル者ナリ然ルチ精一郎ガ自筆實印ナリト判定セラレタルハ實ニ不當ノ極之レヨリ  
 大イナルハ勿ルヘシ

一右判取帳ハ入墨セシ豐太郎ハ保釋中逃走チナシ今尙其踪跡相知レサル也是レ入墨セシ「  
 ノ發覺セシ「チ恐懼シ逃走シタルヤ明ケシ抑モ豐太郎ハ該判取帳チシテ己レカ入墨セシ

ニ非ズ眞正ノ帳簿ナラシメハ則チ宇津宮「カス」ヨリ木全精一郎へ返戻スヘキ金員ノ委託  
 チ受ケ之レチ木全精一郎ニ渡シ既ニ判取帳へ其受取チモ取り居ルモノナラハ何ソ逃走ス  
 ルノ理アラソヤ然ルチ取調中逃走セシハ右判取帳ノ眞正ナラサルチ視ル充分ノ證ナリト  
 ス又「宇津宮「カス」ニ於テモ眞正ニ豐太郎へ金員ヲ托シ木全精一郎へ返戻セシモノナラ  
 ハ豐太郎チ責ムヘキハ當然ナリトス又既ニ之レチ豐太郎チ以テナリ共返濟セシモノナラ  
 シメハ爾後數年ノ間公正證チ其儘木全精一郎ノ手裏ニ存在シ有ルノ理由方々之レアルヘ  
 カラス然ルチ之レ等チ取調ヘズシテ貸金ノ期限後三年余モ打捨テ置ク理由ナキ杯ト云ツ  
 テ返濟後ノ證書チ三年余モ其儘ニナシ置クノ理由ナキチモ不問ニ措キ未タ返濟セサルモ  
 ノナラハ期限後三年余其儘ニ爲シ置ク道理ナキニ付云々杯ト實ニ妄想ノ甚シキ公訴チ受  
 理シ無證ノ裁判チ下タサレタルハ不當ノ裁判ナリトス

一宇津宮「カス」總理代人多田是ハ木全精一郎ヨリノ借用金未タ返濟無之既ニ返濟手殘リ證  
 ト不當ノ告訴チ爲セシモノタル「多田是ガ廣島輕罪裁判所公判廷ニテ爲シタル口供ニ因  
 テ明カナリ

一又多田是ハ同口供中ニ明治十一年十二月廿五日能勢豐太郎ヨリ相談ノ上及三百圓ノ殘金  
 ハ明治十二年三月限り返濟ノ約定チ爲シタリト云ヒ又其期限中ナルニ翌月貳百五拾圓チ  
 豐太郎へ返濟シタリト云フ而シテ告訴者ノ證據物チ是レハ能勢豐太郎ハ現金ニテ受取シ  
 ニアラス地所チ引受ケ其代金受取證ニシテ相渡シタルモノナレハ宇津宮「カス」ヨリ豐太  
 郎カ現金チ受取之レチ木全精一郎ニ相渡シタルモノニアラサルモノナリ然レハ豐太郎如

何ノ金ヲ以テ精一郎ニ相渡シタルヤモ詳カナラス是レ全ク宇津宮「カス」ト豊太郎カ通謀シテ取渡チ爲シタル手續ヲ詐爲セシ者ナリ然ルチ法官ハ既ニ取引ナシ告訴者第五号証ノ受取証ハ精一郎カ相渡シタルモノト誤認シテ別紙ノ如キ裁判ヲ下タサレシハ不當ノ裁判ナリトス

一 告訴者カ奉呈セシ証據物中能勢豊太郎カ計算書ヲ視ルニ是皆多田是ト協議ノ上詐爲セシニ外ナラス何トナレハ計算書轉末ノ符合セサルノミナラス既ニ三百圓余トナルニ僅カニ貳百五拾圓ヲ渡シ之レチ皆濟セシモノトシ被告精一郎ノ所持スル公正証ハ手残り証ナリト豊太郎カ返リ証ヲ相渡シタルハ宇津宮「カス」ト能勢豊太郎カ通謀ニ出サレハ出來スル理由ナシ是等ニ因テ視ルモ木全精一郎カ請求ハ至當ノ請求ニシテ自分唐一カ之レカ代人トナリ請求セシハ決シテ二重ノ請求セシ同謀者ニハアラサル也然ルチ二重ニ騙取セントシテ遂ケ得サリシ犯罰人ノ從罪ナリト別紙ノ如キ裁判ヲ下タサレタルハ不當ナリトス  
明治十五年十二月一日付ヲ以テ上告追伸書ヲ差出セシモ上告ノ旨趣ヲ擴張スルニ過キサルヲ以テ茲ニ略ス

辨明

上告ニ付原裁判書類ヲ審按スルニ宮本唐一カ被告事實カ原裁判言渡ニ説示スル如ク木全精一郎ノ代理トナリ宇津宮「カス」ニ對シ金三百圓ノ滯金ヲ訴出スルニ當リ同人ノ發意ニ同シ能勢豊太郎ヲシテ金錢判取帳ヲ押匿サシメ已ニ拂濟ノ金圓騙取セントシ審問中之チ掩ハシ爲メ奸計ヲ運ラシ豊太郎ヘ宛タル證書ヲ偽造シ裁判所ニ提出シタルトハ「カス」ノ

總理代人多田是代人高木尉太郎ノ告訴狀共犯人豊太郎ノ自首狀其他證據書類ニ據リ認定セシハ允當ニシテ毫モ不法ト見ルヘキナシ然ルニ唐一ニ於テハ己ニ返濟ニ係金圓ヲ騙取セントセシニアラス全ク公證ノ證書ニシテ正當ニ精一郎カ請求スヘキ金圓ナリト云ヒ又ハ原裁判所ハ豊太郎カ不實ノ自首ヲ信用セラレタリト雖モ果テ正當ニ精一郎カ請求權アル證書ナリ且原裁判所カ認メタル豊太郎カ自首ハ不實ナリト之ヲ確ムル一ツノ反證アルニアラサレハ上告ノ誣旨採用スルニ由シナシ然リト雖モ原裁判所ハ數罪ノ内新舊法ノ比照ニ依リ其情狀重キ刑法第二百十條及ヒ第一百十二條ニ依リ二等ヲ減シ二月以上二年以下ノ重禁錮ト掲載シ而シテ刑ノ當行ニ至テハ其範圍ヲ離レ一月ノ重禁錮ニ處スト言渡シ又刑法第二百十條ヲ適用セシハ相當ナルモ同第一百十二條ヲ適用シ未遂犯ナリト斷定セシハ共ニ不法ノ裁判ナリトス何ントナレハ刑法第二百十條ハ賣買貸借贈遺交換其他權利義務ニ關スル證書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタルモノ云々トアリテ本案唐一カ所爲ハ證書ヲ偽造シ既ニ裁判所ニ提出セシモノナレハ即チ行使シタルモノナリト云ハサルヲ得ス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ明治十五年十月廿六日廣島輕罪裁判所ニ於テ宮本唐一ニ言渡シタル裁判ヲ平翻スル左ノ如シ

宮 本 唐 一

前ニ辨明スル如クナルニ因リ刑法第二百九十條同第二百十條同第一百條ニ依リ其情狀重キ

第二百十條四月以上四年以下ノ重禁錮ニ該ル舊法ニアリテハ賊盜律詐欺取財條詐欺未得財懲役四十日ト改定律例第二百四十六條ニ依リ不應爲重キ懲役七十日ニ該ル因テ刑法第三條及ヒ明治十四年第八十一号布告ニ依リ其輕キ舊法ニ從ヒ

懲役七十日

但偽造ニ係ル文書ハ沒収シ差押ヘ置ク證書ハ還付ス

第千八十四號

○判文(詐欺未得財ノ件)明治十五年十一月十八日上告  
明治十五年十二月廿七日判決

廣島縣安藝國廣島區大手町

九丁目居住平民

菅 本 友 夫

右友夫ニ對シ明治十五年十月廿六日廣島輕罪裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ言渡シタリ  
廣島輕罪裁判所ニ於テ檢察官ノ公訴ニ依リ被告人菅本友夫ニ對スル事件ニ付相當官吏ノ作リタル調書神末「ツル」代人宮本唐一ノ告訴狀倉本茂三郎神末「ツル」財向芳太郎ノ手續書并証書類等ヲ檢シ証人高場大藏事實參考人倉本茂三郎神末「ツル」被告人宮本唐一ノ陳述被告人菅本友夫ノ答辨ヲ聽キ之ヲ審案スルニ被告人菅本友夫カ神末「ツル」ノ代人ト爲リ築谷仲助代人高場大藏ヨリ請取タル金員ニ付明治十四年十一月二日神末「ツル」代人ノ名義ヲ以テ宮本唐一ヨリ計算書ヲ請取リ同人ト示談ノ上金員ヲ授受シタルハ明治十四年

十月十日神末「ツル」代人倉本茂三郎ヨリ宮本唐一ヘ交付シタル定約書ノ趣旨ニ適合スルノミナラヌ高場大藏ヨリ相渡シタル金ハ六拾圓ナリシヨハ高場大藏ノ証書ニ據リ明瞭ナルニ付被告人カ義務者ニ對シ委任主カ裁判上ヨリ得タル權利ヲ擅ニ減殺シ委任主ニ損害ヲ被ラシメタル所爲ハ要償ノ責メニ任スル迄ニテ罪トナルヘキモノニアラサルヲ以テ無罪ト判定スト雖モ明治十三年十一月十四日築谷仲助ヨリ請取タル金三拾圓ハ神末「ツル」ヘ相渡シタル證據ナキヲ以テ右ハ被告人カ輒ク費用シタルモノト認定ス而シテ所犯刑法實施前ニ係ルヲ以テ刑法第三條第二項ニ因リ新舊法ヲ比照スルニ舊法ニ在リテハ雜犯律費用受寄財產條ニ因リ坐贓ヲ以テ論シ一等ヲ減シ懲役二十日新法ニ在リテハ刑法第三百九十五條ニ因リ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ該レリ依テ明治十四年第八十一號布告ニ照シ輕キ舊法ニ從ヒ懲役二十日ニ處ス  
費用シタル金三拾圓ハ民事原告人ヘ償還スヘシ證據トシテ差押タル證書三通委任狀二通ハ被告人ニ還付ス  
菅本友夫ニ於テ右ノ裁判ヲ不當ナリトシ明治十五年十一月二日付ヲ以テ本院ニ差出シタル上告ノ要旨左ノ如シ

第一條

一御宣告中ニ明治十三年十一月十四日築谷仲助ヨリ受取タル金三拾圓ハ神末「ツル」ヘ相渡シタル證據ナキヲ以テ右ハ被告人カ輒ク費用シタルモノト認定ス云々懲役二十日ニ處ストアリ甚以了解セサルナリ如何トナレハ明治十三年十一月十四日築谷仲助ヨリ請取タル

金三拾圓ハ歸村スルヤ否直チニ神末「ツル」實父倉本茂三郎へ相渡シ當時受取證取置タルモ現今紛失致捧呈スルヲ不能ト雖トモ既ニ「ツル」代理宮本唐一ヨリ取置計算受取證中ニ該三拾圓(明治十二年十一月十四日受取)云々明記アル而已ナラス明治十四年三月中廣島裁判所へ負債主難波忠八築谷仲助ヲ相手取り貸金催促出訴致タル際該訴狀面ニモ該三拾圓(明治十三年十月受取)明記シ神末「ツル」奥印セシモノニテ苟モ民事長官エ捧呈シタル訴狀ナレハ公證ノ受取ナリ故ニ三拾圓ノ金員ハ委任主渡シタルハ明瞭タリ則第二號證是ナリ然ルニ單ニ該受取證捧呈シ能ハサルヲ以テ該金三拾圓ハ神末「ツル」へ渡シタル證據無シトセラレ上告者カ輒ク費用シタルモノト認定ナ付シ懲役二十日ノ罪科ニ處セラレシハ不服ニ堪ヘサル所ナリ仍テ上告ニ及ヒ候間公明ノ御裁判奉願候

明治十五年十二月九日付ヲ以テ上告辨明書ヲ差出シタリト雖モ上告ノ旨趣ヲ擴張スルニ過キサルニ依リ茲ニ零ス

辨明

上告ニ付原裁判書類ヲ審按スルニ友夫カ被告事實タル原裁判言渡ニ説示スル如ク相當官更ノ調書神末「ツル」代人宮本唐一ノ告訴狀倉本茂三郎財問芳太郎ノ手續書證人高橋大藏等ノ申立ニ據リ明治十三年十一月十四日築谷仲助ヨリ受取リタル金三拾圓ハ輒ク費用シタルモノナリト認定セシハ允當ニシテ毫モ不法ト見ルヘキナシ然ルチ友夫ニ於テハ仲助ヨリ請取リタル金三拾圓ハ神末「ツル」へ相渡シタル證據ナキモ「ツル」カ實父倉本茂三郎へ相渡シ其當時受取證ヲ取り置キタルヲ紛失シタリ其他事實ニ違ヒアリト云フト雖モ

果シテ上告ノ如ク茂三郎へ相渡シタルトノ反證アルニアラス到底事實覆審ノ請願ニ過キサレハ上告ヲ爲ス原由トスルニ足ラス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十五年十月廿六日廣島輕罪裁判所ニ於テ營本友夫ニ言渡シタル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキニ因リ上告狀却下スル者也

第十八十五號

○判文(持兇器強盜ノ件) 明治十五年十一月廿九日上告  
明治十五年十二月廿七日判決

大坂府攝津國西區梅本町平民

砂

場 初 藏  
明治十五年七月  
三十七年

右初藏ニ對シ明治十五年十月廿七日神戸輕罪裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ言渡シタリ

右者ノ被告タル強盜事件ノ公訴ヲ受理シ審判ヲ遂ケ被告カ現ニ所持セシ金貳百七拾圓及ヒ福原町貸席等ニ於テ支拂ヒタル紙幣ハ皆五圓札ニシテ正ニ被害者カ強奪セラレタル紙幣ノ種類ニ適當スルコト又被告カ所持セシ紙幣ノ内一個ト吉田定兵衛ニ拂ヒシ紙幣一個ニ燒ケ穴アル五圓札ハ被害者カ盜ニ取ラレシ紙幣ナルコトハ吉田定兵衛ノ手續書證人安永廻天及ヒ西谷重吉ノ調書ニ依リ其實明白ナルコト又被告ニ於テ右金貳百圓餘ハ明治十四年八月廿五日兵庫新川ニ碇泊スル船中ニ於テ周防ノ政吉等ト博奕シタル時ノ勝金ナリト云フモ右周防政吉事已決囚山口政吉ハ明治十四年七月十八日捕縛セラレ引續キ拘留ノ上無

期徒刑ノ處斷ヲ受ケタル者ニテ被告カ云フ明治十四年八月廿五日ハ拘留中ナルヲ以テ被告等ト博奕ヲ爲スヘキ理由ナク隨テ被告陳述ノ詐構ニ出ル判然タルコト又被告ニ於テ右周防政吉ナル者ハ對質ヲ受ケタル山口政吉ニアラス全人ハ是迄見知ラサル者ナリト云フモ政吉ノ陳述ニヨレハ全人ノ通稱ハ周防政ニ適當シ且被告ト曾テ博奕ノ仲間ナルコト此他被害者ノ調書探偵掛福多長五郎ノ捕縛景況書堀保三郎ノ探偵上仲書小山佐吉及ヒ被告カ妻砂場「キミ」ノ調書ニ依リ被告初藏ハ二人以上ニテ共謀シ明治十四年八月廿三日夜攝津國神戸區東川崎ノ沖合ニ碇泊スル阿波國板野郡北泊リ浦安達萬吉乘組ノ浮龜丸船中へ抜刀ヲ携ヘ押シ入乗組人ニ暴行ヲ加ヘ金千三百六拾七圓ヲ奪取タル者ト判定ス右ノ所犯ハ刑法實施以前ニ在ルヲ以テ刑法第三條第二項ニヨリ新舊ノ法ヲ比照シ輕ニ從テ處斷スヘキモノトス舊法ニ在テハ明治十年第二十五號布告改正強盜律第二項持兇器強盜財ヲ得ル者ニ付懲役終身又新法ニ在テハ刑法第三百七十八條ニ依リ尙ホ兇器ヲ携帯シ二人以上ニテ犯セル者ニ付全法第三百七十九條ニ照シ二等ヲ加ヘ全第六十七條ニ依リ有期徒刑ニ該ル乃チ輕キ新法ニ從ヒ被告ヲ十二年ノ有期徒刑ニ處ス

但現在ノ贓金ハ取上ケ尙ホ所持品ハ被害者へ賠償ノ爲メ資力限取上ル

該件ハ明治十四年十二月三十一日以前審理ニ着手シタル者ニ付明治十四年第八十一號布告ニ依リ治罪法ニ拘ラヌ從前ノ規則ニ從ヒ處分スル者ナリ

砂場初藏ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十五年十一月一日附テ以本院ニ上告スル旨趣左ノ如シ

第一條

御判文第一項ニ曰ク(被告カ現ニ所持セシ金貳百七拾圓及ヒ福原町貸席等ニ於テ支拂ヒタル紙幣ハ皆五圓札ニシテ正ニ被害者カ強奪セラレタル紙幣ノ種類ニ適當スルコトトアリ之レ實ニ被告ハ了解シ得サル處ナリ何トナレハ被害者カ強奪サレシ金ハ五圓紙幣ニシテ被告カ又所持スル金カ五圓紙幣ナレハトテ單ニ被告ヲシテ強盜ナリト云テ得ンヤ且福原貸席ニ於テ支拂ヒタル金モ皆五圓紙幣ノ如ク記載シアルモ福原町ニ於テ被告カ支拂ヒタル金ハ五圓札モアリ貳圓札モアリ又壹圓札モアリ數種ノ紙幣ヲ取交セアリタルハ吉田定兵衛等ノ申立モアルヘキナリ今茲ニ人リ五圓紙幣ニテ百圓ヲ竊取セラレ又一人アリ五圓紙幣百圓ヲ所持スレハトテ直チニ之レヲ盜賊ナリト斷定シ得ヘキヤ決シテ得ラルヘキニアラサルナリ世間ニ五圓紙幣ハ被害者ノ強奪セラレシ金ト被告カ所持スル金ト而已ニ非サレハナリ然ラハ被告カ所持スル金カ被害者ノ強奪サレシ金ト同種類ナレハトテ奈爲被告ヲシテ強盜ナリト云テ得ンヤ然ルニ神戸始審裁判所ハ紙幣ノ種類カ適當スルトテ直チニ被告ヲシテ強盜ナリト判定セラレシハ實ニ冤枉モ甚太シト云可シ

第二條

判文第二項ニ(又被告所持セシ紙幣ノ内一個ト吉田定兵衛ニ拂ヒシ紙幣一個ニ燒ケ穴アル五圓札ハ被害者カ盜ニ取ラレシ紙幣ナルコトハ吉田定兵衛ノ手續書証人安永廻天及ヒ西谷重吉ノ調書ニ依リ其實明白ナルコトトアリ之レ又被告ハ不服ニ堪ヘサルサリ抑モ自分カ所持セシ金ハ貳百七拾貳圓拾四錢ナリ右ノ金ヲ警察署ニ於テ引揚ケ相成タルモ自分

ノ目前ニ於テ一々相改メタリ其節ニハ決シテ燒ケ穴ノアリタル札ハ一枚モナシ若ヤ斯ノ如キ毀損ノ紙幣カアレハ宜敷自分へ御示シ相成ルヘキニ御改ノ砌リハ一ツモ欠損ノ紙幣ハナケレハ御示シニ相成タルコトモナシ又吉田定兵衛ニ拂ヒタル紙幣云々トアレハ決テ自分カ所持シタル札ニ燒ケ穴ノアリタル紙幣ハナシ即チ吉田定兵衛ニ拂ヒタル紙幣ノ表面ニハ少シク色付キアリタル迄ナリ又燒ケ穴カアリタルモノナレハ之レ毀損紙幣ナリ然レハ貸席等ノ者カ此毀損紙幣ヲ黙々ニテ受取居ルノ理アラフヤ必シモ故障チ云可シ然ルチ該紙幣ハ決テ燒ケ穴ノアラサレハコソ吉田定兵衛モ之レヲ受取リ又同人ニ於テモ直チニ之レヲ他ニ支拂ヒタルコト思慮セリ如何ントナレハ吉田定兵衛ニ於テ決テ該紙幣ヲ始審衙ニ差出シタルコトナケレハコソ亦自分へ御示シニナリタルコトナシ然ルチ始審法官ハ何チ以テ之チ同紙幣ナリト認定セラレタルヤ實ニ怪訝ニ堪ヘサルナリ之レ等ハ事實ニ背反シタル不當ノ誤解ト云ハサルチ得サルナリ

第三條

判文第三四項ニ曰ク(又被告ニ於テ右金貳百圓餘ハ明治十四年八月廿五日兵庫新川ニ碇泊スル船中ニ於テ周防ノ政吉等ト博奕シタル時ノ勝金ナリト云フモ右周防政吉事已決囚山口政吉ハ明治十四年七月十八日捕縛セラレ引續キ拘留ノ上無期徒刑ノ處斷ヲ受ケタル者ニテ被告カ云フ明治十四年八月廿五日ハ拘留中ナルチ以テ被告等ト博奕チ爲スヘキ理苗ナク隨テ被告陳述ノ詐構ニ出ル判然タルコト又被告ニ於テ右周防政吉ナル者ハ對質チ受タル山口政吉ニアラス又同人ハ是迄見知ラサル者ナリト云フモ政吉ノ陳述ニヨレハ同人

ノ通稱ハ周防政ニ適當シ且被告ト曾テ博奕ノ仲間ナルコトトアリ之レ又被告ハ服シ得サルナリ抑モ被告カ所持スル金タルヤ明治十四年八月廿五日ニ兵庫新川ニ碇泊スル周防ノ末吉丸ト唱ル船中ニテ同船々頭三名他ヨリ二名來リ被告ト周防政吉ト都合七名ノ内政吉ハ其砌賭博ハ爲サス外五名ト自分ト博奕チ爲シ其節勝得タル處ノ金ナリ然ルチ其周防政吉ト已決囚山口政吉ハ明治十四年七月十八日捕縛相成云々トアレハ自分カ云フ周防政吉ナル者ハ決シテ右山口政吉ニアラス之レ等ハ判文ニモ在ル如ク對質チ受ケタレハ人カ違イタル故其起キ陳述シ法官モ之レヲ承知セラレナカラ山口政吉ハ周防政ニ適當スル云々ト裁判セラレタルハ實ニ氷解シ得サルナリ自分ハ現ニ對質チ受ケ人違ナル旨上伸シアルニ何チ以テ右山口政吉カ周防政ニ適當スルト看認メラレタルヤ之レ等ハ實ニ不審ニ堪ヘサルナリ況ンヤ右山口政吉ナル者トハ之レ迄一面識モナキ人ナリ然ルチ斯ノ如ク想像ノミチ以テ下サレタル判決ニハ自分ハ飽迄モ甘服シ得サルナリ

第四條

判文第五項ニ曰ク(此他被害者ノ調書探偵掛福多長五郎ノ捕縛景況書云々)トアリ抑モ自分カ神戸警察署ニ拘留相成タルト御審問ノ際船頭体ノ人(之レハ被害者ナラン)ト突合ヒアリタリ此節該船頭体ノ人ノ申立ニハ自分チ看テ之レハ人カ相違スルト申立居ルチ聞キタリ實ニ自分ハ強盜ナトチナシタルコトナケレハ必ス相違シアルハ論チ俟タサルナリ又探偵掛福多長五郎云々トアレハ此福多長五郎ナル者ハ身ハ探偵ノ職務ニアリナカラ不正チ働キ當時ハ逃亡シテ踪跡不分明ノ人ナリ斯ノ如キ不正ノ人カ呈出シタル景況書ニハ何事

ヲ記載シタルヤ何レカ無實ノ事而已ヲ以テ自分ヲ陷イレントスルノ外ナカル可シ其他堀保三郎ノ探偵上伸書小出佐吉自分妻砂場「キミ」ノ調書云々トアレハ堀保三郎ナル人ハ何事ヲ探偵シ上伸セラレタルヤ自分ハ了解シ得ス又小出佐吉ナル人ハ自分ハ知ラサル人ナリ又自分妻砂場「キミ」ヲ調書トアレハ之レハ大坂ニ居リ自分ハ當地へ來リ十四年八月廿五日博奕ニ勝テ同廿七日捕縛サレタル者ナレハ其時ノ景況ヲ妻「キミ」カ知ル可キ理ナシ斯ノ如ク一ツトシテ皆證據モナク事實モナキト而已ヲ以テ自分ヲ強盜ナリト判定セラレハ實ニ不服ニ堪ヘサルナリ

第五條

上來陳述スル如ク神戸始審裁判所カ下タシタル判決ノ單ニ想像ノミヲ以テ無罪純白ノ自分ヲ強盜犯ナリトシ有期徒刑十二年ニ處斷セラレタルハ頗ル甘從シ得サル處ナリ依今般御衛へ奉上告候間何卒事實御審查ノ上神戸始審裁判所ノ誤斷ヲ看破セラレ更ニ公明ヲ以テ自分ヲシテ不測ノ禍害ヲ蒙ラサル至正至平ノ御審裁ヲ奉仰望候叩頭敬白

辨明

上告事件ヲ密接スルニ被告砂場初藏カ犯罪ノ事實ハ原宣告文ニ明示スル如ク安永廻天西谷重吉ノ證言吉田定兵衛山口政吉小出佐吉ノ陳述及ヒ福多長五郎カ捕縛景況書被害者ノ中供等ニ據リ被告ハ明治十四年八月廿三日夜神戸東川崎沖合へ碇泊スル安達萬吉乗組ノ浮龜丸船中へ兇器ヲ携へ押入り乗組人ヲ強迫シ金千三百六十七圓ヲ奪取シタル者ト認定セシハ至當ニシテ毫モ不法ノ点アルナシ然ルニ上告人ハ原裁判官ノ判定シタル事實ハ實

際ニ相反シタル不法ノ裁判ナリトノ趣旨ヲ以テ上告スト雖モ到底事實ノ覆審ヲ請求スルニ過キサレハ之ヲ以テ上告ヲ爲スノ原由トスルヲ得サルモノトス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十五年十月廿七日神戸輕罪裁判所ニ於テ砂場初藏ニ言渡シタル裁判ヲ破毀スヘキ理由ナキニ依リ上告狀却下スルモノ也  
第千八十六號

○判文〔持兇器強盜ノ件〕明治十五年十一月廿九日上告  
明治十五年十二月廿七日判決

和歌山縣紀伊國海部郡湊村平民

古

田 漣 藏  
明治十五年七月  
三十七年

右瀧藏ニ對シ明治十五年十月廿七日神戸輕罪裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ言渡シタリ

右者ノ被告タル賊盜事件ノ公訴ヲ受理シ審判ヲ遂ケ被告カ私通ノ妻タル勢崎「セイ」カ兵庫縣警察署ニ於テ爲シタル陳述ニ被告ハ明治十四年八月廿四日朝砂場初藏ト俱ニ歸宅セリト在リ右八月廿四日朝ハ被害者カ盜難ニ罹リシ廿三日夜ノ翌朝ナルコト又被告カ全警察署ニ於テ吟味ヲ受ケシ節被告カ二次紀州へ立越タル時携帶セシ物品ノ申供春楠ナル者ヨリ商業資本金トシテ五拾圓ヲ借り受ケタリト再三ノ偽供所持金百圓餘ノ原因ニ付申供ノ顛末又被告カ所持金ハ商業ニ付數度其金員ヲ交換シテ最初ノ種類分明ナラサルモ犯時ニ近キ九月一日畔取「スミ」へ與ヘシ金貳拾圓同月三日池田松江ニ與ヘシ金五圓ハ皆十五圓ノ

紙幣ニシテ被害者カ奪取ラレシ物件ニ適當スルコト又被告カ犯時後紀州へ立越シ俄ニ池田「松江」ヲ妾ト爲シ諸道具等ヲ買與ヘシコト付右「マツエ」ノ手續書又被告カ夥多ノ金員ヲ竊カニ預ケシコト付雜賀「マツエ」ノ手續書又被告ハ犯時以前八月廿二日ノ出發ニテ全廿五日紀州へ立越シタリト云フモ畔取「スミ」ノ手續書ニ瀧藏ハ九月一日久々ニテ歸縣セリトアリ又砂場「キミ」ノ調書ニ瀧藏ハ明治十四年八月廿四日頃ニ立越シ其節同入ハ能勢ヲ參詣致シタト申サレタリト在ルコト其他畔取春楠カ再三ノ手續書木島森藏小田佐吉ノ調書及ヒ被害者ノ調書ニ依リ被告ハ明治十四年八月廿三日夜砂場初藏外二人ト共謀シ攝津國神戸區東川崎ノ沖合ニ碇泊スル阿波國板野郡北泊リ浦安達萬吉乘組ノ浮龜丸船中へ抜刀ヲ携ヘ押入右萬吉外數人へ暴行ヲ加ヘ金千三百六拾七圓ヲ奪取クル者ト判定ス右ノ所犯ハ刑法實施以前ニ在ルヲ以テ刑法第三條第二項ニヨリ新舊ノ法ヲ比照シ輕ニ從テ處斷スヘキモノトス舊法ニ在リテハ明治十年第二十五號布告改正強盜律第二項持兇器強盜財ヲ得ル者ニ付懲役終身又新法ニ在テハ刑法第三百七十八條ニ依リ尙ホ兇器ヲ携帶シ二人以上ニテ犯セル者ニ付全法第三百七十九條ニ照シ二等ヲ加ヘ全第六十七條ニ依リ有期徒刑ニ該ル乃チ新法ノ輕キニ從ヒ被告ヲ十二年ノ有期徒刑ニ處ス

但所持ノ金品ハ被害者へ賠償ノ爲メ資力限追徴ス

該件ハ明治十四年十二月以前審理ニ着手シタル者ニ付明治十四年第八十一號布告ニ依リ治罪法ニ拘ラヌ從前ノ規則ニ從ヒ處分スル者ナリ

古田瀧藏ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十五年十一月二日附テ以本院ニ上告スル旨

趣左ノ如シ

第一條

宣告書中私通ノ妻瀨崎「セイ」カ兵庫警察署ニ於テ爲シタル陳述ニ被告ハ明治十四年八月廿四日朝砂場初藏ト共ニ歸宅セシトアルモ決シテ然ルニ非ラス全ク前ノ紙上ニ開陳セシ如ク明治十四年八月廿二日自分ハ和歌山へ歸ラント右初藏トハ相分レ兵庫ヲ出立シテ能勢へ參詣セント同日暮方該所ニ到リ全夜ハ社内ノ萬屋へ一泊シ翌廿三日ハ同處ヲ發足シテ同日后四時頃ニ砂場「キミ」方へ立寄タルニ相違無之然ルモ右瀨崎「セイ」カ陳述トハ符合セサル者ナレハ不服ノ其ノ一ナリ

第二條

全書中ニ在ル犯時ニ近キ九月一日畔取「スミ」又ヒ池田松江ニ與ヘシ金ハ皆五圓ノ帀幣トスレハ被害者カ奪ヒ取ラレシ金ニ適當ストテ自分カ所持スル金ニ疑ヲ入レラル、モ自分カ所持スル帀幣ハ五圓ノミナラス其他拾圓アリ一圓アリ假令自分カ所持スル帀幣皆五圓ナルトスルモ只管五圓帀幣ノミナルヲ以テ正シカラサルモノトセハ他人ノ所持スル五圓ノ帀幣ヲシテ何ナカ稱セン若シ是ヲ正シキ者トセハ自分カ所持スル五圓帀幣ヲシテ豈正ナリトセサルヲ得ン然ラハ不正トハ何ソヤ是レ又不服ノ其ノ一也

第三條

被告カ犯時紀州へ立越シ俄ニ江田「松江」ヲ妾トナシ云々トアルモ然ルニアラス右「松江」トハ七ヶ年已前ヨリノ惡意ヲ結ヒ居ル者ニテ決シテ俄ニ妾トナシタル者ニ無之依テ不服



ノ其ノ一也

第四條

被告カ夥多ノ金員ヲ竊カニ預ケシ云々ト是アルモ雜賀「松江」へ隠カニ金ヲ預ケ云々トアルモ決シテ竊ガニ預ケシ者ニハ無之其實ハ該時荷物ヲ船ニ積込ノ際ニテ取落スヲ憂ヒ荷物運搬ノ終ルマテ鳥渡預ケ置キタルニ有之ヲ右荷物積入テ后直チニ右松江方ニ立寄預ケシ金ヲ受取テノカ爲メ罷越シ候處計ラシヤ其際該家ニ和歌山警察署ヨリ自分呼出ノ書面到着致シ候ニ付早速同署ニ松江同道出頭致タル者ニテ決シテ密カニ預ケ置タルニ無之前述ノ如クナルヲ以テ是亦不服ノ其一也

辨明

上告事件ヲ審按スルニ被告古田瀧藏カ犯罪ノ事實ハ原宣告書ニ明示スル如ク木島森藏小出佐吉被害者ノ證言及ヒ勢崎「セイ」畔取「スミ」池田「マツエ」雜賀「マツエ」カ陳述等ニ據リ明治十四年八月廿三日夜砂場初藏外二名共々神戸東川崎沖合ニ碇泊シタル安達萬吉乘組ノ浮鰐丸船中へ兇器ヲ携へ押入萬吉其他ノ者ヲ強迫シ金千三百六十七圓ヲ奪取シタル者ト認定セシハ毫モ不當ノ廉アルコトナシ然ルニ上告者ニ於テハ原裁判官ノ判定ニ對シ不服ヲ唱へ實際ノ事實ニ相反シタル旨趣ヲ以テ上告ヲ爲スト雖モ到底事實ノ覆審ヲ請求スルニ過キサレハ之ヲ以テ上告ヲナスノ原由トスルヲ得サルモノトス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十五年十月廿七日神戸輕罪裁判所ニ於テ古田瀧藏へ言渡シタル裁

判ヲ破毀スヘキ理由ナキニ依リ上告狀却下スルモノナリ

第千八十七號

○判文(強盜ノ件) 明治十五年十二月四日上告  
明治十五年十二月廿七日判決

岡山縣備前國上道郡光津村

平民

湯

淺 玉 造

明治十五年十一月  
二十三年十一月

右玉造ニ對シ明治十五年十一月八日岡山輕罪裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ言渡タリ

右ノ者強盜ノ次第檢察官ノ公訴ニ依リ審理スル處被告人湯淺玉造カ明治十三年七月三十一日竊盜三犯ノ科ニ依リ懲役十年ニ處セラレ明治十四年二月十七日外役先ヨリ逃走シ爾來播廣國郡村姓名不知農家外七ヶ所ニ忍ヒ入財物ヲ竊取シ逮捕ノ末看守人ノ透ヲ窺ヒ逃走シ明治十四年九月中山田菊造等ト抜刀ヲ携へ備前國上道郡倉田村富田筆吉宅ニ押入家族ヲ縛シ財物ヲ強奪シ或ハ石村周吉ト共ニ魚刀ヲ携へ上道郡椽村學校へ忍入葶繩ヲ盜取其繩ヲ以テ同郡八幡村長野七兵衛方へ押入家族ヲ縛シ財物ヲ強奪シタル等ノ事實ハ被告人ノ自供各被害者ノ申立証證及ヒ犯罪用ニ供シタル兇器等ニ徴スルモ罪狀明確ナリトス而シテ其所爲新法實施以前ニ係ルヲ以テ舊法ニ照セハ賊盜律竊盜四犯財ヲ得ル者云々改正強盜律持兇器強盜財ヲ得ル者云々改定律例第三百一條二罪俱發以重論律ニ照シ懲役終身ニ該當スルヲ以テ刑法第三條ニ依リ新舊法ヲ比照シ輕キ新法ニ從ヒ同法第百條ニ照シ

一ノ重キ第三百七十八條第三百七十九條ニ依リ十五年ノ有期徒刑ニ處シ贓金品ハ各被害者ニ賠償スヘシ

湯淺玉造於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十五年十一月十三日附テ以テ本院ニ上告スル旨趣左ノ如シ

自分儀不心得ヨリ誤テ罪惡ヲ犯シ十五年之有期徒刑ニ處セラレタルハ是以テ免ル可ラスト雖モ然ルニ判文中石村周吉ト共ニ魚刀ヲ携ヘ上道郡穰村學校ヘ忍入葶繩ヲ盜取其繩ヲ以テ同郡八幡村長野七兵衛ヘ押入家族ヲ縛シ財物ヲ強奪シタルト穰ニ警察署ニ於テ自供シタルハ石村周吉ニ對シ自分カ故意アルヲ以テ周吉ヲ強盜ノ罪ニ陷ラセシカ爲メ誣告スト雖其實決シテ石村周吉ト共ニ強盜ヲ犯シタル者ニ無之其實際豫審ノ際具申スヘキノ處豫審終結言渡モナク直チニ公判セラレ無止上申スルヲ不得該夜共犯者ハ御野郡岡村橋上鹿造ナル者ト犯セシ者ニシテ右周吉ナル者ヲ無根ノ罪科ニ陷ラヌルハ憫然ニ付實際具申上告スル所以ナリ

辨明

上告ノ旨趣ヲ按スルニ湯淺玉造於テハ兇器ヲ携ヘ強盜ヲナシ及ヒ竊盜ヲ行ヒタルニ相違ナシト雖モ石村周吉ト俱ニ強盜ヲナシタルトノ申立ハ不實ノ口供ナリト云フニ在ナレハ他人ノ處刑ニ對シ不當ヲ唱フルハ上告ノ理由トナスヲ得ヘカラサル者トス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十五年十一月八日岡山輕罪裁判所ニ於テ湯淺玉造ニ言渡タル裁判

ヲ破毀スヘキ理由ナキニ因リ上告狀却下スル者ナリ

第千八十八號

○判文(強盜ノ件) 明治十五年十二月四日上告 明治十五年十二月廿七日判決

岡山縣備前國御野郡津島村平民

石村周吉

明治十五年十一月三十七年三月

右周吉ニ對シ明治十五年十一月十七日岡山輕罪裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ言渡シタリ

右ノ者強竊盜ノ次第檢察官ノ公訴ニ依リ之ヲ審理スルニ被告人石村周吉カ明治十四年十月十八日ノ夜湯淺玉造ト共ニ魚刀ヲ携ヘ上道郡穰村ノ小學校ニ忍入葶繩ヲ盜取其繩及ヒ魚刀ヲ以テ同郡八幡村長野七兵衛方ヘ押入家屬ヲ縛シ財物ヲ強奪シタルトハ巡查河部俊市ノ證言目黒シニシテ湯淺玉造ノ供述及ヒ被告人豫審調書ニ依リ其證據明確ナリト認定ス依テ之ヲ舊法ニ照セハ二罪俱發以重論律ニ依リ改正強盜律持兇器強盜財ヲ得ル者ニ該當シ之ヲ新法ニ照セハ第百條ニ依リ一ノ重キ第三百七十八條第三百七十九條ニ該當スルヲ以テ刑法第三條ニ照シ輕キ新法ニ從ヒ十三年ノ有期徒刑ニ處スル者也

但犯罪用ノ物件ハ刑法第四十三條ニ依リ取上ル而シテ贓ハ玉造ト連帶シテ被害者ヘ賠償スヘシ

石村周吉ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十五年十一月二十二日附テ以テ本院ニ上告スル旨趣左ノ如シ

第一條

一 探偵巡查河部俊市探偵ヲ自分犯罪無之何ヲ探偵シテ證據ヲ取タルヤ一切相分リ不申全ク探索違ヒニ有之候事

第二條

一 湯淺玉造ト供犯ニ無之己レノ故意ヲ以テ供犯ト上伸シ虛言ヲ以テ申事證據ト被致候事

第三條

一 目黒「シユン」ノ上伸ニ湯淺玉造ト供犯ノ由申立タルコト全ク夜分ニ參リタルコト無之該人ト誘導スルコト無之候得者必ス供犯ト申ハ何ヲ以テ言哉一切虛言タルヘキ事

第四條

一 自分ハ明治十四年十月十八日ノ夜ハ同郡西川原村小橋長次郎方ニ止宿仕候明細書豫審判事補ニ上伸スルト雖佐々木貴下該家ヲ御尋問無之候事

第五條

一 自分儀豫審判事補公判ニ移スノ言渡書謄本寫御下附無之ニ付豫審中趣意ヲ以テ故障シ意存申立候事相成不申無沙汰ニ公判ニ轉移候佐々木殿不適當ナルコト存候事

第六條

公判判事補廣瀨貴下本年八月中旬頃判決ヲ爲スノ言渡シノ際豫審判事補ノ公判移スノ言渡シ無之義不服申立候處廣瀨廷然ハ書類ヲ調ヘ後ヲ豫審ニ戻シ御再審之可有之由申被渡則其際湯淺玉造ヨリモ自分ヲ供犯ト申立タルハ全ク己レノ故意ヲ以テ供犯ニ陷レ

候事實際タル者他ニ有之由同廷前ニテ申立候間尙自分ヨリモ該人ニ迫リ其方ノ爲ニ同囚ニ陷レ永ク獄ニ繋カレ候事以テノ外ニテ速ニ他ノ供犯ヲ自言シテ自分ト供犯ニ非サル事ヲ申立候様人ニ迫候則該人ヨリ直チニ御係リ官廷ニ右理由チ上伸仕候處尙自分ヨリモ實際行タル覺無之ヲ上伸仕ニ依リ然者追テ御調有之トノ事ニ而其儘歸監仕リ後日御再審ヲ蒙リ無罪タル放免ヲ受ルチ相待數通ノ歎願書差出シ置候處其後御沙汰モ無之本月十七日御召喚ニ相成御再審モ蒙リ候哉ト相考ヘ悦ビ出廷致シ候處按ニ相違シ前判ニ被申渡候通リ湯淺玉造ト該家ヘ押入云々ニ付有期徒刑十三年ノ御處斷被仰付候得者公判判事補廣瀨貴下前判ヨリ殆ト五十余日間程只日時ヲ延シ御調無之又候公判ノ言渡シ御判決ニ相成候得者公判判事ニ於テ壓制ノ振舞ニ似タリヤニ相考ヘ公然御調被下候得者無罪ノ者ニテ尙御調無之虛言ヲ吐キ實否ヲ不糺惡囚人等ノ虛說ヲ眞用サレ無實ノ罪ニ陷レシコト法律ニフレ公判判事ノ職務ニ非ヤ自分素ヨリ上伸スル處ト供犯ト申立タル湯淺玉造ノ誤言セシ處ト後悔シテ實際チ上伸スル處ト比較スルキハ自分ノ犯罪相分リ警察署官吏エ申立書ト今ニ至テ符合スルチ以テハ實際御檢査被下候ヘハ相分リ申候間然ル上者自分ニ於テ強盜ヲナシタルノ証憑ノ品等モ無之河部俊市者何ヲ探偵シテ証憑トスル哉不適當ノ探索ニ有之候間是又不審候コト豫審廷ニテ自分犯罪覺ヘ無モ間自白スル義無之何チ上伸シテ強盜ノ証タルヤ如何依テ御裁判不服ニ候

一 自分儀前申上候通リ湯淺玉造ニ面會セシコト則目黒德十郎ナル者警察拘留所ニ面會致シ心易ク相成前ノ御拘留中ノ事ニテ放免後早速ニ尋參リ候處德十郎不在ニテ同家座敷ニ

賭博ヲ致居リ候處へ直チニ參リ候間不斗湯淺玉造ニ面會致シ夫ヨリ四方山ノ嘶シ仕リ  
 自分儀甚々不都合ヲ語リ候ヨリ毎々其元金備テ蒙リ誠ニ貧窮ニ困リ候間金十圓貸吳候  
 ト中ニ付早速承諾致シ金八圓貸吳夫ヨリ該人放免ヲ受タル嘶シ致シ即チ東京ニ參リタ  
 ル等ノ事ヲ語リ最早放免ヲ受タレハ已來惡事ヲ止メ東京へ可行ヤ否ノ嘶シ致シ其日ハ  
 會ニ行シ人不在ニテ別レ歸リシ時玉造ヨリ至急同家ニ又候參リヤ否ヲ問故ヘシカトハ  
 相分リ不申候得共五六日ノ内ニハ參リ度ト存申候處何分己レ此處ニ居ル事親ニ知レテ  
 ハ相濟不申候間内意ニ致シ吳ト申ニ付何心ナク自分ハ其役ニ非サレハ何ヲ云ヘキヤ左  
 候得者後日參ル節銀ト小刀ヲ買來吳レ候ト申ニ付何ニスルヤト相尋候處少々小細工  
 仕候間是非入用トノ事ニテ又候十月廿二日ニ參リ其品買來參リ候處口矢張不知者賭博  
 仕居リ其品ヲ相渡シ德十郎ニ面會セントセシニ又候不在ニテ玉造ニ向ヒ前金不返候テ  
 不濟候得共甚々不都合故今度モ少々ニシテモ貸セ吳レ候ト申最モ其方ニ貸金無之候間  
 ト中大ニ忿劇シテ自分ニ懸候間自分ヨリモ返答致シ互ニ爭論ヲ仕居候處中裁人立入ニ  
 付其儘其人ニ任セ置キ自分ハ德十郎方ヨリ十四五町程東北ノ方シカカ村ト申ニ疝氣  
 ノ灸點ヲオロス者有テ聞自分疝氣ニテ困リ候ニ付尋參リ候處其後へ警察吏御出ニ相成  
 德十郎并ニ家族玉造共ニ捕縛拘引相成候後へ自分返リ候處其嘶ヲ承リ自分モ其場ニ居  
 合時者無實ノ罪ヲ懸ルヘキニ宜敷都合ニテ御座候ト存罷歸ル處其後日備後國出生神川  
 元槌ト申者十一月六日ニ自分ヲ尋參リ候間素ト監獄ニテ見知ル者ニテ早速ニ酒肴取寄  
 放免等之咄シ致シ夫ヨリ岡山區藥町迄誘道仕罷出夫ヨリ分レ歸リ候處其後同月十二日

自分ヲ御拘留ニ相成何ノ趣意ニテ御座候哉ト相尋候處警察署ニ參リ候得ハ相分ルト被  
 申御拘留中則神川元槌ノ告訴ニ依リテノ事ニテ則神川ハ何ヲ御嫌疑ノ廉ニテ御拘留中  
 ニテ自分參リト直ニ留置場ヲ逃走致シ其後自分ヲ屢々御糺斷蒙リ候得共犯ス覺無之ニ  
 へ申上事無之不知由申居候處則湯淺玉造ヨリ十一月十九日ニ御調ニ虛言ヲ以テ自分ト  
 魚刀ヲ以テ參リタル由無實罪ニ陷レ候テ則自分ヲ監獄へ御拘留ニ相成其後ニ該人ヨリ  
 承リ候ニ全ク自分ヨリ德藏方ニ忍ヒ居節互ニ忿リシヨリ官吏ニ公訴シテ縛サセシト一  
 時ノ腹立ヨリ誤リ神川元槌相頼分自ニ面會致シ若シ嘶シノ内自分ヨリ該人ノ事ヲ告訴  
 セシチ申タレハ己レニ替リ玉造ト同類ニテ強盜ニ參リタルト申告訴致シ吳レ候様相願  
 若シ自分拘留ニ相成候得ハ己レヨリモ引込候様ニ供犯ト申立候間何卒依頼致シ候ト申  
 ニ付神川ヨリ自分ヲ告訴セシニ依リ一時誤テ申立タルト後日ニ至リ自分ヨリ告訴セシ  
 一無之由相分リ候ニ付後悔致シ候ニ付實際本心ヲ露シ實事ヲ上伸仕リ夫ニ付目黒「シ  
 ユン」モ則是ニ基キ虛言ヲ申立タヤト被存候間何卒高官ノ御明瞭ヲ以テ該人等故意ナ  
 ルト御確定被下依テ御再審ヲ願ト雖モ御採用無之何率特別ノ御憐恤ヲ以テ大審院長  
 ノ御判決ヲ蒙リ犯罪ノ有無ニ至テハ現ニ事實ニ就テ非ラサレハ証憑明瞭シ難シトス然  
 ルチ是レ故意ヲ以テ頑愚嫉妬ノ念ヨリ一時私罪ニ陷シテ誣言故サラニ法官片言以テ認  
 定ストノ判決ニ甘シテ服ス可能ナリ右之理由ナルヲ以テ原裁判ヲ破棄シ至當ノ御公  
 判アラント乞フ

辨明

夫レ被告事件ノ事實ヲ認定スルハ原裁判所承審官ノ主權ナリトス今上告ニ因リ原裁判所ノ簿冊ヲ審閱スルニ共犯人湯淺玉造カ警察署ニ於テ爲シタル口供目黒「シユン」ノ口供岡山警察署詰探偵係リ河合伊平次外二名ノ捕獲景況書等ニ照シ原裁判所ニ於テ明治十四年十月十八日夜湯淺玉造ト共ニ魚刀ヲ携ヘ強盜ヲ行ヒタルモノト認定シ前記宣告書ノ如ク斷定シタルハ不法ノ裁判ニアラストス而テ本案上告ノ旨趣ハ原裁判所ノ事實ノ認定ニ對シ徒ラニ不服ヲ唱フル者ニ過キサレハ上告ノ理由トナスヲ得サル者トス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十五年十一月十七日岡山輕罪裁判所ニ於テ石村周吉ニ言渡タル裁判ヲ破毀スヘキ理由ナキニ因リ上告狀却下スル者ナリ

第千八十九號

○判文(闘毆ノ件)明治十五年四月廿四日上告  
明治十五年十二月廿八日判決

備前國岡山區門田屋敷士族大澤  
清二男當時東京府京橋區大鋸町  
壹番地寄留永島丸第三號船々長

大 澤 成 遂

明治十五年四月  
二十八年二月

明治十五年四月十五日千葉輕罪裁判所ニ於テ右大澤成遂外三名ニ左ノ裁判ヲ言渡シタリ  
被告事件檢察官ノ公訴ニ因リ審理ヲ遂クル處豫審廷ニ於テ被告共四名及ヒ山本豐太郎カ

申立ニ因リ豫審判事ノ作リタル調書警察官吏ノ檢証調書具狀書証人攝取素彥カ陳述被害者ノ告訴狀始末書陳述書津村宗七始末書巡査ノ具狀書

以上ノ諸証憑ニ據リ被告成遂ハ明治十四年十一月廿二日江戸川筋柴又村地先ニ於テ永島丸ト通運丸ト衝突セシメテ談判セント通運丸ノ停航セル場所即チ松戸驛川岸ヘ其船永島丸ヲ寄セントシタルニ過テ之ニ衝突セリト供出スレヒ其談判ハ爲サスシテ返テ被告武八外二名ヲ激唆シテ故ラニ之レカ衝突ヲ爲サシメ以テ石炭塊ヲ投擲シ闘毆シタルノ教唆者ナリト認定シタリ又被告武八彌吉菊次郎ハ其衝突ノ際石炭塊ヲ投擲シ或ハ棹ヲ以テ毆打シ因テ津村宗七ニ創傷ヲサシメタル者ナルヲ証明ス

仍テ之ヲ法律ニ照スニ所犯新法施行以前ニ在ルヲ以テ刑法第三條第二項及ヒ明治十四年第八十二號公布ニ依リ新舊法ヲ比照シ其輕キ新法即チ刑法第三百一條第三項疾病休業ニ至ラスト雖ヒ身體ニ創傷ヲ成シタル者ハ十一日以上二月以下ノ重禁錮ニ處ス同法第二百五條二人以上共ニ人ヲ毆打創傷シタル者ハ現ニ手ヲ下シ傷ヲ成スノ輕重ニ從テ各自ニ其刑ヲ科ス若シ共毆シテ傷ヲ成スノ輕重ヲ知ルル能ハサル時ハ其重傷ノ刑ニ照シ一等ヲ減ス但教唆者ハ減等ノ限ニ在ラストアルヲ照シ被告武八彌吉菊次郎ヲ重禁錮一月ニ處ス可キモ其共毆シテ傷ヲ成スノ輕重ヲ知ル能ハサルヲ以テ一等ヲ減シ各重禁錮廿二日ニ處ス被告成遂ハ舊法輕キヲ以テ舊法ニ依リ即チ闘毆律闘毆條凡闘毆手足ヲ以テ人ヲ毆テ云々瓦石棍棒ヲ以テ人ヲ毆テ傷ヲ成サ、ル者ハ懲役三十日傷ヲ成ス者ハ懲役四十日云々原謀者ハ手ヲ下スト雖ヒ傷輕ケレハ一等ヲ減ストアルヲ照シ懲役四十日ニ一等ヲ減シ十族ヲ

ルヲ以テ改正閩刑律ニ依リ閩刑ニ換ヘ禁獄三十日ニ處斷ス  
 本案ハ明治十四年十二月三十一日以前ニ受理シタルヲ以テ明治十四年第八十二號公布  
 ニ照ラシ從前ノ規則ニ從テ處分ス  
 大澤成遂ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十五年四月廿日本院ニ差出シタル上告狀ノ  
 要旨左ノ如シ

第一條 事實ノ概略

上告人カ乘組ノ瀛船ハ永島丸第二號船ニシテ告訴者ノ乘組シ瀛船ハ通運丸第二號船ナリ  
 右兩船トモ江戸川筋航川ノ營業ヲ爲ス處タリ而シテ永島丸ハ明治十四年十一月廿二日  
 第三時半ノ頃ヒ東京地方ヲ解纜シ行徳川岸ニ於テ暫時停船ノ後成遂ハ發病ノ爲メ瀛船ニ  
 關スル百般ノ事務ハ山本豐太郎及染谷武八ノ兩名ヘ委托シ成遂ハ會計部屋ニ俯伏ナシタ  
 リ從是豐太郎武八ニ於テ船務ヲ取り瀛船ヲ上流ヘ進行スルノ際柴又村地先ノ中流ニ於テ  
 尾行シ來レル通運丸第二號船ハ横合ヨリ我カ永島丸ニ衝突シテ以テ「ドストル」及ヒ「ル  
 イデ」等ヲ散々ニ毀壞シ無斷進航セントスルニヨリ豐太郎武八ハ其行爲ヲ質サン爲メ  
 一言ヲ發セシカハ通運丸ノ水夫高木春吉ナル者甲板ニ在リ旗竿ヲ以テ豐太郎ヲ歐打シ  
 面部ニ負傷ヲサシメタル而已ナラス頻リニ炭塊ヲ我船ニ投擲セシ等ノ騷キニ成遂カ夢驚  
 キ何事ナラント水夫等ニ事情ヲ質セシ折シモ通運丸ハ益機關速力ヲ強クシ以テ我船ニ先  
 キタテ上流ヘ駛走セシニヨリ成遂ハ其儘再ヒ病褥ニ就キ相伏シタリ故ニ永島丸ハ通運丸  
 ニ後レ徐々進行セシ折柄通運丸ハ松戸驛ノ相馬勘右衛門カ川岸ニ停船シ居ルヲ認メ忽然

最前ノ顛末ヲ談判セントノ意ヲ生シ我船ヲ近寄セントスルニ當リ誤テ通運丸ニ衝突シタ  
 ルヨリ通運丸ノ水夫等ハ棍棒竿棹等ヲ以テ我船ノ乘組人ヲ毆擲セント欲シ船體ニ疵ツケ  
 又或ハ炭塊ヲ投シ乗組人ニ危害ヲ加ヘントノ况情アリシヨリ我船乘組ノ水夫ニ於テモ之  
 レカ防衛ヲ爲サン爲メ武八等ノ坐側ニ飛來セシ炭塊ヲ彼船ニ投歸セシモ我船ノ水夫等  
 ニ於テハ素ヨリ腕力ニ訴フルノ意ナク單ニ彼ノ暴戻ヲ禦クノ意ナレハ敗兆ノ摸樣アリシ  
 ナ憤懣ニ思ヒタルモノニヤ乗組人ノ中幫助ヲ爲セシ者アリシ由彼是瞬間ノ騷亂ニ成遂ハ  
 打驚キ煩悶ヲ忍テ甲板上ニ出水夫等ヲ警メ騷亂ヲ停メ以テ同所ヲ去リ上流ヘ進航セシメ  
 タル折柄成遂ガ病狀益々盛ンニシテ堪ヘカタク流山村ノ地先ニ於テ永島丸第二號船ニ乘  
 移リ歸京爲セシノ末三號船ハ群馬縣上州早川田ニ着船休憩ノ際松戸警察署詰大塚丸等警  
 部殿外巡查一員通運丸ニ乘組該地ヘ出張ノ上騷亂ノ顛末等ヲ糾問セラレ併セテ我永島丸  
 毀損所ノ現狀ヲ檢斷セラレタリト以上本業事實ノ概略ニシテ成遂カ意ニ出タル闘争ニア  
 ラサルヤ武八其他二名ノ水夫及ヒ豐太郎カ申供且ツ警察官檢證處分ノ際告訴人藤田正平  
 等ノ申立書ニ徴シテ明晰タリ

第二條 論告

- 第一項 被告ノ利益ト爲ルヘキ證據ヲ取ラサルヲ不法トスルコト
  - 第二項 證據ノ効用ヲ謀リ無實ノ認定ヲ降サレタルヲ不法トスルコト
  - 第三項 刑法ノ運用ヲ誤リ不當ノ裁判ヲ與ヘラレタルヲ不法トスルコト
- 第一項ヲ論ス

凡罪科ヲ糾治スルニハ公訴權ト辨護ノ權ヲ同等無偏之地ニ措キ而シテ公訴ノ證ト辨護ノ證トヲ對照シ之レカ審決ヲ爲サレハ終ニハ無辜ヲ罰シ有罪ヲ釋スニ至ルヤ必セリ然ルチ原裁判所ハ殊更ニ公訴ノ證而已チ採リ被告辨護ノ證タル埼玉縣ニ等屬及ヒ東京府平民伊東宗二等ノ人證アルニヨリ之レカ喚問ヲ乞ヒシモ採可ナク又明治十四年十一月廿三日警察官ニ於テ檢斷ノ際告訴者ノ申立等ニ成遂等カ利益ト成ルヘキ事實ノ條件アルニ原裁判所ハ是等ノ證ヲモ採ラス遂ニ無辜者タル成遂等ヲ罰スルニ至リシハ豈不法ナラスシテ何ソヤ夫有體ノ證蹟ナキハ必シモ人證ヲ取ラサル可カラサルハ成文律ニ示ス處ナレハナリ

第二項ヲ論ス

第一節 原裁判所ガ成遂チシテ犯罪ノ教唆者ナリト認定セラレタルハ其何等ノ證左ニ依リシヤ未タ推知シ得サル處ナルモ想フニ判文第一項ニ掲ケアル證左ノ外ニ出サル可シ而シテ其第一證タル豫審ノ調書ヲ觀ルヘシ成遂カ教唆者タリ否犯罪者タルノ供述アラサルコト果シテ然ラハ該調書ヲ以テ成遂カ犯罪者ナリ其教唆者タリト認定スルノ材料ト爲スニ足ラサルヤ萬々ニシテ警察官吏ノ檢書調書ニ於ケルモ亦然リ然ル所以ノモノハ何ソヤ即チ事實アラサレハナリ其第二タル具狀等及ヒ第四證人楯取素彦カ陳述書ノ如キハ其何等ノ事柄チ書載シタルモノナルヤ成遂等ハ未タ曾テ見聞セサル處ナルモ是以テ成遂カ犯罪ノ教令者ナリ否共犯者ナリトハ筆記シアラサルヘシ若シ成遂カ罪犯ナリ教令者ナリト明記アリトモハ成遂チ曲庇スルノ意ニ出タルモノナルヤ必セリ如何トナラハ明治十四年十

一月二十三日ニ於テ警察官カ檢證處分ノ際ニ告訴者タル藤田正平ト成遂カ連署ノ上差出タル調書ニ成遂等カ故意ヲ以テ衝突ナサシメタルモノニアラサルコト瞭然記載シアル而已ナラス現ニ警察官ノ目撃セラレシ處ナレハナリ又其第五タル告訴狀ニ明記アル處ノ云々タルヤ檢證處分ノ際告訴人ト成遂トカ連署ノ上進呈シタル明治十四年十一月二十三日付ノ書面ニ於テ消滅シ無實ノ告訴タルコト判然タリ眞シヤ一歩チ進メ告訴人ノ自供ハ今ニ存セルモノトスルモ成遂カ犯罪者ナリ其教令者ナリトハ指示シアラサレハ是亦成遂カ犯罪者ナリト認定スルノ證左ト爲スニ足ラサルナリ其第六タル始末書及ヒ第七タル陳述書ノ如キハ成遂等カ提供シ本案事實ヲ詳出シタルモノニシテ其第八証タル津村宗七ノ始末書ハ何等ノモノナルヤ明知セサレヒ判文第二項ニ津村宗七ハ創傷爲サシメ云々トアルヲ見レハ負傷ノ証左ニ供セラレシモノ、如クナレヒ津村宗七カ果シテ鬪毆ノ爲メ負傷シタリトノ醫師カ診斷書モナク且宗七ハ成遂等ニ對シ告訴等チモ爲サ、ルヲ見レハ鬪毆ノ傷ニアラスシテ他ノ傷痕ナルヤモ計リ知ル可カラズ況ンヤ聞ク處ニヨレハ宗七ハ通運凡ニ關係アルモノナレハ成遂等チ曲庇スル爲メ提出シタル始末書ナルヤモ亦知ル可カラズ以上公判ニ用ヒラレタル處ノ証左ハ一モ成遂カ犯罪者タリ又其教令者タリト推定シ得ラルヘキ証據ハ絶テアラサル處ナルニ判文第二項ニ於テ被告成遂ハ

云々

鬪毆シタルコトノ教唆者ナリト認定セラレシハ不法ノ極点ナリ

夫罪チ斷スルハ証ニ據ル証ナキチ論セストハ法理ノ原則ナルニ原裁判所ハ其罪犯タル証左モナキ無辜人タル成遂等ニ有罪ノ宣告ヲ爲セシハ證據ノ効用ヲ誤認セラレシモノニア

ラスシテ何ソヤ

第三項ヲ論ス

第一節 前陳ノ次第ニテ成遂等ハ毫モ罪ヲ犯スノ意アラサルモノナレハ刑法第七十七條ニ依リ所斷セラルヘキモノナルニ證據ノ効用ヲ誤認シ以テ本刑ヲ科セラレシキ不法トシ破毀ヲ求ムルノ一要点トス

第二節 眞シヤ一歩ヲ譲リ成遂等ハ水夫ト共ニ刑法第三百一條第三項ノ罪ヲ犯シタルモノト仮定シ第三百五條ニアル若シ以下ノ成文ニ依リ本刑ニ一等ヲ減シ三日以上廿二日以下ノ範圍内ニ於テ處斷セララルヘキモノトスルモ成遂獨リ舊法ノ重キ答四十ノ範圍ニ依リテ論斷セラレシハ則チ刑法第三條第二項及ヒ明治十四年第八十一號公布ノ成文ニ違犯シタル處斷ナリシヤ明カナリ故ニ此不法ヲ以テ破毀ヲ需ムルノ第二要点トセリ

第三節 今又數十歩ヲ譲リ成遂ヲ毆打ノ教唆者タリ共犯者タリト仮定スルモ刑法第三條ノ成文ト明治十四年第八十一號公布ノ旨ニ依レハ成遂ニ科セラルヘキ本刑ハ刑法第三百一條ノ第三項則チ十一日以上二月以下ノ範圍内ニアルモノニシテ舊法罰則條第五項ノ成文ニ於テ原謀者ハ云々一等ヲ減ストアルニ依リ其一等ヲ減シ三日以上廿二日以下ノ重禁錮ニ科ナルヲ本刑ト爲シテ明治十年十一月二日第七十六號ノ公布ニ士族ハ禁獄ニ處ストアルニヨリ明治十四年八十一號ノ公布ニ照ラシ重禁錮ヲ輕禁錮ニ換ヘ處斷スヘキモノナルニ原裁判所ハ法律ノ適用ヲ過リ成遂ヲ舊法ノ重キニ處斷セラレタルヲ不法トシ以テ破毀ヲ求ムルノ第二要点トセリ

第四節 毆打ノ現狀ハ成遂親シク目撃セサル處ナルニ聞ク所ニ依レハ一日兩回ノ毆打毎ニ告訴者タル通運丸ノ乗組人ニ於テ手ヲ下シタルモノニシテ永島丸ノ水夫等ヨリ手ヲ下シタルニアラス武入等カ一ニノ炭塊ヲ投還セシハ不得止ノ防禦ニ出テシ者ナルヲ原裁判所ハ告訴者ノ犯罪ヲ不問ニ措キ獨リ防衛ヲ爲シタル永島丸ノ水夫及ヒ成遂等ニ罪ヲ科セシハ不法ト思考シ破毀ヲ需ムルノ第四要点トセリ

第五節 況ンヤ原裁判所ハ犯者ニ非サル成遂ヲ共犯者ノ中ニ加ヘラレタル而已ナラス成遂ヲシテ教唆者タル無證ノ推定ヲ降シ以テ罪ヲ科セラレタルノ不法ナルニ於テチヤ前顯ノ理由ニシテ原裁判所ノ宣告ハ頗ル不法ナル者ト確信シ服膺スル能サルカ故謹テ上告ヲ致ス處ナレハ原裁判ハ速ニ破毀セラレ更ニ公明至正ナル御英斷成シ賜リ度此段奉懇願候大澤成遂ニ於テハ明治十五年五月九日左ノ補正書ヲ差出シタリ  
右申上候千葉輕罪裁判所ノ裁判宣告ヲ不服トシ明治十四年四月十八日付ヲ以テ上告申立  
チ爲シ同月廿日付ヲ以テ上告趣意書ヲ奉呈セシ處今般尙又左ノ二項ヲ追補仕且前ニ上呈致シタル趣意書中三日以上ト記載致セシハ七日以上ノ誤寫ナルニ付三ノ文字ハ七ト御認メ被下度茲ニ陳告仕候  
其他第一二項ハ前上告ノ旨趣ヲ擴充スルニ過キサレハ之ヲ略ス

辨明

上告ニ因リ原簿冊ヲ審閱スルニ永島丸第三號船長即チ大澤成遂ハ疾病ニ罹リ百般ノ事務會計方山本豐太郎水夫染谷武八ニ委託シ寐臥致シ居リタルコトハ豫審席ニ於テ爲シタル問



答書ニ(明治十四年十一月廿二日午後三時三十分頃東京ヲ出船シ自分ハ風邪且痔疾ニテ會計室ニ臥シ居リ)云々又山本豊太郎カ原警察署へ差出シタル始末書ニ(船長成途ハ不快ニシテ船長事務擔當ハ自分并ニ私船乗組ノ一等水夫染谷武八ノ兩名へ依頼シ會計部屋ニ俯居候儀ニ有之)トアリ又染谷武八カ豫審席ノ問答書ニ(問成途ハ何病ナルヤ答東京ヲ出ルキヨリ腹痛ノ趣ニ承リタリ)トアリ其外上原彌吉引田久藏等ノ供述ニ依ルモ成途カ該時病氣中ニシテ船務ニ從事セサルコトハ知ル可キナリ又上告人カ豫審席ニ於テノ問答書ニ(柴又村地先キニ於テ衝突シタルコト掛合ハントシ船ノ運轉方ヲ掌リ居ル染谷武八へ通運丸カ停止スル松戸川岸へ我船ヲ轉スル様申聞ケ夫ヨリ武八カ其号令ヲナシ即上原彌吉楫ヲ取り居ルニ付運轉シタル譯ニ之レアルナリ)トアリ又山本豊太郎カ豫審席ノ問答書ニ(問然ラハ成途ハ衝突ノコトハ如何シテ知リシヤ答自分カ衝突ノコトヲ話シタル處然ラハ其事ヲ掛合ト云フ通運丸カ松戸川岸ニ停船中自分方ノ船ヲ乘行又其時衝突シタリ)云々染谷武八カ豫審席ノ問答書ニ(問松戸川岸ノ方へ寄リシハ何故カ答通運丸へ前衝突ノコトヲ談判セント自分并ニ山本豊太郎ト相談ノ上船ヲ寄セシナリ)又(問衝突ニ付汝ノ過チナキヤ答自分ハ楫ノ取り方ヲ指揮スルコトヲ掌リ居リ其際指揮ノ致シ方カ不宜故過テ通運丸へ衝突セシハ自分ノ過チナリ)云々トアリ又關毆者染谷武八上原彌吉鈴木菊次郎カ供述ヲ審查スルモ一モ成途カ教唆ニ從ヒシコト申立テサル而已ナラス其他故テニ衝突或ハ關毆等ノ教唆ヲナシタル證左毫モ見ル可キナシ然ルチ原裁判所ニ於テ成途ニ對シ教唆者ト認定スト言渡シタル裁判ハ不當ノ裁判ナリトス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ明治十五年四月十五日千葉縣罪義判所ニ於テ大澤成途ニ言渡シタル裁判ヲ平翻スルコト左ノ如シ

大澤成途

前辨明ノ如クナルニ依リ

無罪

第千九十號

○判文(詐欺取財ノ件)明治十五年五月十九日上告  
明治十五年十二月廿八日判決

廣島縣安藝國安藝郡渡子島居住

平民菓物賣買商

沼田作太郎

明治十五年四月  
三十七年四月

同縣廣島區大手筋町目居住平民農

篠原仁三郎

明治十五年四月  
四十二年五月

明治十五年四月廿九日廣島縣罪義判所ニ於テ右作太郎外一名ニ對シ左ノ裁判ヲ言渡シタリ

沼田作太郎

右沼田作太郎儀詐欺取財及ヒ財産隱匿ノ被告事件併シテ爰ニ檢察官ヲ公訴狀豫審判事ノ

調書濱本島吉カ自首并證書押領ノ告訴狀證人平野甚作平野新之助佐々木柳三郎林松三郎  
 崎本儀右衛門岩原啓之助片山直太郎篠原仁三郎井阪茂八カ調書并手續書事實參考人寺西  
 倉之助ノ手續書被告人カ財産調書其他證書類等ヲ檢閲シ仍ホ被告人ノ答辨及右証人ノ陳  
 述ヲ聽キ被告人沼田作太郎ハ明治八年七月十四日濱本島吉カ身代限ヲ爲サントスルニ臨  
 三債主ヲ欺キ金員ヲ詐取セシ爲メ濱本島吉ニ關リ自己ノ名宛ニテ島吉ヲ負債主トナシ金  
 七百六拾九圓四拾錢金百圓金八拾圓ノ地所書入證三通ヲ詐爲シ戸長ノ公證ヲ受ケ自己ニ  
 預リ置キタル處濱本島吉カ其所爲ノ不正ナルヲ悔悟シ身代限ノ手續ヲ止メ其證書ノ取  
 戻ヲ被告人ニ請求シタルニ被告人ニ於テ金七百六拾九圓四拾錢金八拾圓ノ證書三通ノミ  
 ヲ還付シ金百圓ノ證書壹通差押ヘ置キ明治十四年一月篠原仁三郎ヘ對シ負債償却ノ爲メ  
 身代限差出シ借金三百五拾圓全ノ爲メ右詐爲シタル百圓ノ證書壹通ヲ元利金三百拾圓ノ  
 計算ニテ篠原仁三郎ヘ引渡シ同人ヘ對シ正當ニ拂フヘキ金三百五拾圓全ノ義務ヲ免レ又  
 明治十二年四月十六日井阪茂八ヨリ訴訟入費金拾三圓四拾二錢ノ請求ノ受ケ身代限ヲ差  
 出ス際所有ノ財産ヲ隱匿シ壹品モ之ナキ旨届出債主ヲ欺キ右金拾三圓四拾二錢ハ追テ身  
 代特直シ次第償スヘキ旨ノ新規證書ヲ井阪茂八ヘ交付シタルモノト認定ス右所犯刑法頒  
 布以前ニ係ルヲ以テ乃チ之ヲ法律ニ照スニ

刑法第三條第二項ニ若シ所犯頒布以前ニ在テ未タ判決ヲ經サル者ハ新舊ノ法ヲ比照シ輕  
 キニ從テ處斷ストアリ  
 新法ニ於テハ

刑法第二百十條ニ賣買貸借贈遺交換其他權利義務ニ關スル證書ヲ偽造シ又ハ増減變換シ  
 テ行使シタル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四拾圓以下ノ罰金ヲ附加  
 ストアリ

同第二百十二條ニ此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ  
 監視ニ付ストアリ

同第二百九十四條ニ人ヲ欺罔シ又ハ恐喝シテ財物若シハ證書類ヲ騙取シタル者ハ詐欺取財  
 ノ罪ト爲シ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四拾圓以下ノ罰金ヲ附加ストアリ

同第三百九十四條ニ前數條ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付  
 ストアリ

同第一百條ニ重罪輕罪ヲ犯シ未タ判決ヲ經スニ罪以上俱ニ發シタル時ハ一ノ重キニ從テ處  
 斷云々輕罪ノ刑ハ其所犯情狀最モ重キ者ニ從テ處斷ストアリ

同第一百四條ニ二人以上現ニ罪ヲ犯シタル者ハ皆正犯ト爲シ各自ニ其刑ヲ科ストアリ  
 右ニ依リ其情狀最重キ第二百十條ニ因リ四月以上四年以下ノ重禁錮四圓以上四拾圓以下  
 ノ罰金第二百十二條ニ因リ六月以上二年以下ノ監視ニ該レリ舊法ニ於テハ詐僞律詐爲官

文書條例第二百四十六條ニ凡ソ私ノ文書ヲ詐僞スル者ハ情ヲ量リ不應爲ニ問ヒ輕重ヲ分  
 ツトアリ雜犯律不應爲條ニ云々ノ事ヲ爲ス者ハ管三十事理重キ者ハ杖七十トアリ賊盜律  
 詐欺取財條ニ凡官私ヲ詐欺シテ財物ヲ取ル者ハ并贓ニ計ヘ竊盜ニ準シテ論ス罪流三等ニ

上ル云々トアリ

名例律ニ罪俱發以重論條ニ凡二罪以上俱ニ發覺スレハ一ノ重キ者ヲ以テ論シ云々トアリ  
同律共犯罪分首從條ニ凡共ニ罪ヲ犯ス者ハ造意者一人ヲ以テ首ト爲シ云々トアリ  
右ニ依リ一ノ重キ賊盜律詐欺取財條ニ因リ贓金三百圓以上懲役十年ニ該レリ  
右ノ理由ナルヲ以テ被告人沼田作太郎ヲ明治十四年第八十一號公布新舊比照法ニ照シ輕  
キ新法ニ從ヒ重禁錮壹年ニ處ス

但詐爲シタル金百圓ノ證書ハ篠原仁三郎ヨリ追徵官沒ス

篠原仁三郎

其方義沼田作太郎カ身代限ノ際入札ヲ以テ買受ケタル借主濱本島吉金主沼田作太郎ヘ宛  
タル金百圓ノ借用證書ハ詐爲ニ係ルヲ以テ追徵官沒スル者也

沼田作太郎篠原仁三郎ハ右ノ裁判ヲ不服トシ明治十五年五月七日同九日付ヲ以本院ニ差出  
シタル上告ノ要領左ノ如シ

沼田作太郎上告ノ要領

第一條

一自分儀詐欺取財及ヒ財産隱匿ノ被告事件併セテ御裁判御言渡ニ相成タル御文中ニ〔濱  
本島吉カ自首并ニ證書押領ノ告訴狀証人平野甚作平野新之助佐々木柳三郎林松三郎島本  
儀右衛門岩原啓之助片山直太郎篠原仁三郎井坂茂八カ〕ト有之抑証人平野甚作儀ハ告訴  
人濱本島吉ノ爲メニハ妻ノ兄ナリ又証人平野新之助儀ハ証人平野甚作ノ弟ナリ且証人佐  
々木柳三郎儀ハ告訴人濱本島吉ノ婢ナリ何シトナレハ治罪法第百八十一條ニ依テ見テモ

親類カ證人トナルハ御採用ナル可キ者ニアラサルハ言フヲ不依儀ナリ是第一ノ不服ニ御  
坐候

第二條

一證人御尋問ノ儀ニ於ケル豫審判事ハ公判ノ長ニ於テ御宣誓アリテ后御尋問可相成儀ハ  
治罪法第百八十一條ニ有之ト雖モ御宣誓無之且證人九名ノ内篠原仁三郎ハ自分ノ金主ナ  
リ且濱本島吉ヨリ自分ニ差入タル公證ニ篠原仁三郎ヨリ金自分ニ立用致與タルニ付右公  
正證ヘ對シ濱本島吉ヨリ金返濟方日數猶豫證書ヲ篠原仁三郎受取居ル金主タサンテ御裁  
判御言渡御文中ニ證人篠原仁三郎トアルハ是第二ノ不服ニ御坐候

第三條

一今般參考人寺西倉之助ヲ御召喚相成手續書捧呈スルニ依リ御裁判御言渡相成御文中ニ  
〔參考人寺西倉之助〕トアリ元來寺西倉之助ハ自分父沼田市郎右衛門弟故ニ自分ノ伯父ナ  
リ已ニ自分儀濱本島吉ヨリ證書押領ノ告訴ヲナシ其參考人トナル由縁ハ去ル明治九年以  
來自分父沼田市郎右衛門ヨリ自分伯父寺西倉之助ニ預ケ置キシヲ其儘伯父倉之助取返差  
戻シ不異ヨリ明治十一年十一月地券證戻シ方終ニ廣島區裁判所勸解ヘ訴上候處自分伯父  
寺西倉之助ハ廣島警察署ニ願出候ヨリ安藝郡渡子島受戸長片山直太郎其外村内ノ者四五  
名立入前段寺西倉之助ナル者取込タル地券證ノ畝歩ヲ二ツニ分チ一分ヲ倉之助ヨリ差戻  
且金拾圓ヲ倉之助ヨリ自分ヘ山地代價代リニ渡與該件濟方相成候際ヨリ伯父寺西倉之助  
ト自分トハ不和ニ相成居候段ハ元糾問係リ水村殿ニ奉上申候得共敢テ御引上ケ無之元來

不和ニ相成居ル寺西倉之助ヲ參考人ニ相成儀ハ第三ノ不服ニ御坐候

第四條

一御裁判御言渡書ノ御文中ニ(參考人寺西倉之助ノ手續書被告人カ財産調書其他證書類等ヲ檢閲シ仍ホ被告人答辨及ヒ右證人ノ陳述ヲ聽キ被告人沼田作太郎ハ明治八年七月十四日濱本島吉カ身代限ヲ爲サントスルニ臨ミ債主ヲ欺キ金員ヲ詐取セシ爲メ濱本島吉ヲ圖リ自己ノ宛ニテ島吉ヲ負債主トナシ金七百六拾九圓四拾錢金百圓金八拾圓ノ地所書入証三通ヲ詐爲シ戸長ノ公正証ヲ受ケ自己ニ預リ置キタル處濱本島吉カ其所爲ノ不正ナルヲ悔悟シ身代限ノ手續ヲ止メ其証書ノ取戻ヲ被告人ニ請求シタルニ被告人ニ於テ金七百六拾九圓四拾錢金八拾圓ノ証書二通ノミヲ還付シ金百圓ノ証書壹通差押ヘ置トアレヒ元來右書入三通ノ証書金員ハ明治五年二月濱本島吉ニ金九百四拾九兩壹步貳朱ト永貳匁五分貸附アリ其實從前ニ於テハ在村ノ習慣トシテ都テ貸借ニ於テ無抵當ニテ惡意ノ者ハ貸借ヲナスナリ然ルニ明治八年六月一日ヨリ印紙貼用ノ御布告アリ夫ヨリシテハ人間ノ情實モ相タゞシク相成金員貸借ニハ必ス抵當差入スルハ在村ニ於テモ金員貸借取引不仕依テ濱本島吉エ自分立用金差戻シ與不申ハ島吉所有ノ地所ヲ抵當ニ差入可與由島吉エ申聞ケ候處島吉答何分大金ノ事故急ニ返濟方不行屆間何分所有ノ地所書入公正ノ証書可相渡間金員返濟方猶豫致可與旨強テ依頼スルニ依リ終ニ島吉ニ是迄貸附金九百四拾九兩壹分貳朱ト永貳匁五分ヲ今般三ツニ分チ金七百六拾九圓四拾錢ヲ壹錢ヲ壹通ノ書入証書ニナシ尙ホ金八拾圓ヲ一通ノ書入証書トシ且金百圓ヲ又一通ノ書入証書トシ都合三通ノ証書

ニテ金九百四拾九兩壹分貳朱ト永貳匁五分ト相成候様ニ分チ明治八年七月十四日戸長見屆公正証ニ致シ受取置候處其後明治十年五月日不詳濱本島吉エ自分ヨリ貸附金ノ内金七百六拾九圓四拾錢ト外ニ金八拾圓都合八百四拾九圓四拾錢ノ元金丈ケ差戻シ與利子ニ當リ月三分ノ定ナレモ利子ニ當テハ此度調達方不行屆故今少シ返濟方猶豫致與旨強テ島吉相欺キ候間右貳通ノ証書ヲ島吉エ可返處ヲ利子金返濟不致ヨリ島吉得心ノ上自分手元ニ其儘預リ置キ候處明治十一年五月日不詳安藝郡渡子嶋居住平民農崎本儀右衛門全郡瀨戸島居住平民農岩原啓之助兩人自分宅ニ罷越儀右衛門啓之助等自分エ申聞ケルニハ豫テ濱本島吉エ貴殿ヨリ立用被致候金員ノ内八百四拾九圓四拾錢余ノ元金ハ明治十年五月島吉ヨリ貴殿ニ返濟シタル由其利子金ニ當リ未タ延期ト相見ニ然ル處右利子ヲ計算スレハ若干ノ金高ト相成趣此利子金等關ニ打捨置ケハ彌以テ島吉返濟ノ通チ失ヒ候ニ付何卒此兩名ニ相任セ與即金三拾五圓ニテ積年ノ利子ト看做受取與右島吉ヨリ差入置タル證書七百六拾九圓四拾錢ノ書入證ト尙ホ金八拾圓ノ書入證ト外ニ殘リ證書明治五年二月ニ差入タル證書ト都合三通ノ證書返シ與候様依頼スルニ依リ終ニ三拾五圓金ニテ勘辨可致ト儀右衛門啓之助ノ意ニ應シ前段申聞ケル三通ノ證書ヲ返シ候儀ニ御座候然ルチ明治八年七月十四日ニ書入タル證書ノ内百圓ノ證書ハ手残り證書ト唱ヘ全ク自分カ詐欺セシモノト證人共御尋問ノ節申立レトモ證人三名ハ平野甚作平野新之助佐々木柳三郎等ハ濱本島吉ノ親類ナルチ以テ島吉エ味方スルハ必定ナリ又證人ノ内寺西倉之助ハ自分ノ伯父ニ候得共前文ニ申上候通り自分エ意趣ヲ含ミ居ル際ナレハ倉之助カ上申ニハ果シテ自分カ惡心

ヨリ該件ハ生シタルト申立ルハ當然ナリ依テ金百圓ノ公正證ハ自分カ詐欺シタルトノ刑  
名御裁判御言渡ハ是第四ノ不服ニ御坐候

第五條

一明治十五年四月十八日自分ヨリ捧呈スル證據物今般ノ事件ニ關スル證據物ナルニ付御  
照會奉願ト書面差出スハ明治八年七月十四日濱本島吉ヨリ自分へ差入タル公正書入證金  
百圓ト書載アル上ニハ長役場割印ニツアリ壹ツノ割印ハ明治八年七月十四日故ト戸長  
長澤文彦ノ見届ケタル役場割印ナリ又一ツノ役場割印アルハ明治十三年十月二日當時戸  
長片山直太郎ノ見届ケタル役場割印ナリ將亦明治十三年十月二日自分并篠原仁三郎ヨリ渡  
子島戸長片山直太郎宛テ御保證願ヲ出シタル文中ニ「廣島縣安藝國廣島區大手筋四丁目  
七百八拾番邸居住平民篠原仁三郎右ノ者ヨリ私ニ相係リ年賦貸金催促ノ儀廣島區裁判所  
ニ願出候ニ付引合人トシテ濱本島吉御召喚ニ相成御席ノ上島吉御答申上候ニハ私所有ノ  
地所宇池ノ頭反別五畝歩書入タルヲ無之就テハ別紙所有ノ地所ニ外方へ二三ヶ年前賣拂  
候段答辨仕候得共書入公正證ニ相成居候間明瞭ノ御保證被爲成下候様奉願候」ト書載差  
出シタル處渡ノ子島戸長片山直太郎ニ於テ「書面ノ通先戸長長澤文彦ニ於テ見届ノ處券  
面反別三反六畝十八歩ノ内宇池ノ頭五畝歩見届ケルニ相違無之候也」ト戸長保証アリ然  
ル處勸解廷ニテ水村殿御係リニ成濱本島吉引合人タリシカ御席ニテ島吉申スハ何分返濟  
方仕候間此先キ十日間御猶豫奉願候處御開濟ニ相成然シテ其期日モ參リ原被告引合人濱  
本島吉又出頭御席ニ於テ島吉御係リ官へ上申スルハ豫テ本日迄御猶豫奉願置候處元來前

段ノ地所ハ二三ヶ年前他へ賣拂タル旨陳述アレド戸長ニ於テ村方役場地券臺帳ニ自分へ  
書入タル跡アルナニ二三ヶ年前賣拂タルト言フハ濱本島吉妻ノ兄平野其作弟平野新之助ハ  
賣渡シタル口答ニテ申セトモ平野新之助ハ平野其作ノ弟故皆親類馴合ハ判然セリ依テ濱  
本島吉勸解廷ニテ不筋ノ申立ハ至當ナリ是レヲ見テモ島吉全ク百圓ノ金員ヲ自分ヨリ借  
受ケタルハ明瞭ナリ故ニ自分カ證書ヲ詐欺セシハ已ニ明カナリ是第五ノ不服ニ御座候

第六條

一第五條ニ捧呈スル通り篠原仁三郎ヨリ自分ヲ被告人トシテ廣島區裁判所勸解ニ明治十  
四年四月廿二日訴出年賦貸金ヲ促セトモ自分ニ於テ引合人濱本島吉ヲ御召喚ノ儀奉願候  
處御採用相成則引合人濱本島吉出頭仕候處勸解廷ニテ引合人濱本島吉答辨スルハ該件金  
員調達方難出來故示談身代限リ以テ濟方ノ外無之ト主張スルニ依リ終ニ御不調ト相成候  
處明治十四年五月十八日廣島裁判所民事ニ篠原仁三郎ヨリ自分ヲ被告トナシ年賦貸金催  
促ト稱シ訴上ラル御對審ノ末引合人トシテ濱本島吉御召喚相成御席ニ於テ島吉陳述スル  
ハ沼田作太郎ヨリ金員借リ受クル覺無之全ク該証ハ沼田作太郎ノ手本ニ手殘リニナリタ  
ル証書ナリト申立タルニ依リ自分ニ於テ原告篠原仁三郎對シ金員返濟不相成ヨリ示談身  
代限ヲ差出濟方可致外無之ト上申仕候テ御席ヲ引取申候然ルニ濱本島吉ノ依頼ヲ受ケタ  
ル由ニテ濱本島吉平野其作竹内松兵衛寺西勘左衛門戸長片山直太郎等自分宅へ熟談トシ  
テ罷越申聞タルハ今回原告人篠原仁三郎ヨリ訴出タル金員三百圓余ナリ斯ノ金員ハ本人  
島吉ニ於テ調達方難出來故何分當度ノ處百圓ニテ悉皆事濟ニ致シ吳度段依頼スレ共自分

ハ篠原仁三郎ヨリ兼テ該証書ヲ後口質ニ差入金百貳拾圓借リ受ケタル間々自分ニ於テ勘  
 辨難出來原告篠原仁三郎ヲ呼寄セ共ニ尽力ヲ致シ申度ト申述置直チニ篠原仁三郎ハ入遣  
 シ候處直チニ自分宅ヘ仁三郎來リ候故島吉ヲ初メ平野甚作竹内松兵衛寺西勘左衛門片山  
 直太郎自分共等仁三郎ニ何方金百圓ニテ此際証書差戻濟方致吳度段強テ依頼スレモ仁三  
 郎敢テ不肯ヨリ彌以テ承諾難出來候ハ、百五拾圓金ニテ濟方ノ儀共々依頼スレモ仁三郎  
 ニ於テ承服不致左スレハ今日ヨリ來ル廿四日迄ノ猶豫ヲ乞候處則猶豫証ヲ濱本島吉平野  
 甚作竹内松兵衛寺西勘左衛門片山直太郎等ヨリ仁三郎ヘ與ヘ其日ハ相分レタリ其後廿六  
 日右ノ四名共自分宅ヘ罷越シ何分金百五拾圓ニテ相濟シ吳不申哉ト強テ申セトモ仁三郎  
 承諾不致ヨリ右ノ者共ハ引取り申候然シテ見テモ本人島吉儀金員借受居候ハ判然タリシ  
 ナ自分ヘ詐欺取財及ヒ財産隱匿ノ被告トナルハ第六ノ不服ニ御座候

第七條

一明治十三年十月三十一日安藝郡渡ノ子島戸長片山直太郎ヨリ自分ニ宛差越シタル紙面  
 文中ニ(然ル所濱本島吉一件ニ付此内ハ參上仕何角御世話ニ相成難有仕合ニ奉存候且右  
 ニ付テハ段々申置候得共素ヨリ島吉儀兼テ御承知被下候通極貧究者ニ御座候故和談ニ被  
 成下候様仕度儀ニ御座候同遠路御苦勞ノ義ニハ可有御座候得共何卒當地ヘ御出頭可被下  
 候様御依頼仕候尙々御出頭ノ上右一件緩々御咄合申上度尤モ御咄申上候故相約リ不申候  
 得ハ公證地所引渡シノ外無御座候間吳々モ御光來ノ程奉待入候)トアリ且又明治十四年  
 四月十五日又候片山直太郎ヨリ自分ニ差越ス紙面文中ニ(豫テ當島濱本島吉一件和談取

組申度儀御座候間乍御苦勞近日ノ内ニ出頭被成候様仕度全体島渡出席可付種々御座候處  
 役用多用ニ付得罷出不申儀ニ付必御來入ノ程奉待入候)トアリ依テ直チニ原告篠原仁三  
 郎并自分兩人ニテ片山直太郎方ニ罷越候處戸長片山直太郎ヨリ濱本島吉平野甚作佐々木  
 柳三郎等早速戸長役場ニ罷越候間戸長片山直太郎ヨリモ本人島吉其外親類三名共ヘモ種  
 々ト説諭ヲ加エ濟方ノ儀示談仕候得共到底金員ハ難出來依テ地所引渡ノ外無之ト一決シ  
 テ原告篠原仁三郎其趣片山直太郎ヨリ示談及候處仁三郎ニ於テ隨分地所ヲ受取事ナラハ  
 其旨承知致シ地所受取可申ト相答申候然ルニ右地所直段ハ當村ニテ何程位ニ賣買致シ候  
 哉ト片山直太郎其外島吉親類ノ者共ニ相尋候處凡ソ百圓内外ノ直段ニ有之由申聞候間仁  
 三郎答該地百圓ノ直段ナラハ殘金貳百圓余ノ金ハ如何致候ヤト本人島吉戸長片山直太郎  
 其外島吉親類ノ者ニ相尋候得ハ余ノ金員ハ更ニ出來不申該地所ヲ引渡候ヘハ豫テ書入公  
 正證ハ速ニ地所ト引換相戻シ吳不申ハ地所引渡ス事出來不申ト相答候間無是非渡ノ子島  
 ナ兩人共引取申候右等ノ分ケ柄ヲ見テモ島吉カ證書押領ノ告訴シタルヲ御採用相成タル  
 儀是第七ノ不服ニ御座候

第八條

一御裁判御言渡御文中ニ(證人平野甚作外八名ノ内井阪茂八カ調書并手續書等)ト有之候  
 得共井阪茂八ノ證人ハ辨論ヨリ出テタル証人ニテ御裁判御言渡書ヘサシテ御書載相成候  
 儀ニモ無之歟治罪法第二百七十六條ニ依テ見テモ判然セリ斯ク辨論ヨリ出タル證人井阪  
 茂八ナラハ無論自分財産隱匿ノ罪ヲ受クルハ無之是第八ノ不服ニ御座候

第九條

一公判庭ニ於テ竹内松兵衛寺西勘左衛門ノ兩名ハ手續書等差出アリ且調書等モ致シ居リ候ハ今般御裁判御言渡書ノ御文中ニ右兩名ノ姓名且申立等無之段是第九ノ不服ニ御座候

第十條

一証人平野甚作平野新之助佐々木柳三郎等ハ濱本島吉ノ親類ナリ是等ハ戸長保証書ヲ受追テ奉捧呈候只今ハ自分入監中ニ付戸長保証書ヲ受ルコト不能ヨリ終ニ捧呈不相成候

篠原仁三郎上告ノ要領

第一條

一御言渡書ニ(其方儀沼田作太郎カ身代限ノ際入札ヲ以テ買受ケタル借主島吉ヨリ金主沼田作太郎ニ宛タル金百圓ノ借用証書ハ詐爲ニ係ルヲ以テ追徴官沒スル者也)トアレヒ元來該借用証書ヲ以テ後口質トナシ沼田作太郎ヨリ金額百貳拾圓貸渡吳度旨依頼ニ應シ終ニ明治八年九月前段金百貳拾圓ヲ貸渡シタル儀ニテ其後安藝郡渡ノ子島戸長片山直太郎方ニ届旁罷越戸長役場臺帳ヲ爲調ニ候素ヨリ地券臺帳ニモ濱本島吉ヨリ沼田作太郎ニ安藝郡渡ノ子島ノ内反別三反六畝十八歩ノ内字池ノ頭反別五畝歩ハ書入質相成居候ト役場臺帳ニ記載有之然ルニ今般沼田作太郎ノ詐爲ニ係ルト御言渡ニ相成候得共元來濱本島吉ヨリ沼田作太郎ニ書入質年月日ハ又自分ヨリ明治十四年四月廿二日廣島區裁判所勸解ニ濱本島吉ヲ被告人トナシ訴出既ニ被告人濱本島吉ニ於テ延期ヲ乞フニ依リ凡ソ廿日計リノ日延ヲナシ置タルニ被告人は於テ金策不行届依テ明治十四年五月十日身代限リヲ以

濟方可致外無之ト被告濱本島吉ヨリ申出候ニ付無上御不調ト相成候儀ニ御坐候然ルニ濱本島吉カ豫審係リハ該地沼田作太郎ノ詐爲ニ係リタル旨ヲ以島吉カ自首ハ証書押領ノ告訴ヲナシタルニ該件ニ付テハ廣島裁判所ニ於テ自分入札ヲ致シ買受ケタルモ勸解并裁判中余程ノ日數モ有之ハ素ヨリ其猶豫中ニ島吉ニ於テ作太郎ノ詐爲ニ係リタル儀ナレハ告訴モ可致且勸解不調并民事答書等ニモ詐爲ノ儀揭ケテ答エルヲ其儀不致其後ニ於テ作太郎ニ係リ証書押領ノ告訴ヲナシタルヲ今般自分ニ御裁判御言渡ニ(沼田作太郎ノ詐爲ニ係リタルヲ以テ追徴官沒スル)トノ御言渡ハ第一ノ不服ニ御座候

第二條

一明治十三年十月十日既ニ安藝郡渡ノ子島居住平民濱本島吉并証人親類平野甚作他人竹内松兵衛寺西勘左衛門戸長片山直太郎等自分宅ニ罷越申聞ケルハ豫テ濱本島吉ヨリ沼田作太郎ニ書入タル公正證反別五畝歩ノ儀ニ付廣島裁判所勸解ニ引合人トシテ島吉出頭候處前段書入證ノ儀ニ付御相談トシテ罷越候得共御聞及ヒモ被下候哉濱本島吉儀ハ極困窮ノ者ニテ元利ニ三百圓余ノ金員ハ迎モ調達難出來依リ示談トシテ此五名罷越候儀ニ御座候既ニ金員百圓ハ持參シタリ該百圓ノ金員ニテ悉皆計算濟ニ致吳度旨依頼スレヒ自分ニ於承服ニ不至故ニ其儀相斷リ候處左スレハ來ル廿四日迄猶豫致シ吳度旨強テ依頼ヲナスニ依リ其儀承諾致シ尤猶豫證ヲ差入候様五名ノ者ニ申聞候處則證據物ニ差出候猶豫證ヲ五名ノ者ヨリ自分ニ差入候間廿四日迄猶豫ヲ致シ五名ノ者共自分宅ヲ引取申候其後廿四日ニモ五名ノ者自分方ニ罷越不申候得共廿六日ニ至リ五名ノ者自分宅ニ罷越候テ申聞候

儀ハ該件百圓ニテ居合ニ不至候ニ付百五拾圓丈ケ漸心配致持參候間百五拾圓ニテ爲相濟可矣旨折入テ相頼メ其儀自分ニ於テ承服不相成乍氣毒相斷候處無是非申立自分宅チ引取歸申候然ルチ明治十四年七八月ノ頃歟濱本島吉ヨリ沼田作太郎チ被告人トシテ證書押領ノ告訴チナシタレヒ元來沼田作太郎島吉ト馴合自分チ詐欺スル心底哉甚其邊イブカシク將亦今般御裁判御言渡書寫ノ如クヨシヤ濱本島吉ノ證書チ沼田作太郎カ詐爲致スニモセヨ自分買受タル三百拾圓ノ金員ハ誰人ヨリ自分エ償却致吳候哉御言渡書ニ其邊相見ユ不申段是第二ノ不服ニ御座候

辯明

沼田作太郎カ上告ノ要領チ約スレハ原裁判言渡ハ告訴人濱本島吉カ親戚ノ者チ證人トシ又ハ自己ノ即今故アリテ不和トナリタル伯父ノ證言等チ以テ罪チ斷セラレタルヨリ終ニ其事實ニ違ヒタル裁判トナリタレハ更ニ至當公平ノ審判チ受ケ度ト言フニアリ抑モ承審判官ハ正當ニ證人名チ得可キモノ、證言ハ斷罪ノ證トナスチ得ヘキモ事實參考ノ爲メ證言セシメタル者ノ陳述ハ斷罪ノ證ト爲スチ得ヘカラサルトノ法律規則アルニアラス又其法理アルニアラス自ラ良心ニ感スル處ニ據リ其心證チ定メ罪チ斷スルモノニテ其權專ラ承審判官ニアリ然ラハ則チ今作太郎カ上告ノ如キ彼レハ正當ノ證人ニアラス又自己ノ不和ナル伯父ノ證言チ採用セラレタリト不服チ申立ト雖ヒ承審判官正當ノ權内ニテ認定シタル事實ニ對シ破毀ノ原因ト爲スチ得ヘカラサル上告ナリトス然リ而シテ作太郎カ二罪ノ内島吉ト謀リ證書チ偽造セシ被告事實ニ對シテハ新舊法共ニ其當チ得タル擬律ナル

モ篠原仁三郎并坂茂平ニ對シ身代限り償トシ差出スヘキ財產チ隱匿セシ事實ハ其擬律舊法ニアリテハ相當ナルモ新法ニアリテハ刑法第三百八十八條家資分散ノ際其財產チ藏匿脫漏シ又ハ虛偽ノ負債チ増加シタル者ハ二年以上四年以下ノ重禁錮ニ處ストアルチ適施スヘキモノナルニ刑法第三百九十條チ適用セシハ擬律チ誤リタル裁判ナルモ其刑期タル向フ二年以上四年以下トシテ罪ノ性質ニ於テモ亦一ナレハ破毀ノ限リニアラサルナリ篠原仁三郎カ上告ノ要領ハ沼田作太郎カ身代限ノ際入札チ以テ買受ケタル地所書入公正證書濱本島吉ヨリ作太郎ヘ差入レ正シク成立チタルモノナルニ作太郎カ詐爲ニ係ル以テ官沒スト言渡サレタルモ其證書面ノ金額自分ヘハ誰人ヨリ償却チ受クヘキト裁判言渡モナク不當ナリト云フニアリ茲ニ原裁判言渡チ見ルニ(要)金百圓ノ借用證書ハ詐爲ニ係ルチ以テ追徴官沒スル者也トアリテ不正ノ證書チ沒収シタルマテニテ附帶民事ノ裁判後ニアラサレハ民事上控訴ノ權チ生セス又不正ノ證書チ沒収セシハ法律ノ然ラシムルモノニテ允當ノ裁判ナリトス

判決

右ノ如クナルチ以テ明治十五年四月廿九日廣島輕罪裁判所ニ於テ沼田作太郎篠原仁三郎ニ言渡タル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキニ因リ上告狀却下スル者也

第千九十一號

○判文(強盜ノ件)明治十五年五月廿六日上告  
明治十五年十二月廿八日判決

兵庫縣攝津國川邊郡尼ヶ崎町中



在家町二百三十九番戸平民

木村 義正

明治十五年四月  
三十三年十月

明治十五年四月廿七日大坂輕罪裁判所ニ於テ右木村義正ニ對シ左ノ裁判ヲ言渡シタリ

其方儀嘗テ京都府警察署於テ爲シタル口供ヲ反異シ明治十一年二月三日夜萩原正義ト蠟燭ヲ買求シ爲メ同町伊藤重助方ヘ立越シタル際該家ニ數多ノ金額計算中ナルヲ見受ケ立去ル途中ニテ岩崎梅吉外二名ニ邂逅セシ故右ノ次第ヲ語ル處同人等兇器ヲ携ヘ該家ニ押入り奪取リシトノ謀ヲ應シ右梅吉外貳名カ兇器ヲ以テ押入ルニ際リ仍ホ同人カ所持スル刀ヲ借リテ正義ト戸外ニ隙望シ金貳百圓奪取リシト供セシハ全ク梅吉等ノ誣告ニ係リ且苛酷ノ取調ニ出ルヲ以テ不得止不實ノ供述セシ旨陳辨スト雖モ反異スル處ニ就キ確憑ナシ而シテ梅吉等カ警察署ニ於テ爲シタル供述及ヒ被害者ノ手續書或ハ探偵吏ノ申立書等ニ依テ觀レハ前供ハ眞實ノ白狀ナリト確認ス右科刑法第三百七十八條第三百七十九條ニ依リ有期徒刑ニ處スヘキ處新法施行前ノ事犯ニ係ルヲ以テ舊法律例第百廿八條ニ照シ本犯ノ刑ニ一等ヲ減シ懲役十年ニ該ルヲ以テ刑法第三條二項ニ依リ新舊法ヲ比照シ輕キ舊法ノ刑期ニ從ヒ重懲役十年申付ル

但盜贓金ハ賠償ノ爲メ資力限退徴ス

木村義正ニ於テ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十五年五月八日日本院ニ差出シタル上告狀ノ趣旨左ノ如シ

本件ノ事實ヲ伸フ

上告人義正謹言ス茲ニ義正明治十一年二月中兵庫縣西ノ宮警察署ヘ引致サル、ヤ伊藤重助カ所有金強奪シタルノ顛末吐白セヨト糾治ヲ受ケタルト雖モ之レカ探偵ノ當ヲ失シタルカ將タ誣言ニ罹リタルモノニテ上告人於テハ毫釐モ干渉之レナキコナルヲ以テ更ニ覺ヘアラサル旨辨護シタル處外ニ上告人於テ他人ノ物品詐取シタル件ニ付諮問サレタルニヨリ事實開伸シタル處神戸裁判所ヘ交付サレ該法衙ニ於テ前顯併セテ推問ヲ蒙リタルニ付當初警察署ニ於テ供認シ置キタル通り口供甘結シ明治十一年五月三十一日ヲ以テ上告人カ強盜ナリト認視サレタル冤ヲ雪キ單リ詐欺取財ノ科ニヨリ答五十二處セラレタリキ然リ而シテ明治十二年二月七日京都府伏見警察署ヘ拘引サレ該署詰探偵掛リ某ヨリ苛酷言フヘカラサルノ拷訊ヲ與ヘ前顯伊藤重助方ヘ押入強奪シタル始末白狀セヨト嚴電有之上告人於テ之レヲ辨護スルモ更ニ採用ナク倍毆打不法ノ拷問ヲ加ヘラレタルニ付其苦痛忍ビ難ク不得止意ヲ辛フシテ不實ノ伸供ヲナシ該口供ニ捺印シタリ故ニ京都裁判所審庭ニ於テ前供ヲ駁シ事實ノ在ル處ヲ具シ置キタル處上告人カ疑獄ノ主犯ナリトテ其當時在獄人岩崎梅吉ナル者脱監シ爾后大坂府下ニ於テ就捕シタル由ニテ上告人儀明治十四年四月廿八日大坂輕罪裁判所ヘ移サレ猶尋イテ糾治ヲ受ケタルヲ以テ此獄タル冤ニ枉セラレタル事實ヲ伸述シ白日青天ヲ着ルノ期ヲ相待居シ處大坂裁判所ニ於テハ尽スヘキノ審理ヲ盡サス明リニ上告人ヲシテ強盜從犯ナリト誤推シ罪ニ入レラレタルハ尤モ怪シムヘキ不當ノ裁判ナリトス

抑上告人カ此疑獄ニ遭遇シタルハ大ニ起因アル在テ明治十一年一月三日夜ハ降雨酷シク朦朧ニシテ咫尺ヲ分ツ能ハサルヨリ上告人カ友人萩原正義ナル者ト俱ニ所用アリ他ニ赴クニ際シ伊藤重助方ニ於テ蠟燭壹本ヲ買入レ之ヲ提灯ニ照ラシ尼ヶ崎町中在家町二丁目通稱「鍋喜」（姓名詳）ナル者方ヘ立越シ續テ萩原正義カ所用ニ同町一丁目某方ヘ同伴シ一時内外チ經テ前路チ飯リ來リタル處右重助方ニ於テ何カ物騒シキ景況ナルヲ該家前通過ノ際聞知シタルモ何事ナラント存シ該家ヨリ（提灯ヲ照ラ）凡ソ一丁計リ西ヘ來リタル處平素右重助方ヘ出入スル姓知ラサル「天ノ一」ト申ス者ヘ出會シ同人曰ク今ノ先キ重助方ヘ強賊押入り金圓若干ヲ奪ヒ取り何レカ踪跡ヲ失シタリ就テ此事ヲ巡查ヘ報告シタシ如何スレハ宜シキヤ諮問スルニ付然ラハ其儘口上ニテ妨ケナキ故警察署ヘ馳セ行キ始末ヲ開陳シ以テ追捕ヲ願フニ如カスト致論シ上告人ト萩原正義ハ自宅ヘ立飯リタリ故ニ神戸裁判所ニ於テハ此ノ事實ヲ具シ冤罪ナルヲ明白シタル處伏見警察署ニ於テ苛酷ノ拷訊ヲ免レンカ爲メ不實ヲ伸供シタルハ之レヲ有實ノ供認ナリト大坂輕罪裁判所法官カ誤推シ冤罪ニ入レラレタル所以ニシテ之レカ冤罪ナルヲ證明スルニ足ルヘキモノハ通稱「天ノ一」カ伸供ニアリ而シテ上告人於テ「天ノ一」カ供認シタル處何レノ点ニアルヤ敢テ窺ヒ知ル能ハサレト「天ノ一」ノ如キハ上告人カ獄ヲ治ルニ膺リ欠クヘカラサルノ證人ナレハ同人（天ノ一）カ伸供ヲ聽クハ苟シクモ叮嚀慎重ニセサル可カラス又聽ク處ニヨレハ此獄タル彙キニ岡本八藏及ヒ松井留吉ノ兩名已ニ受斷シタリト然レハ同人共ニ（八藏留吉）

フ於テ上告人チシテ戸外ニ在リ瞭望セシメタルト供セシヤ夫レ果シテ供セシモノナレハ該兩名カ受斷スルノ際上告人於テモ同時ニ受刑ナクシテハアル可カラズ然ルチ之レカ受刑ナキヲ以テ之レヲ觀ルルハ該兩名ニ於テハ原ト上告人カ干涉ナキコナルヲ以テ如斯不實ヲ吐クノ理由ナキヲ信ス然リト雖モ法官仍ホ上告人チシテ強盜從犯ナリト思惟スルノ廉アラハ上告人カ審廷ニ於テ此獄タル覺ヘナキ旨辨護シタル以上ハ該兩名カ伸供何レニ在ルヤチ審理セサル可カラズ然ルニ大坂輕罪裁判所ハ前顯各人ノ伸供ヲ聽カス單リ岩崎梅吉カ吐白チ有實ナルヤニ固執シ盡スヘキノ審理ヲ推究セサルノミナラス證人ノ資格チ有シタル「天ノ一」カ伸供ヲ問ハス加之法律ノ理由チ登記セズ又憑ルヘキノ證左ナクシテ猥リニ強奪ノ從者トシ刑重懲役十年ニ處セラレタルハ其當チ失シタルノ裁判ナリトス

辨明

木村義正ノ被告事件ハ岩崎梅吉（本名森）田友藏等カ伊藤重助宅ニ押入り強盜ヲ爲スノ際戸外ニ瞭望シタルノ犯罪ニシテ其證憑ハ梅吉カ義正等ヲ共犯人ナリト申立タルト義正カ伏見警察署ニ於テ摺印シタル口供トニ在リ依テ之ヲ審案スルニ明治十二年中大坂裁判所ニ於テ懲役終身ニ所セラレタル強盜犯竹内勝次郎松井留吉岡本乙松ノ三名ハ梅吉ト共ニ右重助宅ニ押入りタル者ナレハ本件ニ附キ仍ホ勝次郎等ヲ訊問スルニ勝次郎留吉ノ口供ニ伊藤重助方ヘ押入りタルハ大梅事森田友藏岡本乙松藤本時助及ヒ勝次郎留吉都合五名ニ相違無之木村義正萩原正義等ハ共犯者ニ非スト申立乙松ノ口供ニ明治十一年一月三日夜姓不知末吉ノ案内ニテ松井留吉竹内勝次郎大梅事森田友藏自分ト都合五名ニテ伊藤重助方ヘ強

盜ニ參リタリト申立タリ其口供ヲ信認スレハ即チ同一ノ事件ニ付キ共犯ニ非スシテ別ニ刑ノ言渡ヲ受ケタル者アリト謂ハサルヲ得ス且梅吉ニ於テモ京都裁判所糾問廷ニ於テハ竊初警察署ニテ共犯人ト申立シ者ハ悉皆誣告シタル者ナリト陳述シ其他被害者ノ手續書探偵吏ノ申立書ノ如キモ被告事件ノ證據ト確認スルニ足ル者ナキヲ以テ義正ニ對シ未ダ遽カニ有罪ノ斷案ヲ下ス可カラサルモノナリ然ルニ原裁判所ハ右等ノ理由ヲ審究セスシテ輒ク強盜ノ重罪ヲ犯シタル者ト判決シタルハ審理ヲ尽サハル不法ノ裁判ナリトス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ明治十五年四月廿七日大坂輕罪裁判所ニ於テ木村義正ニ言渡シタル裁判ヲ破毀シ更ニ京都輕罪裁判所ニ移シ審判セシムルニ因リ木村義正ハ同裁判所ノ裁判ヲ受ク可シ

第千九十二號

○判文(賄賂收受ノ件)明治十五年五月廿七日上告  
明治十五年十二月廿八日判決

福岡縣筑前國福岡區福岡萬町士族

讚

井 秀 之

明治十五年四月十九年三月

明治十五年四月廿四日福岡輕罪裁判所ニ於テ右務之ヘ左ノ裁判ヲ言渡シテ

福岡輕罪裁判所ハ豫審判事カ福岡縣筑前國福岡區福岡萬町士族讚井秀之ノ賄賂ヲ收受シタル事件ヲ本衙ニ送致スルノ言渡ニ因リ公訴ヲ受理シ爰ニ檢事ノ陳述ヲ聽キ被告人ニ於

テハ人ノ囑託ヲ受書畫ヲ收受シタル覺ナシト辨護スレモ證人河田傳三郎外一名豫審調書及ヒ其他ノ一件書類ヲ檢閱スルニ被告人讚井秀之ハ福岡縣雇勤仕中造酒檢査トシテ豐前地方ヘ出張京都郡行司村河田傳三郎宅ニ止宿中明治十四年四月上黒田村酒造營業人木村精一郎方ニ到リ造酒檢査ノ際清酒凡三斗不足ヲ生スルニ付檢査ヲ見合セ猶取調方ヲ命シ歸宿セシ其翌日不足ノ清酒發見セシトテ更ニ出張檢査受度旨請願スルニ當リ宿主河田傳三郎ヲ以テ木村精一郎ヨリ贈ル所ノ五岳ノ書畫ヲ收受シタル者ト確認スレテ右犯罪ハ新法實施以前ニ在ルヲ以テ刑法第三條第二項ニ照シ新舊ノ法ニ比照スルニ舊法ニ因レハ受賄律官吏受賄條及ヒ改正七賍例圖ニ照シ不枉法賍金壹圓以上懲役六十日ニ等テ減シ懲役五十日新法ニ因レハ刑法第二百八十四條同第八十一條ニ照シ重禁錮并ニ附加ノ罰金ニ該ルモ明治十四年第八十一號布告第六條ニ照シ其罰金ヲ附加セス且ツ舊法ノ刑期新法主刑ノ刑期內ニアルヲ以テ新法ニ從ヒ被告人讚井秀之ヲ重禁錮五十日ニ處スルモノナリ但賣却シテ所在知サル掛物代金五拾五錢并ニ現在スル掛物一幅ハ沒収スル間其現存スル幅代金ハ高田延平ヘ償却スヘシ

福岡輕罪裁判所檢事補大崎利三郎ニ於テ右裁判ヲ不法ナリトシ明治十五年五月一日司法卿ヲ經由シテ大審院檢事ヨリ送致シタル上告狀ノ旨趣左ノ如シ

福岡縣筑前國福岡區萬町士族讚井秀之ナル者福岡縣雇奉職中賄賂ヲ收受セシ事件ニ付明治十五年四月廿四日福岡輕罪裁判所ニ於テ判事補原英清ハ右被告ニ對シ別綴言渡書ノ如ク所犯新法實施前ニアリ且ツ犯時滿十六歲以上二十歲ニ滿サルヲ以テ新律綱領受賄律官

吏受賍條改正七賍例圖并ニ刑法第二百八拾四拾條第八拾一條及ヒ明治十四年第八十一號公布ニ觸ルモノトシテ刑法第三條第二項ニヨリ新舊ノ法ヲ比照シ裁判ヲ與ヘシハ不法ニアラサルモ被告ハ身分士族ニシテ有官ノ時罪ヲ犯シ免官ノ後事發覺セシモノナレハ宜シク新律綱領名例律無官犯罪條改定律例第十三條并明治十四年第八十一號公布第十一項ニヨリ輕禁錮ノ刑ヲ與フ可キモノナリ然ルニ原裁判茲ニ出テス庶人ト等シク重禁錮ノ刑ニ處シタルハ擬律ノ錯誤ト云ハサルヲ得ス是ヲ以テ治罪法第四百十條ニヨリ上告スル如斯

辨明

讚井秀之カ福岡縣雇勤付中造酒檢査トシ豐前地方へ出張中酒造人木村精一郎ヨリ宿主河田傳三郎ヲ以テ贈ル所ノ書畫ヲ收受シタル被告事實ハ受賍律官吏受財條ニ依リ不枉法賍金壹圓以上禁獄六十日士族ナルモ犯時准等外吏タルヲ以テ等外人ノ權衡ニ依リ一等ヲ減シ禁獄五十日ト論決スヘキモノナルニ單ニ懲役五十日ト言渡タルハ不法ナリト雖モ新法上原擬ノ如ク刑法第二百八十四條同第八十一條ニ依リ重禁錮適當タルモノニテ上告ノ如キ輕禁錮ニ問擬スヘキ法文アラサルナリ因テ原裁判ハ舊法上其當ヲ失スルモ當行スヘキ新法上適當スルモノナルニ固リ破毀ノ限リニアラサルモノトス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十五年四月廿四日福岡縣輕罪裁判所ニ於テ讚井秀之へ言渡シタル裁判ハ破毀スヘキ理由ナシトス  
第九十三號

○判文(賄賂收受ノ件)明治十五年五月廿七日上告  
明治十五年十二月廿八日判決

福岡縣筑前國福岡區

福岡萬町士族

讚

井 秀 之

明治十五年四月

十九年三月

明治十五年四月廿四日福岡縣輕罪裁判所ニ於テ右秀之へ左ノ裁判ヲ言渡シタリ

福岡縣輕罪裁判所ハ豫審判事カ福岡縣筑前國福岡區福岡萬町士族讚井秀之ノ賄賂ヲ收受シタル事件ヲ本衙ニ送致スルノ言渡ニ因リ公訴ヲ受理シ爰ニ檢事ノ陳述ヲ聽キ被告人ニ於テハ人ノ囑託ヲ受書畫ヲ收受シタル覺ナシト辨護スレヒ証人河田傳三郎外一名ノ豫審調書及ヒ其他ノ一件書類ヲ檢閱スルニ被告人讚井秀之ハ福岡縣雇勤付中造酒檢査トシテ豐前地方へ出張京都郡行司村河田傳三郎宅ニ止宿中明治十四年四月上黒田村酒造營業人木村精一郎方ニ到リ造酒檢査ノ際清酒凡三斗不足ヲ生スルニ付檢査ヲ見合セ猶取調方ヲ命シ歸宿セシ其翌日不足ノ清酒發見セシトテ更ニ出張檢査受度旨請願スルニ當リ宿主河田傳三郎ヲ以テ木村精一郎ヨリ贈ル所ノ五岳ノ書畫ヲ收受シタルモノト確認ス而シテ右犯罪ハ新法實施以前ニアルヲ以テ刑法第三條第二項ニ照シ新舊ノ法ニ比照スルニ舊法ニ因レハ受賍律官吏受財條及ヒ改正七賍例圖ニ照シ不枉法賍金壹圓以上懲役六十日一等ヲ減シ懲役五十日ニ新法ニ因レハ刑法第二百八十四條同第八十一條ニ照シ重禁錮並ニ附加ノ罰金ニ該ルモ明治十四年第八十一號布告第六條ニ照シ其罰金ヲ附加セス且ツ舊法ノ刑期

新法主刑ノ刑期内ニアルヲ以テ新法ニ從ヒ被告人讚井秀之ヲ重禁錮五十日ニ處スルモノ  
ナリ但賣却シテ所在知サル掛物代金五十五錢并ニ現在スル掛物一幅ハ沒收スル間其現存  
スル幅代金ハ高田延平へ償却スヘシ

讚井秀之ニ於テ右裁判ヲ不法ナリトシ明治十五年四月廿七日本院ニ差出シタル上告狀ノ旨  
趣左ノ如シ

自分儀今般輕罪裁判所ニ於テ右條々ノ御言渡ヲシテ蒙リ敬ンテ自首スルニ自分ニ於テ  
ハ決シテ斯クノ如キ御言渡ヲ受クヘキ理由ハ聊カモ覺テ之レ無クト思惟ス右ハ全ク  
事實ノ醜態シテ其際現場ノ狀態等ノ尙ホ未タ曲實ナラサルヨリ玆ニ至リタルモノナルヘ  
キカ故ニ其顛末ヲ詳細ニ演陳シテ不服ノ由テ來タル所以ヲ吐露スヘシ抑モ自分ハ去ル  
明治十四年二月三日ヲ以テ福岡縣租稅課雜稅科ノ雇ヒテ申付ケラレ同月十五日ヨリ酒造  
檢査御用トシテ豊前國京都郡及ヒ仲津ノ兩郡へ出張致シ即チ京都郡黒田村酒造營業人木  
村精一郎方ノ清酒檢査ヲ致スノ際ニ當リ運方不足ニ付キ種々相正スト雖トモ一向ニ相知  
レズ依ツテ檢査ノ許可ヲ爲サス尙ホ同人へ倉庫等杜氏ヨリ一々詮議致スヘキ旨ヲ申シ聞  
カセ該日ハ歸宿セリ然ルニ其翌日ニ至リテ精一郎自ラ出張所へ來リ申出ルニハ昨日ノ始  
末所々探索セシ處繩口瓶へ清酒凡三斗計リ残り有リタリ右ハ全ク杜氏ノ鹿漏ニテ檢査  
ヲ受クヘキ桶へ豫カシメ汲ミ入レ置クヘキノ處失念シテ斯カル不都合ニ及ヒタルモノニ  
テ決シテ隱蔽スル如キ姦詐ヲ働ラキタルニハ非ラス何卒申シ兼テタル儀ニテ再タヒ足勞  
ヲ累ス段恐縮ノ至リナレトモ宜シク今一應ノ檢査ヲ願フト云フニ付キ乃ハチ重テ該家

へ出張シ彼ノ残りノ三斗ノ清酒ヲ差シ加ヘテ檢査スルニ初メテ不足ヲ見サル間直クニ手  
續書ヲ徴シ賣却ノ許可ヲ爲シタリキ夫レヨリ兩三日ヲ經過シタルニ自分止宿所ノ亭主ナ  
ルモノ即チ河田傳三郎カ自分ノ居間へ五岳ノ書畫各一幅ヲ携へ來タリ床上ニ懸ケテ申  
ス様ハ此書畫ハ賣リ物ニシテ頗フル上出來ノ畫ナリト申シタルニヨリ自分天性書畫ヲ愛  
玩スルノ癖アリテ何書畫ニ限ラス苟シクモ書畫ト看ルトキハ迅速ヲ要スル行途ノ際ト雖  
ヘドモ骨董店等ニ入ツテ良久シクシテ途ニ就クカ如キ極メテ好觀トシ樂シム處タリ況ン  
ヤ今河田傳三郎氏ノ床上ノ掛物ノ彼ノ有名ナル五岳翁ノ振筆ナルヲ見ルヤ否ヤ  
色々批評ヲ下シ方サニ佳酒珍肴ヲ食フテ味ヒノ甘キヲ覺ユルト一般ナリ何ニトカシテ  
之レヲ購求センコトヲ冀フト雖ドモ殆ント高價ノ品ナルニ力ヲ失ナヒタリシ然ルニ其後  
又タ二三日モ經テ亭主ナル傳三郎カ申スニハ右ノ掛物ハ本來自分ノ所有物アレバ足下ノ  
極メテ愛玩セラル、摸樣ニ見受ケタレバ若シ夫レ御所望トアラバ之レヲ進呈セン何ソ惜  
マン好物者ニ讓ルコソ本意ナルモノカラ足下ニ與ヘントテ吝メル色ナク自分ニ讓リタリ  
素ヨリ風流家ノ常慣トシテ假令ヒ高價ノ物貴重ノ品タリトモ吝惜情少シモ之レナク今日  
ノ愛器モ明日ハ擲與スル等自然ニ高尚ノ風致アリテ聊カモ願ミルヲナシトカ聞キタリシ  
カ今傳三郎カ自分ノ頻リニ之レヲ賞美スルヲモツテ自分ノ志ニ任カセ輒ヤスク之レヲ讓  
リ與ヘンヲ許スハ亦タ彼ノ風流ノ徒トモ謂ツ可シトテ心中ニ彼レカ志操ノ高キヲ稱歎  
シツ、皆是全ク久シク宿リヲ爲セシヨリ懇親ノ餘ニ出テタル者ナラント考ヘ何心ナク喜  
躍ノ由ヲ述ヘテ是レヲ受納シタリキ然ルニ其後日ニ至タリ漸々之レヲ聞クニ豈計ランヤ

彼ノ拂物タルヤ元來ハ先キ自分ノ検査ヲ遂ケ終リタリシ酒造營業人木村精一郎ノ所有品  
 タリシカ其節自分ニ與ヘント思ヘ凡偶々検査ノ時ニ當リ若シ卒然之レヲ與タヘタリトモ  
 却ツテ嫌疑セラレン如カス検査ノ事終ツテ之レヲ與ヘンニハト思慮シテ其後モ自分ニ之  
 レヲ與ヘント思ヘ凡偶々又タ忌諱シ退ケテ受ケサランコトヲ恐レ乃ハ宿ノ亭主ニ依頼シ  
 テ亭主ノ有品ノ如クニシテ與タヘ呉レヨト望ミシヨリ亭主ハ之レヲ承諾シテ則ハ前記  
 ノ如ク亭主傳三郎自カラノ所有物ト名ツケテ能ク自分ヲ欺ムキテ之レヲ讓ツリ與タヘタ  
 ル者ナリシト是ニ於テ自分ハ大ヒニ驚愕ニ堪ヘス斯カル不正ノ品ナルヲ輒スシ受ケシコ  
 ナ悔ユルト雖モ又タ是レ彼レ等カ斯ク迄ニ自分ヲ欺キテ計カリシ上ハ自分ニ於テ如何ン  
 ソ之レヲ知ル由アラシヤ夫レ然リ右ノ條々ノ如キ状態ニテ自分ニ於テ始メヨリ彼ノ掛物  
 ナ木村精一郎カ所有物タルコトヲ知ル者ナラハ豈夫レ目下酒造検査ノ最中ニシテ苟クモ不  
 正ノ所業アルキハ官吏ノ名目ニ耻ツルコトミナラス即チ上官ヲ汚カスニ至ルヲ以テ實ニ恐  
 懼スル所タレハ微細ノ利ヲ貪ホツテ自ツカラ快シトスルコトヲセシヤ故ニ自分ハ之レヲ知  
 ル由ナク全ク河田傳三郎ノ志ヨリ自分ニ與ユル者トシ聊サカ勸契（元ノ）ノ序テニ因ツテ  
 計カラズ好下物ニ遇ヒタルヲ欣フノ外別ニ思案モアルヘキ謂ハレナク自後排釀ノ一助ト  
 モ爲サンコトヲ考カヘ居タル程ニテ在リシヲ理ヲ非ニ枉ケタルト云ハンカ事狀ヲ轉倒スル  
 ト名ツケンカ將タ審査ノ至ラスシテ无無辜ヲ罰責スト爲ンカ賄賂ヲ収受シ人ノ囑託ヲ受  
 ケタリト喋々叱呵ヲ蒙ルノミナラス剩ツサヘ新舊法律ニ照ラサレ重禁錮云々等久シ  
 ク獄奴ト爲ツテ無冤ノ場中ニ甘マンスル事悲ムヘク歎ケクヘク誠トニ自分ノ榮譽ヲ毀損

ナルノミナラス尤トモ自由ヲ損害スルノ甚シキ者ト謂ツヘシ此條理アルヲ以テ自分ニ於  
 テハ聊カモ斯ノ如キ言渡シヲ受ケ罪科ニ處セラルヘキ覺ヘ毫末モ之レナク此ノ言渡シニ  
 對シテ萬々不服ヲ鳴ラシ全ク事實ノ齟齬シタルコトハ己テニ照明ナリト雖ドモ早クモ此ノ  
 言渡シヲ受ケタルハ果シテ何ノ故ソ是レ自分カ解セサル所以ノ一ツナリ且又自分其初  
 メ嫌疑ヲ受ケ豫審ノ吟味ヲ受ケシキニ當リ判事ノ尋問セラル、毎ニ自分ニ於テハ幾重ニ  
 モ斯ル犯罪セシコト無之キ由ヲ詳細ニ辨明シテ決シテ賄賂ヲ貪ホランナト、然ク汚穢ノ事  
 ナ初メヨリ思巧セシ者ニテハ之レナク其個條ハ斯々其終始ニ爾々一点モ殘シコトナク許  
 モ隠スコト無ク條理ヲ曲實明白ニ述ヘ尽クシテ答辨シ未ダ曾テ半歩モ屈服セシコト固ヨ  
 リ詐猾ノ言辭ヲ吐キタルコトナシ誠直以テ誣冤ヲ解カンコトヲ冀フヲ以テ愈々辨明スルコトア  
 ラントス折柄ヲ豫審終結ノ言渡シヲモ爲サス其儘直チニ公判ヘ送致セラレタルハ抑モ何  
 等ノ次第ナルヤ自分ノ愚接スル所ハ若シ豫審終結セラル、ニ至ラハ一應自分ニ引合ヒア  
 リテ自分ニ於テモ是レ迄ノ說ヲ屈シテ少シモ異存之レナシト服従シテ摺印ヲ遂ケツシテ  
 直チニ公判ヘ移ツサルヘキ理由ハ之レアル間敷彼ノ河田傳三郎及ヒ木村精一郎ノ兩名ノ  
 差シ出シタル調書ニ就キ是レノ誠トシテ確信セラレ自分カ申上ケシ事ハ悉皆僞ハリト  
 見做サレタル者ナルヤ自分ニハ如何ニモ其意ヲ得難ク實トニ懟フル所ヲ失フ是レ即チ自  
 分カ解セサル所以ノ二ツナリ右ノ如ク自分ハ少シモ存知スルニ由ナク直クニ公判ニ送ク  
 ラレタルナラン先般自分ニ出頭スヘキノ御呼出シアリタルトキ心中ニ想フニハ必ス豫審  
 ニ出頭スルナラント期シタルニ豈圖ランヤ何時間ニヤ早クモ公判ニ移ツサレタリキ然

シテ公判々事ノ御尋問ヲ受ケ同シク詳細ニ辨明シテ屈服セズ最早罪跡定マリタリトテ乃  
 ハナ法律ニ照シ云々ノ罪ニ處スルカ異議ナキヤト御尋アルトキモ尙ホ前日ノ如ク確然ト  
 シテ先説ヲ執ツテ動セス尙ホ彼ノ精一郎及ヒ傳三郎兩名ノ調書ヲ聽承スルニ自分ガ豫審  
 判事ニ對シ陳述スル處ト始末處ト彼レ等ノ申ス處トハ全ク反對シテ誠トニ驚歎セサルナ  
 得ス是レヨリ先キ小倉警察署ニ於テ自分ト彼レ等ト對審ノ際傳三郎等ノ陳述セシ處ハ決  
 シテ木村精一郎ガ清酒檢査ノ云々ニ關與スルコト全ク自カラノ所有タリトテ進呈セシ  
 ニ相違ナシトテ嚴確ニ明言シ其ノ始末書ヲ雙方共ニ該警察ニ捧ケタリシト今日豫審判事  
 ニ向ツテ全ク初メヨリ木村精一郎ヨリ依頼シテ清酒檢査ノ云々ニ就キ進呈シタキ由チ自  
 分ニ説明シ自分モ之レヲ承諾シテ收受セリトテ陳述シタル調書トハ恰カモ掌ロチ反スガ  
 如ク誠トニ反覆ノ甚シキモノト云フヘシ素ヨリ小人ノ常ニシテ取ルニモ足ラヌ事ナルモ  
 是非トシ善チ惡トシ現在面前ニ於テ斯ノ如キ空言ヲ吐キ苟クモ已レカ人ヲ欺偽シタル  
 罪ヲ蔽ハシカ爲メニ他人ノ如何チモ顧ミルコトナク晏然トシテ居ル條實ニ惡ムヘキノ甚シ  
 キノモノナラスヤ斯ク理由ヲ齟齬セシメタリシヨリ偏ヘニ自分カ罪ニ陷テ入ランコト懼  
 レ辭ハチ巧クシミニシテ遁辭ヲ爲スモノ、如ク見ユレトモ自分ニ於テハ固ヨリ其罪ニ相當  
 セル罪跡ヲ犯スアラハ何ソソ必スシモ之レヲ逃レンコト計ルヘキヤ故ニ更ニ事理明白チ  
 要スル爲メニ先キノ小倉警察署ニ於テ互ヒニ認メ捧ケタル始末書ヲ取リ寄セ雙方見ヒ  
 ハ必ス自分ノ偽リナク彼レ等ノ今ノ辭ハ先キノ辭ハニ反對シテ自然ニ有罪ノ者出ツルコ  
 アランカ此ノ情實ヲ公判々事ニ歎願シ深ク探偵ヲ遂ケラレ度キ旨ヲ頻リニ願ヒタリシモ

曾テ許容セス只々彼レ等カ豫審判事ニ向ツテ上申シタル説ヲ而已信用セラル、ハ抑モ何  
 等ノ次第ソヤ何分辨護ニ苦シム處ニシテ是レ即チ自分ガ解セサル所以ノ三ナリ

辨明

上巻人ニ於テハ木村精一郎ヨリ收受シタル書畫ニアラス河田傳三郎ヨリ貰ヒ受ケタルモ  
 ノニシテ酒造檢査云々ノ事ニ關係アルヘキモノニアラサルヲ精一郎傳三郎ノ供述ヲ偏信  
 セラレタルヨリ斯ク不當ノ裁判ヲ受ケタリトノ趣旨ヲ申立ルト雖ヒ傳三郎カ供述中「自  
 分ヨリ秀之へ種々申入テ終ニ今一度檢査相成ル所ニ決シ其謝禮トシテ木村精一郎ヨリ五  
 岳ノ書畫各一幅差出サセ其内隨意ニ一幅精一郎カ檢査ヲ承諾セシニ依リ贈ルナリト秀之  
 へ申向ケ云々」又精一郎カ「自分ハ佛山ノ書ヲ所持セス五岳ノ書畫各一幅宛持參シ傳三  
 郎へ相渡シ云々」トアルヲ以テ見レハ酒造檢査云々ニ關係セス傳三郎ヨリ貰受ケタルモ  
 ノナリトノ申分ハ立難シ然リト雖ヒ原裁判所カ受賍律官吏受財條ニ依リ不枉法賍一圓以  
 上懲役六十日ヨリ一等ヲ減シ懲役五十日刑法第三條ニ依リ新法ニ比照セシハ擬律ヲ誤リ  
 タル不法ノ裁判ナリトス何ソトナレハ受賍律官吏受財條ニ依リ不枉法賍金一圓以上禁獄  
 六十日士族ナルモ犯時准等外吏タルヲ以テ等外人ノ權衡ニ因リ一等ヲ減シ禁獄五十日ト  
 論決スヘキニ單ニ懲役五十日ト論シタルハ不法ナリト雖ヒ到底新法上原擬ノ如ク刑法第  
 二百八十四條同第八十一條ニ依リ重禁錮タル適當ノ裁判ナルニ因リ破毀ノ限ニアラサル  
 ナリ

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十五年四月廿四日福岡輕罪裁判所ニ於テ言渡シタル裁判ハ破毀ス  
ヘキ理由ナキニ付上告狀却下スル者也

第千九十四號

○判文(監守盜ノ件)明治十五年六月三日上告  
明治十五年十二月廿八日判決

廣島縣安藝國佐伯郡大

野村居住平民

新田百太郎

明治十五年五月  
二十七年五月

右百太郎ニ明治十五年五月廿日廣島輕罪裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ言渡シタリ

右被告人新田百太郎カ監守盜ノ公訴事件爰ニ檢察官ノ公訴狀豫審判事ノ作リタル被告人  
調書戸長代理筆生杉本源次郎ノ開陳書及ヒ豫審判事ノ蒐集シタル證據書類ヲ檢閱シ仍ホ  
被告人ノ答辨證人ノ陳述ヲ聽キ之レヲ審案スルニ被告人新田百太郎ハ明治十一年十二月  
廿八日ヨリ十三年二月廿三日迄佐伯郡大野村戸長役在務中自カラ監守スル所ノ明治十二  
年度公租金百七拾九圓八拾壹錢五厘十一年度公租金三拾三圓八拾三錢壹厘合金貳百拾三  
圓六拾四錢六厘ヲ竊取シタルモノト判定ス  
依テ之レヲ法律ニ照スニ  
刑法第三條第二項ニ若所犯頒布以前ニ在テ未タ判決ヲ經サル者ハ新舊ノ法ヲ比照シ輕キ  
ニ從テ處斷ス

新法ニ在テハ刑法第二百八十九條ニ官吏自ラ監守スル所ノ金穀物件ヲ竊取シタル者ハ輕  
懲役ニ處ス

同ノ第二十二條第二項ニ輕懲役ハ六年以上八年以下ト爲ストアリ

舊法ニ於テハ賊盜律監守自盜條ニ凡監臨主守自ラ監守スル所ノ財物ヲ盜ム者ハ首從ヲ分  
タズ贓ヲ併セテ罪ヲ論シ竊盜ニ二等ヲ加フ

明治九年第一号公布改正監守盜常人盜條例ニ凡監守盜貳百圓以上及ヒ常人盜參百圓以  
上絞ニ處スル律ヲ改メ監守盜百五拾圓以上常人盜貳百五拾圓以上并ニ懲役終身トアリ

以上ノ理由ナルニ依リ當裁判所ニ於テ被告人新田百太郎ヲ輕キ新法ニ從ヒ仍ホ明治十四  
年第八拾一號公布ニ照ラシ輕懲役八年ニ處スヘキ旨言渡ス者也

但竊取ニ係ル貳百拾三圓六拾四錢六厘ハ資力限リ追徵ス

新田百太郎ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十五年五月二十六日本院ニ上告スル要旨  
左ノ如シ

第壹條

廣島輕罪裁判所ノ裁判言渡書第一項ニ於テ

前文

被告戸長役在務中自ラ監守スル所ノ明  
治十二年度公租金百七拾九圓八拾壹錢五厘十一年度公租金參拾參圓八拾參錢壹厘合金貳  
百拾參圓六拾四錢六厘ヲ竊取シタルモノト判定ス  
ト有之右ハ誠ニ事實ニ違ヘルモノナ  
リ其所以ハ現今戸長カ十二年度地方稅ヲ以テ操替タル云々ノ證書ハ果シテ十一年度村費  
集金ヲ以テ仕拂ヒタルトノ旨趣ナル可シ而シテ明治十二年度地方稅金百七拾九圓八拾壹



錢五厘私借シタル旨ヲ明治十四年六月十七日自分カ書ニ調印シタル精神ハ御糺問中戸長代理杉本源次郎等ヨリ熟濟シテ願下爲ス可キ旨ヲ自分ニ申聞ルニ付不圖老婆心ヲ生シ假令引負ノ金員相嵩ムト雖トモ出監ノ上ハ巨細精算爲スヲ得ヘシト相考茲ニ於テ十二年度地方税金百七拾九圓八拾壹錢五厘私借セシト申立テタル譯ニテ其實際ニ至テハ決シテ不然義ニシテ之レカ分拆スレハ自分引負金ハ僅カニ九拾五圓參拾四錢八厘ノ外無之ヲ廣島輕罪裁判所ニ於テハ當ニ豫審終結狀并ニ杉本源次郎ノ陳述ニ依テ推測ヲ降サレタルモノト相考候然ラサレハ自分ニ於テ如斯大金ヲ私借シタル覺ヘ決シテ之レナケレハナリ

第貳條

廣島輕罪裁判所ノ裁判言渡書第二項ニ於テ刑法第三條第二項ニ若シ所犯頒布以前ニ在テ未タ判決ヲ經サル者ハ新舊ノ法ヲ比照シ輕キニ隨テ所斷ストアリ右ハ當ニ法律ノ然ラシムル所以ト確信仕候然リ而シテ刑法第貳百八拾九條及ヒ刑法第二十二條第二項ヲ以テ刑ノ適用セラレ實決ヲ言渡サレタルハ抑モ不法ノ裁判ナリト被存候其故何トナレハ自分實父佐平太ナル者癡疾ニ罹リ家ニ侍養ノ子孫ナキヲ以テ明治十四年十二月廿七日附ニテ夫々證據ヲ揃エ戸長ノ與書ヲ得テ則チ存留養親願書ヲ豫審係リ官判事補閣下ニ奉呈既ニ御受理相成リタルモノナリ然ル上ハ刑法第三條第二項ニ依リ新舊ノ法ヲ比照シ尙改定律例第三十五條乃至第三十八條ヲ以テ所斷可相成等ハ勿論ナリ然ルニ此點ニ至リ何等ノ裁判モ與ヘラレサルモノナレハナリ

第三條

右ノ次第ナルニ付明治十四年十二月二十七日豫審係官ニ奉呈シタル書面并ニ證據書ノ寫シ相添ヘ奉告候間何卒原裁判ヲ御破毀ノ上至當ノ御裁判奉願候

辨明

新田百太郎ニ於テハ明治十四年六月十七日糺問係ニ於テ申立タル口供ヲ翻異シ其私借シタル金額ハ惣計七拾貳圓三拾七錢四厘ニ過キスト抗辨スト雖モ證據ニ據リ其實實ヲ認定スルハ原裁判所承審官ノ主權ナリト今上告ニ因リ原裁判所ノ簿冊ヲ審閱スルニ戸長代理筆生杉本源次郎ノ開陳書豫審判事ノ彙集シタル證據書類ニ依テ百太郎ハ公租金合計貳百拾三圓六拾四錢六厘ヲ竊取シタル者ト認定シタルハ相當ナリト然リ而テ上告書中存留養親云々ト記述スト雖モ原裁判所簿冊中家ニ癡疾ノ老親アリテ他ニ侍養ノ子孫ナキ旨ヲ申立タル書類ヲ視ス因テ前記宣告書ノ如ク實決ノ刑ニ處斷シタルハ不法ノ裁判ニ非ストス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十五年五月二十日廣島輕罪裁判ニ於テ新田百太郎ニ言渡シタル裁判ヲ破毀スヘキ理由ナキニ因リ上告狀却下スルモノナリ

第千九十五號

○判文(詐欺取財ノ件)明治十五年六月七日上告  
明治十五年十二月廿八日判決

長崎縣西彼杵郡長崎村馬場郷平民

松尾種次郎

明治十四年十一月  
五十九年八月

明治十五年五月二十日長崎輕罪裁判所ニ於テ右種次郎ニ對シ左ノ裁判ヲ言渡シタリ

右被告人ハ詐欺取財ノ罪アリト檢察官ノ公訴ニ係ルヲ以テ豫審調書其他訴訟書類ニ因リ被告事件ヲ審問スル處被告人松尾種次郎カ告訴人太田「ケイ」ノ衣類其他ヲ詐取費消セシトノ事ハ據ヘキノ證ナキヲ以テ被告カ所爲ト認ム可カラサルモ被告カ太田兼次郎ヲ恐喝シテ金百五拾圓ノ證書ヲ取り遂ニ該金員ヲ得タルトノ一點ハ被告人ニ於テハ明治十年十一月下旬太田「ケイ」ヲ貸金受取ノ爲メ抵當ナル地券證ヲ持タセ豊前國へ遣シタルニ荏苒數月ニ亘ルモ歸宅セス爲メニ若干ノ損失ヲ來タシ困難ニ迫マリシニ付太田「ケイ」ノ實弟太田兼次郎ニ對シ「ケイ」カ歸リ來ラサル旨ヲ相咄シ金百五拾圓計リ周旋ノ相談ヲ遂ケ即チ借金約定證ヲ受取タリト又其前兼次郎へ豊前行ノ相談ヲ爲シ該證明文ノ如ク同人カ地券證ヲ持歸リタラハ證書ノ金ヲ出スニ及ハス左ナクハ兄弟ノコナレハ金ヲ出シ呉ルヘク旨約定シタルニ「ケイ」ノ行方分ラサルハ畢竟持逃セシナラント思量シ遂ニ百三拾圓ノ金員ヲ兼次郎ヨリ受取殘金貳拾圓ハ用捨致シ後日「ケイ」カ歸リタラハ返濟スヘシト口約シ置タルト尤該證書ハ被告金主ノ姿ナレモ實ハ兼次郎ヨリ借用スル譯ニ有之決メ同人ヲ恐喝ノ證書ヲ騙取シ金員ヲ得タルニアラサル旨辨護セリ然レモ果シ該辨護ノ如クナラハ被告ハ兼次郎ヨリ借金スルモノニシテ其義務者ナル被告ヨリ其借金證書ヲ權利者ナル兼次郎へ渡スヘキハ普通ノ條理ナルニ却テ權利者ナル兼次郎ヨリ義務者ナル被告へ借金約定書ヲ受取ルノ道理ナク及ヒ該証ノ宛名ハ被告ノ代人ニシテ被告亦該證ノ受人トナルノ理

由モナク又如何ニ兼次郎カ事理ノ辨別ナキ者ニセヨ自カラ如斯不利益ノ證書ヲ與フルノ謂レモ亦アルヘケンヤ殊ニ証書明文ノ如ク約定シタリト云フモ該約定証書中地券證ヲ持歸リタラハ出金スルニ及ハス云々ノ明文毫モ之レナク又該証文中金百五拾圓也云々右者當年一月十五日借用同年二月廿五日期返濟定約ノ處云々ト記載アルニ被告ニ於テハ明治十一年一月十五日貸金シタルノ之レナケレハ返濟定約等致サ、ル旨申立其証書ノ宛名ナル相良益ニ於テモ只被告等ノ頼ニ應シ證書ヲ認タル迄ニシテ同人ヨリモ貸金シタルニ無之旨申立其自認ノ陳述符合スルニ因テ之ヲ視ルモ同シク其兼次郎ニ貸金アラサルハ判然ナリ又該証ノ宛名ニ相良益ニトアルハ益ニ於テハ當時金錢取引等ノ事委任中ニ付認メタリト云ヒ被告於テハ何等ノ理由ナルヤ了解致サスト答へ又該受人松尾種次郎トアルハ被告ノ事ナルモ如何ノ理由ニテ受人ト記載シタルヤ益ニ於テハ覺ヘスト云ヒ或ハ多人數連印致シ置カハ益約定モ堅カラント連署シタルト云ヒ被告ニ於テハ尙了解致サスト答フルモ總テ口頭ノ陳述ニ止リ毫髮ノ據ルヘキモノアラサルナリ以上ノ如クニシテ被告ハ辨護ノ不都合ナルモ亦甚シキト云ハサルヲ得ス且金百五拾圓ハ顯然被告カ貸金ナラサルヲ明治十一年一月十五日貸金セシモノト爲シ該証成立タルモノニシテ固ヨリ無原因ノ証書ナル以上ハ畢竟被告人松尾種次郎ハ太田「ケイ」カ豊前ヨリ歸來セサルヲ口實トシ太田兼次郎カ陳述スル如ク該約定証ノ金員ヲ出サ、ルニ於テハ長崎警察署ニ訴へ出シ然ラハ縛セラレタル上裁判所へ廻サルヘシ夫ニテモ出サヌカ等恐喝シ約定証書ヲ騙取シ遂ニ該金百五拾圓ヲ得タルモノト判定スルニ充分ナリ況ンヤ地券證ヲ持歸リタラハ金ヲ出

スニ及ハス左ナクハ兄弟ノコナレハ出金スヘシトノ自白アルニ於テオヤ  
仍テ被告人ノ所爲ハ刑法施行以前ニ在ルヲ以テ刑法第三條ニ依リ舊法ノ懲役十年ト新法  
トヲ比照シ新法ノ輕キ左ノ法律ニ依リ罰スヘキモノトス  
刑法第三百九十條ニ曰人ヲ欺罔シ又ハ恐喝シテ財物若クハ証書類ヲ騙取シタル者ハ詐欺  
取財ノ罪トナシ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス  
右ノ理由ニ付被告人松尾種次郎ヲ二年ノ重禁錮ニ處スル者也

但新舊法比照例第六條第十條ニ依リ附加罰金及ヒ監視ヲ附加セヌ且賠償金百五拾圓ハ  
資力限追徴ス

松尾種次郎ニ於テ右ノ判裁ヲ不法ナリトシ明治十五年五月廿六日本院ニ上告スル要領左ノ  
如シ

抑該件ノ成立ハ過ル明治十年六月中長崎區八幡町平民大串藤助ノ頼談ニ應シ金員貸渡ス  
際該抵當トシテ豊前國田川郡下系村安藤久三郎外壹名々面ノ地券証受取即チ金百八拾圓  
ヲ貸渡シ其後連々受取殘額六拾三圓七拾五錢返濟淹滞セシヲ以テ頻リニ返濟ヲ促シタル  
處負債主大串藤助ヨリ目下金調ノ目途無之ニ付抵當主ヘ談判シ返辨ノ方法相立ルニ付該  
地券証ヲ所持シ豊前國迄同道致シ吳ル、可クトノ懇談ヲ受止ムヲ得ス其意ニ應シ當時自  
分妻太田「ケイ」ヲシテ先方即チ豊前國ヘ抵當タル地券証ヲ爲持貸金受取ノ爲メ差遣シタ  
ル處數月ニ亘ルモ歸宅セズ爲メニ若干ノ損失ヲ來タシ困難ニ迫リシモ他ニ據ル可キ處ナ  
ク如何トモシ難ク場合ニ立至リシ故詮方ナク太田「ケイ」ノ實弟太田兼次郎ニ對シ「ケイ」

カ歸リ來タラサル爲メ困難ヲ醸生シタル情實ヲ演ヘ金百五拾圓計リノ周旋ヲ歎談シ當時  
其困迫ヲ凌リ爲メ百三拾圓ノ金員ヲ借り受ケタル迄ニテ恐喝セシモノニアラス太田兼次  
郎於テモ其當時困難セシヲ兄弟ノ間柄傍觀スルニ忍ヒス貸シ與ヘタルモノニシテ純然タ  
ル貸借ニ成立タルモノナルヲ以テ民事上ニ於テハ到底其責ヲ免ル、能ハサルモ罪ノ問フ  
可キナキハ信ニ疑ハサル所ナリ然ルニ長崎輕罪裁判所カ裁判ハ茲ニ出テス上告人松尾種  
次郎於テ太田兼次郎ヲ恐喝シ約定証書〔此約定証ハ兼次郎ヘ差入タル証書ノ文意宛名ノ  
不都合我ハ無筆ナレハ斯ク謀ラレタルト思量ス  
其前ヨリ何トナレハ我妻太田「ケイ」カ弟兼次郎我窮難ヲ救ヒクレタルモノナレハ同人ニ  
損害ヲ醸スヲ謀リ與フルヤ其實益ニ名宛ナレハ兼次郎モ自分モ互ヒノ損害ナルヲ顯然  
ナリ然ルニ我カ犯シタル罪トナル〕ヲ騙取シ遂ニ金百五拾圓ヲ得タルモノト判定セラレ  
シハ頗ル不法ノ裁判ナリ

辨明

被告松尾種次郎ニ於テ本案ノ金員ハ純然タル借用金ニシテ恐喝騙取シタルモノニアラス  
然ルニ恐喝シテ約定証書ヲ騙取シ遂ニ金百五拾圓ヲ取得タルモノト判定アリシハ不法ノ  
裁判ナリト申立レモ右者畢竟口頭ノ陳述ニ止マリ他ニ觀ルヘキノ証憑ナク況ンヤ原裁判  
所ノ書類ニ就キ審閱スルニ原裁判所ハ專ラ事實ニ依リ判決シタルモノニシテ且其實實推  
測ノ認定ニ於テモ至當ニシテ不法ト看認ムヘキ廉ナシ故ニ種次郎カ上告ハ相立サルモノ  
トス

判決

明治十五年五月二十日長崎輕罪裁判所ニ於テ松尾種次郎ニ言渡シタル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキニヨリ上告狀却下スルモノナリ

第千九十六号

○判文(詐欺取財ノ件)明治十五年六月八日上告  
明治十五年十二月廿八日判決

高知縣土佐國土佐郡小高

坂村字西町居住士族松野尾直景父

松野尾建景

明治十四年十月

四十二年

右建景ニ對シ明治十五年五月二十六日高知輕罪裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ言渡シタリ  
當裁判所元糺問掛判事補德弘千速カ其方ニ對シ詐欺取財ノ罪アリトシテ糾問終結ヲナシ  
之ヲ元檢事補水野榮光ニ於テ公訴シ審理ノ末証據不充分ナリトシ公訴ヲ拋棄セシ事件判  
決スル左ノ如シ

其方ニ於テ明治十二年十二月十八日西山貞吉近澤潤平ヘ差入レタル山林ノ立木賣渡シニ  
アラヌシテ抵當ナルハ全時ニ差入レタル附屬約定證ニ把伐燒失等アルモ貞吉等ニ迷惑掛  
ケサル云々トアルヲ以テ明カニシテ尙ホ其抵當物ヲ自由ニ他ニ賣買スルヲ得ヘキハ該物  
件ノ内ニケ所チ山本與三郎ヘ賣渡シノ草案チ西山貞吉カ認メタルト其後明治十三年八月  
ニ至リ該山林チ他ニ賣拂他之チ炭ニ製シ其賣拂代價ヲ以テ追々拂入ルヘキノ示談チ貞吉  
トナシタルヲ以テ證明スル旨申立ルト雖モ其果シテ賣渡シタルハ證書ニ就テ明白ニシテ

而シテ附屬約定證ハ其賣渡シタル物件チ原價ニテ買戻シノ契約チナシ其期限中看守スル  
チ以テ盜伐燒失等アルモ賣主タル貞吉潤平ニ對シ迷惑掛ケサル特約チナシタルモノナ  
レハ其實賣渡シニアラヌシテ抵當ナリトノ辨護ハ相立タズ而シテ該物件ノ内ニケ所チ山  
本與三郎ヘ賣渡スノ西山貞吉カ許諾スト雖モ全人等ヨリ買戻シ期限ハ明治十三年二月  
二十日ニシテ其期限内ニ原價チ拂入ルレハ差支ヘナキト付五日前期一月十五日限りニ  
履行スヘキ旨ノ草案チ與ヘシハ相違ナシト雖モ其履行ニ付受取ル代金ハ速カニ貞吉等ヘ  
拂入ルヘキ契約ナル旨貞吉証言スルノミナラス附屬約定證ト該草案トニ依リ期限内履行  
ノ旨明白ナリトス然ルニ其受取リタル代金チ貞吉ヘ拂入レサルハ貞吉等チ詐欺シテ財チ  
得タルモノトス又細川猪之助外二名ニ賣拂フタルハ炭代金チ以テ追々拂入ルヘキノ貞  
吉ニ示談チ遂ケタル旨申立ルモ該示談ハ先キニ裁判チ受ケタル件ノ告訴ニ付破レタル旨  
貞吉潤平ニ於テ証言スルノミナラス猪之助外二名ヘ賣拂フタルハ明治十三年一月以後六  
月以前ニ在ルニ該示談ハ明治十三年八月ノナレハ所有主貞吉潤平ノ許諾チ經スシテ賣  
拂フタル旨明白ニ付該所爲ハ貞吉潤平ノ財物チ冒認シタルモノトス右ニ罪チ法律ニ照ス  
ニ所犯新法實施以前ニ在ルヲ以テ刑法第三條第二項ニ依リ新舊ノ法チ比照スルニ舊法ニ  
於テハ詐欺取財律官私チ詐欺シテ財物チ取ル者ハ云々及ヒ人ノ財物チ冒認シテ己ノ物ト  
爲シ云々トアルニ依リ并ニ贓ニ計ヘ贓金百貳拾圓以上竊盜ニ準シテ論シ士族ナルヲ以テ  
改正刑律第十三條ニ依リ除族ノ上懲役十年新法ニ在テハ刑法第三百九十條人チ欺罔シ  
又ハ恐喝シテ財物若クハ證書類チ騙取シタル者ハ詐欺取財ノ罪ト爲シ二月以上四年以下

ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス第三百九十四條前數條ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ストアルニ依ルヘキモノナレハ新法ノ刑舊法ヨリ仍ホ輕キヲ以テ輕キ新法ニ從ヒ重禁錮二年ニ處スルモノ也

但明治十四年第八十一號布告新舊法比照例第六條第十條ニ照シ附加ノ罰金及ヒ監視ヲ附セス

松野尾建景ニ於テハ右ノ裁判ヲ不當ナリトシ明治十五年五月三十一日大審院ニ差出シタル上告狀ノ旨趣左ノ如シ

自分儀明治十五年五月二十六日高知輕罪裁判所ニ於テ受ケタル裁判ヲ不法ナリトシ上告スル要領ハ左ノ如シ

判決ノ理由ニ齟齬アルコト

- 一右ノ要領ヲ以テ上告セント欲セハ左ノ二事實ヲ審明スルヲ要スヘシ
- 一明治十二年十二月十八日山林賣渡書ハ眞平タル賣渡證ナル乎
- 一右ノ山林ヲ他人ニ賣却シタルハ告訴人等ノ明許又ハ默許アラサル乎
- 一右第一ノ事由ニ關シテハ自分ハ明カニ證書上ハ賣渡シト記シタレモ其實ハ借金保証ノ爲メ質入ナルコトヲ確言ス蓋其証ハ第一明治十二年十二月十八日ノ約定証上ニ把伐燒失云々ヲ記シ告訴人等ニ損害ノ生セシメス若眞平ノ賣渡シニテ所有權移轉スルモノナレハ賣渡後ノ損害ヲ賣主ニ於テ擔保スルノ責任ナキトノ事第二右証書上ニ元價又ハ歩金ヲ以テ受戻シノコトヲ約シ山林ヲ管守シタリ若眞平ノ賣渡ナレハ仮令買戻シノ約アリト雖其山林ヲ

管守スルノ責ナキトノコト第三明治十二年十二月十七日ノ賣渡証ニ別紙約定証相副ヘト書シ明治十二年十二月十八日付ノ約定証アルコトヲ記シテ其賣渡シニハ制限アリ此ノ制限ハ所謂眞平ノ賣渡シニアラス借金ノ保証ナルコトヲ明ニシタルコト第四西山眞吉カ該山林ヲ自分カ他讓スル爲メ賣渡約定証ノ草按ヲ記シタリ若シ眞平ノ賣渡ナレハ買主ノ西山眞吉カ賣渡ノ約定証ノ草按ヲ記スルカ如キコトアラシヤ其之レアルハ眞平ノ賣渡ニアラスシテ借金保証タルトノコト第五明治十三年十二月十二日西山眞吉カ明治十四年五月五日高知裁判所カ與ヘタル裁判ノ爲メ爲シタル手續書中ニ自分カ幡多郡ヘ山林賣却ノ爲メ立越事ヲ承知セリ若眞平ノ賣渡ナレハ買主ナル眞吉カ買受ケタル山林ヲ他人ノ賣却スルコトヲ承知シ損害ノ忽チ頭上ニ墮落シ來ルヲ知リナカラ安然トシアルノ理ナキトノコト第六又右手續書中ニ自分ヨリノ買受人等該山林ヲ木炭製造ノ爲メ現ニ釜小屋ヲ築造シアルコトヲ知レリ若シ之ヲ知レハ損害忽チ身ニ及フ故眞平ノ買受ケナレハ差止ムルニ其事ナクシテ安然タルハ亦借金保証ノ爲ナルコト判然タリトノコト夫レ果シテ以上証據立ノ如クナル故山林ハ眞平ノ賣渡ニ非スシテ借金保証ノ爲ナルコト判然タリ第二ノ事實ニ關シテハ自分ハ明ニ告訴人等明許又ハ默許アルコトヲ確言ス蓋シ其証ハ第一西山眞吉カ明治十四年五月五日高知裁判所カ與ヘタル裁判ノ爲明治十三年十二月十二日手續書中自分カ山林賣却ノ爲幡多郡ニ旅行シタルコトヲ認メタルコト第二同上手續中自分ヨリノ買受人等木炭製造ノ爲釜小屋ヲ築造シタルヲ認許セシコト第三西山眞吉カ該山林ヲ自分カ他讓スルコトヲ幫助スルカ爲賣渡証ノ草案ヲ記シタルコト以上ノ証據ニ於テ告訴人等カ該山林ヲ自分カ他讓スルコトヲ明許又ハ默

許テ以テ承諾シタルヲ明ナリ夫レ如此ナレハ自分ハ判決書ニ所謂貞吉潤平ノ財産ヲ冒認セサルナク又詐欺トシタル代金ハ其之ヲ直チニ拂ヒ入レサルハ純然タル民事上ノ事項シテ刑事ノ性質ニ非ス況ンヤ山林受戻シ金ノ額殘ヲ明治十四年六月ニ至リ拂入レ手續ヲ爲シタルニ於テチヤ然レハ即チ高知輕罪裁判所判事金澤政安カ爲シタル判決ハ本案件中最も貴重ニシテ最緊要ナル部分即チ山林ハ賣渡シナル乎將タ質入ナル乎又他讓ハ告訴人等カ明暗ヲ問ハス認許上ヨリ出テタル乎將然ラサル乎ニ審理ヲ盡サ、ル大欠典アリ其所爲ハ所謂事實ヲ認定セシ事由ニ於テ不法ナリトス故ニ自分ハ以上論セシ如ク判定セシ事由ニ於テ齟齬アリト斷言シテ上告仕候況ンヤ原告檢察官ニ於テ證據不充分トシテ公訴ヲ拋棄シタル案件ニ於テ尙且ツ縷論辨シタル證據アルニ於テハ自分ニ於テ焉ソ上告セサラント欲スルモ得ヘケンヤ

明治十五年七月三日同十五日松野尾建景ハ重テ左ノ上告趣意辯明書及明細補伸書ヲ差出シタリ

上告趣意辯明書

明治十五年五月三十一日附ヲ以進呈シタル上告趣意明細書ニ對シ尙其論セサル處到ラサル所ヲ補ヒ益々以テ高知輕罪裁判所カ明治十五年五月二十六日附裁判ノ不法ナルヲ辨明セント存候

一上告人即チ自分カ上告趣意明細書ヲ進呈セサル以前即チ自分ニ對シ判決ヲ與ヘサル以前ノ上申ノ手續書及ヒ口供ニ於テハ未ダ曾テ明治十二年十二月十八日附山林賣渡書ハ其

ノ附屬約定書ニ犯伐燒失云々トアルヲ以テ質物ノ明證ナリト供述シタルヲナシ唯明治十四年十二月八日陳述書ト題シ進呈シタル書中ノ第二項ニ「明治十四年十二月二日御調書云々中畧今般建景ヨリ云々<sup>中</sup>關係無之等<sup>中</sup>其時ニ初メテ約定セシモノニアラサルヲ明ナリ」ト供述シ彼ノ犯伐燒失云々ヲ以テ抗拒シタルヲ之アラサルナリ且ツ明治十四年十二月二日近澤潤平カ致シタル口供第二條及ヒ明治十三年五月五日曾テ自分ニ與エタル裁判ノ爲メ明治十三年十月十二日西山貞吉カ爲シタル手續書ノ初項ニ「示來懇情ナル者ニ候處去ル明治十二年十二月<sup>中</sup>潤平組合ニテ出金致シ然ルニ始末方ノ儀ハ落札高ノ九步金ヲ以」トアルヲ照合セハ彼レ自身ニ於テモ明カニ賣渡ニアラス實際質物ナリシヲ證スルニアラスヤ然ルニ判決書ニハ犯伐燒失ヲ以抗拒シタル如ク爲シ上告人カ未ダ供述セサル所ノモノヲ以テ判決ノ基礎ト爲シタルハ頗ル杜撰ノ裁判ナリト謂ハサル可カラサルナリ

一明治十四年五月五日ヲ以テ曾テ自分ニ與エタル裁判ノ爲メ西山貞吉カ明治十三年十月十二日附ノ手續書末項ニ「今八月十八日蒸氣大和丸ニテ云々(以下全体)ハ貞吉カ明テカニ山林ヲ薪炭ニ仕成カ爲メ惣テ準備チ自分ヨリ賣渡タル人即チ山本與三郎外數名カ爲シタルヲ承知シ且ツ其ノ薪炭ノ問屋ヲ營ニ與三郎等カ仕爲タル薪炭木ヲ運搬シ利益ヲ得ント爲シタルヲ認タリ夫レ然レハ直ニ以テ質物ニアラストシテ刑名ヲ宣告スルモ頗ル杜撰ノ裁判ナリト謂ハサルヘカラサルナリ

一明治十二年十二月十八日附山林賣渡証ハ獨立獨歩ノモノニアラス其附屬約定証ヲ候テ初メテ完全ナル者ナリ然リ而シテ其山林賣渡書中代金日限切レニ相成候時ハ代價金額エ

一割五歩金云々早速辨償可致云々ヲ以テ見ルモ實質物ニシテ決シテ賣渡シニアラサルコト明カナリ

一判決書中「然ルニ其ノ受取リタル代金ヲ貞吉等エ拂入レサレハ貞吉等ヲ詐欺シテ財ヲ得タルモノトス」トアリ然レモ上告人即チ自分ハ明治十三年五月五日會テ自分ニ與エタル舊高知裁判所ノ裁判ニ於テ明治十二年十二月十六日附約定証初頭内六百四拾九圓也六月三十日拂及十二年十二月十六日賣渡証初頭六月三十日拂明治十二年十二月十八日附約定証ノ初頭内貳百九拾七圓六月三十日拂及明治十二年十二月十七日附賣渡証初頭六月三十日拂及明治十二年十二月十八日附賣渡証初頭三月十二日相渡ス及明治十三年二月二十日附約定証代金ノ下「内九百圓六月三十日拂及明治十三年二月二十日附賣渡証代金ノ下「三百圓六月三十日拂濟及明治十三年二月二十日附約定証代金ノ下「内三百圓六月三十日拂濟ト記載シ本案五箇ノ山林ニ關スル借用金潤平等賣渡代金ト稱スル旨ハ各内拂シタルヲ確定シタリ然ルチ更ニ又這般自分ニ與エタル裁判ニ於テハ前裁判ニ反シ拂入レサル如ク裁判セシハ豈杜撰ノ裁判ナリト謂ハサルチ得ンヤ

一判決書中「明治十三年二月二十日ニシテ云々中畧五日前即チ一月十五日ト之レアリ而シテ近澤潤平カ明治十四年十二月二日ノ口供第二條ニ其旨意ヲ供述セリ嗚呼二月二十日ヨリ五日前トシテ一月十五日チ指シ其間日數三十六日アリ其内五日チ除シ三十一日間チ空没セシムルカ如キ實際事實ニ相違アル口述ヲ判決ノ基礎ト爲ス杜撰ノ裁判アラシヤ

以上ハ辯明ノ大綱ナル者ニテ其枝葉岐路ニ至テハ汗牛番ナラサル程ノ證據確據アリ故ニ本案ニ關シ上告廷ニ於テ審判ヲ開設セラル、ニ至レハ謹テ辭明答案スヘシ唯上告人カ希フ所ハ上告人チシテ本按ニ關シ廷陳致度奉存候也

明治十五年七月十五日附同八月二十六日附上告人松野尾建景ハ明細補伸追書ヲ本院ニ差出シタルモ前掲ノ趣意チ尙ホ擴張スルニ過キサレハ茲ニ掲載セス

辨明

本件ハ明治十二年十二月十八日付山林賣渡及附屬證書ノ性質如何ノ解釋ニ拘ハラス該證書ニ記載シアル山林ヲ被告ガ他賣スルニ告訴人等ノ許諾ヲ得タルヤ否ノ點ニ付キ事ヲ決セサル可ラス是故ニ本院ニ於テ原書類ヲ密按スルニ明治十三年十月十二日付西山貞吉手續書ニ「右ハ示來懇情云々 中畧 建景十三年二月初頃ヨリ當郡ニ御拂下ケノ官林賣附ノタメ罷越有之云々本年六月七日潤平同行ニテ幡多郡諸見分ノ爲罷越詮議ヲ遂ケ候處相當代價ヲ以テ諸山ノ内六七ヶ所賣附ノ約定致有之趣ニ有之處追テ中村町常盤屋ニ於テ建景ニ面會ニ及賣戻シ約定期限經過致有之ニ付代金拂方ノ義如何致吳候哉尋問及候處答ニ諸山ノ内下ノ加江村一ノ瀬西谷山全幸増山布瀧山久百々宗佐畑山三崎郷興増ノ村島ノ内山全櫻サコ山六ヶ所ノ山代金凡八千圓計リニ賣附約定相整有之追テ出來炭受取約定致有之追々濱出シノ上ハ貴殿方話合セ三崎浦下ノ加江浦ニテ長ク受取可被下哉ノ段相談有之ヨリ潤平ト示談ノ上承諾致シ口頭ニテ取極メ云々」トアリ又被告ニ於テハ西山貞吉ガ山林賣渡證書ノ草按ヲ與ヘ吳レタル節右貞吉近澤潤平上原悅藏山本與三郎モ居合セタリト云

ヒ而メ明治十四年十二月六日付近澤潤平及西山貞吉代人近藤正英ノ手續書第四條中(被告ハ西山貞吉ノ起草セシ約定証案ヲ以テ被告カ賣却ノ口約アリシヲ證セントスルモ這ハ此レ明治十二年十二月中被告ヨリ該山買受テ望ムモノ有之就テハ自分方ヨリ買戻ノ上賣却ノ順序致シ度依テ代金拂入レ申スヘキニ付約定證起草致シ吳レヘシトノ依頼ニヨリ右貞吉ノ執筆セシモノ云々)トアリ又タ第五條中(右約定案ヲ西山貞吉カ被告ヘ相渡セシ時ハ近澤潤平ノ外他ニ同席セシモノ無之云々)トアルヲ觀レハ告訴人等ニ於テ前明治十二年十二月十八日付買受ケタル山林ヲ被告ガ他賣スルニ付一旦承諾ヲ爲シタルハ疑ヒナシトス果シテ然ラハ被告ガ其後ノ手續上ニ付告訴人ニ於テ前承諾ヲ取消シタルモノト見認メ得可キ証左ナケレハ其爭點ハ民事ニ屬ス可キモノニシテ刑事ニ於テ制裁ヲ爲ス可キ範圍外ナリトス然ルニ原裁判所ガ此等ノ事實ヲ審究セズシテ新舊法ヲ比照シ輕キ新法ニ從ヒ重禁錮二年ニ處スト言渡シタルハ未タ審理ヲ盡サ、ル不法ノ裁判ナリトス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十五年五月二十六日高知輕罪裁判所ニ於テ松野尾建景ニ言渡シタル裁判ヲ破毀シ中村輕罪裁判所ニテ審判スヘキ旨ヲ達シタルニ付右建景ニ於テハ同裁判所ノ處分ヲ受ク可シ

第九十七號

○判文(私文書詐爲ノ件)明治十五年五月廿六日上告  
明治十五年十二月廿八日判決

熊本縣肥後國下益城郡赤尾村土族

紫

垣 忠 三  
明治十五年五月  
三十八年四月

明治十五年五月二十日熊本輕罪裁判所ニ於テ右忠三ヘ左ノ裁判ヲ言渡シタリ

右ノ者ニ對シ檢事補中島孝叔ヨリ爲シタル詐爲私文書罪ノ公訴事件判決スル左ノ如シ裁告人ニ於テ明治十三年三月廿八日付堀川勘三郎名前ノ改約証書ハ眞實勘三郎ヨリ受取リシモノニテ被告人ノ詐爲ニ非ラサル旨申立ルモ糾問掛ノ調書豫審掛ノ調書其他各証書殊ニ被告人カ明治十四年七月二十七日堀川勘三郎ヘ差入レタル書面中一先証文拾貳通但明治十四年四月十五日御裁決ニ相成候分先証文金高ハ本行ノ通云々トアルニ據レハ其明治十三年三月廿八日付ノ改約証書ハ被告人ニ於テ勘三郎カ筆跡ヲ摸擬シ且全人ノ印影ヲ盜用シ詐爲シタル証書ナリト認定ス

此事實タル所犯新法頒布以前ニ在ルヲ以テ刑法第三條第二項ニ依リ新舊法ヲ比照スルニ左ノ如シ

舊法ニテハ改定律例第二百五條凡ソ私ノ印ヲ盜シモノハ懲役七十日云々ノ罪ト第二百四十六條凡ソ私ノ文書ヲ詐爲スルモノハ情ヲ量リ不應爲ニ問ヒ輕重ヲ分ツトアルニ因リ雜犯律不應爲條ニ照シ懲役七十日又ハ三十日ニ處スヘキ罪トチ犯シタルモノト爲シ名例律二罪俱發以重論條ニ依リ其一ニ從ヒ懲役七十日ニ處スヘキモノトス  
新法ニテハ刑法第二百八條第二項ニ照ラシ四月半以上三年九月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓七十五錢以上三十七圓五拾錢以下ノ罰金ヲ附加スヘキ罪ト第二百十條ニ照ラシ三月以上



三年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加スヘキ罪トテ犯シタルモノト爲シ第百條ニ依リ一ノ重キ第二百八條ニ從テ處斷シ仍第二百十二條ニ照ラシ六月以上二年以下ノ監視ニ付スヘキモノトス

右ノ理由ニ依リ被告人紫垣忠三ニ對シ懲役七十日ノ處明治十四年太政官第八十一號布告ニ照ラシ重禁錮ニ換ヘ重禁錮二月十日ノ刑ニ處スル旨言渡スモノ也

紫垣忠三ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十五年五月二十六日附并ニ六月十三日付テ以テ本院ニ差出シタル上告狀并ニ追申書ノ趣旨左ノ如シ

宣告文中ニ堀川勘三郎ヘ差入タル書面中ニ先証文十二通但明治十四年四月十五日御裁決ニ相成候分先証文金高ハ本行ノ通り云々トアルニ據レハ其明治十三年三月二十八日付ノ改約証書ハ被告人ニ於テ勘三郎カ筆跡ヲ摸擬シ云々トアルモ明治十四年七月二十七日堀川勘三郎宛ニ認メタル受取証ハ其頃勘三郎ハ自宅ヘ參リ該証文拾貳通ヲ渡シ之レカ受取証ヲ與ヘヨトノナレ共勘三郎ヨリ借受タル金圓ハ則改約証ノ通り最早拂入タル上ハ自分カ渡シ置タル殘証文ヲ受取ルニ受取証差入ル、理由ナシト陳辨スルモ勘三郎ニ於テハ承引セサルニ付判文ノ通り受取証トシテ相認メ相渡スト雖モ勘三郎ハ金高ヲ書載セ遣セヨトノナレ共金高等書載スル譯無之ト申聞ケタレハ勘三郎ハ立服ノ躰ニテ該十二通ノ証書ヲ授ケ置キ其儘歸宅シタルニ付自分ニ於テハ該受取証ハ其儘紙入ニ直シ罷在ル處豫密掛判事補柳原殿ノ御調ノ節奉呈致セヨトノ命ニ從ヒ直チニ捧ケタリ然ルニ堀川勘三郎ニ差入レタル書面トアルモ決シテ差入レタル書面ニアラス勘三郎ニ於テハ金高書載セ無

之上ハ受取不申トノナレ付其儘自分カ紙入ニ直シ置柳原殿ヘ直チニ奉呈致シタルモノニ付決シテ差入タル書面ニ無之譬ヘ差入タル書面ニモセヨ堀川勘三郎ヘハ自分カ諸方ヘ貸付置タル借用証書ヲ數十通請求ノ爲メ差遣シ依托致置タルニ付諸方ヨリ返濟ノ金員ヲ以テ勘三郎ヘ証書差入レ借受タル金員ハ拂濟ニ相成依テ差入置キシ証書ヲ可受取等ノ所勘三郎手元ニ於テ証書見出シ不申ニ付該改約証書ヲ受取決算相濟タル后テ請求殘証書十二通有之ヲ以テ其之レカ証書ヲ受取タルニ付則チ御判文中ノ書面ヲ認メタル儀ニ御座候被告人ニ於テ勘三郎カ筆跡ヲ摸擬シ且全人ノ印影ヲ盜用シ詐爲シタル証書ナリト認定ストアルモ勘三郎カ自書シタル改約証書ニ押捺シタル印影ヲ盜用シタルトハ何証左アルヤ勘三郎カ印影ヲ盜用スルニハ夜ル竊ニ勘三郎カ宅ヘ忍ヒ入り印影ヲ盜ミ押捺シタルカ又ハ勘三郎カ他出之透ヲ見立盜用シタルモノカ其之レカ証左ニアラサルヲ得ス如何ントナレ証左モ擧ケス盜用シタルト認定セラレタルハ不當ノ判決ト云ハサルヲ得ス如何ントナレハ抑印影ハ一身上ニ關係スルノ器物ナルニ付輒シ之ヲ猥リニ致シ置クモノニアラス況ンヤ該改約証書タルヤ明治十四年四月十五日熊本裁判所民事ニ於テ判決セラレタル通り勘三郎ニ於テハ差入置タル覺無之旨申立ルト雖モ其之レカ眞偽ヲ糾ス爲筆跡監定人ヲシテ正庭ニ於テ監定セシメラレタル處勘三郎カ自書セシ書面ト同筆ナリ監定人ノ監定ニ依リ勘三郎カ差入タル改約証書ニ相違無之モノト判決セラレ勘三郎ハ曲者ト相成最早確定シタルニアラスヤ其確定シタルヲ自分カ摸擬シタルモノト認定セラレタルハ何ノ証據ニ依テ認定セラレタルヤ自分ニ於テ一切了解不致且是迄豫審庭ニ於テ摸擬或ハ盜用等ノ御調

モ無之此節輕罪庭ニ於テ認定セラレタルハ不當ノ甚シキモノト信認仕候  
追申書 第一條 事蹟

自分ト堀川勘三郎トノ交誼ヤ常ニ密ニシテ淺カラス依之自分先代ヨリ諸方ニ貸付アル數多ノ証書ヲ托シ之レカ募集ヲ委托爲シタリ然ルニ自分ハ清酒醸造ニ際シ多々ノ資本ヲ要スルヲ以テ金策ヲ堀川ニ乞ヒ即チ金百七十五圓拾五錢ヲ借受タリ爾來數月ヲ經テ仄ニ聞ク曾テ自分カ托シ置處ノ証書ハ堀川ニ於テ擅ニ之レテ私用セシト依テ自分ハ明治十二年一月第一號証ヲ遣シ自分ヨリ渡置キタル証書ハ皆テ返還ヲ促セシモ堀川ニ於テ都合アリシニヤ第一號証ノ返辦法ハ自分申渡シ置キタル証書ノ募集金ヲ以テ充テシトノ談合ニ付其儘托シ置キタリ然ルニ堀川ニ於テハ第二號証ノ通り先方ヨリ之レヲ受取リ明治十三年三月廿八日立會計簿ヲ爲セシ處第二號証ニテ最早双方出入ナキヲ以テ第一號証ハ可取戻等ノ處當時第一號証ハ堀川ニ於テ所在發見セズ依テ之レカ反証トシテ第四號証ヲ遣セリ然ルニ堀川ハ圖ラサリキ明治十三年五月第一號証ヲ以テ貸金并利米催促ノ訴ヲ熊本裁判所ニ起シ屢々御審理ノ末堀川ハ自分カ所有スル第四號証ハ差入レタル覺ヘナシト申立テルヲ果シテ堀川ノ實印及ヒ筆跡ト同印同筆ナルヤ否原被兩造ノ請願ニ依テ之レカ眞偽ヲ鑑定セシメシニ皆相違ナキヲ報告シ明治十四年四月十五日第五號証ノ如ク裁判宣告ヲ蒙リタリ然レモ堀川ハ敢テ控訴ノ念慮ナク承服致シ居リシ處明治十四年七月廿七日ニ至リ突然自分カ曾テ渡シ置キタル証書ノ内十二葉即チ第六號証ヲ持參シ之レカ受取證ヲ乞フニ依リ自分ハ之レニ受取證ヲ與フヘキ理由ナキヲ再三論セシモ肯セズ強テノ請

求ニ付自分ハ不得止書シテ曰ク「一先證文十二通」ト此七文字ヲ書ニ際シ堀川ハ曩日民事裁判ニ於テ裁決相成リシ金高ヲモ記載シ吳ルヘシトノ乞ヒナルモ自分ハ業既ニ確定セシ金員ヲ記載スル譯無之ヲ答ヘシモ尙ホ聞入レズ仍テ判文ニ於ルカ如キ受取證ヲ認メ遣シタリ然ルニ堀川ハ金高無之證文ハ無効ナリトテ之レヲ返却セシニ依リ自分ハ爾來紙入ニ包藏シ糾問掛永田殿ヨリ之レヲ出スヘシト命ニヨリ即チ之レヲ捧呈シ其儘御差戻無之明治十五年五月二十日ニ至リ重禁錮二月十日ノ御處刑ヲ受ケ是レ即チ本件ノ經過ナリ

第二條 證據ノ說明

夫レ第一號証ハ自分カ堀川ヨリ借用セシ金百七十五圓拾五錢ト利米トヲ記載セシ證ニシテ其第二號証ハ自分カ曾テ堀川ニ托シ置キタル証書ノ内ニシテ堀川カ先方ヨリ受取タル金員ニシテ即チ見認印ヲ捺捺シアリ第三號証ハ曾テ渡シ置キタル証書ノ内ニシテ現今ト雖モ尙ホ堀川カ所有セリ第四號証ハ第一號証ニ對スル證ニシテ自分カ堀川トノ兩造間ニ於テ出入無之ヲ証明スベキ反證ナリ第五號証ハ明治十四年四月十五日堀川カ自分ニ係リ出訴セシ事件ニ付熊本裁判所ニ於テ裁判セラレタル言渡シ書ナリ第六號証ハ明治十四年七月二十七日堀川ヨリ返戻セシ十二葉ノ証書是ナリ

第三條 不服ノ要点

判文ニ曰明治十四年七月二十七日堀川勘三郎へ差入タル書面中一先證文拾貳通但明治十四年四月十五日御裁決ニ相成候分先證文金高ハ本行ノ通り云々トアルニ據レハ其明治十三年三月二十八日付ノ改約書ハ被告人ニ於テ勘三郎カ筆跡ヲ摸擬シ且全人ノ印影ヲ盜用

シ作爲シタル証書ナリト認定ス。是レ自分カ不服ノ要點ナリ抑モ自分カ受取証ヲ認メタル精神ヤ他ナシ第一條ニ具申セシ如ク強テノ請求ニ付其十二葉ノ証書受取証ヲ認ムルニ際シ先裁判ニ相成タルノ金高ヲ記載スルノ旨ヲ乞フモ其金高ヲ記載スルノ理由ナク始メ先証文十二通トハ會テ渡シ置キタル証書ノ内返却ノ分ナリ但明治十四年四月十五日御裁決ニ相成候分トハ自分ヨリ勘三郎へ差入レタル証書即チ第一號証ヲ指ナリ先証文金高ハ本行ノ通トハ蓋シ勘三郎へ托シ置キシ今回返却分十二葉ヲ引去リタル残り証書ヲ云フナリ其残り証書ノ元利ヲ概算シテ第一號証ノ金高及ヒ利米ニ向合セタルノ謂ナリ今之レチ一紙ノ受取証ニ記載シ彼此兩歧錯雜スルヲ以テ証書面瞭然シ難シトス雖モ畢竟自分カ拙文ナル乎ハ知ラサルモ決シテ判文ノ如キ趣意ニハアラサリシ又事實上ヨリ之レヲ論スルニ民事詞訟ノ際原被告ノ請願ニ由テ印影及ヒ筆跡ヲ監定セシムルニ何レモ同印同筆ナルヲ報告シタリ其印影ニ於テハ自分カ盜用セシモノト認定セラレシモ自分ニ於テ決シテ爲サ、ル上ハ堀川ニ於テ之レヲ押捺セシムルハ復タ何人カ之レヲ押用スルヲモヤ其筆跡ノ如キハ如何ニ摸擬セント欲ストモ人トシテ萬々爲ス能ハサル處ナリ以上具陳スルカ如キ筆跡ト証據トニ依レハ何ヲ以テ其印影ヲ盜用シ且筆跡ヲ摸擬セシモノト認定セラレシハ實ニ事實ニ背馳シタルノ推測ナリト謂ハサルヲ得ス況ンヤ受取証ナルモノハ堀川ニ自分カ相渡シ堀川カ所有セシモノニアラス自分カ紙入ニ包藏シ糾問御掛ノ節自分ヨリ直チニ本官ニ奉呈セシモノナレハ一片ノ紙屑ト何ソ擇ハンヤ然ルチ被告カ剝奪暴没シタルモノト申立ツルモ之レ唯其理由チ巧言シタルモノニシテ其証ナケレハ水掛論トモ云フヘシ況ンヤ被告カ訟庭ニ於テ幸紙入ニ包藏シアルヲ命ニ應シ捧呈セシハ抑被告橫奪暴没ノ策意シナラサルヲ瞭然タリ若暴奪セシモノト認定セハ被告ニ於テ利アルモノトセシムハ暴奪スヘキ理由ナク被告利アリトシテ暴シタルヲ奈ソ無作ニ訟庭へ捧呈ス可キヤ夫ニ何ソ如斯判文チ與ヘラレシハ實ニ不服難默止ナリ此理由緻密ノ御審判ノ伏願ス

辨明

上告事件ヲ審案スルニ原裁判所ニ於テ上告人チ以テ印影ヲ盜用シ文書ヲ詐爲スルノ罪アリト判決セシハ上告人カ明治十四年七月廿七日付堀川勘三郎へ差入レタル書面アルニ依リ其事實ヲ認定シタルモノナリ今其書面ヲ閱スルニ文中明治十四年四月十五日御裁決相成候分先証文金高本行ノ通トアルハ文義曖昧ニシテ何等ノ旨趣ニ出タルヤチ詳知スル能ハスト雖ト其意チ推考スルニ蓋上告人カ義キニ民事訟庭ニ於テ勘三郎ニ對シ金圓返済ノ義務ヲ了シタリトノ裁決ヲ受ケシニ因リ其抵當ニ供シタル上告人カ他方へ貸付金証文チ請取リタルノ証書ト認メサルヲ得ス而シテ勘三郎名前ノ改約証書ナル者勘三郎カ上告人ニ貸與セシ金圓ノ元判チ請取リタルノ証書ナレハ二箇ノ文書互ニ相牽聯シタル者ニシテ上告人ノ勘三郎ニ對スル義務ヲ結了セシ証ト爲スヘキモ之ヲ以テ有罪ノ証憑ト認定スルコトヲ得サルモノ、如シ然ルニ原裁判所ハ何等ノ理由証憑チ明示セシテ輒シ刑ノ言渡チ爲シタルハ審理チ尽サ、ル不法ノ裁判ナリトス

但原裁判擬律上錯誤點アルモ其言渡ノ全部チ破段スルニ因リ之チ辨明セシ

判決

右ノ理由ナルヲ以テ明治十五年五月二十日熊本輕罪裁判所ニ於テ紫垣忠三ニ言渡マタル裁判ヲ破毀シ更ニ福岡輕罪裁判所ニ移シ審判セシムルニ因リ紫垣忠三ハ同裁判所ノ裁判ヲ受クヘシ

第九十八号

○判文(私印偽造ノ件)明治十五年六月二十日上告  
明治十五年十二月廿八日判決

大坂府東區石町二丁目十七番地  
平民當時滋賀縣近江國滋賀郡上  
平藏町寄留

小林 志 希 留

明治十五年九月  
三十五年九月

明治十五年六月一日大坂輕罪裁判所ニ於テ小林志希留ニ左ノ裁判ヲ言渡シタリ  
其方儀和田「ツタ」ニ係リ貸金催促不服ノ控訴ニ及ヒタル前明治八年十月九日付證書ノ如  
「ツタ」ハ壹万圓ヲ預ケ置クニ依リ「ツタ」ノ請求スル金額ト相殺セント提出セシ證書ハ正  
實ニシテ同人ヨリ直接領収シ該領ケ金ノ中五千圓ハ數百件ノ代理代書等謝金ナリト辨護  
スレト「ツタ」ノ陳述又謝金ヲ送與セラレタリト云ヘル村田平次郎外三名ノ供述ニ依リテ  
視ルモ預ケ金ヲ爲シタル原由ナキノミナラス印形鑑定者ノ報告糾問掛ノ取調書等ヲ以尙  
前後ノ行爲ヲ查究スルニ印影ヲ偽造シテ該證書ヲ詐爲シ金額ヲ詐取セント圖リ取得サル  
モノト認定スルニ足レリ右科刑法第二百八條第三百九十七條ヲ適用シ數罪俱

發ニ係ルヲ以テ第百條ニ照シ一ノ重キ二百八條ニ依リ六月己上五年己下ノ重禁錮ニ處シ  
五圓己上五十圓己下ノ罰金ヲ付加スヘキ處事犯新法實施前ニ在ルヲ以テ舊法偽造私印律  
改定律例第四百六條及ヒ賊盜律詐欺取財條ニ依リ竊盜未得財ニ準シテ論シ仍ホ二罪俱  
發例ニ照シ一ノ重キ偽造私印律ニ依リ懲役百日ニ該ルヲ以テ刑法第三條二項ニ依リ新舊  
法ヲ比照シ輕キ舊法ノ刑期ニ從ヒ重禁錮三月十日申付ル

小林志希留ハ右ノ裁判ヲ不當トシ明治十五年六月六日大審院ニ差出シタル上告狀ノ旨趣左  
ノ如シ

上告人小林志希留謹テ上申ス夫レ如何裁判權大ナリト雖モ憶測偏頗ノ判決ヲ下ス能ハサ  
ルハ他辨チ埃スシテ炳然タルノミナラス誰レカ不適法ノ裁判ヲシテ默々ニ付シ之レヲ甘  
受スルモノアラソヤ必ス先ツ其冤ヲ訴ヘ至誠ナル裁決ヲ仰願セサルヘカラス然リ而シテ治  
罪法第二百四條ノ設ケアル所以ノモノハ抑法官ガ被告事件ヲ糺治スルニ膺ク叮嚀反覆毫  
釐ノ遺漏ナク審理ヲ竭シテ以テ事實ノ如何ヲ確明ニシ及ヒ適用法律ノ理由ヲ明示シ專ハ  
テ偏頗ノ裁判ナラサルヲ証シ頗ル專横ノ裁判ニ涉ルナキヲ豫備猛省シタル元則ニシテ  
苟モ法官ニシテ被告事件ノ事實何レノ点ニ在リ如何ノ顛末ナルヤヲ明治セス匆卒審問ニ  
シテ終局ノ期ニ魁チ之レカ判決ナスカ如キハ所謂其原淵曖昧ナルヲ以テ結果假飾ノ裁判  
ニ類シ適用法律裁判基礎ヲ知ラサルモノトス否ヲ審理ノ不完了ナルキハ有益ニシテ必要  
ナル事實及ヒ法律ニ依リ其理由ヲ明示スルニ苦シミ從カツテ裁判ノ基礎ヲ知ル能ハサル  
ナリ加之若シ當路所院へ上訴上告等ヲナスニ當リ當路所院ハ其當否ヲ覆審スルニ由ナキ

ナ以テナリ又治罪法第四百十六條ニ法律ニ於テハ被告事件ノ模様ニ因リ有罪ナルノ推測ヲ定ムルコトナシ云々トアリ而シテ本條ノ元則タル有罪無罪ヲ判決スルニ最大必要ニシテ欠クヘカラサル法理ノ精神ヲ揭ケ憶測偏頗ノ具ニ屬スルアラントチテ防制シタルモノニシテ偶々民事ノ詞訟ニ在テハ法官ノ心證ヲ作ルニ或ル事實ニヨリ推測ヲ下スニ余リアリト參考ノ陳述等ヲ以テ甲乙判決ノ具トスヘキモノ其數夥多ナリト雖モ犯罪事件刑事ニ在ツテハ直接ナル證據ヲ除クノ外法律上ノ推測ヲ下ス能ハサルモノナリ然リ而シテ被告人任意ノ口供及ヒ相當官吏ノ檢證調證證據物件ノ如キハ法律ニ於テ允許成立サレタル直接ノ證據物トナスト雖モ證人及ヒ鑑定人等ノ申告其他各種ノ徵憑ノ如キハ法官カ被告事件ヲ糾治スルニ際シ其中申告上ニヨリ感覺スル處ノ本心ヲ定メ有罪無罪ノ心證ヲ資ルマテノモナレハ譬ヘハ鑑定人等ニ於テ物アリ眞正物ト比照シテ之レハ偽造物ト鑑認シ又ハ甲証書ノ捺印ト乙手形ノ押印ハ異同アリト鑑定シタルモノ如キハ法官ハ如何ノ感覺ヲナシ其有罪ナル何レニ在ルヤ心証ノ資ルヘキモノナルヤ已ニ眞偽物ノ如キハ其犯罪ヲ判定スル決意ヲ爲スニ繁雜中ノ容易ナリトスヘキ具アルト雖モ甲乙印影ノ如キハ其鑑定人ノ申告タル異同ノ有無ヲ鑑査スルニ止リ原素ノ印判タル何レカ眞何レカ偽ナリト其決定ハ鑑定カノ及フ處ニ非ラスシテ如此ハ法官於テ甫メテ其感覺スル處ノ智能ト其他心証ヲ作クルノ具充分ナル場合ニ於テ有罪無罪ヲ判定スルヲ得ル譯ナレトモ之レカ甲乙兩印ノミニシテ原素ノ正印ト對比照較鑑定ナサシメタルモノニ非ラサレハ所謂名ヲ鑑定人ニ假リ其實推測意斷ニ出テタルモノナルヲ以テ之レカ決シテ裁判言渡ヲ爲スノ証憑ト云フヘカラサルノ

ミナラス徵憑トモ号ケル能ハサルモノナリ然リ而シテ抑本件ハ民事詞訟ヨリ附帶シテ刑事審判ヲ煩ハシタルモノニシテ其民事上ノ御審理ヤ頗フル曲庇ノ壓制ニ出テ未タ其局ヲ結ハサル以前ニ於テ法官ハ上告人カ冤ヲ認ヘテ告發サレタルヨリ本件ノ不幸ヲ引招シタルモノナレハ已ニ本年即明治十五年五月二十二日附テ以テ判事三澤元衡外一名ヲ被告トシ裁判前曲庇壓制ノ告訴狀ヲ御院ヘ對シ捧呈致シ置キタルノ顛末ニシテ本件ノ起因ヨリ經歷ヲ詳細ニ登記シ事實ノアル處ヲ確明ニシ趣意明細書ヲ作り度存惟スルモ法律ニヨリ上告ノ期限アリ限内之レヲ具備セシムル能ハサル、ノミナラス前ニ陳伸スル如ク已ニ本件ノ詳細ハ御院ヘ呈シアル告訴狀ニ登載シアルヲ以テ旁々這回ノ趣意書ニ之レヲ贅セス仍ホ必要ニシテ有益ナル領目ハ他日ノ追願書ニ讓リ先ツ裁判不當ナル要點ヲ左ニ陳述ス

上告人カ提供シタル証書 和田「ツタ」ヨリ領収シタル 認メテ大坂輕罪裁判所ハ偽造物トナシ又之レヲ上告人カ偽造シタルモノナリトシ處罰サレタルモ抑該証書タル明治八年十月九日ニ調製シタルモノニシテ金額明文等ハ上告人ニ於テ代書シ遣シタルモ和田「ツタ」ノ肩書姓名年月日等ハ往年來右「ツタ」方ヘ通勤シ同家金銀出納ヲ締督爲セシ〇〇九兵衛ノ執毫ナリ又印章ハ純乎タル和田「ツタ」カ實印ニシテ「ツタ」於テ自カラ該証ヲ認メテ捺印シ之レヲ上告人ヘ交附シタルニ付當時掛リ戸長役場ヘ保存シアル戸籍帳簿ノ「ツタ」カ名下ニ捺捺アル印蹟并ニ地券臺帳等ノ「ツタ」名下ノ印影ト較照鑑査シタルモ毫釐ノ異同アルナキヲ以テ爾來意ヲ安キニ措キ其后又該金圓ハ壹方圓ナルヲ以テ内金六百圓ノ相殺ヲ

爲シタル証書ヲモ受領シ該證ノ印章ト當初領収シアル即壹万圓ノ預リ證書ノ押印ト同一件ニシテ少シモ間然スル事ナシ故ニ大坂輕罪裁判所ニ於テ之レ等ト對合シテ檢査鑑定ヲ命セラレタキ旨數々請求シタルモ曾テ聽許ナク又公正ノ印鑑ト照合鑑査ヲ命セラレタルニモ非ラズ輒スル無効驗ナル印章ト對比鑑定ヲ命セラレ己ニ一名ノ鑑定人ハ異同アルト云ヒ又一名鑑定人ハ間然スル處ナク同一ノモノナリト陳告シ未タ兩立ノ鑑定ニシテ多數ノ鑑査アリシヲ聞カサルナリ況ンヤ公正ノ印鑑ト對比鑑査シタルモノニ非ラサルノミナラス若シ果シテ該證ノ印章ニ於ケル「ツタ」ニ於テ當時用ユル實印ト不同一ノモノナレハ當初該證ヲ上告人ヘ交付スルキニ際シ有心ニシテ「ツタ」カ自用ノ實印ニアラサル價造印ヲ鈐印シ上告人ヲ欺瞞シテ該證ヲ交付シタルヤモ難計抑上告人ニ於テ該證書ヲ偽造シタルニ非ラサレハ之レカ犯罪人ハ今一層ノ審理ヲ尽サレハ容易ニ判定ナス能ハサルハ法理ノ元則ナルニ於テチヤ夫レ然リ果シテ然レハ本件ニ於ケル尽スヘキノ審理ヲ尽サス憶測以テ判定ヲ下サレタルヨリ事實ノ在ル處相齟齬矛盾シ冤ニ枉セラレタルハ頗不當ノ裁判ナリト云フモ決シテ失言ニアラサルヘシ

改定律例第百四十六條ニ曰ク凡人ヲ容賣シテ雇人ト爲ス者ハ懲役二年半其賤辱虐使ヲ受ケシムルモノハ爲娼妓律ニ依ルトアレリ而シテ上告人チシテ本條ヲ示サレタルハ裁判言渡書ノ誤謬ナルカ將タ眞正ナル言渡書ナルカ若シ誤謬ニ罹ラサルモノナレハ之レカ言渡書ニ其理由ヲ明示サレサルハ違法ノ裁判ナリトス夫レ如此論了スレハ何レトモ其當ヲ失シタル判定ナレハ苟シクモ之レチ甘受スルニ足ラス頗フル專横ノ裁判ナリト云フモ聊過

言ニアラサルヘシ

明治十五年六月十六日同七月十七日同十一月四日小林志希留ハ再三上告趣意明細追加書ヲ差出スモ最前ノ趣意ヲ擴張スル迄ニ止マレハ茲ニ錄取セス

辨明

小林志希留ニ於テ明治八年十月九日付金壹万圓預證ハ偽造物ニアラス其證據ハ戶籍帳簿地券臺帳等ニ和田「ツタ」名下ニ押捺シアル印影ト該證書ニ押捺シアル印影トヲ比較スレハ毫釐ノ差ナキニ他ノ印影ト照査シ印形及ヒ證書ヲ偽造シタルモノトセラレシハ不服ナリトテ喋々陳辨スルニ依リ爰ニ原書類ヲ審按スレハ大坂控訴裁判所カ鑑定人榮井武兵衛外二名チシテ和田「ツタ」ノ實印ト前證書ニ押捺シアル印影ヲ鑑査セシメタルニ共ニ相違セル旨ヲ鑑定シ又大坂輕罪裁判所豫審調ニ於テモ前印影ノ鑑定ヲ爲サシメタルニ細字常七外一名ハ何レモ相違ノ廉有之旨ヲ鑑定セルノミナラス志希留カ右壹万圓金ノ内五千圓ハ「ツタ」ヨリ貰ヒ受ケ五千圓ハ村田平四郎外數名ヨリ貰ヒ受ケタルヲ合算壹万圓ト爲シ「ツタ」ニ預ケタル旨申立ルモ村田平四郎外三名ハ勿論「ツタ」ニ於テモ如此大金チ志希留ヘ贈與セシメ無之旨大坂裁判所糾問係ヘ宛申立アリ況ン哉志希留ニ於テ明治八年五月中金千八百圓チ有利子ニテ「ツタ」ヨリ借受ケ同年七月中及ヒ同年十月十五日ニ至リ返済期限ノ追證チ差入其文ニ「追々延引仕候段御斷申上候云々」トアリテ果シテ壹万圓ノ預ケ金アレハ如斯追證ハ差入ヘキ理由ナク「ツタ」ニ於テモ亦タ請取ル可キ筈ハ無之而シテ該壹万圓金預證ノ紙質ハ鹿野ナル一片紙ニシテ後來ノ資本ニ供スル爲メ預ケ置キ受領シタ

ル證書トハ見認メ難キニ於テナヤ又タ原裁判所カ事犯新法實施以前ニ在ルヲ以テ舊法偽造私印條改定律例第四百六條及ヒ賊盜律詐欺取財條ニ依ル云々ハ改定律例第四百六條ノ百ノ上ニ二ノ字ヲ脱セシ旨附箋ヲ以テ正誤シアルハ即チ偽造私印條改定律例第四百六條及詐欺取財條ニ依リ竊盜未得財ニ準シテ論シ云々ト處斷シタルハ其舊法ヲ引用シシハ允當ナリト雖モ明治十四年八月八日京都裁判所大津支廳ニ於テ右志希留ニ對シ不應爲輕ノ從トナシ一等ヲ減シ尙ホ捕亡律獄囚脱監及反獄逃走條末項水火震災ノ變ニ因テ逸出シ投歸スルヲ以テ又一等ヲ減シ懲役一十日ノ贖罪金七拾五錢ノ裁判ヲ志希カ當時本案事件ニ付拘留中ナルヲ以テ大坂裁判所ニ於テ言渡シタリ

本案裁判言渡ノ節刑法第百二條新律綱領名例律二罪俱發以重論條等ニ依リ本案偽造私印條ニ照シ懲役一百日ヨリ右懲役一十日ヲ扣除シ剩ル懲役九十日ニ處ニヘキナノナリトス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十五年六月一日大坂輕罪裁判所ニ於テ言渡シタル裁判ヲ平翻スル

小林 志 希 留

前ニ辨明ノ如クナルヲ以テ刑法第三條第二項及明治十四年第八十一號公布ニ據リ刑法第百八條同第二百十條同第三百九十七條及ヒ同第百條ニ照シ一ノ重キ第百八條ニ依リ六月以上五年以下ノ重禁錮五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加スヘキモノニテ舊法ニ於テハ詐欺偽造私印條改定律例第百四十六條賊盜律詐欺取財條ニ依リ竊

盜未得財ニ準シテ論シ仍ホ名例律二罪俱發以重論條ニ依リ懲役一百日ヨリ一十日ヲ扣除シ懲役九十日ニ該レリ即チ舊法ハ新法ヨリ輕キニ付舊法詐欺偽造私印條改定律例第百四十六條賊盜律詐欺取財ニ依リ竊盜未得財ニ準シテ論シ仍ホ名例律二罪俱發條ニ依リ懲役一百日ヨリ一十日ヲ扣除シ剩ル

懲役九十日

第千九十九號

○判文(詐欺取財ノ件) 明治十五年六月廿日上告  
明治十五年十二月廿八日判決

熊本縣上益城郡下六嘉村

平民紺屋職

藤 川 清 四 郎

明治十五年六月  
明治六年五月

明治十五年六月三日熊本輕罪裁判所ニ於テ藤川清三郎ニ對シ左ノ裁判ヲ言渡シタリ  
其方儀詐欺取財一件審問ヲ遂クル處其方ニ於テハ高田源藏ヨリ明治十二年三月中借用セシ金百七拾五圓ノ内殘百貳拾五圓ハ明治十四年六月中兼テ貯金七拾圓ト物品賣却代金六拾七圓五拾錢ヲ合セ返辨セシ旨申立ルモ山田勝平永田傳八鳥井嘉平等ノ口書并ニ事實ヲ視ルニ永田傳八ハ地所讓渡シノ契約ナシタルハ物品賣却セシ後ニシテ又其方カ兼テ七拾圓ノ貯金アラハ僅拾圓未滿ノ金員ニ上妻藤次郎ヨリ身代限處分受クルノ理ナシ因テ源藏ニ殘金返辨ナシタルニ非ラサル者ト認定ス右ノ所爲ハ刑法第三百九十條ニ依リ處斷スヘ

キモ所犯刑法實施以前ニ係ルヲ以テ刑法第三條第二項ニ照シ新舊ノ法ヲ比照スルニ舊法  
賊盜律詐欺取財條ニ依リ竊盜ニ準シテ論シ贓金百貳拾圓以上懲役十年ハ重シ因テ其輕キ  
刑法第三百九十條ニ依リ二月以上四年以下ノ重禁錮トナシ仍ホ明治十四年第八十一號公  
布ニ照シ附加ノ罰金監視ヲ除棄シ重禁錮四年ノ刑ヲ言渡スモノナリ

但欺取ル金百貳拾五圓ハ高田源藏ニ償却ス可シ

藤川清三郎ニ於テ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十五年六月九日本院ニ差出シタル上告狀ノ  
旨趣左ノ如シ

第一被告事件罪トナササルヲ却テ有罪トナシ之レカ刑ヲ言渡サレタルハ不當ノ言渡シナリ  
トスルニアリ抑モ被告ハ高田源藏ニ對シ百七拾五圓ノ借用金ヲナシタルハ明治十二年三  
月中ニシテ該金ハ地所抵當ニテ借用シタルモ内金五拾圓ノ元金ヲ拂ヒ込ミタリシニヨリ  
殘金ハ百貳拾五圓トナリ居タリ然ルニ被告ハ兼テ紺屋職ヲ爲スモノナレハ藍買入ノ爲メ  
遠在ヘ旅行中上妻藤次郎ナル者ヨリ係ル貸金一件ノ裁判呼出シテ受ケタルニヨリ一旦歸  
宿シ速ニ返却ス可キノ答書ヲ爲シ再ヒ旅行中缺席裁判トナリ身代限ノ揭示アルモ知ラサ  
リシニ自身歸宅シ初メテ身代限ノ所爲ニ遭ヒタルコトヲ承知セリ又高田源藏ヨリモ出訴セ  
シコトヲ承知セリ依テ被告思考ス僅々ノ金員ノ爲メ身代限ヲ爲スモ遺憾ナリ寧ロ速カニ身  
代限ヲ取消スノ手段ヲ爲サ、ルヲ得スト即チ明治十四年五月五日ニ至リ入札拂ノ揭示ヲ  
受ケタルニ依リ尚ホ周章シ上妻藤次郎ヘハ五月中濟方致シ身代限御取消ヲ乞フ高田源藏  
ヨリ出訴セシ一件漸ヤ等閑ニ捨テ置キ尙藍買入ニ趣キタル處十四年五月二十三日ニ至リ

抵當糶賣掛向ケ尙ホ不定スル時ハ身代限ヲ以テ義務ヲ了ス可キ旨ノ闕席裁判ヲ受タリ  
依テ源藏及ヒ傳八ヘ示談ヲ遂ケ明治十四年六月五日ヲ以テ被告地所ヲ傳八ヘ讓渡シノ契  
約ヲ結ビ而シテ源藏ヘハ傳八ヨリ借用證文ヲ差入レ地所書入證文ヲ源藏ヨリ受季シテ即  
チ權利義務ヲ更改シタリ而シテ被告ニ於テハ動産ヲ賣却シ及ヒ所持金ニテ老祖母等  
ヲ保養スルノ心底ナリシモ如何セン老祖母「リシ」ニ於テハ老衰ノ頑固ナル地所等ハ敢テ  
讓渡スコトヲ禁ス動産及ヒ金員杯ハ再ヒ得易キモノナレハ賣買勝手ナリト拒ムニヨリ止ム  
ヲ得ス老祖母ニ背キ難ク兼テ所持スル金七拾圓ト藍瓶等ノ賣却代金ヲ合セ地所讓渡シテ  
乞ヒタルモ寧ロ源藏ニ差入タル證文ニ受季ス可シトノ傳八申立テニ依リ源藏ヘ差入レタ  
ル証文ハ明治十四年六月七日受戻シ而シテ傳八ヨリ讓渡證文ヲ受戻シタリ固ヨリ熊本輕  
罪裁判所ヘ提供シタル物品賣却代金等ハ證左符合スルモ所持金七拾圓ノ事ニ至リ棄却セ  
ラレタルハ果シテ何等ノ證左アリテ然ルヤ之レ裁判官ノ忘想ニ出ツルモノニシテ寸毫モ  
罪ヲ犯シタルモノニ非ルヲ有罪ノ言渡シアリタルハ頗ル不當ト認定ス之レ裁判官越權ヲ  
以テ有罪ト作爲セラレタルモノナリトスル所以ナリ

第二地所讓渡ノ契約ナシタルハ物品賣却セシ後ナルヲ以テ證書受季シタル金員ニ用ヒタ  
ルノ理ナキ旨ノ判定ナリト雖モ物品賣却ハ地所讓渡ノ前後ニアリ固ヨリ物品等ヲ賣却シ  
タル金員ト合シ返却セサリシトハ事實ノ齟齬ナリ又拾圓未滿ノ金員ニ上妻藤次郎ヨリ身  
代限リ處分ヲ受タルノ理ナキ旨ノ判定ナリト雖モ其實缺席裁判ヨリ起リ之ヲ知ルニ至リ  
テ義務ヲ了シ身代限ノ取消ヲ爲シタルヲ審制セス單ヘニ身代限ヲ爲シタルモノナリト



ノ妄想ヲ以テ臆斷セラレタルハ大ニ事實ノ齟齬ヨリ生スルモノナリトス又山田勝平永田傳八鳥井嘉平等ノ口書云々トアルモ其山田勝平ナル者ハ當初借用セシキノ紹介人ニシテ敢テ返濟セシ時ニ干渉セシトナシ特リ永田傳八ノ返濟ノ節干渉セシモ前項ニ陳スル通ノ事マテニシテ則チ傳八ハ一旦ノ義務者ト成タルモノナリ而ルニ鳥井嘉平ナル者ト判文ニ記載アルモ被告ニ於テハ彼ノ嘉平ナル者ハ曾テ一面識ナキモノナレハ返濟セシト否トノ如キ與リ知ルノ理由ナシ然ルチ鳥井嘉平ノ口書云々ト記載シ之ヲ以テ證トシタル如キ勢ヲ判文ニ顯シアルハ果シテ何等ノ齟齬ニ出ツルヤ之レ裁判官審理ニ鹿ナルヨリ起リタルモノト確認ス

第三前二項ニ陳スル如クナルヲ以テ實ニ之ヲ罪アリトスルノ所爲ニアラス然ルチ有罪ノ言渡シアリ之ヲ法律ニ照スニ舊法ニ依ルニ罪ヲ斷スルハ證ニ憑ルトアリ又新法ニ因ルニ治罪法第百四十六條ノ法律ニ於テハ被告事件ノ摸樣ニ因リ有罪ナルノ推測ヲ定ムルコトナシトアルカラハ被告事件ノ如キハ證左ナク又推測ヲ以テ判斷セラレタルモノナレハ即チ裁判官ノ行爲ニ於テ此範圍外ニ出テ權ヲ擅ニシタルモノナレハ之ヲ越權ノ所爲ヨリ起リタル取リモ直サス擬律ノ錯誤ト認定ス

前條ノ如クナルカ故ニ被告事件ハ罪トナル可キ所爲ニ非ヌ加之ナラス裁判官ノ妄想ヲ以テ身代限ノ所分ヲ受ケタルモノナレハ万々義務ヲ尽シ能ハサルモノト輕々看過シ不法ノ推測ヲ下シ擅マ、ニ證左ノ有無ニモ照顧ヒスシテ果斷セラレタルモノニヨリ爰ニ正當ノ判決ヲ蒙ラントナシ希望シ上告スルモノナリ

辨明

藤川清四郎ニ於テハ高田源藏ヨリ借用シタル金員返濟殘百二十五圓ハ全ク返濟シタル者ニシテ詐取シタル者ニアラスト云フト雖モ被告事件ノ事實ヲ認定スルハ原裁判所承審官ノ主權ナリトス今上告ニ因リ原裁判所ノ簿冊ヲ密閱スルニ原裁判所カ關係人山田勝平永田傳八鳥井嘉平等ノ申供ニ因リ事實ヲ認定シタルハ不法トナス廉アルコトナシ故ニ原裁判所ニ於テ前記宣告書ノ如ク斷言シタルハ不法ノ裁判ニアラスト

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十五年六月三日熊本輕罪裁判所ニ於テ藤川清三郎ニ言渡シタル裁判ヲ破毀スヘキ理由ナキニ因リ上告狀却下スル者也

第千百號

○判文(詐欺取財ノ件)明治十五年六月二十日上告  
明治十五年十二月廿八日判決

新潟縣越後國中頸城郡小泉村當

時同郡高田下職人町寄留平民

青山治郎平

明治十五年五月  
四十二年十一月

明治十五年五月六日高田輕罪裁判所ニ於テ青山治郎平ニ左ノ裁判ヲ言渡シタル  
一檢察官陳述ノ要領ハ被告青山治郎平ハ明治十二年三月三十日笹井惣平カ被告ノ宅ニ來リ  
田地買代金不足分金貳百四拾圓借受度トノ頼ニ付被告カ東京ニテ二十山重五郎ヨリ返濟

受タル金六拾圓ト桐山權平ヨリ借受タル金八拾圓ト被告自宅ニ有合セノ金ヲ併セ都合貳百四拾圓ヲ惣平ニ相渡シ惣平ヨリ其借用證ヲ取受更ニ惣平ヨリ右ノ貳百四拾圓ノ金ト惣平所持金四圓ト都合貳百四拾四圓ヲ取該金額ハ其日ノ夕方告訴人佐藤六太郎へ直渡シ致シ即時六太郎ヨリ三月三十日付金貳百四拾四圓ノ受取證領受シタルモノニテ六太郎ヲ申欺キ受取證ノ取受右金額ヲ詐取セシモノニアラサル旨抗辨スレハ證人佐藤六太郎並井惣平岩佐三郎右衛門中村吉三郎ノ陳述ハ着々符合シ且被告治郎平ニ於テハ毫モ反證ナキヲ以テ觀レハ被告カ六太郎ヨリ取受シ三月三十日付ノ金貳百四拾四圓ノ受取證ハ明治十二年三月三十日ニ取受タルモノニアラスシテ明治十二年五月中勸解入用ノ爲メ六太郎ヲ欺キ取受ケタル證書ニシテ即チ被告治郎平ハ六太郎へ渡ス可キ金貳百四拾圓ヲ詐取セシ證憑充分ナリ又二十山重五郎ノ住所ヲ詳知シ乍ラ故ヲニ詐リタル點ハ是亦微憑ノ一端ナリト思料スル等ノ事

二被告青山治郎平陳述ノ要領ハ證人佐藤六太郎ハ七八年前ヨリ面識シ明治十二年三月同人ヨリ笹井惣平ニ係ル田地取戻掛合方代人ノ依頼ヲ受ケシヨリ懇意ニ相成タルモノニテ右田地取戻ノ件ハ佐藤六太郎所有ノ田地貳町七反壹畝貳拾五步ヲ笹井惣平へ七百五拾六圓ニ抵當ニ入レタル處惣平ニ於テ戶長ヲ欺キ悉ク惣平ノ名前ニ書換タルニ依リ種々掛合ニ及ヒタル末明治十二年三月二十五日惣平戶長ヲ欺キ諸帳簿書換タル證書ヲ取リ其廿八日惣平へ該田地賣渡ス口約ヲ爲シ同三十日ニ四月四日迄ニ六太郎ヨリ其讓渡證ニ付約定書ヲ惣平ニ差入置タリ然ルニ明治十二年三月三十日朝惣平儀被告宅ニ參リ田地買代金ニ差

支ヘル旨申ニ付明治十二年二月中被告出京ノ節相撲ノ親方二十山重五郎へ兼テ貸付置キシ金六拾圓返濟ノ分及ヒ桐山權平ヨリ借受アリシ金八拾圓ト被告カ東京ニテ米相場ヲ爲シ勝得シ金圓等ヲ併セ金貳百四拾圓貸渡シ而シテ右金額ハ田地買代金ナルニ付其場ニテ惣平ヨリ該金員ト其借用證及ヒ外ニ現金ニテ四圓ヲ受取タルヲ以テ都合金貳百四拾四圓ノ受取證惣平ニ差入レ其受取證ハ四月四日田地讓渡ノ際取戻シ該證ハ于今所持セリト思ヘリ然ル處佐藤六太郎ハ其夕方被告宅ニ參リタルニ付右金額貳百四拾四圓ハ其受取證ト引換ヘ六太郎ニ相渡シタルモノニテ其受取證ハ于今所持致セリ右ノ理由ニ付明治十二年五月四日ト覺ヘ惣平ニ係リ前顯貸付タル金員ニ付勸解出願セシハ相違ナキモ六太郎ヨリ勸解出願入用ニ付貳百四拾四圓ノ受取證騙取シテ其金額ヲ詐取シタル儀ニテハ決シテ無之ノミナラス其詐取セサルノ證ハ當時六太郎ヨリ自分へ宛タル謝狀等アルヲ以テ知ラルヘキモノナリ如斯場合ニ付岩佐三郎右衛門ヨリ貳百四拾四圓ノ催促ヲ受クル譯モ無之且其催促ヲ受ケシモ無之惣平ヨリ實際田地代金千圓ヲ出金セシニ八百九拾九圓ノ受取證ナルモノハ六太郎カ惣平へ七百五拾六圓ノ抵當地ニ差入レシ貳町七反余ノ内四反九畝余ハ最初加藤由平ノ落札名前ニ付其抵當貸金ノ内百壹圓ハ由平分ナルモ由平ト惣平トハ兄弟ニテ内々々ノコナレハ別段記載スルニ及ハス六太郎落札田地貳町貳反畝余ノ抵當貸金六百五拾五圓ト買代金貳百四拾四圓ト合セハ八百九拾九圓トナルヲ以テ之レカ受取證ヲ六太郎ヨリ惣平へ差入タルモノナリ然ルニ惣平カ實際千圓ノ出金致居ルヲ八百九拾九圓ノ受取證差入置クハ不都合ナレハ其邊ハ永キテ故如何ナル譯カ記憶セヌ又明

治十五年三月三日付コテ二十山重五郎へ出シタル郵書ニ深川區舟藏前町六番地下記載アルハ自分倅正九郎ニ於テ記載セシコ故町名番地ハ如何記載セシヤ被告ニ於テハ存セサル義モ有之等ノコ

三告訴人佐藤六太郎陳述ノ要領ハ被告青山治郎平ハ明治十二年三月廿四日自分買入置キシ丸山才吉身代限り入札拂ノ田地貳町七反壹畝廿五歩也笹井惣平へ抵當ニ差入置タルニ惣平ニ於テ戸長ヲ欺キ證文仕直セシ一件ニ付其掛合ノ代人ニ依頼シタル節初メテ面會致シ專ラ治郎平ヲ信用シ相任セタル處明治十二年五月十日頃治郎平ヨリ自分止宿所へ呼使ヲ遣シタルニ付參リタル處笹井惣平カ右田地買入金貳百四拾圓ノ借用金ニ付惣平ニ係リ勸解出願セシ處勸解廷ニ於テ惣平代人小林吉五郎〔現今逃亡〕ヨリ青山治郎平名宛ノ證書ニ對シテハ六太郎ノ田地代金ハ遣シ難ク申スニ付六太郎方へハ治郎平ヨリ取替置キタル旨申立置キタリ依テ自分ヨリ受取證遺ハサレハ田地代金取レ難キ旨治郎平申聞ルニ依リ代人ノ事故差支モ無之ト存シ金貳百四拾圓ノ受取證ヲ治郎平名宛ニシテ差入タリ然ルニ該證ニ三月三十日トアルハ其日付ニ致サレハ取替タル證據ニ不相成ニ付三月三十日ト認ムヘシ申聞ニ任セ其指圖ノ通り相認メタル者ニシテ貳百四拾圓ノ金ハ今日迄決シテ受取タルコト無之且右ノ借用證アルコトハ治郎平カ勸解出願スルト云フ時始メテ之ヲ承知セリ將タ其受取證ヲ治郎平ニ相渡ス際ハ岩佐三郎右衛門カ現ニ看認シ居ルコトニシテ決シテ金圓ト引換ニ相渡シタル受取證ニハ無之加ルニ前顯貳百四拾圓ノ内治郎平ニ於テ惣平ヨリ金百圓受取タル趣ハ中村吉三郎ヨリ承知セリ而テ吉三郎ヨリ自分へ取替金アルヲ以テ惣

平代人小林吉五郎へ正金百四拾圓ハ吉三郎へ相渡與ルヘク申聞居タル處へ治郎平追駈來リ吉三郎吉五郎ノ兩人ヲ談シ付ケ治郎平ニ於テ之レヲ受取タリ又明治十二年五月中〔治郎平ニ於テ惣平ヨリ田地代金受取タル后〕自分カ治郎平方へ參リタル處惣平代人小林吉五郎モ參リ居タリ然ルニ治郎平ヨリ自分ニ向ヒ明治十二年三月廿四日付ニテ笹井惣平宛田地代金ノ内八百九十九圓ノ受取證ヲ吉五郎ニ差入ルヘク申ニ付自分代人ノ申スコト故惡シキコトハ有之間敷ト相考へ其通り自分證書相認メ差入タリ右様田地代金ノ内八百九拾九圓トシタル所以ハ別紙甲號ノ通り田地貳町七反余ノ内四反九畝余ハ初メ加藤由平名前ニテ落札相成タルヲ自分讓受共ニ惣平ニ抵當ニ差入レ其借金額七百五拾六圓ナレトモ自分名前ノ借金ハ六百五拾五圓由平名前ノ分ハ百壹圓ニ相當ルニ付自分ノ六百五拾五圓ト前顯治郎平ノ差圖ニ依リ差入タル貳百四拾四圓ヲ合セ八百九十九圓ニ該スルヲ以テ是亦治郎平ノ指圖ニ依リ吉五郎ニ差入タルモノナリ右ノ理由ニ付貳百四拾四圓ノ受取證ヲ詐取セテ及ヒ其金額ハ全ク領受セサル等ノコ

四證人笹井惣平陳述ノ要領ハ被告青山治郎平ハ明治十一年十一月中ト覺へ佐藤六太郎カ丸山才吉ノ所有地入札拂落札セシ田地貳町七反壹畝廿五歩ヲ自分方へ七百五十六圓ノ抵當ニ差入アリシ處期限即チ明治十二年二月中ニ至リ返辨セサルニ付右田地ヲ引取り自分名前ニ致シタル事件ヲ不當トシ佐藤六太郎ノ代人トナリ其談判ヲ受タルニ依リ其節初テ知ル人ニ相成タリ然ルニ明治十二年三月廿五日治郎平ヨリ呼手紙ヲ受ルニ付直チニ治郎平止宿所ニ參リシ處治郎平ヨリ右田地ヲ金千圓ニテ可買受旨強テ申聞ラレ然ルニ金員所持

セサル旨相答へタル處其代金ハ治郎平ニ於テ貸渡ス旨申スニ付承諾シ其日ハ立歸リ其后三月三十日治郎平方ニ到リ右ノ金員借受度申入レシ處其代金ハ治郎平ヨリ直チニ六太郎へ拂置ク間タ借用證書可相渡又端金四圓丈ハ只今現金ニテ可相渡旨申スニ付現銀四圓ト貳百四拾圓ノ借用證書ヲ治郎平ニ差入タリ然レモ其貳百四拾圓ハ見受タルノモ無之而シテ該金額ニ利子九圓ヲ添へ明治十二年五月中兩度ニ返濟シ借用證書ハ取戻シタリ然ル處明治十二年五月十四日頃ト覺へ治郎平ヨリ自分ニ係リ右田地買上代金請求勸解出願ノ節自分代人タル小林吉五郎現今逃亡ヨリ如何ナル譯カ知ラサレモ先キニ六太郎へ田地抵當ニテ貸渡シタル金七百五拾六圓ハ證書二通ニ致シ一通ノ證書ハ六百五拾五圓一通ノ證書ハ百壹圓ナル處此百壹圓ノ抵當田地四反九畝余ハ最初加藤由平名前ニ付右金ヲ除キ六百五拾五圓ト田地買上代金トシテ治郎平ニ相渡シ置ケル貳百四拾四圓ト合セ金八百九拾九圓ト相成ルニ依其受取證書領受シ來ル旨申スニ付自分ハ千圓出金致シ居ルニ八百九拾九圓ノ受取證書ハ不都合且其日付ハ明治十二年三月二十四日トアリ甚タ不都合ナルヲ以テ吉五郎へ問合セタル處金數違ヒ居ルモ代人ニ於テ宜敷様取扱遺ス旨申シ且日付ハ違ヒ居ルモ受取證書ナレハ差支無之旨申處ヲ以テ觀レハ何カ取り巧ムト相考へ怖ハシ相成リ直チニ代人ヲ謝斷シタル等ノコト

五 證人岩佐三郎右衛門陳述ノ要領ハ明治十一年十一月中佐藤六太郎ヨリ田地貳町七反余笹井惣平へ抵當ニ差入置タル處明治十二年三月中惣平ニ於テ右田地ヲ同人持地ニ書換へタルニ依テ六太郎ノ依頼ヲ受ケ自分案内ニテ被告青山治郎平へ掛合方及委任同人ヨリ惣平

へ掛合及ヒタル處申譯無之旨ニテ不念證書出其後三月三十日右抵當金ノ上ニ貳百四拾四圓ヲ加へ惣平ニ賣渡スノニ相成タリ然ルニ惣平ニ於テ右代金ニ差支ル旨申聞タル處治郎平ニ於テ其代金ハ治郎平ヨリ六太郎ニ取換へ置ク間タ治郎平ニ借用證書入ルヘシ申聞ルニ付惣平ハ治郎平ニ金貳百四拾圓ノ證書ト現金四圓差入タリ右受授ノ際ハ自分立會タリ尤右ハ口上ニテ取換へ置クトノコトニテ治郎平ヨリハ一金タリモ其場ニ於テ差出シタルノハ無之又明治十二年五月半頃ト覺へ治郎平止宿所へ立越タル處治郎平ニ於テ六太郎ヲ呼寄セ申聞ケルニハ惣平田地代金貳百四拾圓今ニ相渡サ、ル間タ勸解出願及ヒ本日惣平代人小林吉五郎ト對質ニ及ヒタル處吉五郎ニ於テ佐藤六太郎ヨリ借金ハ有之モ治郎平ニハ無之旨答辨セシニ付六太郎ニハ自分治郎平ヨリ田地代金差遣シ置タル旨申立タル處御係ヨリ差遣シタル證據アルコト申聞ラレタルニ付其證據ハ明日持參スヘシ申立置タリ依テ自分へ貳百四拾四圓ノ受取證書差遣スヘシ申聞タル處六太郎其意ニ任セ該受取證書認メ治郎平ニ相渡タルヲ見受タリ尤金圓ノ受授ハ無之其受取證書ニ六太郎ヨリ治郎平へ相渡シタリ又田地代金ハ明治十二年五月中惣平ヨリ治郎平ニ於テ受取タル旨承知シタルニ依リ六太郎ノ依頼ヲ受ケ六太郎共々治郎平へ催促及ヒタル處米貳拾五石惣平ヨリ受取事件濟マテハ金員相渡スノ出來兼ヌル旨且ハ六太郎ニ貸金モ有之ナト相答へ終ニ金員不受取等ノコト

六 證人中村吉三郎陳述ノ要領ハ笹井惣平ヨリ被告青山治郎平ニ田地代金相渡タルコト確知シタル理由ハ最初百圓治郎平ニ於テ惣平ヨリ受取タル由ナレモ沙汰致サス依テ猶念ノ爲